

兵庫県立 こども病院 年報 2023 VOL.54



HYOGO PREFECTURAL  
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 23 VOL.54

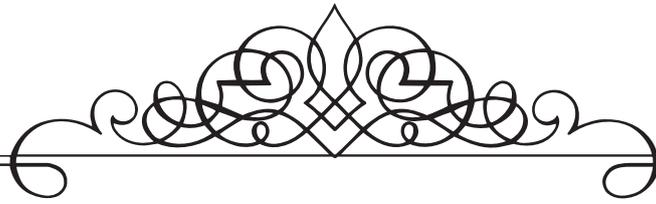


## 基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

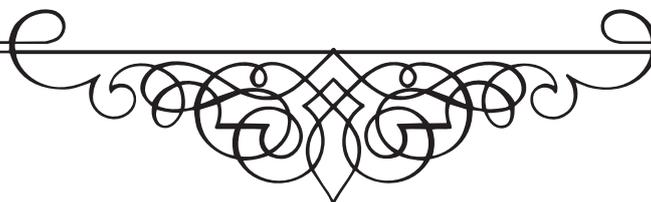


## 患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



# ご挨拶

兵庫県立こども病院 院長 飯島 一誠

2023年度の年報をお届けします。

平素より当院の運営や診療について、多くのご支援ご指導をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。本年報にて、当院の診療活動・学術研究活動・広報啓発活動の状況を皆様にご高覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。

2024年1月の厚労省、近畿厚生局等による共同指導、2024年4月からの働き方改革実施、2024年7月の病院機能評価、そして2024年9月の電子カルテシステム更新等、兵庫県立こども病院の2023年度末から2024年度の前半にかけては、様々な大きなできごとがありました。職員だけでなく、兵庫県下の小児・周産期医療に関わる皆様のご尽力のおかげで、何とか乗り切ることができました。改めて、皆様に御礼申し上げます。

一方で、当院の経営環境は、極めて厳しい状況に追い込まれています。2024年度の診療報酬改定による増額分の大半はベースアップ評価料として算定されていますが、それでも当院職員のベースアップに伴う人件費増を補える額には遠く及びません。また、医師の働き方改革も求められる中、小児救命救急センターである当院では宿日直許可の取得が難しく、複数の診療科ではやむを得ずB水準の申請を行っています。このため、さらなる人件費の増加が予想され、さらに、物価高騰に伴う材料費や光熱費の増加等も勘案すると、2024年度末の決算は、非常に厳しい結果となることが予想され、今後、経営改善のための思い切った対策をとる必要に迫られています。

このような非常に厳しい経営環境の中でも、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦”として、皆様のご期待に沿えるよう、また、難病に苦しむ子どもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるような研究を行い、積極的に情報発信していくことで、全国や世界から、より一層信頼される病院となることを目指して、全力を尽くす所存です。

最後になりましたが、本年報の企画・作成にご尽力をいただいた広報委員会の皆様に感謝いたします。

# 目 次

I	病 院 概 要	
1	兵庫県立こども病院の設立目的	1
2	沿 革	1
3	業 務 図	4
	(1) 機構一覧表	4
	(2) 担当医師表	5
	(3) 外来診療スケジュール	6
4	職 員	7
	(1) 職種別人員表	7
5	近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6	研修・教育認定施設内容	9
7	委員会等一覧	10
II	医事経理関係	15
III	診 療 統 計	
1	総合診療科	31
2	救急科	33
3	代謝・内分泌内科	35
4	リウマチ科	37
5	アレルギー科	38
6	神経内科	39
7	血液・腫瘍内科	41
8	循環器内科	43
9	腎臓内科	45
10	感染症内科	47
11	臨床遺伝科	48
12	精神科	52
13	小児外科	56
14	心臓血管外科	60
15	脳神経外科	63
16	形成外科	66
17	整形外科	67

18	リハビリテーション科	69
19	眼科	70
20	耳鼻咽喉科	72
21	泌尿器科	75
22	小児歯科	76
23	麻酔科	77
24	新生児内科	79
25	産科	82
26	放射線診断科／放射線治療科	86
27	小児集中治療科	88
28	病理診断科	89
29	看護部	90
30	薬剤部	101
31	検査部	105
32	放射線部	108
33	栄養管理部	112
34	リハビリテーション部	117
35	家族支援・地域医療連携部	119
36	臨床工学室	123
37	医療安全管理室	125
38	感染対策室	128
39	褥瘡管理室	132
40	がん相談支援室	133
41	院内学級	134
42	医師事務作業補助者（医師クラーク）	135

#### IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	137
2	雑誌発表	141
3	学会発表	156
4	報道	179
5	実習生・研修生受け入れ状況	180
6	院外合同研修	185

V	ボランティア	187
---	--------	-----

# I 病 院 概 要

## 1. 設 立 目 的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応じて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
  - (2) 小児に関する医療相談機関であること。
  - (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
  - (4) 小児医療従事者の育成研修機関であること。
- などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年4月には小児救命救急センターに指定されました。

## 2. 沿 革

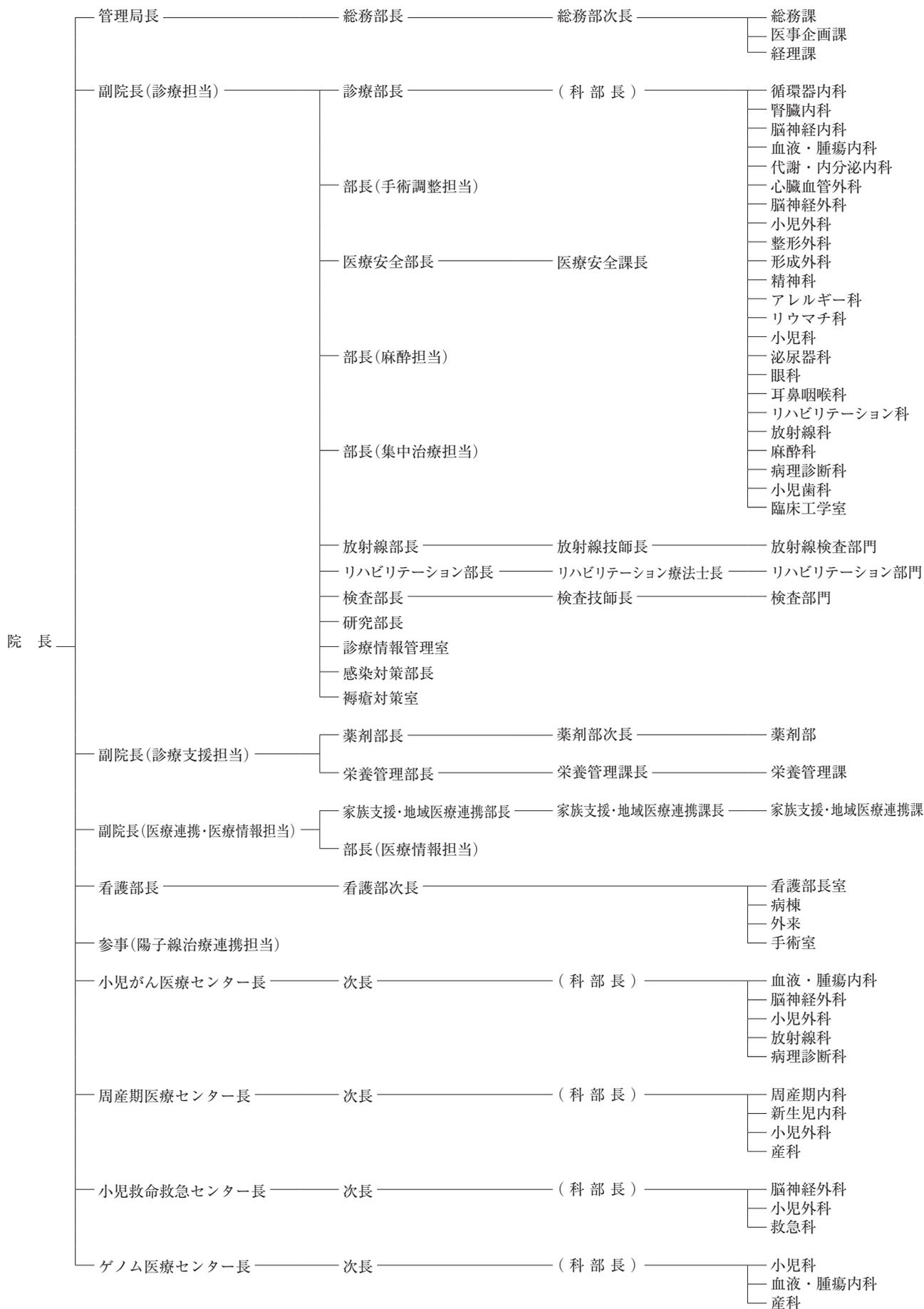
- |       |            |  |
|-------|------------|--|
| (1) 名 | 称          | 兵庫県立こども病院  |
| (2) 開 | 設          | 昭和45年4月1日(現管理者 飯島 一誠)  |
| (3) 所 | 在 地        | 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300(代表)  |
| (4) 診 | 療 科 目      | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科<br>周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科<br>整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科<br>泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科<br>麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 | 床 数        | 一般290床(稼働290床)   |
| (6) 沿 | 革          |  |
|       | 昭和45年4月1日  | 病院開設(管理者 平田 美穂)  |
|       | 昭和45年4月30日 | 病院本館完成   |
|       | 昭和45年5月8日  | 診療開始   |
|       | 昭和45年7月23日 | 基準寝具実施(寝第295号)   |

昭和45年9月17日	基準給食実施（食第307号） 基準看護実施（看第130号）
昭和46年12月28日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和47年2月1日	基準看護一般特類変更承認（険第98号）
昭和47年12月1日	基準看護精神特類変更承認（険第219号）
昭和49年10月1日	基準看護一般特二類変更承認（険第108号） 基準看護精神特一類変更承認（険第108号）
昭和50年4月1日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和54年3月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年8月2日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年4月1日	昭和55年3月26日 兵庫県条例第11号 兵庫県病院事業の設置等に関する 条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心 臓血管外科を追加
昭和56年5月5日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月7日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月6日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年4月1日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年4月1日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年4月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月1日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年3月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年3月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年4月3日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年4月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年3月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年4月1日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄）
昭和61年4月1日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月1日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年1月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年2月1日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成3年5月1日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第220号）
平成4年4月1日	基準看護一般特三類（260床に）変更承認（険第363号） 医事会計システム の電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成4年5月9日	週40時間制試行
平成4年5月18日	病床数260床に変更承認（精神病棟廃止）
平成4年7月6日	病床数290床に変更承認（兵庫県指令医第1-67号）
平成4年7月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成4年11月7日	週40時間制本格実施
平成5年4月1日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成6年7月20日	周産期医療センター定礎式
平成6年9月1日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成6年9月30日	ドクターズカー購入
平成6年9月30日	周産期医療センター完成

平成6年10月1日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年10月3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年10月4日	周産期医療センター診療開始
平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年4月2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年10月30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533）
平成15年11月28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年3月22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年4月1日	アレルギー科追加
平成18年4月1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年4月1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年10月1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年4月1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年4月1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年7月3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年12月16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年1月4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年4月1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年1月4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年4月1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年4月9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年2月8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年4月1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年4月1日	小児がん医療センター設置
平成26年12月8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年5月1日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加
平成29年4月1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人） 小児救命救急センターとして指定される
平成30年2月1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
令和2年1月1日	がんゲノム医療連携病院として指定される
令和3年4月1日	管理者変更（管理者 飯島 一誠）

### 3. 業 務 図

(1) 機構一覧表 (2024.3.31現在)



## (2) 担当医師表 (2024.3.31現在)

- (1) 総合診療科 中岸保夫、水田麻雄、石田悠介、南川将吾  
(2) 救急科 田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕  
(3) 感染症内科 笠井正志  
(4) 臨床遺伝科 森貞直哉  
(5) 新生児内科 芳本誠司、三村仁美、岩谷壮太、玉置祥子、松井紗智子、生田寿彦、武岡恵美子  
(6) 脳神経内科 丸山あずさ、西山将広  
(7) 循環器内科 田中敏克、城戸佐知子、小川禎治、亀井直哉、松岡道生、久保慎吾、三木康暢  
(8) 腎臓内科 飯島一誠、貝藤裕史、稲熊洋祐  
(9) 代謝・内分泌内科 尾崎佳代、松本真明  
(10) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、森健、石田敏章、岸本健治、齋藤敦郎、神前愛子、兵頭さやか、植村優  
(11) 集中治療科 黒澤寛史、青木一憲、長井勇樹、宮下徳久、潮見祐樹、先濱大  
(12) アレルギー科 濱田佳奈  
(13) リウマチ科 中岸保夫、水田麻雄  
(14) 小児外科 畠山理、横井暁子、久松千恵子、森田圭一、竹内雄毅、中谷太一  
(15) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、松島峻介、東田昭彦  
(16) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行  
(17) 形成外科 小野田素大、井手恵里子  
(18) 整形外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、森下雅之、河本和泉  
(19) リハビリテーション科 小林大介  
(20) 泌尿器科 杉多良文、神野雅、春名晶子  
(21) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香  
(22) 眼科 野村耕治、河原佳奈  
(23) 精神科 関口典子、持田啓、玉岡文子  
(24) 小児歯科 曾根由美子  
(25) 産科 船越徹、平久進也、松本培世、窪田詩乃、金子めぐみ、木原智子  
(26) 放射線科 赤坂好宣、乗本周平、田原潤子  
(27) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、宮本義久、上嶋江利、末田グリンドロド彩、廣瀬徹也、藤原孝志、田中康智、小西麻意、南遼平  
(28) 病理診断科 吉田牧子  
(29) フェロー 佐野浩子、合田由香利、仲嶋健吾、西藤知城、青木亮介、榊田千晶、長谷川智大 (総合診療科)  
宮脇康輔、大西理史、松本泰右、柏坂舞、鈴木雅大 (救急科)  
水野真介 (感染症内科)  
中山栗太、小林孝生、後藤弘樹、宇保早希子、西牧良 (新生児内科)  
上田拓耶、相馬健人 (脳神経内科)  
飯田智恵、広田幸穂、林谷俊和、稲瀬広樹 (循環器内科)  
矢谷和也 (腎臓内科)  
池谷紀衣子 (代謝内分泌内科)  
秋定直宏、田中裕介、西尾周朗、堀川翔伍 (血液・腫瘍内科)  
川本昌平、古島夏奈、豊島由佳、小川裕子、中井亮佑、黒江崇史、村田剛土、時岡孝平、浦田啓陽、岡田怜、加藤愛美、原田晋二、三浦和樹、前田未知可、吉田美苗 (小児集中治療科)  
岡崎沙也香 (アレルギー科)  
合田由香利 (リウマチ科)  
村上紫津、植村光太郎、福井慶介、吉永駿、植松綾乃 (小児外科)  
久保沙羅 (心臓血管外科)  
岡村優介 (脳神経外科)  
宮島明博 (整形外科)  
赤澤亜由 (耳鼻咽喉科)  
豊國秀昭、牧仁美 (眼科)  
内山美穂子、荒井貴子、長澤友紀 (産科)  
三木智子 (放射線科)  
三田村侑紀、中井愛理、鶴房里彩、秋丸慎太郎、穆慧麗 (麻酔科)  
(30) 専攻医 余田愛香、松尾進、儀間香南子、齊籐麗、朝貝芳貴、西内徳子、皇甫奈音、砂川智紀、高松遥、春田真之介、志風友規、松井佑一郎、田中元、木原崇志、新田修幹、新村啓介、深山裕美、豊未都樹、澤田史奈、森下大樹、高木麻友子、高井勝代、濱村友子、上村圭広

(3) 外来診察スケジュール (2023.12.31現在)

科目	曜日		月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	救急総合診療	◎南川	担当医	◎水田	担当医	◎仲嶋	担当医	◎中岸	担当医	◎石田	担当医	
					在宅外来 (三村)		在宅外来 (南川)		在宅外来 (芳本)			
					2.4週◎担当医 川崎病フォロー				2.4週◎担当医 川崎病フォロー			
	アレルギー		◎担当医	担当医	◎担当医		担当医		◎担当医	担当医	◎担当医	
	リウマチ			中岸	◎水田		中岸	水田		◎水田		
	感染症内科							◎笠井				
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞				◎森貞	◎森貞		
	神経	◎西山 担当医	丸山 上田		西山 石田				◎上田 担当医		◎丸山 相馬	
	循環器	1.3.5週久保		◎田中(敏)	田中(敏)	城戸			◎城戸	城戸	◎小川	小川
		2.4週田中(敏)									◎松岡	◎松岡
		◎亀井	亀井	松岡		◎三木	三木					
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD不整脈)				田中 (カテーテル)	担当医(シナジ)		
									1.3.5週 松岡 2.4週 小川 ペースメーカー			
腎臓	◎貝藤	担当医	◎貝藤	◎貝藤	◎田中(亮)	担当医			担当医	◎貝藤	◎田中(亮)	
	◎矢谷		◎稲熊		◎稲熊						1.3.5週 担当医 2.4週 ◎稲熊	
代謝内分泌		検査 1.3週 坊	◎松本/池谷	松本/池谷	◎尾崎/松本	尾崎/松本	1.3.5週◎柏坂 2.4週 ◎池谷	1.3.5週 柏坂 2.4週 池谷	◎尾崎/柏坂		尾崎/柏坂 柏坂 長期フォロー	
新生児				◎玉置 三村		◎武岡 岩谷		◎芳本(小林) 生田			◎松井 中山	
血液・腫瘍	◎小阪	植村		◎小阪 化学療法のみ	森 がんゲノム			◎石田	齋藤	◎長谷川 中村 化学療法のみ	森 岸本	
	長谷川	神前										
	神前(長期 フォロー)											
外科	小児外科	◎森田	森田 横井	◎竹内	竹内	◎中谷 畠山	中谷	◎久松	久松	横井	横井	
	ヘルニア外来	1.3.5週◎竹内 2.4週 ◎横井						1.3.5週◎森田 2.4週 ◎中谷				
	特殊外来				在宅/ストマ 担当医/森田							
	心臓		◎大嶋 松久 東田					◎大嶋 東田			◎大嶋 松久	
	脳神経	◎小山	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎	
	◎頭の形外来											
	形成			◎小野田 ◎担当医 言語療法				◎小野田 ◎担当医 言語療法				
整形		◎小林	◎薩摩	◎小林	◎坂田			◎担当医		◎衣笠	二分脊椎	
		◎坂田	◎森下	◎衣笠 2週側弯外来	◎森下				◎河本			
放射線治療科		出水						副島				
眼科	◎野村 河原 豊国			コンタクト 外来	◎野村 河原 柳沢 豊国	検査		◎野村 河原 豊国	検査			
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 ◎神野 豊	検査	◎担当医			検査		1.3.5週◎担当医 2.4週(杉多) ◎神野 豊	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼				◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼	
		1週.3週 補聴器		3週.4週 補聴器								
		言語聴覚		言語聴覚			言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚	
菌科	◎曾根	曾根	◎曾根					◎曾根	曾根	1.3.5週 曾根		
精神科	関口	◎関口	小笠原		◎持田	持田	長谷川	関口	◎関口	関口		
	◎持田	持田	玉岡	◎玉岡	玉岡	◎玉岡	持田	◎持田	玉岡	◎玉岡		
産科	◎船越 金子/荒井	超音波検査	◎船越	超音波検査	◎平久	超音波検査	◎松本 内山/窪田	◎松本 内山/窪田	超音波外来	◎平久	超音波検査	
			荒井/木原/平久		萩野/金子/内山					松本/荒井/窪田		

\*急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。 ◎印は新患担当医となります。

兵庫県立子ども病院 〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7  
 代表 TEL 078-945-7300  
 予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日 9時~16時まで再診、9時~17時まで初診)  
 予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

## 4. 職 員

## (1) 職種別人員表 (2024.3.31現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		15
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	103 (5)
	薬 劑 師	21
	診 療 放 射 線 技 師	12 (1)
	臨 床 検 査 技 師	20 (1)
	栄 養 士	4 (1)
	看 護 師	560 (16)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 士	1
	医 療 福 祉 相 談 員	3
	保 育 士	4
	言 語 聴 覚 士	4
	臨 床 工 学 技 士	11
	理 学 療 法 士	4
	作 業 療 法 士	1
	遺 伝 カ ウ ン セ ラ ー	0 (1)
小 計	768 (25)	
技 能 労 務 職	調 理 員	7
合 計		775 (25)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ( ) 外書きは、臨時的任用職員

## 5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（令和6年3月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

### 【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料) (一般入院)第1099号

### 【入院基本料等加算の施設基準】

救急医療管理加算 (救急医療)第125号

診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号

医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)

(事補1)第188号

急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上)

(※看護補助体制充実加算) (急性看護)第194号

療養環境加算 (療)第183号

無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号

緩和ケア診療加算 (緩和)第29号

医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1含む)

(医療安全)第515号

感染対策向上加算1(※指導強化加算) (感染対策1)第54号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号

重症患者初期支援充実加算 (重症初期)第26号

褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号

ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号

ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号

術後疼痛管理チーム加算 (術後疼痛)第21号

病棟薬剤業務実施加算1 (病棟薬1)第226号

病棟薬剤業務実施加算2 (病棟薬2)第31号

データ提出加算2 (データ提)第180号

入院支援加算1 (入退支)第259号

入院支援加算3 (入退支)第259号

せん妄ハイリスク患者ケア加算 (せハイ)第121号

精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号

地域医療体制確保加算 (地医確保)第47号

### 【特定入院料の施設基準】

小児特定集中治療室管理料(※早期離床・リハビリテーション加算)

(小集)第1号

総合周産期特定集中治療室管理料(※一酸化窒素吸入療法)

(※成育連携支援加算) (周)第7号

小児入院医療管理料1(プレイルーム加算を含む)

(養育支援体制加算)(無菌治療室加算) (小入1)第8号

食事療養費1(食堂加算を含む) (食)第119147号

### 【看護職員処遇改善評価料】

看護職員処遇改善評価料106 (看処遇106)第1号

### 【医学管理等】

心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)

(遠隔)第39号

がん性疼痛緩和指導管理料 (がん疼)第429号

がん患者指導管理料イ (がん指イ)第69号

がん患者指導管理料ロ (がん指ロ)第55号

外来緩和ケア管理料 (外緩)第19号

移植後患者指導管理料(臓器移植後) (移植臓)第10号

移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) (移植管造)第10号

小児運動器疾患指導管理料 (小運指管)第91号

乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア)第37号

院内トリアージ実施料 (トリ)第75号

外来腫瘍化学療法診療料1 (外化診1)第74号

開放型病院共同指導料 (開)第72号

ハイリスク妊産婦連携指導料1 (ハイ妊連1)第27号

ハイリスク妊産婦連携指導料2 (ハイ妊連2)第11号

薬剤管理指導料 (薬)第485号

医療機器安全管理料1 (機安1)第170号

### 【在宅医療】

在宅経肛門の自己洗腸指導管理料 (在洗腸)9号

持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない)

持続血糖測定器をもちいる場合) (持血糖測2)第11号

### 【検査】

遺伝学的検査 (遺伝検)第9号

骨髄微小残存病変量測定 (骨残測)第2号

がんゲノムプロファイリング検査 (がんプロ)第12号

先天性代謝異常症検査 (先代異)第8号

抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)

(抗HLA)第5号

ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 (ウ細多同)第4号

検体検査管理加算(Ⅳ)(※造血器腫瘍遺伝子検査)

(検Ⅳ)第51号

国際標準検査管理加算 (国標)第8号

遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

(血内)第32号

胎児心エコー法 (胎心エコー)第28号

ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号

脳波検査判断料1 (脳判)第3号

神経学的検査 (神経)第146号

補聴器適合検査 (補聴)第42号

小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

### 【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号

CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満、

3テスラ以上)(※大腸CT撮影加算) (C・M)第898号

冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第80号

心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号

小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M)第15号

### 【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

### 【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号

無菌製剤処理料 (菌)第520186号

### 【リハビリテーション】

心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) (心Ⅰ)第112号

脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)

[※廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)] (脳Ⅱ)第475号

運動器リハビリテーション料(Ⅰ) (運Ⅰ)第356号

呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) (呼Ⅰ)第231号

障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号

がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号

集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号

### 【精神科専門療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専)第6号

### 【手術】

四肢・軀幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に

掲げる処理骨再建加算 (処骨)第3号

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)

(頭移)第5号

内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術

(内脳腫)第7号

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

(※植込型心電図検査) (べ)第211号

(※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)

大動脈バルーンパンピング法(IABP法) (大)第101号

膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び

陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの) (膀胱埋嚢)第8号

胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

(胃瘻造)第217号

輸血管理料Ⅰ (輸血Ⅰ)第276号

輸血適正使用加算 (輸適)第146号

コメディネート体制充実加算 (コ体充)第5号

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 (造設前)第77号

凍結保存同種組織加算 (凍保組)第1号

### 【麻酔】

麻酔管理料(Ⅰ) (麻管Ⅰ)第261号

麻酔管理料(Ⅱ) (麻管Ⅱ)第24号

### 【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

### 【病理診断】

病理診断管理加算1 (病理診1)第47号

悪性腫瘍病理組織標本加算 (悪病組)第29号

### 【歯科関係】

歯科矯正診断料 (矯診)第164号

## 6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系） 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本てんかん学会研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） パース小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

## 7. 委員会等一覧 (2023年4月～2024年3月)

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
1	幹部会	飯島院長	総務	12回	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
	(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	飯島院長	総務	12回	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
	(2)保険診療対策委員会	大嶋副院長	医事	12回	①減点内容の精査について ②保険診療対策ニュースについて
	①在宅医療部会	畠山家族支援・ 地域医療連携部長	医事	0回	
2	医療安全管理委員会	田中医療安全部長	医事	12回	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
	(1)リスクマネジメント部会	田中医療安全部長	医療安全	12回	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
	(2)医療事故対策部会	大嶋副院長	医事	2回	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
	(3)MET部会	田中医療安全部長	医療安全	6回	①起動症例の検討とフィードバック
	(4)医療機器安全管理部会	田中医療安全部長	医療安全	5回	①より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図る
3	倫理委員会	小阪副院長	総務	11回	詳細は14ページ 各種委員会(別紙)のとおり
	(1)臨床研究専門部会	長谷川小児がん医療 センター次長	総務	172回	172件の迅速臨床研究倫理審査を施行した
	(2)利益相反部会	森貞ゲノム 医療センター次長	総務	0回	
4	臓器提供に関する委員会	大嶋副院長	総務	3回	臓器提供に関わる連絡方法の確率及び委員会開催方法の一部変更
	(1)臓器提供院内 コーディネート部会	青木集中治療科医長	総務	8回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
5	脳死判定委員会	小山脳神経外科部長	総務	2回	
6	こども安全(虐待防止) 委員会	関口精神科部長	地域	定例3回 事例発生時 82回	①年間事例の報告 ②処遇検討 ③研修会(1回) ④事例検討会(97例)
7	衛生委員会	薩摩副院長	総務	12回	職員の健康障害の防止対策等について審議
8	防災対策委員会	薩摩副院長	総務	0回	
9	医師及び看護師の負担等 軽減推進委員会	飯島院長	総務	4回	タクトシフト/シェア等の検討
10	職務発明審査会	飯島院長	総務	0回	
11	広報委員会	貝藤腎臓内科部長	総務	7回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年3回) ②2022年報の発行 ③病院ホームページの更新
12	研修教育委員会	中岸総合診療科部長 兼リウマチ科部長	総務	3回	①症例検討会、院内研修会の実施状況について ②各部会からの報告 ③講演会の実施(医療DX)
	(1)臨床研修病院部会	中岸総合診療科部長 兼リウマチ科部長	総務	0回	
	(2)小児科専門医研修 プログラム部会	中岸総合診療科部長 兼リウマチ科部長	総務	12回	①小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の 管理 ②小児科専攻医に対する指導と評価 ③見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
13	図書委員会	貝藤腎臓内科部長	経理	3回	2024年度の電子ジャーナル、購入図書等の検討
14	省エネルギー推進委員会	飯島院長	経理	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
15	国際交流推進委員会	田中小児救命救急セ ンター長兼診療部長	看護	0回	

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
16	患者サービス向上等推進委員会	喜多総務部長	看護	6回	①ハートメッセージの検討 ②接遇研修の企画・評価 ③きょうだいルーム開催の検討 ④ボランティア活動支援(交通安全教室)
17	治験審査委員会	杉多研究部長	薬剤	6回	詳細は14ページ 各種委員会(別紙)のとおり
18	受託研究審査委員会	杉多研究部長	経理	6回	新規受託研究審査
19	共同研究審査委員会	小阪副院長	総務	0回	
20	臨床研究支援室運営委員会	長谷川小児がん医療センター次長	経理	3回	①こども病院・理研ジョイントシンポジウム及びサテライトセミナーについて ②診療科横断的包括同意システムの導入について
21	医療の質向上委員会	小阪副院長	医事	0回	
22	診療材料委員会	田中小児救命救急センター長兼診療部長	経理	7回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
23	医療用ガス安全管理委員会	高辻麻酔科部長	経理	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
24	情報システム管理委員会	大津部長 (医療情報担当)	医事	11回	①情報システムに関する要望についての審議と対応 ・ランサムウェア対策(NASバック)について ・電子カルテの設定変更について ・電子カルテ予備端末の確保 ②情報システムの運用状況、障害状況の確認 ③ヘルプデスク対応実績報告
25	診療記録等管理委員会	芳本周産期医療センター次長	医事	6回	①診療録監査について (1)質的監査の実施状況報告 (2)量的監査(入院診療計画書・退院サマリー不備件数)の報告 ②DPCコーディングに関する報告 ③災害時等における紙カルテの運用シミュレーション ④機能評価受審対応
26	院内感染対策委員会	黒澤集中治療科部長	検査	12回	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
	(1)感染対策チーム(ICT)	水野感染症内科フェロー	検査	52回	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
	(2)抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	河原薬剤部次長	薬剤	10回 チーム会議 21回 コアメンバー会議 53回 ケースカンファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を2回開催 ③第6回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催 ④抗菌薬供給制限への対応 ⑤薬剤耐性菌対策の推進 ⑥AST業務手順書の改訂 ⑦Global Point Prevalence Survey (G-PPS) への連携施設との共同参加 ⑧術後感染予防抗菌薬の使用評価検討 ⑨小児におけるVCM-TDM 2点採血の調査検討
27	外来運営委員会	田中医療安全部長	医事	5回	①コロナウイルスワクチンの接種状況について ②外来予約枠の変更について ③院外処方箋調剤薬局送付のためのFAXサービスについて ④医療費後払いサービスについて
	(1)遠隔診療検討部会	田中医療安全部長	医事	0回	
28	病棟運営委員会	大西看護部長	医事	5回	①病床利用状況の報告 ②夏休み期間中の病床運営検討 ③COVID-19患者対応に係る病床調整 ④HCUの運用について ⑤コロナ病床等について
29	手術室運営委員会	野村部長 (手術調整担当)	看護	12回	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
30	集中治療室運営委員会	香川部長 (集中治療担当)	医事	12回	①病床運用状況について ②ヒヤリハット報告について
31	リハビリテーション 運営委員会	小林 リハビリテーション 部長	リハ	4回	早期離床WG：早期離床プロトコル改編 臨床工学士のWG参加 喀痰吸引WG：新任職員に対してナーシングスキルを 使用した講習
32	薬事委員会	小阪副院長	薬剤	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③医薬品の製造中止または停止に伴う切り替えの検討 ④新規採用医薬品(13品目)、中止医薬品(11品目)、後 発医薬品への切替え(3品目)
	(1)化学療法レジメン部会	長谷川小児がん医療 センター次長	薬剤	4回	①新規化学療法レジメンの承認等 ②前部会以降に登録したレジメンの報告 ③外部委員招聘 ④来年度の連携充実加算取得に向けた準備
33	放射線安全委員会	赤坂放射線部長	放射	1回	①診療放射線安全管理部会活動について ②放射線業務従事者管理状況について ③漏洩線量測定結果について
34	臨床検査委員会	杉多検査部長	検査	2回	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
35	栄養給食委員会	小阪副院長兼 栄養管理部長	栄養	2回	①院内約束食事基準の改定内容の確認・承認 ②未摂取食材の取り扱いの検討 ③摂食嚥下評価用食品のオーダー方法検討 ④患者用非常食について院内各部署に周知 ⑤委員会・部会の要綱変更 ⑥電子カルテ更新に伴う変更事項確認・検討
	(1)栄養サポートチーム (NST)部会	森田小児外科医長	栄養	2回	①「とろみ剤の指示・管理方法について」の運用後の 状況確認 ②プレアルブミン(トランスサイレチン)の院内測定状 況報告
36	輸血療法委員会	長谷川小児がん医療 センター次長	検査	6回	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
37	褥瘡対策委員会	小野田形成外科部長	看護	11回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検 討
38	クリニカルパス委員会	齋藤血液・腫瘍内科 医長	看護	10回	①クリニカルパスの作成・運用・管理 ②新規クリニカルパス承認・改訂 ③電子パス適応に関する運用決定・マニュアル改訂 ④クリニカルパス大会の開催・推進 ⑤クリニカルパス研修会
39	在宅推進委員会	丸山神経内科部長	地域	8回	①在宅療養支援に関する各システムの運用マニュアル 検討・修正 ②地域医療機関との連携施設訪問・神戸市小児在宅医 療研修会開催(1回/年 神戸市医師会と協同) ③地域医療者研修(6回)
40	呼吸療法委員会	香川部長(麻酔担当)	医事	11回	①呼吸ケアサポートチームからの活動(ラウンド・勉強 会)報告について ②呼吸ケア部会からの活動(ヒヤリハット等)報告につ いて
	(1)呼吸器ケアチーム	青木集中治療科医長	集中	23回	①呼吸に関する院内マニュアル作成 ②呼吸に関する勉強会開催 ③在宅人工呼吸患者の病棟回診
41	小児がん医療センター 運営委員会	小阪副院長兼 小児がん 医療センター長	医事	4回	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロッ ク小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②第3期小児がん拠点病院認定について ③CAR-T細胞療法の症例報告 ④小児がんQIについて ⑤緩和ケア外来開設について ⑥近畿小児血液がん研究会準備状況について

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
41	(1)アピランスケア委員会	長谷川小児がん医療センター次長	医事	4回	①相談症例の報告と相談 ②web講演会について
	(2)免疫細胞療法部門会議	小阪副院長兼 小児がん 医療センター長	医事	5回 (定例3回・ 臨時2回)	①免疫細胞療法の実施状況 ②管理監督者照査
42	緩和ケア委員会	関口精神科部長	医事	3回	①緩和ケアチーム チーム会議検討事項の報告 ②事例検討会の開催報告 ③緩和ケアマニュアルの改定について ④緩和ケア研修会開催について ⑤緩和ケア外来の開設について
43	総合周産期母子 医療センター運営委員会	船越周産期医療 センター長	医事	12回	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会について
	(1)アドバンス助産師部会	井谷産科・ MFICU看護師長	看護	12回	①病棟の助産業務の質の向上に向けた取り組みの検討 ②助産師相談外来の運営に関する協議 ③アドバンス助産師の質の担保に関する協議
	(2)生育連携チーム部会	大野産科助産師	看護	12回	①プレネイタルビジットの症例に関する多職種での情報交換、協議 ②出生前介入の必要性の評価 ③介入症例の振り返り ④プレネイタルビジットの運営に関する協議
44	小児救命救急センター 運営委員会	田中小児救命救急 センター長兼 診療部長	医事	12回	①救急患者受入状況(応需率・患者動向等)報告 ②救急外来の整備検討 ③ヒヤリハット報告 ④年末年始等長期連休中の勤務体制検討
45	小児心臓センター 運営委員会	大嶋副院長	医事	0回	
46	予防接種センター 運営委員会	笠井感染症内科部長	医事	5回	①予防接種要注意者に対する接種件数報告 ②電話相談の実施状況報告 ③予防接種外来の運営状況報告 ④予防接種基礎講座の開催準備、結果報告
47	小児アレルギー疾患 センター運営委員会	小阪副院長	医事	1回	①兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会について ②アレルギー疾患相談事業について
48	ゲノム医療センター 運営委員会	森貞ゲノム医療 センター次長	医事	2回	①NIPT実施報告について ②臨床遺伝専門医制度・研修施設について
49	移行期医療対策委員会	小阪副院長	医事	1回	①移行期医療支援センターの状況・調査依頼について ②移行期医療支援センター説明会の開催について
50	地域医療支援病院委員会	(外部有識者)	総務	1回	地域医療連携実績等の報告
51	病院運営懇話会	(外部有識者)	総務	1回	運営状況等についての報告
52	ハラスメント防止委員会	野田管理局長	総務	2回	
53	仕様策定委員会	飯島院長	経理	3回	医療機器購入の為の仕様条件を審議
54	職員ヘルスケア委員会	森貞ゲノム医療 センター次長	総務	1回	①産業医及び臨床心理士(看護部)の活動報告 ②職員から相談があった場合の対応手順の確認

各種委員会（別紙）

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議 題
倫理委員会	小阪 嘉之	4月12日 9:00～	3階 総務前 会議室	11	1 右主気管支食道起始症に対する右肺全摘と右胸腔内ティッシュエク スパンダー留置について 2 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症に対するバルガンシク ロピルの投与（未承認薬の使用） 3 インドシアニングリーン（オフサグリーン®）の適応外使用について 4 高安動脈炎女児に対するJAK阻害薬の適応外使用 5 重症乳幼児喘息に対するスピリーバの導入 6 ボックスゾゴ®皮下注用0.4mg/0.56mg/1.2mg使用成績調査以外 でのデータ使用に関する同意説明文書の使用許可
倫理委員会	小阪 嘉之	5月10日 9:00～	3階 総務前 会議室	12	1 高安動脈炎女児に対するJAK阻害薬の適応外使用 2 先天性ネフローゼ症候群に対するインドメタシンファルネシルの投 与（保険適応外治療） 3 切迫流早産患者に対するプロゲステロン腔錠の適応外使用の件
倫理委員会	小阪 嘉之	7月12日 9:00～	3階 総務前 会議室	10	1 カテーテル治療 ヨードアレルギー児へのガドリニウム造影剤を用 いた肺静脈拡張術 2 McCune-Albright SyndromeのCushing病に対するパシレオチドを 用いた治療
倫理委員会	小阪 嘉之	8月9日 9:00～	3階総務 前会議室	12	1 難治性IgA血管炎に対するリツキシマブ治療
倫理委員会	小阪 嘉之	9月13日 9:00～	3階 総務前 会議室	9	1 ステロイド抵抗性Kaposi型血管内皮腫に対するピンクリスチンの 使用（未承認薬の使用） 2 自己免疫性溶血性貧血に対するリツキシマブ療法 3 造血幹細胞移植に対する、幼児同胞ドナーからの骨髓液採取 4 ステロイド、ピンクリスチン抵抗性Kaposi型血管内皮腫に対するシ ロリムス（mTOR阻害薬）の使用（未承認薬の使用） 5 難治性デスモイド腫瘍に対するパゾパニブ塩酸塩（以下パゾパニブ、 商品名：ヴォトリエント®）の投与
倫理委員会	小阪 嘉之	10月11日 9:00～	3階 総務前 会議室	11	1 ヒト呼吸器原基のin vitro再構成と極性形成過程の可視化 2 ステロイド抵抗性の先天性乳び胸に対するオクトレオチド（ソマト スタチンアナログ製剤）の使用（未承認薬の使用） 3 先天性気管狭窄に対するヘリウム・酸素混合ガス（ヘリオックス） 使用について 4 小児陰・子宮頸部明細胞癌に対するTC療法（パクリタキセル、カ ルボプラチン）にベバシズマブ（商品名：アバスタチン®）、ペムプロ リズマブ（商品名：キイトルーダ®）を追加する件
倫理委員会	小阪 嘉之	11月8日 9:00～	3階総務 前会議室	11	1 重篤な慢性肺疾患（CLD）の進行がみられる児に対する一酸化窒素 吸入療法（iNO）
倫理委員会	小阪 嘉之	12月13日 9:00～	3階 総務前 会議室	11	1 重篤な慢性肺疾患（CLD）の進行がみられる児に対する一酸化窒素 吸入療法（iNO） 2 再発髄芽腫に対するテモゾロミド・イリノテカン療法にベバシズマ ブ（商品名アバスタチン）を追加投与する件
倫理委員会	小阪 嘉之	1月10日 9:00～	3階 総務前 会議室	11	1 再発骨肉腫に対する高容量ゲムシタピン＋ドセタキセル療法 2 若年性皮膚筋炎女児に対するJAK阻害薬の適応外使用 3 SLC39A8異常による先天性グリコシル化異常症に対するマンガン サプリメントの投与
倫理委員会	小阪 嘉之	2月14日 9:00～	3階 総務前 会議室	12	1 再発横紋筋肉腫に対してピノレルビンおよびシクロフォスファミド を投与する件 2 慢性腎不全を伴う再発神経芽腫女児に対する、多剤併用化学療法、免 疫療法について 3 喉頭気管形成術時のTチューブを加工したステントチューブ使用
倫理委員会	小阪 嘉之	3月13日 9:00～	3階 総務前 会議室	12	1 肺静脈狭窄に対するシロリムス全身投与による再狭窄予防 2 切迫流早産患者に対するプロゲステロン腔錠の適応外使用の件 3 オブソクロヌス・ミオクロヌス症候群に対するリツキシマブ投 与について
治験審査 委員会	杉多 良文	4月21日	総務部前 会議室	10	軟骨無形成症の観察試験の実施の適否について審議、現在進行中の治 験4課題の継続について審議した。また、1課題の中止を報告した。
治験審査 委員会	杉多 良文	6月23日	総務部前 会議室	10	ABT-494（Upadacitinib）の試験の実施の適否について審議、現在進 行中の治験5課題の継続について審議した。
治験審査 委員会	杉多 良文	8月18日	総務部前 会議室	10	anakinraの第Ⅲ相試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験 4課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。
治験審査 委員会	杉多 良文	10月20日	総務部前 会議室	8	TS-071（ルセオグリフロジン）の第Ⅲ相試験の実施の適否について審 議、現在進行中の治験8課題の継続について審議した。
治験審査 委員会	杉多 良文	12月15日	総務部前 会議室	10	現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終 了を報告した。
治験審査 委員会	杉多 良文	2月16日	総務部前 会議室	10	現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終 了を報告した。

## Ⅱ 医事経理関係

## 第1節 患者数統計

### 1. 総括

#### (1) 年度別 患者統計

区 分			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
外 来	a	診 療 日 数	日	240	243	242	243	243
	b	新 患 者 数	人	13,487	11,320	14,085	15,443	15,895
	c	一 日 平 均 新 患 者 数	人	56.2	46.6	58.2	63.6	65.4
	d	延 患 者 数	人	103,384	97,305	110,330	111,753	110,708
	e	一 日 平 均 延 患 者 数	人	430.8	400.4	455.9	459.9	455.6
	f	平 均 通 院 日 数	日	7.7	8.6	7.8	7.2	7.0
入 院	g	稼 働 日 数	日	366	365	365	365	366
	h	稼 働 病 床 数	床	275	282	282	282	290
	I	入 院 患 者 数	人	6,814	6,139	6,704	6,638	7,445
	j	一 日 平 均 入 院 患 者 数	人	18.6	16.8	18.4	18.2	20.3
	k	退 院 患 者 数	人	6,793	6,161	6,689	6,647	7,435
	l	一 日 平 均 退 院 患 者 数	人	18.6	16.9	18.3	18.2	20.3
	m	延 入 院 患 者 数	人	87,299	80,604	80,935	82,809	88,699
	n	一 日 平 均 延 患 者 数	人	238.5	220.8	221.7	226.9	242.3
	o	病 床 利 用 率	%	86.7	78.3	78.6	80.5	83.6
	p	病 床 回 転 数	回	24.7	21.8	23.7	23.6	25.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	393	511	560	496	517
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	894	907	935	867	891
	t	平 均 在 院 日 数	日	11.8	12.1	11.1	11.5	10.9
	u	外 来 入 院 比 率	%	118.4	120.7	136.3	135.0	124.8
v	入 院 率	%	50.5	54.2	47.6	43.0	46.8	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h×g))×100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m)×100 v 入院率 = (I/b)×100							

## (2) 月別 患者統計

令和5年度

区 分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	
外 来	a	診 療 日 数	日	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
	b	新 患 者 数	人	1,231	1,483	1,529	1,476	1,419	1,288	1,339	1,237	1,275	1,265	1,185	1,168	15,895
	c	一日平均新患者数	人	61.6	74.2	69.5	73.8	64.5	64.4	63.8	61.9	63.8	66.6	62.4	58.4	65.4
	d	延 患 者 数	人	8,890	8,847	9,351	9,550	10,837	9,065	8,946	8,665	9,456	8,774	8,422	9,905	110,708
	e	一日平均延患者数	人	444.5	442.4	425.0	477.5	492.6	453.3	426.0	433.3	472.8	461.8	443.3	495.3	455.6
	f	平均通院日数	日	7.2	6.0	6.1	6.5	7.6	7.0	6.7	7.0	7.4	6.9	7.1	8.5	7.0
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	h	稼 働 病 床 数	床	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	3,480
	I	入 院 患 者 数	人	566	615	622	685	700	605	605	605	604	604	598	636	7,445
	j	一日平均入院患者数	人	18.9	19.8	20.7	22.1	22.6	20.2	19.5	20.2	19.5	19.5	20.6	20.5	20.3
	k	退 院 患 者 数	人	555	596	634	685	684	633	564	630	663	553	580	658	7,435
	l	一日平均退院患者数	人	18.5	19.2	21.1	22.1	22.1	21.1	18.2	21.0	21.4	17.8	20.0	21.2	20.3
	m	延入院患者数	人	7,024	7,301	7,385	7,647	7,791	7,580	7,532	7,594	7,514	7,026	6,810	7,495	88,699
	n	一日平均延患者数	人	234.1	235.5	246.2	246.7	251.3	252.7	243.0	253.1	242.4	226.6	234.8	241.8	242.3
	o	病 床 利 用 率	%	80.7	81.2	84.9	85.1	86.7	87.1	83.8	87.3	83.6	78.2	81.0	83.4	83.6
	p	病 床 回 転 数	回	1.9	2.1	2.2	2.4	2.4	2.1	2.0	2.1	2.2	2.0	2.0	2.2	2.1
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	39	37	43	56	65	47	33	36	34	47	31	49	517
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	65	94	62	75	92	87	66	62	76	53	74	85	891
	t	平均在院日数	日	11.5	11.1	10.8	10.2	10.3	11.2	11.9	11.3	10.8	11.2	10.6	10.6	10.9
	u	外 来 入 院 比 率	%	126.6	121.2	126.6	124.9	139.1	119.6	118.8	114.1	125.8	124.9	123.7	132.2	124.8
v	入 院 率	%	46.0	41.5	40.7	46.4	49.3	47.0	45.2	48.9	47.4	47.7	50.5	54.5	46.8	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h×g))×100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m)×100 v 入院率 = (I/b)×100															

## 2. 月別科別外来患者数

令和5年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	39	39	53	59	53	55	53	49	41	40	43	33	557
	再来患者数	862	747	865	845	1,046	852	785	775	907	692	716	1,010	10,102
	延患者数	901	786	918	904	1,099	907	838	824	948	732	759	1,043	10,659
腎臓内科	新患者数	9	12	9	11	19	17	14	6	6	11	13	11	138
	再来患者数	247	221	242	255	358	279	244	239	295	230	255	329	3,194
	延患者数	256	233	251	266	377	296	258	245	301	241	268	340	3,332
神経内科	新患者数	19	11	20	11	18	18	14	15	14	15	9	15	179
	再来患者数	317	328	387	389	406	340	409	371	395	387	353	440	4,522
	延患者数	336	339	407	400	424	358	423	386	409	402	362	455	4,701
血液内科	新患者数	3	6	8	12	7	11	16	5	9	9	6	10	102
	再来患者数	406	340	414	457	532	466	447	378	482	410	433	517	5,282
	延患者数	409	346	422	469	539	477	463	383	491	419	439	527	5,384
代謝・ 内分泌内科	新患者数	30	21	22	35	31	26	24	27	19	18	18	20	291
	再来患者数	650	679	629	704	862	674	649	671	694	669	641	738	8,260
	延患者数	680	700	651	739	893	700	673	698	713	687	659	758	8,551
新生児内科	新患者数	1	6	2	2	2	0	0	0	2	1	3	4	23
	再来患者数	147	136	148	153	189	185	184	164	155	158	172	181	1,972
	延患者数	148	142	150	155	191	185	184	164	157	159	175	185	1,995
心臓血管外科	新患者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	再来患者数	91	80	84	85	70	83	80	82	88	87	74	81	985
	延患者数	91	81	84	85	70	83	80	82	88	87	74	81	986
脳神経外科	新患者数	38	44	48	54	56	63	59	50	48	45	48	48	601
	再来患者数	341	253	291	358	380	355	295	284	360	316	247	403	3,883
	延患者数	379	297	339	412	436	418	354	334	408	361	295	451	4,484
小児外科	新患者数	42	40	36	39	35	28	25	33	32	30	29	31	400
	再来患者数	404	415	379	446	535	410	411	394	427	425	402	514	5,162
	延患者数	446	455	415	485	570	438	436	427	459	455	431	545	5,562
整形外科	新患者数	100	115	102	89	97	75	123	118	132	116	103	102	1,272
	再来患者数	631	589	588	728	896	585	571	497	645	617	522	755	7,624
	延患者数	731	704	690	817	993	660	694	615	777	733	625	857	8,896
形成外科	新患者数	26	37	43	35	38	38	36	33	36	40	43	28	433
	再来患者数	273	284	296	290	373	286	272	308	309	259	288	353	3,591
	延患者数	299	321	339	325	411	324	308	341	345	299	331	381	4,024
精神科	新患者数	15	17	18	20	16	16	13	22	15	13	14	13	192
	再来患者数	366	336	380	383	387	356	355	349	386	339	344	379	4,360
	延患者数	381	353	398	403	403	372	368	371	401	352	358	392	4,552
アレルギー 内科	新患者数	11	16	14	10	15	8	7	13	8	13	7	12	134
	再来患者数	393	366	359	338	375	321	329	312	359	355	307	434	4,248
	延患者数	404	382	373	348	390	329	336	325	367	368	314	446	4,382
リウマチ科	新患者数	7	2	3	0	2	4	2	3	5	1	3	6	38
	再来患者数	105	118	101	101	165	81	110	106	125	105	92	126	1,335
	延患者数	112	120	104	101	167	85	112	109	130	106	95	132	1,373

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	5
	再来患者数	5	5	5	4	8	8	4	3	1	1	1	5	50
	延患者数	5	6	5	4	8	10	5	3	1	1	1	6	55
臨床遺伝科	新患者数	14	7	6	11	21	12	11	8	2	7	13	12	124
	再来患者数	78	73	109	79	129	101	94	87	83	102	83	101	1,119
	延患者数	92	80	115	90	150	113	105	95	85	109	96	113	1,243
泌尿器科	新患者数	53	70	60	40	50	49	60	54	62	54	49	45	646
	再来患者数	360	368	386	364	423	401	389	397	427	409	393	400	4,717
	延患者数	413	438	446	404	473	450	449	451	489	463	442	445	5,363
産科	新患者数	24	28	29	23	29	26	19	27	23	26	23	26	303
	再来患者数	248	311	303	284	335	320	308	344	295	238	249	221	3,456
	延患者数	272	339	332	307	364	346	327	371	318	264	272	247	3,759
眼科	新患者数	40	44	50	45	49	40	40	43	51	42	46	41	531
	再来患者数	627	582	627	573	745	567	576	637	642	596	623	670	7,465
	延患者数	667	626	677	618	794	607	616	680	693	638	669	711	7,996
耳鼻咽喉科	新患者数	40	35	47	34	38	37	38	33	32	45	38	46	463
	再来患者数	378	328	385	403	417	321	375	314	381	376	314	397	4,389
	延患者数	418	363	432	437	455	358	413	347	413	421	352	443	4,852
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	22	17	24	18	32	25	24	20	24	33	32	20	291
	延患者数	22	17	24	18	32	25	24	20	24	33	32	20	291
総合診療科	新患者数	10	14	17	16	18	27	16	17	17	14	12	16	194
	再来患者数	261	241	264	289	287	285	251	256	279	258	251	274	3,196
	延患者数	271	255	281	305	305	312	267	273	296	272	263	290	3,390
救急科	新患者数	630	850	836	852	746	649	686	609	657	642	570	567	8,294
	再来患者数	379	488	478	456	403	403	350	361	370	381	367	325	4,761
	延患者数	1,009	1,338	1,314	1,308	1,149	1,052	1,036	970	1,027	1,023	937	892	13,055
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
歯科	新患者数	80	67	106	78	79	87	82	72	64	83	95	81	974
	再来患者数	67	59	78	72	65	73	95	79	52	66	78	63	847
	延患者数	147	126	184	150	144	160	177	151	116	149	173	144	1,821
合計	新患者数	1,231	1,483	1,529	1,476	1,419	1,288	1,339	1,237	1,275	1,265	1,185	1,168	15,895
	再来患者数	7,659	7,364	7,822	8,074	9,418	7,777	7,607	7,428	8,181	7,509	7,237	8,737	94,813
	延患者数	8,890	8,847	9,351	9,550	10,837	9,065	8,946	8,665	9,456	8,774	8,422	9,905	110,708

3. 月別科別入院患者数

令和5年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	42	40	44	40	45	41	37	42	38	15	37	45	466
	退院患者数	47	41	53	41	56	38	44	56	51	21	37	56	541
	延患者数	593	563	599	438	557	632	764	705	559	461	591	649	7,111
腎臓内科	新規入院患者数	7	8	10	10	12	2	6	6	6	12	6	11	96
	退院患者数	8	12	9	9	16	4	8	6	7	10	6	15	110
	延患者数	93	101	126	123	151	65	86	64	96	162	134	200	1,401
神経内科	新規入院患者数	12	13	12	22	26	26	14	14	18	17	13	16	203
	退院患者数	18	17	21	28	33	35	21	25	19	30	20	26	293
	延患者数	152	174	165	219	204	194	172	205	214	191	170	221	2,281
血液内科	新規入院患者数	74	105	85	99	115	93	108	105	105	109	99	95	1,192
	退院患者数	80	102	89	101	111	98	99	116	124	93	97	108	1,218
	延患者数	1,548	1,632	1,489	1,464	1,461	1,493	1,593	1,581	1,439	1,400	1,388	1,513	18,001
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	8	10	14	16	8	5	7	14	14	17	18	16	147
	退院患者数	7	13	14	14	13	8	9	14	17	17	19	18	163
	延患者数	51	71	106	74	128	87	61	92	75	89	72	87	993
新生児内科	新規入院患者数	34	49	31	37	52	45	33	33	40	28	40	46	468
	退院患者数	28	39	34	39	30	45	22	34	35	23	41	29	399
	延患者数	1,260	1,225	1,114	1,196	1,360	1,364	1,212	1,291	1,269	1,196	1,153	1,332	14,972
心臓血管外科	新規入院患者数	13	10	4	17	15	11	8	14	11	12	14	10	139
	退院患者数	15	12	6	14	18	12	8	12	16	8	11	10	142
	延患者数	139	121	164	227	189	147	114	135	156	57	120	99	1,668
脳神経外科	新規入院患者数	18	12	12	10	14	12	10	14	5	9	12	12	140
	退院患者数	18	13	14	13	14	17	10	16	9	5	14	15	158
	延患者数	146	98	107	120	114	136	109	137	104	97	100	117	1,385
小児外科	新規入院患者数	42	43	51	42	59	59	50	40	50	38	40	59	573
	退院患者数	41	43	54	43	54	67	47	41	58	42	34	65	589
	延患者数	499	493	539	608	707	659	628	505	594	478	434	596	6,740
整形外科	新規入院患者数	24	24	29	28	36	24	25	23	27	29	23	30	322
	退院患者数	27	23	27	29	35	30	22	23	29	31	24	32	332
	延患者数	194	229	284	253	257	195	208	305	319	293	240	252	3,029
形成外科	新規入院患者数	18	18	22	29	26	23	26	25	26	22	31	20	286
	退院患者数	20	19	24	30	28	28	24	29	31	16	29	23	301
	延患者数	104	124	134	214	189	131	114	131	136	122	166	162	1,727
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	44	29	40	49	59	35	34	36	29	47	32	47	481
	退院患者数	44	28	41	49	59	35	34	36	29	47	31	48	481
	延患者数	47	34	44	51	63	36	40	38	30	54	36	58	531
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	26	18	22	25	22	23	19	26	27	26	26	22	282
	退院患者数	28	16	21	25	26	20	19	26	28	23	29	22	283
	延患者数	119	71	94	116	107	111	80	119	127	119	105	93	1,261
産科	新規入院患者数	27	30	30	18	35	26	32	26	25	20	29	27	325
	退院患者数	24	27	29	24	28	34	26	31	25	16	32	27	323
	延患者数	551	541	598	617	614	577	548	527	544	477	513	504	6,611
眼科	新規入院患者数	28	27	27	32	27	24	27	24	23	25	22	29	315
	退院患者数	29	27	25	32	29	25	24	26	24	24	20	28	313
	延患者数	124	108	100	138	118	104	96	98	103	91	78	117	1,275
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	13	6	11	13	14	12	11	9	11	14	12	11	137
	退院患者数	17	4	9	14	15	12	11	8	16	11	13	10	140
	延患者数	94	28	65	92	62	80	64	46	88	71	75	72	837
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	112	144	154	168	116	125	130	122	125	140	114	114	1,564
	退院患者数	92	145	156	169	108	122	125	114	138	127	114	116	1,526
	延患者数	771	1,061	1,006	1,008	890	994	970	992	1,057	1,147	905	784	11,585
救急科	新規入院患者数	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	5
	退院患者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延患者数	0	5	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	10
小児集中治療科	新規入院患者数	24	28	24	30	19	19	27	31	24	23	29	26	304
	退院患者数	12	14	8	11	11	3	11	17	7	9	9	10	122
	延患者数	539	622	651	689	620	575	672	622	604	519	529	639	7,281
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	566	615	622	685	700	605	605	605	604	604	598	636	7,445
	退院患者数	555	596	634	685	684	633	564	630	663	553	580	658	7,435
	延患者数	7,024	7,301	7,385	7,647	7,791	7,580	7,532	7,594	7,514	7,026	6,810	7,495	88,699

## 4. 年度別科別外来患者数

令和5年度

科名	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
循環器内科	新患者数	504	494	533	573	557
	再来患者数	9,048	9,442	10,365	10,485	10,102
	延患者数	9,552	9,936	10,898	11,058	10,659
腎臓内科	新患者数	168	170	166	155	138
	再来患者数	3,087	2,798	3,054	3,137	3,194
	延患者数	3,255	2,968	3,220	3,292	3,332
神経内科	新患者数	142	135	165	160	179
	再来患者数	3,884	3,837	4,403	4,161	4,522
	延患者数	4,026	3,972	4,568	4,321	4,701
血液内科	新患者数	108	77	74	64	102
	再来患者数	4,941	4,999	5,361	5,135	5,282
	延患者数	5,049	5,076	5,435	5,199	5,384
代謝・内分泌内科	新患者数	205	274	338	278	291
	再来患者数	6,709	6,775	7,587	7,993	8,260
	延患者数	6,914	7,049	7,925	8,271	8,551
新生児内科	新患者数	23	19	14	15	23
	再来患者数	1,981	1,880	2,043	1,936	1,972
	延患者数	2,004	1,899	2,057	1,951	1,995
心臓血管外科	新患者数	2	1	0	3	1
	再来患者数	847	951	1,200	1,138	985
	延患者数	849	952	1,200	1,141	986
脳神経外科	新患者数	390	512	643	623	601
	再来患者数	3,991	3,918	4,258	4,208	3,883
	延患者数	4,381	4,430	4,901	4,831	4,484
小児外科	新患者数	543	396	462	381	400
	再来患者数	5,291	4,914	5,086	5,278	5,162
	延患者数	5,834	5,310	5,548	5,659	5,562
整形外科	新患者数	1,074	885	914	1,190	1,272
	再来患者数	7,605	6,997	7,439	7,578	7,624
	延患者数	8,679	7,882	8,353	8,768	8,896
形成外科	新患者数	344	332	423	400	433
	再来患者数	3,595	3,428	3,430	3,680	3,591
	延患者数	3,939	3,760	3,853	4,080	4,024
精神科	新患者数	206	168	208	187	192
	再来患者数	4,243	3,837	4,495	4,305	4,360
	延患者数	4,449	4,005	4,703	4,492	4,552
アレルギー内科	新患者数	214	125	174	137	134
	再来患者数	3,039	3,663	4,783	4,905	4,248
	延患者数	3,253	3,788	4,957	5,042	4,382
リウマチ科	新患者数	37	23	40	41	38
	再来患者数	1,319	1,131	1,148	1,265	1,335
	延患者数	1,356	1,154	1,188	1,306	1,373

科 名	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
感 染 症 内 科	新患者数	9	12	7	12	5
	再来患者数	120	107	75	55	50
	延患者数	129	119	82	67	55
臨 床 遺 伝 科	新患者数	73	70	80	84	124
	再来患者数	830	945	1,066	1,011	1,119
	延患者数	903	1,015	1,146	1,095	1,243
泌 尿 器 科	新患者数	671	600	672	650	646
	再来患者数	5,308	4,641	5,055	5,117	4,717
	延患者数	5,979	5,241	5,727	5,767	5,363
産 科	新患者数	172	184	212	262	303
	再来患者数	2,186	2,960	3,604	3,302	3,456
	延患者数	2,358	3,144	3,816	3,564	3,759
眼 科	新患者数	615	501	529	510	531
	再来患者数	7,806	7,326	8,055	8,414	7,465
	延患者数	8,421	7,827	8,584	8,924	7,996
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	484	353	421	411	463
	再来患者数	5,040	4,071	4,325	4,363	4,389
	延患者数	5,524	4,424	4,746	4,774	4,852
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	40	5	1	12	1
	延患者数	40	5	1	12	1
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	1	1	0	0
	延患者数	0	1	1	0	0
麻 酔 科	新患者数	2	1	0	0	0
	再来患者数	695	547	618	424	291
	延患者数	697	548	618	424	291
総 合 診 療 科	新患者数	221	189	255	226	194
	再来患者数	2,863	2,649	3,309	3,113	3,196
	延患者数	3,084	2,838	3,564	3,339	3,390
救 急 科	新患者数	6,416	4,872	6,793	8,070	8,294
	再来患者数	4,127	2,983	4,143	4,423	4,761
	延患者数	10,543	7,855	10,936	12,493	13,055
小 児 集 中 治 療 科	新患者数	1	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	1
	延患者数	1	0	0	0	1
歯 科	新患者数	863	927	962	1,011	974
	再来患者数	1,302	1,180	1,341	872	847
	延患者数	2,165	2,107	2,303	1,883	1,821
合 計	新患者数	13,487	11,320	14,085	15,443	15,895
	再来患者数	89,897	85,985	96,245	96,310	94,813
	延患者数	103,384	97,305	110,330	111,753	110,708

## 5. 年度別科別入院患者数

令和5年度

科名	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
循環器内科	新規入院患者数	443	379	417	457	466
	退院患者数	503	457	467	526	541
	延患者数	6,032	5,907	6,011	7,032	7,111
腎臓内科	新規入院患者数	87	78	72	91	96
	退院患者数	104	87	84	105	110
	延患者数	1,155	1,305	1,482	1,612	1,401
神経内科	新規入院患者数	115	109	122	130	203
	退院患者数	181	141	174	203	293
	延患者数	2,464	1,818	2,127	2,324	2,281
血液内科	新規入院患者数	1,086	1,101	1,141	960	1,192
	退院患者数	1,106	1,122	1,150	978	1,218
	延患者数	18,124	17,392	17,466	15,521	18,001
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	81	71	89	73	147
	退院患者数	87	76	99	84	163
	延患者数	510	491	554	611	993
新生児内科	新規入院患者数	447	475	488	440	468
	退院患者数	396	415	415	374	399
	延患者数	13,582	13,652	14,042	13,677	14,972
心臓血管外科	新規入院患者数	104	117	125	151	139
	退院患者数	119	118	140	154	142
	延患者数	1,570	1,649	1,739	1,862	1,668
脳神経外科	新規入院患者数	156	163	136	139	140
	退院患者数	177	169	157	170	158
	延患者数	1,599	1,558	1,219	1,762	1,385
小児外科	新規入院患者数	752	497	557	512	573
	退院患者数	772	548	573	539	589
	延患者数	6,379	5,980	4,980	5,954	6,740
整形外科	新規入院患者数	324	316	294	346	322
	退院患者数	347	337	328	358	332
	延患者数	4,527	3,478	3,339	3,346	3,029
形成外科	新規入院患者数	225	225	267	281	286
	退院患者数	234	240	282	294	301
	延患者数	1,603	1,586	1,608	1,578	1,727
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	375	480	621	480	481
	退院患者数	392	486	627	484	481
	延患者数	606	601	709	564	531
リウマチ科	新規入院患者数	6	0	0	0	0
	退院患者数	6	0	0	0	0
	延患者数	35	0	0	0	0

科 名	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
感 染 症 内 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
臨 床 遺 伝 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	新規入院患者数	318	276	308	277	282
	退院患者数	322	285	311	286	283
	延患者数	1,629	1,417	1,346	1,326	1,261
産 科	新規入院患者数	276	342	377	345	325
	退院患者数	274	341	384	344	323
	延患者数	6,448	7,179	6,848	6,929	6,611
眼 科	新規入院患者数	349	286	309	297	315
	退院患者数	348	290	306	298	313
	延患者数	1,419	1,154	1,196	1,131	1,275
耳 鼻 咽 喉 科	新規入院患者数	171	98	100	101	137
	退院患者数	169	108	100	101	140
	延患者数	1,073	706	604	642	837
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
放 射 線 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻 酔 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総 合 診 療 科	新規入院患者数	1,178	893	1,033	1,294	1,564
	退院患者数	1,148	840	995	1,255	1,526
	延患者数	10,721	8,466	8,966	10,202	11,585
救 急 科	新規入院患者数	13	7	7	6	5
	退院患者数	1	3	0	2	1
	延患者数	13	12	8	8	10
小 児 集 中 治 療 科	新規入院患者数	308	226	241	258	304
	退院患者数	107	98	97	92	122
	延患者数	7,810	6,253	6,691	6,728	7,281
歯 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合 計	新規入院患者数	6,814	6,139	6,704	6,638	7,445
	退院患者数	6,793	6,161	6,689	6,647	7,435
	延患者数	87,299	80,604	80,935	82,809	88,699

6. 年齢別患者状況

令和5年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	3,210	9.6%	1,017	20.5%
1歳以上～3歳未満	5,196	15.5%	915	18.4%
3歳～6歳未満	6,403	19.1%	896	18.1%
6歳～13歳未満	11,721	35.0%	1,309	26.4%
13歳以上～16歳未満	3,568	10.6%	323	6.5%
16歳以上	3,409	10.2%	501	10.1%
合 計	33,509	100.0%	4,961	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

地域区分	4年度		5年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	19,612	58.9%	19,771	59.0%
	姫路市	1,115	3.3%	1,061	3.2%
	尼崎市	372	1.1%	390	1.2%
	明石市	2,521	7.6%	2,649	7.9%
	西宮市	1,237	3.7%	1,251	3.7%
	洲本市	190	0.6%	176	0.5%
	芦屋市	598	1.8%	596	1.8%
	伊丹市	270	0.8%	278	0.8%
	相生市	53	0.2%	45	0.1%
	豊岡市	281	0.8%	278	0.8%
兵 庫 県	加古川市	706	2.1%	676	2.0%
	赤穂市	103	0.3%	101	0.3%
	西脇市	146	0.4%	141	0.4%
	宝塚市	411	1.2%	398	1.2%
	三木市	352	1.1%	365	1.1%
	高砂市	208	0.6%	212	0.6%
	川西市	121	0.4%	120	0.4%
	小野市	215	0.6%	199	0.6%
	三田市	685	2.1%	597	1.8%
	加西市	106	0.3%	104	0.3%
兵 庫 県	丹波篠山市	90	0.3%	94	0.3%
	養父市	81	0.2%	77	0.2%
	丹波市	277	0.8%	286	0.9%

(2) 入院

地域区分	4年度		5年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	2,553	55.1%	2,688	54.2%
	姫路市	156	3.4%	150	3.0%
	尼崎市	63	1.3%	54	1.1%
	明石市	362	7.8%	452	9.1%
	西宮市	179	3.9%	210	4.2%
	洲本市	40	0.9%	34	0.7%
	芦屋市	78	1.7%	91	1.8%
	伊丹市	29	0.6%	39	0.8%
	相生市	7	0.1%	11	0.2%
	豊岡市	38	0.8%	49	1.0%
兵 庫 県	加古川市	111	2.4%	108	2.2%
	赤穂市	6	0.1%	14	0.3%
	西脇市	16	0.3%	16	0.3%
	宝塚市	50	1.1%	47	0.9%
	三木市	61	1.3%	67	1.3%
	高砂市	34	0.7%	44	0.9%
	川西市	10	0.2%	12	0.2%
	小野市	30	0.6%	35	0.7%
	三田市	91	2.0%	73	1.5%
	加西市	20	0.4%	23	0.5%
兵 庫 県	丹波篠山市	13	0.3%	13	0.3%
	養父市	14	0.3%	18	0.4%
	丹波市	46	1.0%	49	1.0%

地域区分		4年度		5年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵	南あわじ市	172	0.5%	204	0.6%
	朝来市	107	0.3%	110	0.3%
	淡路市	291	0.9%	299	0.9%
	宍粟市	70	0.2%	59	0.2%
	加東市	195	0.6%	220	0.7%
	たつの市	150	0.5%	143	0.4%
	猪名川町	26	0.1%	29	0.1%
	多可町	64	0.2%	61	0.2%
	稲美町	100	0.3%	99	0.3%
	播磨町	130	0.4%	140	0.4%
	市川町	14	0.0%	15	0.0%
	福崎町	45	0.1%	39	0.1%
	神河町	26	0.1%	29	0.1%
	太子町	81	0.2%	68	0.2%
	上郡町	19	0.1%	19	0.1%
	佐用町	27	0.1%	25	0.1%
	香美町	45	0.1%	50	0.1%
	新温泉町	22	0.1%	26	0.1%
	その他	135	0.4%	161	0.5%
計	31,469	94.4%	31,661	94.5%	
近畿圏		1,031	3.1%	1,006	3.0%
近畿圏外		825	2.5%	842	2.5%
総計		33,325	100.0%	33,509	100.0%

※実患者数

地域区分		4年度		5年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵	南あわじ市	27	0.6%	28	0.6%
	朝来市	49	1.0%	57	1.1%
	淡路市	18	0.4%	19	0.4%
	宍粟市	13	0.3%	6	0.1%
	加東市	28	0.6%	39	0.8%
	たつの市	21	0.4%	18	0.4%
	猪名川町	2	0.0%	0	0.0%
	多可町	12	0.3%	11	0.2%
	稲美町	13	0.3%	19	0.4%
	播磨町	19	0.4%	19	0.4%
	市川町	2	0.0%	1	0.0%
	福崎町	5	0.1%	7	0.1%
	神河町	6	0.1%	5	0.1%
	太子町	14	0.3%	8	0.2%
	上郡町	5	0.1%	2	0.0%
	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	3	0.1%	5	0.1%
	新温泉町	5	0.1%	4	0.1%
	その他	28	0.6%	33	0.7%
計	4,272	92.2%	4,574	92.2%	
近畿圏		147	3.2%	154	3.1%
近畿圏外		215	4.6%	233	4.7%
総計		4,634	100.0%	4,961	100.0%

## 8. 公費負担患者状況

令和5年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,622	48.6%
2. 育成医療	49	1.5%
3. 養育医療	231	6.9%
4. 児童福祉（措置）	40	1.2%
5. 特定疾患	34	1.0%
6. 生活保護	65	1.9%
7. 精神保健	34	1.0%
8. 自費	1,261	37.8%
合計	3,336	100.0%

## 9. 時間外患者状況

令和5年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	1		1	1	1			1	1			1	7
	入院		1								1			2
	計	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	9
腎臓内科	外来										2			2
	入院									1				1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
神経内科	外来		1	1		1							1	4
	入院				1	2				1		1		5
	計	0	1	1	1	3	0	0	0	1	0	1	1	9
血液内科	外来		2	1	3	2		3	3	9		1	3	27
	入院		1	1		1			1	2			1	7
	計	0	3	2	3	3	0	3	4	11	0	1	4	34
代謝・ 内分泌内科	外来												1	1
	入院	1								1				2
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
新生児内科	外来													0
	入院	10	13	10	11	24	18	13	4	13	12	15	15	158
	計	10	13	10	11	24	18	13	4	13	12	15	15	158
心臓血管外科	外来									1			1	2
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
脳神経外科	外来													0
	入院		1			1	2							4
	計	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4
小児外科	外来		3	4	4		3	1	1	2	1	2	1	22
	入院	1			1		3	5	2		1	1		14
	計	1	3	4	5	0	6	6	3	2	2	3	1	36
整形外科	外来		3	1	1	1	3		1	1	2			13
	入院		2		1		1	1	1				1	7
	計	0	5	1	2	1	4	1	2	1	2	0	1	20
形成外科	外来						1							1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー 内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ科	外来	1												1
	入院													0
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来					1								1
	入院				1									1
	計	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
産科	外来	6	6		1	3	2	4	5	5	2	6	2	42
	入院	4	3	2	1		2	6		3	2		4	27
	計	10	9	2	2	3	4	10	5	8	4	6	6	69
眼科	外来						1							1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	外来										1			1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
リハビリテーション科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来													0
	入院	20	26	18	39	16	36	21	20	19	14	15	20	264
	計	20	26	18	39	16	36	21	20	19	14	15	20	264
救急科	外来	738	948	834	921	750	735	717	660	700	722	646	644	9,015
	入院													0
	計	738	948	834	921	750	735	717	660	700	722	646	644	9,015
小児集中治療科	外来													0
	入院	5	12	7	7	9	4	5	9	8	8	4	4	82
	計	5	12	7	7	9	4	5	9	8	8	4	4	82
歯科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	746	963	842	931	759	745	725	671	719	730	655	654	9,140
	入院	41	59	38	62	53	66	51	37	48	38	36	45	574
	計	787	1,022	880	993	812	811	776	708	767	768	691	699	9,714

10. 公小児がん患者入院延べ日数

令和5年度【総計】17,213日

経理状況

区 分		単位	令和4年度 決 算	令和5年度					
				最終予算	決 算	予算対比	前年対比		
業 務 量	入 院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0	
		稼 働 病 床 数	床	282	290	290	0	8	
		病 床 利 用 率	%	80.5	83.8	83.6	△ 0.2	3.1	
		延 入 院 患 者 数	人	82,809	88,956	88,699	△ 257	5,890	
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	227	243	242	△ 1	15	
		入 院 単 価	円	105,169	105,994	106,173	179	1,004	
	外 来	延 外 来 患 者 数	人	111,752	112,100	110,708	△ 1,392	△ 1,044	
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	460	461	456	△ 5	△ 4	
		外 来 単 価	円	17,491	17,684	18,232	548	741	
収  支	入 院 収 益	百万円	8,709	9,429	9,417	△ 12	708		
	外 来 収 益	百万円	1,955	1,982	2,018	36	63		
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	134	134	137	3	3		
	* 医 業 収 益 *	百万円	10,798	11,545	11,573	28	775		
	コ ロ ナ 空 床 補 償	百万円	319	46	47	1	△ 272		
	長 期 前 受 金 戻 入 額	百万円	624	528	523	△ 5	△ 101		
	医 業 外 収 益	百万円	349	159	169	10	△ 180		
	* 経 常 収 益 計 ① *	百万円	12,090	12,278	12,312	34	222		
	給 与 費	給 与 費	百万円	8,405	8,467	8,554	87	149	
		(うち退職給与金)	百万円	196	178	154	△ 24	△ 42	
		(うち退職給付引当金)	百万円	266	163	224	61	△ 42	
		(うち賞与引当金)	百万円	455	461	461	0	6	
	材 料 費	材 料 費	百万円	2,476	2,862	2,719	△ 143	243	
		(うち薬品費)	百万円	1,525	1,822	1,725	△ 97	200	
		(うち診療材料費)	百万円	874	947	906	△ 41	32	
	経 費	百万円	2,292	2,351	2,336	△ 15	44		
	減 価 償 却 費	百万円	1,055	846	846	0	△ 209		
	資 産 減 耗 費	百万円	9	19	9	△ 10	0		
	研 究 研 修 費	百万円	53	74	59	△ 15	6		
	* 医 業 費 用 *	百万円	14,291	14,620	14,524	△ 96	233		
	医 業 外 費 用	百万円	155	155	156	1	1		
	* 経 常 費 用 計 ② *	百万円	14,445	14,775	14,680	△ 95	235		
	経常損益(繰入前)③(①-②)	百万円	△ 2,350	△ 2,485	△ 2,362	123	△ 12		
特 別 利 益 ④	百万円	2	6	5	△ 1	3			
特 別 損 失 ⑤	百万円	7	18	11	△ 7	4			
純損益(繰入前)⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 2,361	△ 2,508	△ 2,374	134	△ 13			
一 般 会 計 繰 入 金 ⑦	百万円	2,306	2,281	2,281	0	△ 25			
経常損益(繰入後)⑧(③+⑦)	百万円	△ 49	△ 216	△ 87	129	△ 38			
当期純損益(繰入後)⑨(⑥+⑦)	百万円	△ 55	△ 227	△ 93	134	△ 38			
経 営 指 標	医 業 収 益 比 率	給 与 費 比 率	%	77.8	73.3	73.9	0.6	△ 3.9	
		材 料 費 比 率	材 料 費 比 率	%	22.9	24.8	23.5	△ 1.3	0.6
			(うち薬品費比率)	%	14.1	15.8	14.9	△ 0.9	0.8
			(うち診療材料費比率)	%	8.1	8.2	7.8	△ 0.4	△ 0.3
	経 費 比 率	%	21.2	20.4	20.2	△ 0.2	△ 1.0		
	医 業 収 支 比 率	%	75.6	79.0	79.7	0.7	4.1		
経 常 収 支 比 率	%	99.7	98.5	99.4	0.9	△ 0.3			

決算の推移

入院日数 366 365 366 365 366 366 365 366 366 366 366 366 366  
 外来日数 240 243 243 242 243 243 243 243 243 243 243 243 243  
 (単位：床、%、人、千円)

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		前年度差引	
	決算	前年比	決算	前年比	決算	前年比	決算	前年比	決算	前年比		
稼働病床数	床	275	100.0	282	102.5	282	100.0	282	100.0	290	102.8	8
病床利用率	%	86.7	109.6	78.3	90.3	78.6	100.4	80.5	102.4	83.6	103.9	3.1
平均在院日数	日	11.8	100.0	12.1	102.5	11.1	91.7	11.5	103.6	10.9	94.8	△ 0.6
延入院患者数	人	87,299	109.9	80,604	92.3	80,935	100.4	82,809	102.3	88,699	107.1	5,890
(1日当り)	人	239	109.6	221	92.5	222	100.5	227	102.3	242	106.6	15
新規入院患者数	人	6,814	109.7	6,139	90.1	6,704	109.2	6,638	99.0	7,445	112.2	807
延外来患者数	人	103,385	103.9	97,305	94.1	110,330	113.4	111,752	101.3	110,708	99.1	△ 1,044
(1日当り)	人	431	105.6	400	92.8	456	114.0	460	100.9	456	99.1	△ 4
新規外来患者数	人	13,487	103.6	11,320	83.9	14,085	124.4	15,443	109.6	15,895	102.9	452
入院収益	千円	8,139,807	80.6	8,136,380	101.6	8,437,060	81.0	8,708,948	80.7	9,417,451	81.4	708,503
(1日1人)	円	93,241	92.5	100,943	108.3	104,245	103.3	106,169	100.9	106,173	101.0	1,004
外来収益	千円	1,816,334	18.0	1,766,075	17.6	1,965,136	18.7	1,954,691	99.5	2,018,375	17.4	63,684
(1日1人)	円	17,569	101.2	18,150	103.3	17,811	98.1	17,491	98.2	18,232	104.2	741
その他医業収益	千円	145,252	1.4	148,526	1.5	132,469	1.3	134,261	1.2	137,350	1.2	3,089
*医業収益計*	千円	10,101,393	100.0	10,050,981	102.3	10,534,665	100.0	10,797,900	102.5	11,573,176	100.0	775,276
医業外収益	千円	902,247	8.9	1,100,881	11.0	1,324,601	12.6	1,292,149	12.0	738,617	6.4	△ 553,532
特別利益	千円	2,751	0.0	124,601	0.3	200,171	1.9	2,015	0.0	5,254	0.0	3,239
**収益合計**	千円	11,006,391	109.0	11,276,463	112.2	12,059,437	114.5	12,092,064	112.0	12,317,047	106.4	224,983
給与費	千円	7,784,452	77.1	8,045,788	80.0	8,175,994	77.6	8,405,133	77.8	8,583,647	73.9	148,514
うち退職給与金	千円	(266,016)	2.6	(163,942)	1.6	(173,315)	1.6	(196,328)	1.8	(153,971)	1.3	△ 42,357
うち退職給与引当金	千円	(144,067)	177.4	(288,546)	2.6	(228,841)	2.2	(265,871)	2.5	(224,264)	1.9	△ 41,607
材料費	千円	2,153,370	21.3	2,277,197	22.7	2,438,313	23.1	2,475,656	22.9	2,719,131	23.5	243,475
経費	千円	2,021,656	20.0	2,117,082	21.1	2,146,799	20.4	2,292,465	21.2	2,336,405	20.2	43,940
減価償却費	千円	1,231,559	12.2	1,194,835	11.9	1,247,469	11.8	1,055,128	9.8	846,364	7.3	△ 208,764
資産減耗費	千円	6,219	0.1	17,541	0.2	16,186	0.2	9,222	0.1	9,117	0.1	△ 105
研究研修費	千円	53,070	0.5	36,324	0.4	42,219	0.4	53,079	0.5	59,445	0.5	6,366
*医業費用計*	千円	13,250,326	131.2	13,688,767	136.2	14,066,980	133.5	14,290,683	132.3	14,524,109	125.5	233,426
医業外費用	千円	201,464	2.0	190,774	1.9	156,203	1.5	154,745	1.4	155,677	1.3	932
特別損失	千円	104,638	1.0	423,503	4.2	157,191	1.5	7,270	0.1	11,436	0.1	157.3
**費用合計**	千円	13,556,428	134.2	14,303,044	142.3	14,380,374	136.5	14,452,698	133.8	14,691,222	126.9	238,524
差引損益	千円	△ 2,550,037	△ 25.2	△ 3,026,581	△ 30.1	△ 2,320,937	△ 22.0	△ 2,360,634	△ 21.9	△ 2,374,175	△ 20.5	△ 13,541
一般会計繰入金	千円	2,385,617	23.6	2,360,494	23.5	2,227,470	21.1	2,306,021	21.4	2,280,767	19.7	△ 25,254
経常損益	千円	△ 62,533	△ 0.6	△ 367,185	△ 3.7	△ 136,447	△ 1.3	△ 49,358	△ 0.5	△ 87,226	△ 0.8	△ 37,868
当期純損益	千円	△ 164,420	△ 1.6	△ 666,087	△ 6.6	△ 93,467	△ 0.9	△ 54,613	△ 0.5	△ 93,408	△ 0.8	△ 38,795

経常収支比率	%	99.5	-	97.4	-	99.0	-	99.7	-	100.6	-	99.7	-
医業収支比率	%	76.2	-	73.4	-	74.9	-	75.6	-	100.9	-	105.5	-

# Ⅲ 診 療 統 計

## 1. 総合診療科

### 1. スタッフ

科長 中岸保夫（リウマチ科兼務）  
医長 水田麻雄（リウマチ科兼務）、石田悠介（神経内科兼務）、南川将吾  
フェロー 合田由香利、佐野浩子、仲嶋健吾、榊田千晶、長谷川智大

専攻医 後藤弘樹・原田晋二・夏木 茜（1～3月）  
錦織 朱・上原和夫・小田原洋一（4～6月）  
原 将輝・田中 敦・高橋英里（7～9月）  
朝貝芳貴・松島愛香・松尾 進・砂川智紀（10～12月）

### 2. 診療活動

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者も多い。総合診療科はこのような多様な医学的問題をもつ患者に対して多角的に診療を行うことを目的とした診療科である。具体的には、基礎疾患の有無に関わらず小児救命救急センターから入院となった患者（外傷などの外因性疾患から内因性疾患まで）の入院対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者やリウマチ科系患者の内科的管理、集中治療管理後の一般病棟管理、在宅医療の推進などを担っている。当科スタッフはリウマチ学会専門医・腎臓学会専門医・小児神経学会専門医などの様々なキャリアをもった医師集団であり、さらには各診療科、看護部、栄養管理部、家族支援・地域医療連携部とも密に協力してチームとしての診療を行い、こどもにとって最善の医療を提供することを目標としている。

また、専攻医教育の充実も当科における重要な使命である。教育としては、専攻医を対象としたスタッフによるレクチャーと専攻医主体の症例検討会を行い、積極的に学会発表や論文作成も指導している。また、当科スタッフ・フェロー指導の下で積極的に業務を行ってもらうことでOn the job trainingの充実にも力を入れており、当院専攻医が必修となっている当科6か月研修の間に、総合的な小児診療が出来る小児科医育成を目指している。

### 3. 総合診療科患者数

総入院患者数（2023年1月1日～2023年12月31日） 1667人

#### 4. 主要疾患内訳（DPC主病名）

下気道感染症（気管支炎、細気管支炎、肺炎など）	194
上気道感染症（鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など）	84
Covid-19感染症	52
RSウイルス感染症	102
インフルエンザ感染症	58
気管支喘息	129
消化管感染症（細菌性、ウイルス性）	83
腸重積症（非観血的整復症例）	31
けいれん（熱性けいれん、無熱性痙攣、痙攣重積）	251
尿路感染症（急性巣状細菌性腎炎を含む）	56
川崎病	59
IgA血管炎	10
ケトン性・非ケトン性低血糖症	13
アナフィラキシー	9
脳震盪	12

#### その他疾患

骨折、熱傷、化膿性髄膜炎、肥厚性硬膜炎、多発血管炎性肉芽腫、膿胸、腸回転異常  
溶血性尿毒症症候群、急性骨髄性白血病、食物蛋白誘発胃腸炎、特発性肺ヘモジデロシス  
反応性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、全身型若年性特発性関節炎  
前皮神経絞扼症候群、汎発性水痘症 など

## 2. 救急科

### 1. 診療活動（2023年1月～12月）

小児救命救急センターは、すべての救急患者さんに対応するため、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用されてきた。救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、毎年救急外来受診者数と救急車による搬送件数は増加してきた。しかし2020年、予想もしなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、総受診者数、救急車による搬送件数は減少したが、2021年以降総受診者数、救急車による搬送件数、救急からの入院患者も増加した。そして2023年総受診者数は15235名、救急車による搬送件数は2534件、救急からの入院患者数は2303名（内PICU 183名、HCU 104名）と新型コロナ禍以前よりも著名に増加した。一方救急外来患者の約40%を占める外因系疾患に対しては、外科系各科と連携し、従来通り対応することができた。また神戸市の救急隊からの応需率は98.0%（2196/2241）と以前と変わりなく高い水準を維持することができた。

今後も病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、postコロナの時代の体制整備を進めたい。またWebも利用しながら、毎週1回7時30分から専攻医向けの勉強会や月1回科内で半日の勉強会を継続し、専攻医が中心となって救急診療に必要な実技トレーニングも定期的で開催している。また総合診療科や集中治療科とは定期的なカンファレンスを開催している。対外的には、神戸市立医療センター中央市民病院救急科との勉強会、兵庫県小児科医会の小児救急対策委員会や兵庫県小児医療ネットワークの事務局を務めた。

### 2. スタッフ

救急科：田中亮二郎（センター長、科長）、林卓郎（部長）、松井鋭（医長）、竹井寛和（医長）、谷澤直子（医長）、大西康裕（医長 4月～ 兵庫県災害医療センターから赴任）、大西理史（フェロー）、宮脇康輔（フェロー 4月～ 兵庫県立はりま姫路総合医療センターから赴任）、松本泰右（フェロー）、柏坂舞（フェロー 4月～9月）、西藤知城（フェロー 10月～3月）、鈴木雅大（フェロー 4月～6月）、相良優佳（フェロー 7月～9月）、青木亮介（フェロー 10月～12月）、三浦和樹（フェロー 1月～3月）  
村田慧（医長 3月退職 兵庫県災害医療センターへ移動）、吉井拓真（フェロー 3月退職 兵庫県立尼崎総合医療センターへ移動）

小児科専攻医：齊藤麗（1月）、須藤徳子（2月）、松島愛香（4月）、當間香南子（6月）  
朝貝芳貴（7月）、齊藤麗（8月）、錦織朱（9月）、志風友規（10月）  
田中元（11月）、皇甫奈音（12月）

#### 他院からの研修

- 兵庫県立加古川医療センター救急科専攻医 坪井芳真（4月～6月）
- 神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医 木村碧（3月）、池田茉穂（5月）
- 初期研修医の研修

神戸市立医療センター中央市民病院初期研修医 高見慎之介（5月）

兵庫県立丹波医療センター初期研修医 山泉琴音（7月）

兵庫県立淡路医療センター初期研修医 安富健人（8月）

兵庫県立丹波医療センター初期研修医 矢倉伸浩（9月）

- 神戸大学医学部の学生の半日研修も受け入れた。

### 3. 診療統計

#### 小児救命救急センター診療統計（2023年1月～12月）

##### (1) 救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	1,154	1,122	1,160	1,167	1,514	1,506	1,521	1,299	1,226	1,215	1,145	1,206	15,235
救急入院患者数	165	157	158	173	215	228	251	179	177	201	201	198	2,303
救急車搬送数	213	226	186	183	241	263	266	191	182	211	183	189	2,534

##### (2) 平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平日	772	725	774	656	808	1,021	855	841	702	732	766	660	9,312
休日	382	397	386	511	706	485	666	458	524	483	379	546	5,923
合計	1,154	1,122	1,160	1,167	1,514	1,506	1,521	1,299	1,226	1,215	1,145	1,206	15,235

##### (3) 時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0:00～8:45	135	144	134	139	195	170	206	165	150	168	146	133	1,885
8:45～17:30	583	536	536	531	758	759	743	644	598	592	587	636	7,503
17:30～24:00	436	442	490	497	561	577	572	490	478	455	412	437	5,847
合計	1,154	1,122	1,160	1,167	1,514	1,506	1,521	1,299	1,226	1,215	1,145	1,206	15,235

##### (4) 地域別救急患者数

地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	932	913	965	935	1,231	1,238	1,266	1,052	1,008	989	913	929	12,371
(東灘区)	125	148	138	133	181	193	163	147	152	120	155	130	1,785
(灘区)	95	93	118	93	112	135	128	131	111	98	94	98	1,306
(中央区)	134	118	126	128	180	196	206	155	179	197	158	160	1,937
(兵庫区)	119	90	101	107	121	133	119	84	87	99	81	97	1,238
(北区)	123	102	96	99	150	131	169	122	132	132	113	131	1,500
(長田区)	74	72	72	76	60	87	74	85	61	51	56	61	829
(須磨区)	87	103	119	106	160	146	136	112	104	111	98	95	1,377
(垂水区)	115	102	104	113	147	117	145	117	94	97	88	94	1,333
(西区)	60	85	91	80	120	100	126	99	88	84	70	63	1,066
阪神南地域	63	42	51	56	70	77	64	57	71	48	51	75	725
阪神北地域	18	19	21	20	18	24	22	20	8	20	21	27	238
東播磨地域	46	59	55	66	82	75	66	68	63	65	60	64	769
北播磨地域	25	30	11	25	32	29	29	23	23	28	25	28	308
中播磨地域	10	14	10	6	9	6	9	7	8	15	15	11	120
西播磨地域	2	2	1	1	2	2	0	3	3	2	1	8	27
但馬地域	1	2	2	3	4	1	3	2	1	0	2	2	23
丹波地域	10	4	6	7	5	3	7	4	6	10	9	10	81
淡路地域	7	8	14	8	10	17	21	11	10	8	13	14	141
兵庫県外	40	29	24	40	51	34	34	52	25	30	35	38	432
合計	1,154	1,122	1,160	1,167	1,514	1,506	1,521	1,299	1,226	1,215	1,145	1,206	15,235

### 3. 代謝・内分泌内科

#### 1. 人事

部長（科長）	尾崎 佳代
医長	松本 真明
フェロー	池谷 紀衣子
非常勤	坊 亮輔（神戸大学より月2回外来応援）
フェロー	4月～9月 西藤 知城
	10月～3月 柏坂 舞

本年はスタッフ2名、フェロー2名の4名体制で診療を行った。フェローとして神戸大学小児科から池谷紀衣子医師が派遣されている。

非常勤として神戸大学小児科より坊 亮輔医師が月2回代謝外来を行っている。

フェローとして半年間、西藤 知城医師、柏坂 舞医師が当科所属で診療を行った。

また、専攻医数名が1ヶ月間のサイクルで研修を行った。

#### 2. 診療活動

代謝・内分泌内科は小児における大きな特性である成長と成熟に関わる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。2023年にはそれに加えて、代謝疾患も高アンモニア血症など、小児集中治療を必要とする疾患の受け入れ病院としての機能を持っている。代謝疾患が非常に増加したことにより、入院の重症度と医師の労働時間が増した。今年度は糖尿病や代謝疾患など専門性を求められるため、休日夜間を問わずオンコール体制で対応を行った。その時には集中治療科と連携して診療にあたっている。また、神戸大学、兵庫医大と連携をとり、兵庫県全体の内分泌代謝疾患の活性化に努めた。

本年度の新規外来患者数は506名と昨年より増加であった。甲状腺疾患と肥満と代謝疾患が増加していた。外来患者数は増加の一途をたどり、8000名を超えている。入院患者数は137名であった。昨年より1.5倍になり、休日、夜間の緊急入院割合著増している。地域の専門病院として今後もその役割を果たしていく所存である。施設としては日本内分泌学会と日本糖尿病学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医、糖尿病専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

#### 【研究・学術活動】

尾崎部長、松本医長は小児内分泌学会評議員として活動し、尾崎部長は副腎性腺委員会に所属し、委員会活動に従事した。

当科は、患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度は昨年度に引き続きSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLong GH治療の治験に参加した。観察研究としてXLH（低リン血症性くる病）の研究に参加した。その他、2型糖尿病の内服治療の小児の適応拡大の治験にも参加した。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者の生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。学会報告として、17報告と前年に比べて増加した。その分野は内分泌の全ての分野に満遍なく関わっている。他科が中心となって、論文発表が増えているが、来年度は当科からも論文報告ができ

る予定である。また、他院との共同研究も少しずつではあるが立ち上げている。

当科は今後も計画的に5年後10年後を見据えた臨床研究を立ち上げていく予定である。

## 2023年度

### 外来患者（新患）

	患者数
低身長症	158
甲状腺疾患	33
性腺疾患	109
副腎	11
糖代謝異常	36
肥満	20
マススクリーニング	
先天性甲状腺機能低下症	15
先天代謝異常症	2
先天性副腎過形成	5
その他	110
計	506

### 入院患者

	患者数
低身長症	30
糖代謝異常	26
性腺疾患	8
甲状腺疾患	13
副腎疾患	9
肥満	1
マススクリーニング	26
その他	24
計	137

## 4. リウマチ科

### 1. 人事

本年は昨年度と同様、総合診療科兼務の水田麻雄医師、合田由香利医師と計3名体制で診療を担当した。

### 2. スタッフ

部長（科長）	中岸 保夫
医長	水田 麻雄
フェロー	合田 由香利

### 3. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、ベーチェット病、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として協力して診療を行っている。また遠方の患者さんは地域の小児科の先生方と、ぶどう膜炎に関しては眼科の先生方と、移行期においては成人リウマチ科の先生方との連携を積極的に行うなど、他施設との良好な協力関係の構築に努めている。

治療に関しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。また小児リウマチ性疾患は依然として病態が不明な部分が多いため、全国の小児リウマチ専門医と協力して病態解明や新たな診断・治療法の開発を目的とした基礎研究、臨床研究を積極的に行っており（当院HP参照）、臨床治験への参加、若手医師の教育や患者さん向けの講演会、厚生労働省の難治性疾患等政策研究事業などにも尽力している。

### 4. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍しており、患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。また患児それぞれに合わせて成人移行期に向けた支援も積極的に行っている。

### 5. 診療実績

外来患者数 282名（うち初診 82名）

主な疾患			
全身型若年性特発性関節炎	19名（1名）	シェーグレン症候群	4名（2名）
全身型以外の若年性特発性関節炎	89名（16名）	高安動脈炎	6名（1名）
全身性エリテマトーデス	16名（5名）	川崎病（冠動脈病変なし）	41名（急性期は総合診療科入院）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	11名（1名）	ベーチェット病	6名
全身性強皮症・限局性強皮症	3名（1名）	自己炎症性疾患	9名（2名）
その他の患者			
関節痛・レイノー・ぶどう膜炎・周期性発熱など			

入院患者 全例総合診療科管理

川崎病、全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など （生物学的製剤導入例含む）
---

## 5. アレルギー科

### 1. 人事

スタッフ1名、フェロー1名の2名体制で診療を行った。人事異動なし。田中裕也医師（たなか小児科アレルギー科）、百々菜月医師（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）、土井圭医師（兵庫県立淡路医療センター）は診療応援として週1回当科診療に従事した。また、2023年4月から総合診療科兼務で週1回仲嶋健吾医師、長谷川智大医師が当科で診療に従事した。

科長	濱田 佳奈
フェロー	岡崎 沙也香
非常勤	田中 裕也、百々 菜月、土井 圭
総合診療科兼務	仲嶋 健吾、長谷川 智大

### 2. 小児アレルギー疾患センター

センター長	濱田 佳奈
副センター長	小坂 嘉之

### 3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定された。

### 4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来後のフォローなど基礎疾患を有しない例にも対応しており、重症度問わず診療を行っている。食物アレルギーの有病率は増加していること、食物経口負荷試験数は今年度も一定数維持されていることから、需要は多いと考える。また、アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。昨年度はスギ舌下免疫治療薬の流通が減少したこともあり、導入数は減少した。

アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎のスキンケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育施設であり、若手医師への教育を行っている。

### 5. 診療実績（2023年1月～12月）

- 食物経口負荷試験 469例
- ダニ・スギ舌下免疫療法 新規39例
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 39例（12月時点で継続中）
- 新規外来患者 137名

## 6. 神経内科

### 1. 人事

本年は2022年3月にフェローの本郷が退職、後任には4月に神戸大学小児科から相馬が着任し、計4名体制で診療を行った。神戸大学小児科の永瀬裕朗先生には、月1回診療応援や臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

### 2. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	西山 将広
	石田 悠介（総合診療科兼務）
フェロー	上田 拓耶、相馬 健人

### 3. 活動状況

2023年は、神経内科外来初診480名、入院新規患者数は206名と、外来入院患者ともに年々増加の一途をたどっている。けいれん性疾患を中心に神経免疫疾患、心身症など幅広く診療を行っており、神戸市内のみならず、県内広域から紹介をいただいている。今後も小児神経専門施設としての役割を果たしていく所存である。

けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、昨年と同様に、休日夜間を問わずオンコール体制で専門的コンサルト対応を行った。救急総合診療科や集中治療科と連携し、診療の質が向上することで、神経学的後遺症の軽減を目指したいと考えている。

てんかん診療については、神戸大学てんかんセンターを中心として地域連携体制が構築されつつあり、当院は小児のてんかん診療の中心的役割を担っている。引き続き近隣の医療機関への情報発信を行い、専門的介入が望まれる患者の集約化やシームレスな成人期移行を目標としたい。

### 4. 研究・学術活動

学術活動については、けいれん重積・急性脳症・てんかん・神経発達に関する発表を19件、論文発表を9件行った。昨年に引き続き急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行っており、小児てんかん重積・けいれん重積治療ガイドライン2023改訂には、西山がガイドライン作成委員長として任命された。また発熱にともなうけいれん・意識障害患者に関しては、前向き多施設レジストリにより、発症早期の転帰不良因子を明らかにした。新たに急性脳症関連遺伝子の探索に関するコホート研究も立ち上がっており、我々が行っている急性脳症研究での新たな知見を世界に発信していきたいと考えている。

また当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、サブスペシャリティーの育成にも引き続き取り組んでいきたい。

## 5. 診療実績

神経内科初診患者数 480例

(疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

神経内科外来（新患者）	480例	検査及び治療	
てんかん・失神などの発作性疾患	129例	脳波	611件
精神遅滞・発達障害	69例	持続脳波モニタリング	319件
熱性けいれん・急性脳症	169例	長時間ビデオ脳波	65件
自己免疫性神経疾患	11例	末梢神経伝導検査	17件
頭痛・摂食障害・その他心身症	63例	脳平温療法	9件

## 7. 血液・腫瘍内科

### 【人事】

医師については、フェロー医師の中村亮太医師（愛媛大学小児科）、藤川朋子医師（神戸大学大学院）が転出し、フェローとして田中裕介医師（大阪大学小児科）、真鍋修司医師（当院専攻医）が入職した。小阪副院長以下14名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪 嘉之
科長（部長、小児がん医療センター次長）	長谷川 大一郎
部長	森 健
部長	石田 敏章
医長	岸本 健治
医長	神前 愛子
医長	斎藤 敦郎
医長	兵頭 さやか
医長	植村 優
フェロー	秋定 直宏
フェロー	田中 裕介
フェロー	西尾 周朗
フェロー	堀川 翔伍
フェロー	真鍋 修司

### 【診療活動】

本年度、小児がん拠点病院として再指定を受けた。県内10施設を小児がん連携病院として指定し、地域医療圏における診療連携・患者集約化を進めている。パンデミックによる入院制限やがん発症の自然減に伴い2022年度は悪性腫瘍／非悪性血液疾患の新規診断患者数はやや減少したが、2023年度の新規診断患者数は例年並みに回復した。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。依然として腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数であり、平均稼働病床も49.6人/日と高水準となった。また、神戸陽子線センターとの診療連携に伴う小児に対する陽子線治療照射実績についても単年度症例数ベースでは全国最多規模を維持している。また、造血幹細胞移植症例も積極的に行い、2021年の造血細胞移植数は23例であり他府県からの移植症例を積極的に受け入れた。2022年12月に施設認定を受けたCAR-T細胞療法についても2023年度に3例を実施した。

患者集約化に対応し、且つ人材育成のために科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医10名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医9名（指導医6名）、日本小児血液・がん学会専門医5名（指導医2名）、日本造血細胞移植学会移植認定医7名、がん治療認定医6名、日本血栓止血学会認定医1名の体制となった。2022年度4月から日本小児血液・がん学会研修制度が大きく変更されることに伴い、新制度における研修親施設として研修施設群（兵庫県立こども病院グループ）を形成して人材育成に取り組むこととなり、研修連携施設として神戸大学附属病院と香川医科大学附属病院を施設群に加えた。今後も、安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

入院患者に占める思春期・若年成人（AYA）の占拠率の増加に伴い、多角的に療養環境の整備に取り組んでいる。特に、兵庫県教育委員会高等教育課の支援により長期療養中の高校生患者に対してポケットWi-Fiと受信設備を供与することにより病棟内のICT環境を整え、インターネット通信を利用した遠隔授業を行った。本年度も複数名の受験生が希望の大学に合格を果たすなど実績が得られている。県教育委員会の主導で、入院生徒に対する教育機関と医療機関の連携の在り方検討会が設置され医療機関側を代表して当院も参加しており、県内の小児がん連携病院を含めて地域全体としての教育支援の格差是正にも取り組んでいる。一方、AYAがん患者の妊孕性保存に対しては、兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、精子保存や卵巣組織凍結保存に対する取り組みも継続しており、卵巣組織保存は通算で21例となった。兵庫県においてもAYA世代がん患者の妊孕性温存に対する助成制度が始まっており、がん相談支援室と連携して若年者がん患者に対する妊孕性温存に関する情報提供に係る努力を今後も続けていく。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。日本血栓止血学会教育研修施設に指定された。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

### 【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）等の委員会活動・研究活動等に従事した。

	学会・研究活動
小阪 嘉之	JACLS会長／JCCG幹事／神戸大学客員教授（小児先端医療学）
長谷川 大一郎	JCCG理事／JCCG-AML委員会／ユーズング肉腫委員会／JACLS-ALL委員会
森 健	JCCGリンパ腫委員会
石田 敏章	JCCG神経芽腫委員会／JCCG横紋筋肉腫委員会
岸本 健治	JCCG支持療法委員会
齋藤 敦郎	JCCG移植・細胞療法委員会／JACLS支持療法委員会
兵頭 さやか	JCCG脳腫瘍委員会
植村 優	JCCG ALL委員会／JACLS ALL委員会

成果としてJCCG等の臨床試験の結果が報告されたほか、神戸大学や理化学研究所等の近隣研究施設と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでいる。研究成果の誌上発表にも取り組んでおり、本年の研究成果は英文誌17編が掲載された。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

## 8. 循環器内科

### 【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸 佐知子	フェロー	広田 幸穂
	田中 敏克		飯田 智恵
	小川 禎治		林谷 俊和
	亀井 直哉		稲瀬 広樹
	松岡 道生		
	久保 慎吾		
	三木 康暢		

非常勤 則武 加奈恵

スタッフ7名、フェロー4名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

### 【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は736名で例年通りであった。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損（109）、心房中隔欠損（67）、肺動脈狭窄（13）、動脈管開存（22）、ファロー四徴症（7）、房室中隔欠損（5）などであった。カテーテル治療相談外来（木曜午前、担当：田中医師）や移行期外来（月曜午前、担当：城戸）、成人先天性心疾患外来（月曜午後、担当：城戸）、OD・不整脈外来（火曜午後、担当：小川）、ペースメーカー外来（木曜午後、担当：小川・松岡）など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センター、加古川中央市民病院などでの診療応援（外来応援）を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は535名で、COVID-19流行下であるにもかかわらず、昨年と比べ横ばいであった。6西病棟だけでは収容しきれず、救急HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、PICU, HCU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数5068件、Master 負荷心電図件数1439件、Holter心電図件数512件、トレッドミル負荷心電図は233件で昨年より増加した。心エコーは8343件と昨年と同等であった。胎児心エコーは213件（担当：亀井医師 主として木曜日）で、昨年より増加傾向であった。また、2016年に新たに心肺機能検査（CPX）を導入し、2023年は16件施行し、増加した。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数314件と昨年並みで、カテーテル治療の件数は166件と、昨年引き続き過去最高の件数を更新した。麻酔科のマニパワー不足から金曜日の検査枠が1日2件から1件に減ったこと、また、急ぎではないフォローアップの検査はCOVID-19の影響で延期されたが、治療を要する患者では必要時に遅滞なく行われた結果と考える。今後も治療件数は増加すると予想され、現在検査の待機期間が約6か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、昨年同様、木曜日に脳外科がアンギオ室を使用しない時の有効利用を行っていききたい。
- (5) 心臓MRI：毎週火曜日の午後に行っている。総件数は30件で昨年と同等であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。検査枠の拡大が今後の課題である。

### 【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日夕方と木曜日麻に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、火曜日と木曜日の夕方にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

### 【入院患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数
(カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	614
フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓）	133
ファロー四徴症	34
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	50
心室中隔欠損	35
心房中隔欠損	45
動脈管開存	18
両大血管右室起始	60
大動脈弓離断・大動脈縮窄	30
房室中隔欠損	21
大血管転位	17
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	11
肺動脈狭窄	10
心膜・心筋疾患	11
大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	15
川崎病・冠動脈後遺症	12
総肺静脈環流異常	31
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0
感染性心内膜炎	2

全入院患者の疾患内訳	総数
不整脈	19
エプスタイン奇形	11
総動脈幹症	3
僧帽弁閉鎖不全	0
肺動脈弁欠損	0
肺高血圧	2
大動脈・肺動脈窓	3
修正大血管転位	7
その他	34
カテーテル治療（カテーテル総数件314）	161
弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	8
血管形成	61
ステント留置術	7
コイル塞栓術（動脈管開存）	0
コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻その他）	31
バルーン心房中隔裂開術	5
心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II）	32
動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	17
その他	0

## 9. 腎臓内科

### 【人事】

2023年3月末日をもって北角英晶医師が転出し、4月1日から市川裕太医師が神戸大学医学部附属病院から着任した。市川医師は9月末日をもって神戸大学医学部附属病院へ転出し、10月1日以降は1名減での運営を余儀なくされた。2023年3月末日時点での腎臓内科員は貝藤、稲熊、矢谷と、田中亮二郎（診療部長・小児救命救急センター長）の4名体制であった。

### 【診療活動】

入院延べ患者数、外来延べ患者数はともに年々増加の一途をたどっている。本年の腎生検は31例と例年よりやや少なかったが、一方で維持腹膜透析の導入は3例と例年になく多かった。当科での管理を継続している在宅腹膜透析患児は7名（2024年3月末日現在）となった。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少している。一方、周産期の集学的治療や小児がんの治療技術の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が全国的に増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させる腹膜透析が選択される機会が多い。当科で管理中の腹膜透析患児も、その多くが複雑な全身疾患を併存しており、腎臓移植の具体的予定をたてられないでいる。当科は、小児病院という特性から、新生児～生後早期の低体重児や、腹部外科手術後、あるいは集学的がん治療後の末期腎不全児に対する腹膜透析療法の経験を豊富に有している。今年度は、県外（四国）の大学病院から生後早期の腹膜透析導入を目的とした紹介があった。今後も引き続き、当科の知見を学会等で内外に広く知らしめるよう努め、兵庫県にとどまらず、近隣府県におけるあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在5名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

### 【研究・学術活動】

貝藤部長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として医療安全・倫理・災害対応・COI委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきた。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係部署に多大なご協力をいただいている状況である。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げるとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

【2023年の入院患児内訳】

疾 患 名	人数 (人)
急性糸球体腎炎	2
慢性腎炎症候群	22
IgA腎症	(12)
紫斑病腎炎	(4)
Alport症候群	(4)
その他	(2)
ネフローゼ症候群	43
先天性ネフローゼ症候群	(2)
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群	(16)
尿路感染症	2
慢性腎臓病	41
腹膜透析管理症例	(15)
急性感染症による入院	(8)
ループス腎炎	3
腎血管性高血圧	2
溶血性尿毒症症候群 (腸管出血性大腸菌による)	1
非典型溶血性尿毒症症候群	1
腎移植後急性拒絶反応の疑い	1
計	118

## 10. 感染症内科

### 【スタッフ】

科長 笠井正志、フェロー 水野真介、明神翔太（2023年8月まで）の3名体制であった。

### 【主な業務内容】

1. 感染症診療支援
2. 感染対策に関するチーム医療（ICT、ASTなど）
3. 県予防接種センター業務

#### 1. 感染症診療支援

コンサルテーションを行っている。24時間365日体制で各診療科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、院外からも多数コンサルテーションを受けている。2023年1月～12月は410件であった。診療科開設以降のコンサルテーション件数推移は下記の通りである。尚、新型コロナウイルス感染症などの感染対策（ICT）コンサルテーションは含まれていない。

コンサルテーション数推移	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
数（件）	518	697	714	847	605	594	605	410

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。外来入院担当ナースより発疹相談も直接受け付けている。

小児科医として重要な小児感染症に関する教育を院内外で実践し、後期研修医を7名受け入れた。院外向けの教育機会として、小児感染症ウェブ勉強会（毎週木曜日）、姫路赤十字病院小児科臨床カンファレンス（第2水曜日午後）を実施してきた。

#### 2. 感染対策チーム医療（感染症のすべてに関わるチーム：KPIC）

なお兵庫県庁病院局より指示を受け新型コロナウイルス感染対策支援のため兵庫県立こころの医療センターで感染対策支援、県立病院新型コロナウイルス感染症対策に関わるワーキンググループ活動や診療コンサルテーションを受けてきた。ICTとAST活動詳細は感染対策部や薬剤部の頁をご参考いただきたい。

#### 県予防接種センター業務

相談、接種（接種困難者対応）、教育（予防接種基礎講座）を行っている。

相談件数の推移	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
相談件数	5	34	46	38	33	33	31	31

## 11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医1名（森貞直哉、臨床遺伝専門医）が診療を担当している。また、認定遺伝カウンセラー®（洪本加奈）が診療を補佐している。

### 【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

### 具体的な診療内容

- 遺伝性疾患のトータル管理：ダウン症候群、神経線維腫症1型、Noonan症候群など
- 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析：結節性硬化症、Marfan症候群など
- マイクロアレイ染色体検査
- 全エクソン解析：神戸大学、慶應義塾大学（Priority-i）、未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）などとの共同研究
- 他施設で解析された事例の遺伝学的説明：染色体異常など
- 次子再発率、発症前診断、出生前診断などの遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

### 【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさDNA研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする国内の研究機関との共同研究として行っている。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導するIRUDの地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。また慶應義塾大学とは新生児を対象に全エクソン解析、全ゲノム解析を用いてゲノム情報を診療に役立てるPriority-iを行っている。

### 【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行っている。詳細は別項参照。

### 【院外講演】

- 「臨床遺伝科の役割・小児泌尿器科への提言」 森貞直哉. 第32回日本泌尿器科学会、2023年7月19-21日、神戸
- 「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」 森貞直哉. 第58回日本小児腎臓病学会学術集、2023年6月29日-7月1日、高槻

### 【今後の展望】

IRUDや出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても臨床遺伝の知識は既に必須となっている。さらに、ごく近い将来網羅的遺伝子解析の保険適用や、全ゲノム解析データの臨床実装化が推進されると予想されており、当科ではこどもたちのために精緻で迅速な遺伝診療を推進していきたい。

【別表】

先天異常症候群

疾患名	症例数
Alstrom 症候群	1
Angelman 症候群	1
ARCN1-related disorder	1
Bardet-Biedl 症候群	5
Beckwith-Wiedemann 症候群	3
Bohring Opitz 症候群	1
Brain-Lung-Thyroid syndrome	1
BRPF1 異常症	1
BRWD3 異常症	1
CHARGE 症候群	2
Coffin-Siris 症候群	2
Cowden 症候群	2
Genitopatellar 症候群	1
Kabuki 症候群	7
LEOPARD 症候群	3
Lowe 症候群	1
MED12 related disorder	1
Menke-Hennekam 症候群 1 型	1
Noonan 症候群	19
Opitz G/BBB 症候群	1
PDE4D 異常症	1
Pitt Hopkins 症候群	1
Pseudo-TORCH 症候群	1
RASA1 関連疾患	1
Robinow 症候群	1
Rubinstein-Taybi 症候群	2
Silver-Russell 症候群	1
Smith-Magenis 症候群	1
Sotos 症候群	9
TARP 症候群	1
Temple 症候群	1
Treacher-Collins 症候群	2
WAGR 症候群	1
Xia-Gibss 症候群	1
Yunis-Varon 症候群	1
下垂体低形成	1
クリーフストラ症候群	2
コルネリア・デ・ラング症候群	2
シリオパチー疑い	1
心疾患、成長障害	1
ピータース奇形	1
ピエールロバン症候群	1
プラダー・ウィリー症候群	1
無鼻症候群	1

疾患名	症例数
胃食道逆流 (GER)、関節拘縮	1
右虹彩コロボーマ、知的障害	1
眼裂狭小	1
口顔指症候群	1
内臓錯位	2
鰓弓症候群	1

腫瘍

疾患名	症例数
Lynch 症候群	1
DICER1 症候群	4
Gorlin-Gortz 症候群	1
NF1	59
NF2	1
PTEN 遺伝子異常	1
RB1	6
Wilms 腫瘍	1
家族性多発性軟骨腫症	1
顔面血管腫	1
腔原発明細胞癌	1

神経疾患

疾患名	症例数
GABRB2 遺伝子異常	1
GRIN1 異常症	1
Joubert 症候群	3
PPP2R5D 異常症	1
Rett 症候群	3
結節性硬化症	3
発達遅滞	21
遺伝性痙性対麻痺	2
MECP2 重複症候群	1
MELAS	1
ジスキネジア	3
二相性けいれん重積型急性脳症	1
Au-Kline 症候群	1
BCL11B 遺伝子関連疾患	1
BRPF1 異常症	3
CACNA1E 異常症	1
CAMK2B 遺伝子異常症	1
CDKL5 異常症	1
Charcot-Marie Tooth 病	2
Congenital dyserythropoietic anemia (CDA) type 3	1
Dravet 症候群	1

疾患名	症例数
EBP 遺伝子異常	1
HECW2 異常	1
IQSEC2 遺伝子異常症	1
NEDHISB	1
OPA1 遺伝子異常	2
PHF8 関連知的障害	1
SMALED2	1
SUPT16H 異常症	1
SYNGAP1 関連知的障害	1
TBR1 遺伝子異常症	1
TRIO 異常症	3
TUBB3 遺伝子異常症	2
VPS16 異常症	1
WASF1 異常症	1
滑脳症	1
脊髄髄膜瘤	1
なで肩、筋力低下	1
ハンチントン病	1
異所性灰白質、Dandy Walker スペクトラム	1
周期性四肢麻痺	1
脊髄小脳変性症	1
中脳水道狭窄	1
発作性運動誘発性ヒョレオアテトーシス	2
自閉症スペクトラム	11
運動発達障害	2
てんかん	8

#### 眼科疾患

疾患名	症例数
家族性滲出性硝子体網膜症	1

#### 筋疾患

疾患名	症例数
筋強直性ジストロフィー	3
ネマリニンミオパチー	2
先天性ミオパチー	2

#### 血液・凝固・免疫不全

疾患名	症例数
Shwachman-Diamond 症候群	1
X連鎖性リンパ増殖症候群	1
血友病A	2
胎児脳出血の疑い	1
嚢胞性線維症	1
フォンウィルブランド病	1

疾患名	症例数
原発性免疫不全症	1
自己炎症・自己免疫性疾患	1
周期性発熱	1
先天性赤芽球癆	1

#### 骨・結合組織疾患

疾患名	症例数
2型コラーゲン異常症	3
Beals 症候群	1
Crouzon 症候群	1
FOP	3
Klippel-Feil 症候群	1
Kniest 症候群	1
Loeys-Dietz 症候群	2
Marfan 症候群	14
Metaphyseal dysplasia Schmid type	1
SHOX 異常症	1
エーラスダンロス症候群	3
過成長	4
高身長	1
骨形成不全症	5
四肢短縮	1
側彎症	2
低身長	5
軟骨無形成症	4
ネイル・パテラ症候群	2
先天性内反足	1
下顎顔面骨遺骨症 Guion-Almeida 型	1
急性硬膜下血腫、結合組織疾患疑い	1
左手形成不全、右短指症、右足合趾症	1
指の異常	1
常染色体劣性遺伝型 Larsen 症候群	1
脊椎骨端骨異形成症	1
脊椎肋骨異形成	1
前頭骨幹端異形成 1 型	1
大頭	3
点状軟骨異形成	1
末節骨の融解	1
両側股関節脱臼	1
シュワルツヤンベル症候群	1

#### 耳鼻科疾患

疾患名	症例数
Usher 症候群	2
Waardenburg g 症候群	3

循環器・呼吸器疾患

疾患名	症例数
QT延長症候群	41
気管無形成	1
先天性心疾患	1
ファロー四徴症、難聴など	1
拡張型心筋症	1
無呼吸発作	3

消化器疾患

疾患名	症例数
胆道閉鎖症	1

腎・泌尿器疾患

疾患名	症例数
ADPKD	3
Alport症候群	4
BOR症候群	1
CKD、高尿酸血症	1
LAMA5異常症	1
偽性Gitelman症候群	1
腎コロボーマ症候群	2
蛋白尿	1
慢性腎機能障害（CKD）、高尿酸血症	1
無症候性血	1

染色体異常

疾患名	症例数
10q26欠失症候群	2
19番染色体長腕部分欠失	1
19番染色体部分重複	1
1p36欠失症候群	2
1q21.1重複	1
1q44欠失症候群	1
20番染色体異常	1
22q11.2欠失症候群	13
22q11.2重複症候群	1
22q13重複症候群	1
22番染色体長腕部分重複	1
3pと9qの不均衡型転座	1
4p部分欠失	1
4p欠失症候群	1
4q25欠失症候群	1
5p trisomy	1
5pマイナス症候群	1
5p-症候群+5q過剰	1

疾患名	症例数
7pサブテロメア部分重複	1
9p13欠失症候群	1
9p重複症候群	1
DYRK1A症候群	1
Jacobsen症候群	1
Smith-Magenis症候群	6
Warkany症候群	1
Williams症候群	11
均衡型転座保因者の疑い	12
染色体の多彩なモザイク	1
ターナー症候群	6
ダウン症候群	40
混合性性腺異形成	1

代謝疾患

疾患名	症例数
BPAN	1
Wilson病	1
アジソン病	1
グリコシル化異常症	2
フェニルケトン尿症	1
副腎白質ジストロフィー	4
プロピオン酸血症	1
マッキューン・オルブライト症候群	1
モルキオ症候群	1
肝機能障害	1
高CK血症	1
高アンモニア血症	1
高フェニルアラニン血症	1
全身性カルニチン欠乏症	1
糖原病IV型疑い	1
非ケトーシス性高グリシン血症	1

頭部・顔面疾患

疾患名	症例数
PHACE症候群	1

内分泌疾患

疾患名	症例数
副甲状腺機能亢進症	1

皮膚疾患

疾患名	症例数
進行性変動性紅斑角皮症	1
母斑細胞性母斑	1

## 12. 精神科

### 【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	弓場 洋之      沖村 心
非常勤心理士	4名
精神保健福祉相談員	岩崎 志野

常勤医師は3名、非常勤医師は2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）が週1回半コマ、小笠原（火曜日）が月1回半コマ外来を担当している。

### 【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は学齢期が中心だが、近年中学生年齢の増加が目立っている。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。初診予約待ちは1か月程度で推移している。急を要する院内紹介には随時対応している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科と細やかで緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、医学部6年生、心理学大学院生の実習の受け入れを行った。
- 5) 兵庫県の子どもの心の診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和5年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17			
			1歳以下	幼児前期	幼児後期	学童前期	学童後期	中学高校	18歳以上	計
F0	F05	せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの						1		1
	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害						1		1
F1	F19	多剤使用および他の精神作用物質使用による精神および行動の障害			1			1		2
F2	F23	急性一過性精神病性障害						2		2
F3	F32	うつ病エピソード						1		1
F4	F40	恐怖症性不安障害				1	1	2		4
	F41	他の不安障害			1			4		5
	F42	強迫性障害						4		4
	F43	重度ストレス反応〔重度ストレスへの反応〕および適応障害		1	3	4	17	48	2	75
	F44	解離性〔転換性〕障害				12	6	5		23
	F45	身体表現性障害				4	7	17		28
F5	F50	摂食障害				1		7		8
	F51	非器質性睡眠障害			1			4	1	6
F6	F63	習慣および衝動の障害				2	3	2		7
F7	F70	軽度精神遅滞〔知的障害〕				12	7	5		24
	F71	中度〔中等度〕精神遅滞〔知的障害〕				1	2			3
	F72	重度精神遅滞〔知的障害〕			1		1	1		3
	F73	最重度精神遅滞〔知的障害〕			1	1				2
F8	F82	運動機能の特異的発達障害					1			1
	F84	広汎性発達障害			7	24	16	10		57
F9	F90	多動性障害				13	7	4		24
	F91	行為障害				1	3	5		9
	F93	小児期に特異的に発症する情緒障害			4		1	3		8
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害			3	4	5	2		14
	F95	チック障害			1	1				2
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害				2	1			3
他		その他	1		6	6	8	10	2	33
計			1	1	29	90	85	139	5	350

## 【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉相談員は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉相談員でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

### ① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を行っている。

入院では、様々な科と連携を取りながら介入を行っているが、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携や、ターミナル期のサポートとして集中治療科との連携を主に行っている。

また、緩和ケアチームの一員としても活動している。

### ② 精神保健福祉相談員

外来、入院において、精神保健福祉に関する様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

## 心理士

診療科	アセスメント			本人				家族		スタッフ	その他	新患
	知能発達	性格	その他	プレイセラピー	カウンセリング	心理サポート	小児ガンフォロー	相談	結果報告	カンファ		
救急総合診療科	45		5			13		1		2		28
代謝内分泌科	109		42									14
神経内科	31					14		1				18
血液腫瘍科	34						1,803	80	3	6		23
心臓血管外科												
循環器科	2					2						2
腎臓内科	2					13		1				3
臨床遺伝科	11											6
新生児科	129							12		4		54
精神科	248	270	207	69	27	63		8				194
脳神経外科	38		4						1	1		24
小児外科								2				1
整形外科						5						
形成外科												
耳鼻咽喉科	24	13										15
救急集中治療科								47		19		18
その他の科	1							1				2
緩和ケアチーム												
合計	674	283	258	69	27	110	1,803	153	4	32	0	402

## 精神保健福祉相談員

相談内容／対象	本人・ 家族	院 内	保健福祉 機関	児童 相談所	学校・園・ 教育関係	訪問看護	福祉施設	その他	計
福祉・経済問題	84	77	9	24	1	0	1	25	251
療養問題	32	40	2	1	0	49	3	2	129
教育問題	42	8	0	4	106	1	0	1	162
家庭問題	8	1	0	0	7	0	0	2	18
心理情緒的問題	26	6	0	10	0	0	0	1	43
養育問題	35	144	35	40	8	8	14	5	289
受診援助	520	439	14	57	9	8	21	419	1,487
その他	3	10	0	4	0	0	0	3	20
計	750	725	60	140	131	66	39	458	2,369

## 支援方法別

面 接	206	240	4	9	12	0	0	2	473
電 話	526	405	51	98	116	47	39	229	1,511
文 書	18	80	5	33	3	19	0	227	385
計	750	725	60	140	131	66	39	458	2,369

## 初回相談依頼者

総合診療科	2
集中治療科	1
代謝内分泌科	5
腎臓内科	1
精神神経科	98
小児外科	0
脳神経外科	2
整形外科	1
院内その他	263
本人・家族	74
学校	4
児童相談所	4
市	1
その他	9
計	465

## 13. 小児外科

### 小児外科スタッフ

畠山 理 (科長・家族支援・地域医療連携部長兼務)

横井 暁子 (部長)

久松千恵子 (医長) (4月から)

森田 圭一 (医長)

竹内 雄毅 (医長)

中谷 太一 (医長)

### フェロー

宮内 玄德 (3月まで)

堀池 正樹 (3月まで)

村上 紫津 (フェロー)

植村光太郎 (4月からチーフフェロー)

福井 慶介 (4月から)

吉永 駿 (4月から)

辻 恵未 (フェロー) (3月まで)

高成田祐希 (フェロー) (3月まで)

植松 綾乃 (フェロー)

### 【人事】

2023年4月に人事異動があった。

スタッフでは4月から久松千恵子医師が医長として高槻病院より赴任した。

フェローでは3月末で宮内医師が兵庫県立はりま姫路医療センターに、堀池医師が大阪赤十字病院に、辻医師が高槻病院、高成田医師が神戸大学医学部附属病院に異動となった。4月から植村光太郎医師（前神戸大学医学部附属病院）がチーフフェローに着任、福井医師（前京都府立医科大学）、吉永医師（前加古川中央市民病院）が赴任した。

### 【診療活動】

入院手術は 646件、日帰り手術151件、総手術件数は797件であった。新生児外科手術例は37件であった。

カンファレンスについては、科内のカンファレンスは例年通り 1) 病棟カンファレンス (毎日朝・夕)、2) 抄読会 (週1回) を開催し、多職種カンファレンスでは、1) 術前カンファレンス (週1回 放射線科診断医師参加)、2) 術後カンファレンス (週1回 放射線診断科医師・病理診断科医師参加)、3) 周産期カンファレンス (週1回 新生児内科参加) を開催、その他ICUカンファレンス (毎日朝)、腫瘍カンファレンス (週1回)、循環器カンファレンス (適時) に参加した。

**当科の特色としては****1. 高度専門医療**

- 小児呼吸器外科：気管狭窄症・声門下腔狭窄症の手術に関しては日本で最多の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携、チーム医療を推進し、西日本を中心に全国から症例が集まっている。

**2. 新生児外科**

- 総合周産期母子医療センターも一翼を担い、出生前診断症例治療にも積極的に参画している。
- 3名の新生児認定外科医を中心に、新生児外科症例にも常に万全の体制で対応できるようにしている。

**3. 小児救急医療**

- 小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、救急要請には100%対応できているようにしている。
- 外傷を含めた小児の救急疾患に対して、救急診療科、集中治療科と連携し、いつでも対応できる体制をとっている。

**4. 小児がん医療**

- 小児がん拠点病院として多数例の固形腫瘍手術を行っている。3名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科とチームを組んで最善の治療が提供できるように心がけている。隣接する神戸陽子線センター関連の難治性症例も年々増加している。

**5. 日帰り手術**

- 鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力のもと、できる限り日帰り（1日入院）手術を推奨している。

**6. 障がい児に対する外科治療**

- 障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

**7. 内視鏡外科手術の推進**

- 内視鏡外科手術をはじめとした低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。1名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせたもっともよい治療を選択できるように取り組んでいる。

手術症例

頭頸部	頸部リンパ管腫	0		
	頸部嚢胞摘出術	0		
	甲状舌管嚢胞摘出術	4		
	側頭嚢胞摘出術	1		
	梨状窩嚢胞摘出術	0		
	経口の梨状窩嚢胞摘出術	0		
	喉頭気管食道裂手術	0		
	声帯外方移動術	0		
	声門下腔狭窄症			
		PCTR	0	
気道		バルーン拡張	0	
		レーザー焼却	4	
		その他	0	
	気管狭窄症			
		スライド気管形成術	8	
		縫合不全・再形成	0	
		その他の気管形成	3	
		気管バルーン拡張術	0	
		レーザー焼却	0	
		端々吻合	0	
	気管つり上げ術	0		
後天性気管狭窄 気管軟化症			0	
	喉頭嚢胞切除	0		
	気管切開術	25		
	気管切開孔形成術	1		
	気管切開孔閉鎖術	6		
	喉頭気管分離術	7		
	腕頭動脈離断術	0		
	腕頭動脈胸骨固定術			
	血管輸手術			
	肺全摘術	2		
肺	肺部分切除	4		
	肺葉切除	0		
	胸腔鏡下肺葉切除	4		
	肺区域切除術	0		
	胸腔鏡下肺生検	1		
	肺剥皮術	1		
	漏斗胸			
		Nuss bar 挿入術	3	
		Nuss bar 除去術	2	
		Ravitch その他	0	
胸壁・縦隔	鳩胸手術			
	胸骨裂手術			
	(胸腔鏡下)縦隔腫瘍摘出術	0		
	乳び胸手術	0		
	膿胸手術	0		
	横隔膜			
	先天性横隔膜ヘルニア			
		開腹直接閉鎖	2	
		開胸直接閉鎖	1	
		胸腔鏡下閉鎖	4	
横隔膜弛緩症				
		胸腔鏡下縫縮術	0	
		腹腔鏡下縫縮術	0	
	食道	食道閉鎖症		
			TEF 離断 食道食道吻合	1
			食道食道吻合	2
			TEF 離断 胃瘻造設術	1
			食道(シヨクドウ)バンディング+胃瘻(イロウ)	0
			胸腔鏡下食道閉鎖根治	1
			その他	
胃		先天性食道狭窄症		
		胃瘻造設術		
			PEG	2
		腹腔鏡(補助)下胃瘻造設術	10	
		胃瘻再造設	0	
	胃瘻閉鎖術	0		
	噴門形成術			
		開腹	1	
		腹腔鏡下	13	
	十二指腸	肥厚性幽門狭窄症手術	1	
胃軸捻転に対する胃固定術		2		
十二指腸閉鎖・狭窄症手術		5		
腸回転異常症手術		7		
小腸閉鎖・狭窄症根治術		0		
観血的腸重複整復術		2		
メッケル憩室切除術		0		
腸閉塞解除術・腸管切除術		3		
腸管膜嚢腫摘出術		0		
腸管重複症手術		1		
小腸・大腸	H病/類縁疾患			
		腹腔鏡補助下 Swenson 手術	0	
		腹腔鏡補助下 Duhamel 手術	0	
		腹腔鏡補助下 Soave 手術	0	
		経肛門 Soave 手術	0	
		開腹 Swenson 手術	0	
		直腸・結腸生検	1	
		人工肛門造設・再造設術	2	
	腸瘻造設・閉鎖・吻合	0		
		胎便関連性腸閉塞	3	
	特発性消化管穿孔	1		
	壊死性腸炎	2		
胎便性腸閉塞				
内ヘルニア手術				
	腸間膜裂孔ヘルニア	0		
外傷性消化管穿孔縫合閉鎖	0			
	腹腔鏡下虫垂切除術	29		
	開腹虫垂切除術	0		
人工肛門ポリープ切除	1			
消化管ポリープ切除	0			
臍腸瘻手術	0			

直腸・肛門	直腸肛門奇形/鎖肛		
		LAARP	2
		PSARP	4
		仙骨会陰式鎖肛根治術(SP)	0
		肛門移動術(Potts)	0
		カットバック	0
		直腸前庭痔瘻閉鎖術	0
		人工肛門造設術	6
		人工肛門閉鎖術	2
		人工肛門再造設	0
肝胆脾		人工肛門ポリープ切除	0
		根治術後再肛門形成術	
		総排泄腔道残症根治術	
		膿形成	
		便失禁に対する肛門管形成術	2
		痔核・痔瘻手術	4
		肛門粘膜脱切除・Gant 三輪法	6
		直腸脱手術	
		腹腔鏡	0
		肛門括約筋形成術	
	肛門周囲膿瘍手術		
	摘便	3	
	肛門ポリープ切除		
	先天性胆道拡張症		
	開腹	0	
	腹腔鏡	4	
	胆嚢瘻造設		
	腹腔鏡下胆嚢瘻造設	2	
胆道閉鎖症		胆道閉鎖症	1
		肝生検	2
		腹腔鏡下/開腹胆嚢摘出術	0
		門脈圧亢進症手術	0
		Rex シェント手術	0
		肝部分切除術	0
		肝外傷開腹止血術	0
		腹腔鏡下脾臓摘出術	0
		脾尾部切除術	0
		大網切除術	0
腹壁	臍帯・臍帯内ヘルニア		
		一期的閉鎖	1
	腹壁破裂		
		腹壁閉鎖術	1
	鼠径ヘルニア		
		鼠径法	67
		LPEC	116
		腹腔鏡補助下内鼠径	
		臍ヘルニア	20
		臍ポリープ切除	0
泌尿・生殖器		腹壁・白線ヘルニア	0
		精巣固定術	
		陰嚢癒合剥離術	
		尿管管造残摘出術	1
		膀胱拡大術	2
		卵巣腫瘍	
		腫瘍摘出術/附属器切除術	0
		腫瘍核出術	3
		卵巣腫瘍再発に対する核出術	0
		その他	2
腫瘍	肝芽腫		
		開腹腫瘍生検	0
		腫瘍摘出術	0
	神経芽腫		
		腫瘍生検	2
		腫瘍摘出術	2
	腎芽腫		
		腫瘍生検	1
		腫瘍摘出術	2
	胚細胞腫瘍		
	生検	1	
	肉腫	2	
	縦隔腫瘍生検	2	
	リンパ節生検	5	
	その他の腫瘍生検	1	
	その他の腫瘍切除	1	
	リンパ管腫硬化療法	2	
	リンパ管腫切除	0	
処置・検査	皮膚・皮下腫瘍摘出術		
	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	2	
	縦隔洗浄ドレナージ		
	切開排膿・デブリードメント		
	試験開腹術	5	
	開腹止血術	1	
	長期留置型 CV カテーテル留置	77	
	長期留置型 CV カテーテル抜去	60	
	中心静脈ポート留置 抜去	6	
	テノコフカテーテル留置/抜去	7	
ドレナージ手術	0		
V-P シェント	0		
気管支鏡検査・処置	104		
気管支鏡下肉芽切除・レーザー焼却	1		
気管支鏡下異物摘出	2		
上部消化管内視鏡検査	32		
上部消化管異物摘出	4		
食道バルーン拡張	19		
ERCP	0		
下部消化管内視鏡	11		
下部消化管ポリペクトミー	0		
その他	5		

新生児外科症例

病 名	治 療
閉塞性胆汁うっ滞	胆嚢造設
先天性横隔膜ヘルニア	経胸的根治術(胸腔鏡より移行)
腸回転異常症	Ladd手術
腸回転異常症	Ladd手術
総排泄腔遺残症	人工肛門造設術
ヒルシュスプルング病	腸瘻造設術
総排泄腔遺残症	膀胱鏡検査
腸回転異常症	Ladd手術
先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
先天性十二指腸閉鎖症術後縫合不全	縫合不全修復術
ヒルシュスプルング病	腸瘻造設術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
先天性食道閉鎖・十二指腸閉鎖・直腸肛門奇形・腎低形成	気管食道瘻離断
先天性食道閉鎖・十二指腸閉鎖・直腸肛門奇形・腎低形成	十二指腸閉鎖症根治・胃瘻造設・人工肛門造設・PDカテ留置
両側反回神経麻痺	硬性気管支鏡検査
喉頭閉鎖	気管切開術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
先天性食道閉鎖症	気管食道瘻離断・胃瘻造設術
胎便関連性腸閉塞	腸瘻造設術
仙尾部奇形腫	一期的摘出術
医原性回腸穿孔	穿孔部閉鎖術
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
先天性気管狭窄症	硬性気管支鏡検査
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
ヒルシュスプルング病	人工肛門造設術
先天性横隔膜ヘルニア	サイロ閉鎖術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
穿孔性腹膜炎	腸瘻造設術
胎便関連性腸閉塞	腸瘻造設術
壊死性腸炎	腸管前置術
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下根治術
先天性食道閉鎖症	胸腔鏡下根治術
両側多嚢胞性異形成腎	PDカテーテル留置
臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア根治術

## 14. 心臓血管外科

### 【スタッフ】

副院長	大嶋 義博	
心臓血管外科科長	松久 弘典	
部長	日隈 智憲（8月まで）	
医長	松島 俊介	
医長	東田 昭彦（4月から）	
フェロー	白木 宏長（3月まで）	久保 沙羅（4月から）
専攻医	元野 壮（3月まで）	高橋 亮太（4月から9月まで）

2023年4月より東田昭彦医師（富山大学）が入職し、9月に日隈智憲医師が加古川中央市民病院に異動となった。また、加古川中央市民病院外科専攻医プログラム在籍の高橋亮太医師が当科で6ヶ月間の小児心臓血管外科研修を行った。

### 【診療体制】

外 来：月、水、金の午後2診と火、木午後の手術説明

手 術：定期手術は月、火、木、金

2023年の心血管手術は人工心肺使用180件（新生児14件）、人工心肺非使用37件（新生児20件）、その他52件であった。心疾患症例の死亡は3例であった。

地域連携：2019年より患者紹介元全医療機関、医師を対象とした地域連携カンファレンスを2回/年のペースで開催し、毎回30人前後の参加を頂いている。また2022年12月より始まった成人先天性心疾患症例検討会を2023年は4回開催し、神戸大学など関連施設から計30～40名の医師の参加を経て、移行症例の紹介、治療方針の共有を行った。加えて神戸大学医学部附属病院と成人先天性心疾患患者に関する相互連携協定を締結し、2023年は2回の手術応援を行った。

教育活動：神戸大学での学生講義と5-6回生の1名を臨床実習として受け入れた。また若手外科医育成の一環として、9時間のoff-the-job trainingを行った。加えて日本小児循環器学会外科系教育セミナーの企画、小児心臓血管外科医生涯育成プログラムではプログラム委員長として2024年春開始を目標に準備を進め、国内の若手小児心臓外科医育成に注力している。

研究・学術活動：5月のアメリカ胸部外科学会にて松島医師が兵庫県立大学工学部、神戸大学との共同研究で、当院で用いている右室肺動脈弁付き導管の臨床データと流体解析の報告を行った。また、10月の日本胸部外科学会定期学術集会にて久保医師の大動脈縮窄・離断症の大動脈弓の幾何学的解析報告が優秀演題として表彰された。

2023年人工心肺手術症例

疾患（術式）	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
CoA (simple)				1			2						3		
+VSD				2			1						3		
+DORV				1									2		
+AVSD	1			1									1		
+TGA													2		
+SV				1									1		
IAA+VSD				2									2		
Vascular ring				1									1		
PS				1			2						3		
PA-IVS or critical PS (BDG) (Fontan)	1			1			1						3		
				2			2						2		
TAPVR	3			1									4		
asplenia	2		1	1									3		1
PAPVR ± ASD															
ASD				2			13						15		
AVSD (partial)							1						1		
AVSD (complete)				6									6		
VSD (I)				4			3						7		
VSD (II or IV)				20			15						35		
TOF (pRVOTR)	1			1			1						2		
				1									2		
PA+VSD (Rastelli) (p-RVOTR) (SP shunt)				1									1		
				1									1		
DORV	1			11			6						18		
TGA (simple)	3												3		
+VSD	2												2		
SV (SP shunt) (Norwood) (BDG) (その他) (Fontan)				3			1						4		
				1									1		
				2			3						5		
				1			3						1		
							3						3		
TA (SP shunt) (BDG) (Fontan)				2		1							2		1
				3			1						3		
													1		
HLHS (Norwood) (その他) (BDG)				2			3						2		
													3		
				3									3		
Aortic valve (形成) (弁置換) SAS supra AS							3			1			1		
							2						3		
													2		
Mitral valve (MR 形成) (MR 弁置換) (MS 形成) (MS 弁置換)							2			1			2		
													1		
Ebstein				1									1		
Coronary disease				1			1						2		
その他							1	1	1				1	1	1
再手術 VSD再閉鎖															
PS解除							1						1		
RV-PA 導管再置換							14						14		
その他							1						1		
総数	14	0	1	81	0	1	83	1	1	2	0	0	180	1	3

2023年人工心肺非使用手術症例

疾患	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	4			1									5		
CoA+DORV	2												2		
CoA+AVSD	1												1		
CoA+SV	1												1		
IAA+VSD	2												2		
Vascular ring	1			3			3						7		
TAPVR+asplenia				1									1		
AVSD (complete)	1			2									3		
VSD (II or IV)	4			4									8		
TOF				2									2		
DORV	1			1									2		
HLHS	3												3		
総数	20			14			3			0			37		

主な術式	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	
体肺動脈短絡術	2			11			3						16
肺動脈絞扼術	4			8									12
両方向性 Glenn				10			5						15
DKS 吻合							1						1
肺動脈再建・形成術	1			9			5						15
右室流出路形成術	1			4			17						22
Rastelli型手術				3			3						6
動脈スイッチ手術	5			1									6
冠状動脈起始異常							1						1
Fontan型手術							7						7
Norwood手術				6									6
左側房室弁形成術				1			1						2
右側房室弁形成術				1			1						2
共通房室弁形成術				1			1						2
共通房室弁置換手術										1			1
大動脈弁上狭窄手術				1			1						2
大動脈弁下狭窄手術				1			2						2
大動脈弁形成術				1						1			2
Ross手術							3						3
両側PAB	11			0			0						11

その他手術	症例
ペースメーカー移植術	3
ペースメーカー交換術	6
皮下膿瘍、デブリードメント	5
横膈炎手術	3
心嚢ドレナージ	10
胸腔ドレナージ	4
横膈膜縫縮	1
ECMO装着 (ショック)	5
ECMO装着 (気管形成術等)	2
ECMO装着 (呼吸不全)	3
ECMO関連術式	3
血腫除去	4
SVC clipping	1
大動脈/肺動脈吊上げ	1

## 15. 脳神経外科

当施設は全国の小児神経外科医、あるいは脳神経外科に在籍し小児神経外科研修を要する若手医師の間における円滑な情報交換や国内研修を担う基幹施設となっている。また2017年11月より日本こども病院神経外科医会事務局も設置し交流の場としての機能を担い、西日本を中心に小児神経外科症例の診療に当たっている。

2023年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史（小児がん医療センター次長 診療科長兼任）、小山淳二（部長）、阿久津宣行（部長）の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師2名と計5名で診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、神戸大学脳神経外科教室より2022年7月1日～2023年1月15日に林秀弥先生、2022年10月1日～2023年3月31日に立澤奈央先生、2023年1月16日～6月30日に嶋崎智哉先生、2023年4月1日～2023年9月30日に芝野綾香先生、2023年7月1日～2023年12月31日に川村浩平先生、2023年10月1日～新田修幹先生がフェローまたは専攻医として着任した。また神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科から4月に西井陸夫先生、6月に川出智大先生、神戸掖済会病院脳神経外科からは5月に山本健太先生、12月に氷上真之先生が研修に従事した。

診療活動では2023年は手術件数など一時的に減少したが、外来新規患者数、再診患者数は比較的維持出来ており、東南アジアに海外赴任なさっている邦人症例の帰国・受診も確立して比較的堅調であったと言える。当施設脳神経外科の特色は、複数科との時間的、空間的緊密な連携によるチーム医療であり、特に小児がん拠点病院として血液腫瘍内科・放射線診断科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・新生児内科との密な連携が必要な二分脊椎例や、整形外科と合同の環軸椎脱臼や側弯例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

特に小児脳・脊髄腫瘍に関しては小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、入院・外来で安心して頂けるよう診療に従事している。更に外来では、青年期AYA世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援、移行期医療を担っている。また緩和治療に関してもチーム医療にて従事している。また3歳未満の症例も含めて、他施設からの陽子線治療希望症例を随時、受け付けている。更に広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。また頭部外傷に関しては精神科、神経内科、総合診療科、救急科、集中治療科、検査部、看護部、家族支援・地域連携部、外来スタッフ、病棟スタッフ、MSW、PSW、総務課、医事企画課、当科などを含む多職種チーム医療で対処を行っている。

先に述べた陽子線治療は、小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、2023年も他施設からの症例も増加して関東地方の小児医療施設まで広がり、脳脊髄腫瘍に対して照射も堅調である。治療は隣接する神戸陽子線センター小児専用の照射室で照射を行うが、当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院入院のままで化学療法を受けながら照射が可能であり、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による治療も可能となっている。現在では、緻密な照射の調整が可能で、全脳全脊髄照射にも有利なスキャン照射が可能である。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなどを更新、最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。

### その他の活動

- (1) カンファレンス：毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、  
随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加：日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本小児脳腫瘍カンファレンス、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会、Craniosinostosis研究会、近畿脳腫瘍病理検討会などへの参加

脳神経外科病床数	10	
脳神経外科的手術の総数	116	
脳腫瘍	摘出術	23
	生検術（開頭術）	1
	生検術（定位手術）	0
	経蝶形骨洞手術	0
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	0
	その他	3
脳血管障害	破裂動脈瘤	0
	未破裂動脈瘤	0
	脳動静脈奇形	1
	頸動脈内膜剥離術	0
	バイパス手術	5
	高血圧性脳内出血（開頭血腫）	0
	高血圧性脳内出血（定位手術）	0
	その他	0
外傷	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	1
	減圧開頭術	0
	慢性硬膜下血腫	6
	その他	2
奇形	頭蓋・脳	12
	脊髄・脊椎	19
	その他	2

水頭症	脳室シャント術	15
	内視鏡手術	10
	その他	6
脊髄・脊椎	腫瘍	0
	動静脈奇形	0
	急性疾患・変形性脊椎症	0
	急性疾患・椎間板ヘルニア	0
	急性疾患・後縦靱帯骨化症	0
	脊髄空洞症	0
	その他	0
機能的手術	てんかん	0
	不随意運動・頑痛症	0
	脳神経減圧症	0
	その他	1
その他		5
血管内手術	総数	1
	動脈瘤塞栓術（破裂）	0
	動脈瘤塞栓術（未破裂）	0
	動静脈奇形	0
	閉塞性脳血管障害	0
	[内ステント使用例]	0
	その他（腫瘍血管塞栓術）	1
定位的放射線治療	陽子線治療	30

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 林 秀弥  
 研修期間 2022/07/01～2023/01/15(23年15日間分の記録)  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫		1	
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形			
水頭症脳室シャント		1	
神経内視鏡手術			
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	1	1	
血管内手術			
計	1	3	4
合 計			4

専攻医 立澤 奈央  
 研修期間 2022/10/01～2023/03/31 (23年3ヶ月分)  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		5	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫	2		
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		2	
水頭症脳室シャント	2	2	
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		2	
血管内手術			
計	4	12	16
合 計			16

専攻医 嶋崎 智哉  
 研修期間 2023/01/16～06/30  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		3	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術		2	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫		1	
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形	1	4	
脊椎・脊髄奇形		4	
水頭症脳室シャント	3	1	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	1	1	
血管内手術			
計	5	20	25
合 計			25

フェロー 芝野 綾香  
 研修期間 2023/04/01～2023/09/30  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		5	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫	1		
頭蓋・脳奇形		5	
脊椎・脊髄奇形		5	
水頭症脳室シャント	1	4	
神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		5	
血管内手術			
計	2	27	29
合 計			29

フェロー 川村 浩平  
 研修期間 2023/07/01～2023/12/31  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		9	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		1	
脊椎・脊髄奇形		6	
水頭症脳室シャント	4	1	
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		2	
血管内手術	1		
計	5	21	26
合 計			26

専攻医 新田 修幹  
 研修期間 2023/10/01～2024/03/31 (23年3ヶ月分の記録)  
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		5	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫	1	1	
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		1	
水頭症脳室シャント	1		
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	1		
血管内手術			
計	3	9	12
合 計			12

## 16. 形成外科

2023年度は4月付けで楠田千佳医師の転出に伴い、卒後3年目の深山裕美医師の就任を迎えた。COVID-19の影響による手術の延期や症例数の減少はほぼなくなり、外来・入院診療ともにパンデミック以前のアクティビティーを回復できたものとする。ただ、地域における小児医療に対する委縮傾向は一段と加速し、各種疾患や外傷においても小児専門病院での治療を必ずしも要しない症例の対応に人的資源を使わざるを得ない状況が悪化している。手術内容に関しては、小耳症や唇裂二次修正などの学童後期から思春期にかけての症例に一段と注力し、手術希望のニーズの発掘と同時に患者とその家族の治療満足度を高める努力を行っている。

### 年間の患者数及び手術件数 2023年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	116名	†
形成外科入院患者数	312名（延べ人数ではない）	

#### 形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	310件	（合計 311件）
	腰麻・伝達麻酔	0件	
	局所麻酔・その他*	1件	
外来手術	全身麻酔	105件	（合計 690件）
	腰麻・伝達麻酔	0件	
	局所麻酔・その他*	585件	*その他には無麻酔や分類不明を入れる

#### 手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	14			3			17
II. 先天異常	220			32		1	253
III. 腫瘍	48			29		1	78
IV. 癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	15					1	16
V. 難治性潰瘍	1						1
VI. 炎症・変性疾患	2						2
VII. 美容（手術）							
VIII. その他							
Extra. レーザー治療	10		1	41		582	634
大分類計	310	0	1	105	0	585	1,001

## 17. 整形外科

2023年度の整形外科は3月末で米田梓医師と北村仁美医師が転出し、4月より新たに宮島昭博医師とが赴任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（部長）、衣笠真紀（医長）、森下雅之（医長）、河本和泉（医長）に上記3名を加えた7人体制にて、1人減少した状態で診療を開始した。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前、木曜日午前、金曜日午前の外来を稼働し、外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行っている。これまで小児先天疾患、慢性疾患などの疾患群の治療を中心に行ってきたが、新病院への移転以来、増加し続ける救急外傷診療に対応すべく救急診療部や麻酔科を含めた関連各科との連携を深め、チーム医療を推進してきた。スタッフが減少するも、年度末の集計としては昨年より約1割増加の実績となり、ここ数年はコロナによる影響もありながらも5～10%ずつの増加ペースを保っている。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行う一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。2023年は第34回日本小児整形外科学会を主催し、多数の医師を神戸に招き盛会となった。足の外科学会においては専門医研修施設としての認定を受け、小児足の外科治療の教育施設として、一層強力な診療体制を求めていく。

本年度の手術実績は、下記の通り376件であった。増加する手術、外来患児診療に対応するためのスタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2023年整形外科手術・検査内容区分

手術

	病 名	術 式	手術数
体 幹	側弯症	矯正術	13
	斜頸	切腱術	8
股 関 節	先天性股関節脱臼など (麻痺性、症候性含む)	白蓋 or 大腿骨骨切り	17
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	3
	大腿骨頭すべり	ピンニング	3
膝 関 節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	5
	関節炎、円板状半月板など	鏡視下手術など	1
足 部	先天性内反足 麻痺性内反足 垂直距骨など	アキレス腱皮下切腱術 (Ponseti)	13
		軟部組織解離術 腱移行・延長術 など	13
		足根骨骨切りなど変形矯正	1
		変形矯正術など	0
下 肢	下腿内捻	下腿回旋骨切り	1
	脚長差 変形など	脚延長、変形矯正 (創外固定使用)	3
		成長抑止術 (8プレート)	16
	足根骨癒合	癒合部切除	3
下肢 変形	矯正、切断など	1	
上 肢	内反肘	矯正骨切り術	2
外 傷	四肢骨の骨折 脱臼 腱損傷	整復固定、骨接合術	76
炎症・腫瘍	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	6
	腫瘍 骨髄炎、LCH、病態不明など	生検術 腫瘍切除など	22
手指・足趾	多・合指 (趾) 症	余剰指 (趾) 切除	19
	手指 (足趾含む) 変形	矯正、骨切り術など	7
そ の 他			122
総 数			354
検 査			23

## 18. リハビリテーション科

令和5年度は言語聴覚士1名が入れ替わり丸谷が新しく赴任した。彼女は新卒での採用であり今後、羽ばたいていくことを期待している。人員としては医師1名、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で稼働している。病床数からすると大変少ない人員であるがリハオーダーに対しては問題なく対応できていると考えている。

今年度から下記のごとく新プロジェクトを立ち上げた。

1. R5.11月より心臓大血管施設基準取得。来年に向けて循環器内科・専門看護師とともに外来心臓リハビリテーションを開始予定。
2. 緩和ケアチームによる外来診療への理学療法士参加と外来リハビリの開始。
3. 血友病特別外来でのリハビリテーション（理学療法士による評価・指導）への参加。

いずれもまだ手探り状態ではあるが子ども達のリハビリテーションをさらに充実させていきたい。

## 19. 眼科

今年度の眼科医師の状況は以下の通り。4月にフェローとして豊国秀昭が赴任した。専攻医の牧仁美が育休中のため、昨年度から引き続き神戸大学眼科医局に所属し当院勤務歴のある女性医師4名の診療応援を受けている。

子供の虐待件数は年々増加する傾向にあるが、当院に救急搬送される例の中にもアビューズによると考えられる乳幼児頭部外傷、AHTが散見される。頭蓋内の損傷以外に眼底網膜出血の合併頻度が高く、しかも虐待による出血の様相、パターンは極めて特徴的であって、医原性、偶発外傷による出血との鑑別は容易である。機序は頭部を前後に激しく揺さぶられるなどの鈍的外力による網膜血管の破綻、すなわち乳幼児では網膜に付着する硝子体が振動し広範囲に網膜血管を牽引することによる。脳浮腫などのうっ血では網膜中心静脈の還流障害による網膜静脈からの限局した出血であるが、虐待の場合、動脈性出血と静脈性出血の両方であり、両眼性かつ視神経乳頭周囲から網膜周辺に至る広範囲に多数の出血が散在して見られる。出血の深さも多層性で刷毛様、火焰様、少円形など多彩な出血の形状、大きさは出血の深さが網膜表層、中層、深層の多層に渡っていることを示している。

この様にAHTの診断に眼底出血の所見は極めて重要かつ有用であるが、残念ながら未だその認知は社会的にはもちろん医学的にも十分とは言えない。学会活動などを通して引き続き啓蒙に努めたい。

### 2023年 眼科 新患統計 患者総数 715名

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期 13歳以上	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳		
屈折異常	2	26	46	315	203	121	101	59	873
弱視	0	2	2	60	39	11	5	4	123
斜視及び疑い	2	15	36	155	127	71	49	27	482
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	2	0	8	4	2	0	0	16
眼瞼疾患	0	12	15	44	37	27	15	0	150
涙器疾患	0	0	12	19	1	1	0	0	33
結膜疾患	1	0	1	5	3	2	0	2	14
角膜・強膜疾患	4	2	1	4	5	8	5	8	37
ブドウ膜疾患	0	5	1	11	2	2	3	0	24
網膜・硝子体疾患	0	6	4	24	29	16	12	14	105
水晶体疾患	2	13	8	24	16	12	6	9	90
眼窩疾患	0	0	0	1	0	0	0	0	1
遺伝疾患	0	0	0	0	1	0	1	0	2
視神経・視路疾患	0	0	3	5	9	17	15	7	56
眼振	0	3	3	0	1	0	2	2	11
緑内障	0	7	6	21	5	2	1	10	52
外傷	1	0	0	3	0	1	0	0	5
症候群	0	5	0	10	6	2	2	0	25
心因性視力障害	0	0	0	0	0	12	4	0	16
腫瘍	0	3	0	1	0	2	0	0	6
その他	1	7	1	6	9	0	4	2	30
小計	13	108	139	716	497	309	225	144	2,151

(1) 入院手術

	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
斜 視	0	0	0	8	32	48	36	60	184
内 反 症	0	0	0	2	19	17	14	4	56
眼 瞼 下 垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 瞼・眼窩疾患	0	0	0	4	12	3	3	0	22
結膜疾患(腫瘍)	0	0	0	0	1	0	2	0	3
角 膜 疾 患	0	0	0	0	1	0	0	0	1
網膜疾患(腫瘍)	0	0	0	0	1	0	0	0	1
硝 子 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	2	4	2	0	0	8
眼 瞼 形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑 内 障	0	0	0	1	0	2	0	1	4
白 内 障	0	2	2	1	6	1	5	5	22
未 熟 児 網 膜 症	0	4	0	0	0	0	0	0	4
眼 球 振 盪 症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・検査・その他	0	2	2	0	10	4	1	1	20
合 計	0	8	4	18	86	77	61	71	325

(2) 日帰り手術

	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
抜 糸	0	0	0	3	15	23	13	6	60
鼻涙管チューブ抜去	0	0	0	1	3	1	0	0	5
検 査・そ の 他	0	0	1	5	9	6	3	6	30
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	95

2023年 訓練及び検査人数 (合計 1,299名)

PAT (プリズム検査)	69名
視野検査 (GP)	317名 623眼
視野検査 (ハンフリー)	48名 94眼
PL検査・TAC	379名
OCT	458名
ヘス (眼球運動検査)	10名
色覚検査	38名
合 計	1,473名

実習生受け入れ状況 大阪医療福祉専門学校 4名

## 20. 耳鼻咽喉科

### 1. 外来診療

2023年1月から常勤医2人に加えて、開院以来初めて待望の3人目の医師として赤澤医師が時間短縮勤務で赴任した。赤澤医師は15時ころまでの外来診療と手術を担当したが、10月から産休に入ったため2人体制に戻っている。手術日を除く週4日午前午後外来診療を行った。年間の新患数は868名(前年795)、延べ患者数は4859(前年4667)人であった。新型コロナウイルス感染症の終息と共に夏ころから新患数が増加した。特に上気道閉塞をきたすような口蓋扁桃肥大・アデノイドの患者数が急増したことにより、ほぼ解消していた新患予約待ちが約2カ月程度になった。一方、難聴精査・管理について受診する人数は著変なく、兵庫県の乳幼児難聴診療の中心的な役割を担っている。週に1回、言語聴覚士が院外の補聴器技能者と乳幼児への補聴器適合を行っている。希望者に対して先天性難聴の遺伝子解析(保険診療)を、臨床遺伝科と連携しながら行っている。

### 2. 手術・入院診療

手術枠は、日帰り手術枠が火曜に3件、水曜に1件、金曜に1件、入院手術枠が水曜に1件、金曜に2件である。術式は、例年通り、扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜チューブ挿入術が多い。コロナ感染症流行以前に比べると鼓膜チューブ挿入術は半減し回復の兆しはない。扁桃アデノイド手術は上述のように増加したため7カ月以上の手術待機になっている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受診控えの反動と、感染対策が緩んだことによる慢性上気道感染の増加によるものと推察している。3歳未満の重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群に行う扁桃摘出術・アデノイド切除術は、周術期管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。地域の基幹病院でも術後の安全性が確保できないため手術待機となることも多い中、当院では、麻酔科、集中治療科、総合診療科ならびに集中系病棟看護スタッフの協力により、手術適応を厳選して行っている。

#### 入院手術(併施含む)

扁桃摘出術	78
アデノイド切除術	98
鼓膜チューブ挿入術	22
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	2
鼻・副鼻腔内視鏡手術	3
鼻涙管チューブ挿入	6
その他	12
合計症例数(他科入院21名含)	145

#### 日帰り手術(併施を含む)

鼓膜チューブ挿入術	99
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	16
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	8
口唇粘液嚢胞摘出	1
異物摘出術	3
その他	5
合計症例数	129

#### 【学術活動・地域医療】

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会、日本小児耳鼻咽喉科学会総会、日本聴覚医学会などで発表を行った。また他施設との共同研究にも複数参加している。年1回、兵庫県下の聴覚特別支援学校(神戸、姫路、豊岡、こばと)の教員と、難聴児についてカンファレンスを行っている。医療と教育との切れ目ない連携を継続する。

**【今後の展望】**

新生児聴覚スクリーニングの普及により、高度以上の難聴のみでなく、軽度・中等度難聴や片耳難聴も早期に発見されるようになり、小児の聴力評価と管理はますます重要性を増している。小児の聴力評価と管理は、聴力検査、他覚的聴力検査、家庭での音反応、言葉の発達、遺伝学的検索など、多面的にクロスチェックし、フィードバックしながら診療することが重要である。これには、一定の設備や経験のあるスタッフを要するため、当院当科の果たすべき役割は大きくなっているといえよう。補聴すればきこえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあり、周囲のサポートと環境の整備など障害に対する合理的配慮は必須である。補聴の目的は児の健全な発育である。保護者と本人に、難聴とその対応について理解を深めてもらうこと、また難聴児通園施設や聴覚特別支援学校、難聴学級の先生と連携し、難聴児ひとりひとりに最適な療育や教育の環境を整えることができるよう、こども家庭庁の施策でもある「難聴児支援体制整備」に貢献していきたい。

**3. 言語聴覚療法について**

**【人員】**

リハビリテーション部所属の言語聴覚士（以下、ST）が予約状況に応じて外来業務に従事した（1～4名）。

4月より産育休中の職員が時短勤務で復帰した。正規職員が1名転出し、新入職員が1名入職した。

**【主な業務】**

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

① 聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。

② 補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装用ケースが増えている。近年は軟骨伝導補聴器の導入により、外耳道閉鎖及び小耳症の児にも補聴器装用が可能となり、患者は増加傾向にある。補聴器を装用すれば聞こえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあることなどを保護者や本人に説明し、効果判定を含めながら支援を行っている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、保護者への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

③ その他

聴覚障害児支援力向上研修事業にかかる言語聴覚士派遣事業が2022年度より開始され、県教育委員会より依頼があった。神戸聴覚特別支援学校、姫路聴覚特別支援学校へSTがそれぞれ1名訪問し、当院に通院している児を中心に助言などを行った。

**表1 【2023年聴力検査件数】**

2023年1月～12月	件数
標準純音聴力検査	901
標準語音聴力検査	90
気導聴力検査	3
遊戯聴力検査	1,763
補聴器適合聴力検査1回目	43
補聴器適合聴力検査2回目以降	444
発達および知能検査	30
合計	3,274

2023年新患

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	70	23	33	4		9		1	
構音障害	34	11	10	10					3
耳介奇形/小耳症	9	4	2	1	2				
外耳道閉鎖・狭窄	23	12	6	2	3				
急性乳様突起炎	2	1	1						
副耳/耳介腫瘍	1			1					
先天性耳ろう孔	2	1	1						
外耳道異物	5	3	2						
外耳道損傷	2	2							
外耳炎	10	7	2		1				
耳垢栓塞	20	12	5	1		2			
急性中耳炎	30	23	6						1
反復性中耳炎	6	6							
滲出性中耳炎	163	35	110	11		5	2		
慢性中耳炎	5		4				1		
真珠腫性中耳炎	2		2						
癒着性中耳炎	1		1						
先天性難聴(疑い含む)	86	33	17	16	20				
ムンプス難聴(疑い含む)	0								
心因性難聴	25	1	23	1					
突発性難聴	2	1	1						
高音障害型難聴	2	1	1						
低音障害型難聴	6	2	4						
難聴	181	33	129	9		6	3	1	
難聴(疑い含む)	154	76	53	12	1	10	1	1	
後迷路性難聴	8	3	4		1				
聴覚情報処理障害	3	1		2					
内耳奇形	20	1	13	3	3				
中耳奇形	1		1						
側頭骨骨折/耳小骨離断/鼓室内血腫	2	2							
聴覚過敏	5	1	4						
耳鳴	3	2	1						
めまい	16	8	5	3					
顔面神経麻痺/顔面痙攣/口唇麻痺	16	13		3					
慢性鼻・副鼻腔炎	122	43	52	21		3	1		2
急性鼻・副鼻腔炎	22	13	4	5					
アレルギー性鼻炎	207	31	123	49		2	1	1	
鼻出血	12	12							
鼻腔異物	4	3	1						
鼻咽腔閉鎖不全/粘膜下口蓋裂・口蓋裂	8	3	5						
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	1	1							
鼻腔腫瘍	1	1							
アデノイド肥大	266	27	174	60		3	1	1	
扁桃腺肥大	160	10	108	41				1	
扁桃炎/PFAPA症候群	9	6	2	1					
睡眠時無呼吸症候群	190	18	122	48			1	1	
咽・喉頭外傷/口腔内損傷	8	7		1					
口腔腫瘍	0								
舌腫瘍	1	1							
口腔内炎	1	1							
口唇粘液のう胞	2	1		1					
舌小帯短縮症	3	1	1	1					
唾石	1		1						
がま腫	2	1		1					
耳下腺炎/顎下腺炎	6	4	2						
耳下腺腫瘍/顎下腺腫瘍	3	1	1	1					
頸部膿瘍/咽後膿瘍/扁桃周囲膿瘍	10	9	1						
咽・喉頭炎/声門下喉頭炎/声門下浮腫等	18	17	1						
喉頭蓋のう胞	0								
咽・喉頭異物	7	7							
喉頭軟化症/声門下狭窄症	67	53	4	10					
反回神経麻痺	22	22							
声帯ポリープ/喉頭肉芽	8	1	3	4					
嚙下障害	29	24	2	3					
正中頸のう胞/側頸のう胞/甲状舌管瘻	2		1	1					
頸部腫瘍/咽頭腫瘍	0								
頸部リンパ節炎	19	14	4	1					
顔面外傷/鼻骨骨折	7	7							
サイトメガロウイルス感染症	4	4							
その他	4	3				1			
(感染症チェック)		21							
(新スク後精密検査)		28	24	15	21				
(健診)		3	21	1			16		
(学校・園健診)		3	27						
新患数(重複除く)	868	379	329	113	21	17	3	3	3

## 21. 泌尿器科

3月に原田淳樹、桂大希が退職し、4月から豊未都樹が入職したため、2023年度は5人体制から4人体制（杉多、神野、春名、豊）に縮小して診療を行った。

2023年7月19（水）～21日（金）に、杉多が会長となり、第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集會を神戸国際会議場で開催した。「Curiosity感興、Passion情熱、Perseverance不屈、Gratitude感謝」という学術集會のテーマに沿って、シンポジウム、ワークショップ、招請講演、ディベート、特別企画などを構成し、学術委員会（停留精巣診療ガイドラインの改訂）・専門医委員会（新しい専門医制度）・倫理委員会（演題応募時の倫理規定）から理事会報告があった。157題の演題応募があり、13演題は口演で学会賞を争い、残りの144演題はすべてポスター発表とした。海外からIowa大学のChristopher S. Cooper教授に、新生児水腎症の予後に関する新しい分類と膀胱尿管逆流の国際分類の問題点および膀胱尿管逆流の予後に関する指標に関する教育的講演を賜った。また、文化人講演の“元気配達人”パンチ佐藤氏には“Dynamite!!”と自分を鼓舞することを教えて頂いた。学術集會唯一の感謝企画で、谷風三郎先生に1980年代以降の小児泌尿器科の歴史、米国への見学、また海外の小児泌尿器科医との交流などに関する講演を賜った。COVID-19の流行以降、現地開催のみの学術集會としては多くの方々が参加し、開催前の予想をはるかに超える活発かつ有意義な意見交換が行われ、盛會のうちに終了した。

診療に関しては2022年度と比較して、外来新規患者数、入院患者数ともに大きな変化はなかった。尿道下裂患児の紹介が昨年同様多く、近畿以外の中国・四国・九州地方からも紹介があった。原泌尿器科病院の井上貴昭先生のご協力により、当院で初めての内視鏡併用腎内手術（endoscopic combined intra renal surgery: ICIRS）を行った。

学術活動は2月の総排泄腔異常シンポジウム in 岡山、4月の日本泌尿器科学会、7月の前述の日本小児泌尿器科学会、9月の日本排尿機能学会、10月の日本泌尿器科学会中部総会、11月の西日本泌尿器科学会および日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会で当科の治療成績などを発表した。次年度も引き続き、診療を充実させ、活発な学術活動を行っていきたい。（杉多記）

## 2023年手術実績【入院/282 外来/135】

## 【尿路系】

VUR手術（開腹）	33
VUR手術（気膀胱）	4
デフラックス注入	4
膀胱尿管新吻合	1
膀胱拡大術	2
尿管カテーテル抜去	9
開腹腎盂形成	2
腹腔鏡下腎盂形成	2
腎摘出	4
内尿道切開	1
腎瘻造設	2
膀胱鏡（ステント留置含む）	51
膀胱結石摘除	5
経尿道的結石摘除	4
尿管瘤切除	2
その他	16
合計	142

## 【性器系】

尿道下裂手術	64
陰茎形成	9
精巣固定	99
精巣捻転	17
消失精巣摘除	3
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	6
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	5
陰嚢水腫根治術	16
ヘルニア手術	2
埋没陰茎手術（包皮形成術）	10
包茎手術	18
陰嚢形成	5
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	8
腔切開	3
その他	10
合計	275

## 22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児のウ歯予防・ウ歯の修復治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に先天性の疾患を有する当院かかりつけの患児に対しては、低年齢（乳前歯萌出時期）からの歯科定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っていきたいと考えている。

今年度、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置づけられ通常の診療となったが、手術件数は昨年度に続き減少していた。これは歯科診療に対して非協力的な児の全身麻酔下歯科治療が減少したことを反映しているものと考えている。

周術期における口腔管理は引き続き積極的に行っており、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は、ここ数年新患数の内訳のトップを占めている、毎週火曜日に、歯科衛生士による7階病棟ラウンドを継続して行っている。

人事面においては、常勤歯科医師1名（曾根由美子）の体制ではあることに変わりはない。

新患内訳（2023）		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	29	6	1	0	36
	齲 蝕	6	37	1	0	44
	乳歯晩期残存	4	3	0	0	7
	先天性歯	1	3	3	0	7
	その他	5	0	0	0	5
矯正歯科関連	不正咬合	5	2	0	0	7
	術前顎矯正	6	0	0	0	6
口腔外科関連	外 傷	7	4	0	0	11
	埋伏歯・過剰歯	2	6	0	0	8
周術期口腔機能管理		51	0	0	0	51
その他（小児歯科以外）		4	0	0	0	4
計		120	61	5	0	186

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	2	2
外来手術	7	0	7
計	7	2	9

## 23. 麻酔科

### 1. 人事

専攻医・フェローの異動として、神戸大学から上村医師、大阪公立大から高井医師、兵庫医大から高見医師、中央市民病院から穆医師、兵庫県所属医師として濱村医師、永井医師、名古屋市立大学から秋丸医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として、中井医師、豊島医師、川本医師を迎えた。他、短期研修として当院小児科から松本医師、朝貝医師を迎えた。また正規職員の池島医師が、11月から兵庫県立がんセンターにて緩和医療の研修中である。

2023年12月末の時点では香川、高辻、大西、池島、宮本、上嶋、末田、廣瀬、藤原、田中、南、三田村、鶴房、中井、森下、高見、上村、高井、穆、濱村、秋丸、川本（集中治療科）が従事している。

### 2. 活動状況

- (1) 麻酔業務および件数：麻酔件数は昨年より若干増加し4185件となった。業務内容としては平日1日当たり、小児手術7列(入院4列+日帰り手術+アンギオ+病棟麻酔)、産科手術、術前診察、術後回診、慢性痛や緩和ケアへの対応、および麻酔科統括の業務を行っている。また静脈路確保困難児に対する、病棟での点滴確保や手術室でのPICカテーテル挿入の件数は増加傾向にある。11月に手術枠の調整を行い手術室の一層の有効活用を図れるようにした。
- (2) 術後鎮痛管理チームの発足：手術後に持続的鎮痛を行っている患者を対象に、多職種で診療していく体制を作り、運用を開始した。患者QOLのさらなる向上と診療報酬上のメリットが見込まれる。
- (3) 多施設共同治験への参加：ミダゾラムのシロップ製剤の治験を行った。本剤は麻酔前投薬として世界各国で使用されており、日本での早期の発売が待たれている。
- (4) 学術活動：複数の麻酔関連学会および麻酔科雑誌で当院での経験を発表した。韓国で開催されたアジア小児麻酔学会において、末田医師と藤原医師が発表を行った。

### 3. 展望

当院麻酔科の理念は「患者に安全快適な麻酔を提供する」であるが、さらに「私たちは患者中心の医療を提供します」「私たちは手術や検査の円滑な進行に努めます」「私たちは多職種と連携しチーム医療を行います」「私たちは臨床研究を含め小児麻酔のレベルアップを目指します」「私たちは小児麻酔の専門医を育てます」「私たちは麻酔科医の多様な働き方をサポートします」という6項目の基本方針を掲げている。麻酔医療の提供はもちろんのこと、麻酔科医の育成、多職種との連携、臨床および研究を通して社会に認知される麻酔科を目指していきたい。

### 4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4185件。麻酔法の内訳としては全身麻酔（主に小児）が3988件、脊椎麻酔（産科）が179件、伝達麻酔・その他が18件。年齢の区分では、新生児症例（生後4週未満）が79件、乳児症例（生後4週以上1才未満）が514件と全体の14%を占めている。

## 診療統計

【総麻酔件数】(麻酔科管理症例数) 2023.1.1~12.31

4,185件
--------

【ASA PS】(米国麻酔学会による麻酔のリスク分類)

予定手術 1	2	3	4	5	6	合計
1,428	2,006	412	10	0	2	3,858
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	6E	合計
90	137	81	19	0	0	327

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	89	h. 頭頸部・咽喉部	1,021
b. 胸腔・縦隔	53	k. 胸壁・腹壁・会陰	639
c. 心臓・血管	375	m. 脊椎	33
d. 胸腔+腹部	5	n. 股関節・四肢(含:末梢神経)	443
e. 上腹部内臓	102	p. 検査	836
f. 下腹部内臓	245	x. その他	184
g. 分娩	160	合計	4,185

【麻酔法による内訳】

A. 全身麻酔(吸入)	1,480
B. 全身麻酔(TIVA)	1,881
C. 全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	82
D. 全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	545
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	0
F. 硬膜外麻酔	0
G. 脊髄くも膜下麻酔	179
H. 伝達麻酔	4
X. その他	14
合計	4,185

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
~ 4 週 未 満	50	29	79
~ 1 歳 未 満	294	220	514
~ 6 歳 未 満	1,032	730	1,762
~ 10 歳 未 満	428	340	768
~ 15 歳 未 満	391	238	629
~ 20 歳 未 満	125	71	196
~ 30 歳 未 満	12	72	84
~ 40 歳 未 満	6	127	133
~ 50 歳 未 満	0	20	20
~ 60 歳 未 満	0	0	0
合計	2,338	1,847	4,185

## 24. 新生児内科

### 1. 人事

前年より引き続き生田寿彦、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司が在任した。中山栗太、小林孝生は引き続きフェローとして勤務した。泉絢子は4月から東京都立小児総合医療センター新生児科に転勤となった。フェローの西崎泰隆、垂井智前は研修を終えそれぞれ京都市立病院小児科、済生会兵庫県病院へ転勤となった。4月から後藤弘樹、宇保早希子、西牧良がフェローとして新生児内科研修を開始した。ローテート専攻医（後期研修医）として、真鍋修司、西藤知樹、高橋英里、田中敦、西内徳子、松島綾香、斎藤麗、小田原洋一、上原和夫、高松遥、當間香南子各医師が3か月ずつ研修をおこなった。

時短勤務、夜勤免除医師が勤務継続できることをめざしながら、内科系スタッフや専攻医の協力をえて、NICU常時2名専任医師体制を維持している。NICU21床、GCU30床を管理する総合周産期母子医療センターとして最高レベルの診療機能を維持するためには、新生児専門医の増員は喫緊の課題である。

### 2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。全体として院内出生数、院外出生数ともに著変はなかった。4月からGCUを24床から30床に増床し、満床による入院困難の回避とGCU夜間4人看護体制による安全管理が可能となった。それでも、当センターは県内最終施設であるため、満床であっても入院を引き受ける状況が複数回発生した。どうしても入院依頼に応需できず、神戸大学病院へ入院をお願いした症例が2件発生した。ひきつづき、すべての入院依頼に応じられる態勢を整えるように努めたい。

神戸市ではドクターカーによる新生児迎え搬送可能な施設は2020年から当センターのみとなっている。搬送要請から契約運転手の到着を待って出動するため約40分を要しており、迅速な出動体制の整備が課題であった。胎児仮死兆候による緊急帝王切開への立ち合い要請に対して結果的に出生後の到着となった事例もあった。2024年4月からは運転手の常駐体制が整い迅速な迎え搬送が可能となる予定である。

淡路、豊岡、播磨など遠隔地からの搬送手段として、兵庫県・神戸市防災ヘリによる当院スタッフピックアップ迎え搬送は3件であった。

### 3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀有な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会、医学雑誌で発表しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

## 2023年新生児内科統計

### I. 新生児病棟統計

#### 1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
31	30	35	35	49	31	37	52	45	32	33	41	451

#### 2) 診療科別入院数

新生児内科入院	451	新生児内科から転科	62
		集中治療科	27
		循環器内科	25
		総合診療科	4
		小児外科	4
		代謝内分泌科	1
		神経内科	1

#### 3) 新生児内科入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	200	160	6	0	20	5	1	0	3	1	1	3
一次搬送	145	128	6	0	11	0	0	0	0	0	0	0
(14日以上)	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	23	21	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
三次搬送	32	11	0	0	9	5	0	0	3	0	1	3
母体紹介歴	10	7	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
院内出生	251	167	18	0	42	6	0	4	6	2	6	0
緊急母体	55	42	4	0	8	0	0	0	1	0	0	0
非緊急母体	196	125	14	0	34	6	0	4	5	2	6	
日齢14未満一・二次搬送	419	316	24	0	53	6	1	4	6	3	6	0

## II. 新生児内科統計

対象：新生児内科入院（日齢14未満一・二次搬送入院及び院内出生、転科例を含む）

#### 1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科	週数	患者数	院内	率	帰院	産科
500g未満	0	0	100%	0	0	22, 23	4	4	100%	0	0
500-749g	11	11	100%	0	0	24, 25	10	10	100%	0	0
750-999g	11	11	100%	0	0	26, 27	6	6	100%	0	0
1,000-1,499g	26	26	100%	0	0	28, 29	8	8	100%	0	0
1,500-1,999g	57	52	91.2%	0	0	30, 31	20	19	95.0%	0	0
2,000-2,499g	78	59	75.6%	0	7	32, 33	28	28	100%	0	0
2,500g以上	236	92	39.0%	9	25	34-36	88	66	75.0%	1	3
計	419	251	59.9%	9	32	37以上	255	110	43.1%	5	29
						計	419	251	59.9%	6	32

#### 2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率	週数	患者数	帝切	率	ANS	率
500g未満	0	0	-	-	-	22, 23	4	4	100%	1	25.0%
500-749g	11	11	100%	7	63.6%	24, 25	10	10	100%	8	80.0%
750-999g	11	11	100%	7	63.6%	26, 27	6	5	83.3%	3	50.0%
1,000-1,499g	26	25	96.2%	20	76.9%	28, 29	8	8	100%	7	87.5%
1,500-1,999g	57	45	78.9%	27	47.4%	30, 31	20	17	85.0%	16	80.0%
2,000-2,499g	78	55	70.5%	8	10.3%	32, 33	28	23	82.1%	19	67.9%
2,500g以上	236	99	41.9%	4	1.7%	34-36	88	70	79.5%	14	15.9%
計	419	246	58.7%	73	17.4%	37以上	255	109	42.7%	5	2.0%
						計	419	246	58.7%	73	17.4%

3) 生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	-
500-749 g	11	1	90.9%
750-999 g	11	2	81.8%
1,000-1,499 g	26	0	100%
1,500-1,999 g	57	1	98.2%
2,000-2,499 g	78	0	100%
2,500 g 以上	236	1	99.6%
計	419	5	98.8%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	4	0	100%
24, 25	10	1	90.0%
26, 27	6	1	83.3%
28, 29	8	0	100%
30, 31	20	2	90.0%
32, 33	28	0	100%
34-36	88	1	98.9%
37以上	255	0	100%
計	419	5	98.8%

4) 多胎割合 (品胎 4 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎	要胎
500 g 未満	0	0	-	0	0
500-749 g	11	3	27.3%	1	0
750-999 g	11	4	36.4%	2	0
1,000-1,499 g	26	11	42.3%	4	0
1,500-1,999 g	57	22	38.6%	5	0
2,000-2,499 g	78	26	33.3%	0	0
2,500 g 以上	236	6	2.5%	0	0
計	419	72	17.2%	12	0

週数	患者数	多胎	率	品胎	要胎
22, 23	4	0	0.0%	0	0
24, 25	10	2	20.0%	0	0
26, 27	6	3	50.0%	3	0
28, 29	8	3	37.5%	0	0
30, 31	20	11	55.0%	3	0
32, 33	28	9	32.1%	3	0
34-36	88	34	38.6%	3	0
37以上	255	10	3.9%	0	0
計	419	72	17.2%	12	0

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
500 g 未満	0	0	-	-	-
500-749 g	11	11	100%	9	10
750-999 g	11	9	81.8%	4	9
1,000-1,499 g	26	20	76.9%	0	18
1,500-1,999 g	57	23	40.4%	1	21
2,000-2,499 g	78	17	21.8%	1	11
2,500 g 以上	236	63	26.7%	1	27
計	419	143	34.1%	16	96

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
22, 23	4	4	100%	4	4
24, 25	10	10	100%	6	9
26, 27	6	6	100%	3	5
28, 29	8	8	100%	1	8
30, 31	20	15	75.0%	2	15
32, 33	28	14	50.0%	0	13
34-36	88	30	34.1%	0	16
37以上	255	56	22.0%	0	26
計	419	143	34.1%	16	96

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	11例 (三次搬送 7 例)
NO 吸入療法	20例
NICU 内手術	2 例
ECMO	2 例
CHDF	3 例
PD	1 例

低体温療法	8 例
生後ステロイド全身投与	12例
在宅酸素療法	6 例
ROP レーザー	0 例
ROP 抗 VEGF	2 例

7) 新生児搬送出勤回数 73 回 (ヘリコプター 3 回)

入院	61
転院	13

(ヘリ 2 回)

分娩立合い	1
時間外搬送	18

8) 多胎生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
500 g 未満	0	0	-	0	0
500-749 g	3	1	66.7%	1	0
750-999 g	4	1	75.0%	2	0
1,000-1,499 g	11	0	100%	4	0
1,500-1,999 g	22	0	100%	5	0
2,000-2,499 g	26	0	100%	0	0
2,500 g 以上	6	0	100%	0	0
計	72	2	97.2%	12	0

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
22, 23	0	0	-	0	0
24, 25	2	0	-	0	0
26, 27	3	1	66.7%	3	0
28, 29	3	0	100%	0	0
30, 31	11	1	90.9%	3	0
32, 33	9	0	100%	3	0
34-36	34	0	100%	3	0
37以上	10	0	100%	0	0
計	72	2	97.2%	12	0

## 25. 産科

今年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。

2023年5月にコロナ禍がやっと明けました。通院中の四十数名がPCR陽性や濃厚接触者となりました。中等症以上の数人は神戸市立医療センター中央市民病院のお世話になりましたが、治癒後に当科で周産期管理ができました。また、産科医師のほとんどが保育園休園、学級閉鎖、濃厚接触者や陽性者となり各々1週間前後出勤不能となりました。

2018年春に突発した医師の大量退職(医師7名→6月3名)とその後の危機的状況の改善に十数ヶ月かかったため時間外の母体搬送受け入れを制限しておりましたが、2019年9月以降は常勤医師が当直をしていない時間外(2024年1月現在は月2～3日の夜間と月1～2日の休日日勤帯)以外は、空床がある限り母体搬送を受け入れております。また、2022年2月からは、妊娠26週未満の単胎、妊娠29週未満の多胎の切迫早産や前期破水、生後速やかに何らかのinterventionが必要な胎児形態異常例は産科病棟が満床であっても受け入れております。

2023年は、船越 徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、平久 進也病棟医長、松本 培世医長、荒井 貴子フェロー(週3.5日勤務)、荻野 美智医長(週3日勤務)、窪田 詩乃医長(週3日勤務)、金子 めぐみ医長(週3日勤務)、内山 美穂子フェロー(週4日勤務)、木原智子医長の9人体制で始まりました。荻野医長が3月末に退職。神戸大学産婦人科教室のご高配により4月1日から9月末まで辻麻亜子医長(2017年卒)、10月1日から澤田史奈専攻医が入職しました。また、8月1日から長澤友紀フェロー(2016年卒)が公募で加わりました。結果、8月以降は10人体制となりました(ただし当直、オンコールを含めたフルワークが可能な者は6名のみです)(周産期母子医療センター産科には当直・オンコールを含めたフルワーク可能な医師が8名以上必要とされています。)

10月1日以降のスタッフは

船越 徹	周産期医療センター長、産科科長兼部長	1985年卒、2005年1月入職
平久 進也	部長、産科病棟医長	2003年卒、2019年4月入職
松本 培世	医長	2009年卒、2020年4月入職
荒井 貴子	フェロー	2010年卒、2022年4月入職
窪田 詩乃	医長	2012年卒、2018年10月入職
金子 めぐみ	医長	2012年卒、2019年2月入職
内山 美穂子	フェロー	2012年卒、2021年6月入職
木原 智子	医長	2013年卒、2022年4月入職
長澤 友紀	フェロー	2016年卒、2023年8月入職
澤田 史奈	専攻医	2020年卒、2023年10月入職

となりました。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床数はMFICU(母体胎児集中治療室)6床を含めて22床です。2人当直制(第1当直の10%と第2当直の80%は院外医師が担当)です。染色体異常を含めた遺伝相談も行っており(出生前診断・遺伝相談外来)、2022年

にNIPTの認証医療機関（基幹施設）に認定され同年7月からNIPTを開始しました。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しております。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。

2023年病床稼働率は83.4%、緊急母体搬送の受け入れ数は81件（受け入れ率61%）でした。

妊娠24週未満の頸管短縮・胎胞形成例の治療的頸管縫縮術を行っております（22例）。また、小児救急から依頼された女児の外陰部裂傷縫合術1例と小児外科から依頼され両側バルトリン腺膿瘍切開排膿術1例がありました。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行っております。2023年の超緊急帝切は6例でした。

胎児治療も行っております（胎児頻脈性不整脈→経母体的抗不整脈薬投与、胎児甲状腺機能低下→羊水腔内レボチロキシン投与、胎児胸水→胸水除去、人工羊水注入、EXIT：ex utero intrapartum treatment等）。2023年から羊水過少例に胎児の子宮内環境を改善するため「人工羊水注入」を始めました。また、当院通院中の女児に対し「思春期女性外来」を開設し併存疾患のある児の月経困難症や性自認等に対応しております。

2024年4月からの「医師の働き方改革」に向けてワークシフト・ワークシェアを少しずつ進めており、電子カルテ権限の拡大を該当委員会に要望しつつ、「助産師主導分娩」の準備を行っております。

当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり「周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）」を育成しており、2023年は荒井、金子、内山が合格しました。また、松本が「産婦人科指導医」に合格しました。結果、産婦人科指導医3名、同専門医9名、周産期・新生児医学会指導医2名、同専門医（母体・胎児）6名、母体保護法指定医7名、臨床遺伝専門医1名となりました。

12月2日に兵庫県医師会館で「令和5年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を開催し、名古屋市立大学医学研究科新生児・小児科学分野准教授 岩田欧介先生から「“とりあえず冷蔵庫”が医療で通用しない5つの理由と”ならばとりあえずどうするのか”を一緒に考える勉強会」（：新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法）の特別講演をいただきました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を5月29日、10月23日に開催しました。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2023年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は400名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。近隣の神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターですが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行っております。

1) 2023年産科診療状況

入院患者数*	330
うち緊急母体搬送によるもの	81
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	400
総分娩母体数	227
分娩母体数（22週以降）***	217
正期産	106
早産	111
過期産	0
多胎分娩（22週以降）	35
二絨毛二羊膜性（DD）双胎	12
一絨毛二羊膜性（MD）双胎	19
一絨毛一羊膜性（MM）双胎	0
品胎	4
要胎	0
経陰分娩（22週以降）	60
うち吸引分娩	5
うち骨盤位牽出術	0
帝王切開術	157
選 択	58
緊 急	93
うち超緊急	6
出産児数（22週以降、死産含む）***	256
正期産児	111
早産児	145
過期産児	0
低出生体重児（2,500g未満）	163
巨大児（4,000g以上）	1
22週未満死産数	10
同 死産児数	10
22週以降死産児数	3
治療的頸管縫縮術	22
予防的頸管縫縮術	6
小児婦人科手術	2

\*入院患者数は2023.1～12入院したもの

\*\*紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行われたものも含む

\*\*\*分娩母体数、出産児数は2023.1～12に出産したもの

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	9	3%
	西宮市	9	3%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	15	5%		小 計	9	3%
	小 計	24	7%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%		たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
小 計	0	0%	宍粟市		0	0%	
神戸市	中央区	64	19%	但馬	小 計	0	0%
	西区	43	13%		豊岡市	8	2%
	須磨区	30	9%		美方郡	0	0%
	東灘区	17	5%		養父市	0	0%
	北区	12	4%		朝来市	0	0%
	灘区	13	4%	小 計	8	2%	
	垂水区	12	4%	丹波	篠山市	0	0%
	長田区	9	3%		丹波市	1	0%
	兵庫区	2	1%		小 計	1	0%
	小 計	202	61%	淡路	洲本市	9	3%
東播磨	明石市	53	16%		淡路市	0	0%
	加古川市	5	2%		南あわじ市	0	0%
	高砂市	0	0%	小 計	9	3%	
	加古郡	0	0%	他府県	大阪	5	2%
小 計	58	18%	愛知		2	1%	
北播磨	西脇市	1	0%		宮城	2	1%
	三木市	0	0%		他	5	2%
	小野市	2	1%	小 計	14	4%	
	加西市	0	0%	海 外	1	0%	
	加東市	0	0%	院内紹介	1	0%	
多可郡	0	0%	な し	0	0%		
小 計	3	1%	計	330			

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患 (重複あり)

疾患名*	件数	率
切迫早産	120	36%
胎児形態異常	111	34%
高齢妊娠(35歳以上)	89	27%
胎児発育不全	51	15%
多胎	43	13%
頸管無力症	40	12%
前期破水	32	10%
既往帝王切開	32	10%
胎児機能不全	29	9%
B群溶連菌保菌者	27	8%
胎位異常	24	7%
羊水染色体検査	19	6%
羊水過少	19	6%
羊水過多	18	5%
妊娠高血圧症候群	15	5%
子宮筋腫合併	14	4%
胎児染色体異常	11	3%
甲状腺疾患合併	10	3%
切迫流産	9	3%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	8	2%
妊娠糖尿病	8	2%
その他感染症	8	2%
常位胎盤早期剥離	7	2%
胎児水腫	7	2%
胎児死亡	7	2%
分娩停止	6	2%
胎盤機能不全	4	1%
前置・低置胎盤	2	1%
自己免疫疾患合併	2	1%
双胎間輸血症候群	2	1%
その他	81	25%
計	855	

入院時、入院中に診断された疾患名  
患者一人当たり2.6の疾患名を有した

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	242	73%
平日日勤帯		
時間外	88	27%
平日夜勤帯	43	13%
休日日勤帯	28	8%
休日夜勤帯	17	5%
計	330	

5) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率
～21週	54	16%
22～24週	29	9%
25～28週	51	15%
29～32週	49	15%
33～36週	47	14%
37週～	94	28%
不明	0	0%
産後	6	2%
非妊娠	0	0%
計	330	

6) 分娩時間帯 (流産、死産含む)

時間帯	件数	率
時間内	147	65%
平日日勤帯		
時間外	80	35%
平日夜勤帯	50	22%
休日日勤帯	13	6%
休日夜勤帯	17	7%
計	227	

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	118	75%
平日日勤帯		
時間外	39	25%
平日夜勤帯	23	15%
休日日勤帯	9	6%
休日夜勤帯	7	4%
計	157	

8) 分娩時妊娠週数 (流産、死産含む)

週数	件数	率
～21週	10	4%
22～24週	10	4%
25～28週	15	7%
29～32週	21	9%
33～36週	65	29%
37～41週	106	47%
42週～	0	0%
不明	0	0%
計	227	0%

9) 出産時児体重(22w以降、死産含む)

児体重	件数	率
～499 g	11	4%
500～999 g	24	9%
1000～1499 g	26	10%
1500～1999 g	53	20%
2000～2499 g	59	22%
2500～2999 g	59	22%
3000～3499 g	26	10%
3500～3999 g	7	3%
4000～4499 g	1	0%
4500～4999 g	0	0%
計	266	

## 26. 放射線診断科／放射線治療科

### <放射線診断科>

#### 1. 人事

専攻医の曾 菲亜医師が3月31日で退職し、4月から田原潤子医師、三木智子医師が赴任した。

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣医師、乗本周平医師（いずれも放射線科診断専門医、放射線科専門医研修指導医）と田原潤子医師（放射線科専門医）、フェローとして三木智子医師の4名体制になった。

昨年と同様、藤本雄介医師（月・木：超音波検査担当）に応援をいただいている。

#### 2. 診療業務の実績

放射線診断科ではCT、MRI、RIの読影（日本医学放射線学会の画像診断管理認証施設に認定）、心臓以外の超音波検査の施行、上部および下部消化管造影検査の施行が主な業務である。

2022年の各検査の読影（施行）件数は以下の通り。

超音波検査	8,017（前年比 102.9%）
CT	2,398（107.5%）
MRI	3,585（105.8%）
RI	236（112.4%）
消化管造影	163（74.4%）
合計	14,399（104.1%）

超音波検査は常に増加の一途をたどっている。今後も増えることが予想されるが現在も午前の臨時追加が多く手一杯の状況で、そろそろ臨時追加でなく予約通りの時間で行う必要が来るであろう。

CT、MRI、RIといった読影は、ここ数年コロナの影響で増減が一定しなかったが、コロナの影響が薄れたのか軒並み増加となっている。

消化管造影が大きく減少した。総数が減ったというよりは小児外科で行う検査へ移行したと思われる。この辺りはマンパワーにも左右され、放射線診断科の増員により再び増加することに期待する。

#### 3. 学術・研修・その他

定期カンファレンス（小児外科術前・術後：火曜、腫瘍：水曜）、不定期開催カンファレンス（胎児MR、神経放射線）で画像解説を通じて診断や治療方針検討に貢献している。

小児科医の放射線科研修が院内から3名（朝貝芳貴、齋藤 麗、當間香南子：各2か月）、尼崎総合医療センターから2名（西山千晶、吉武沙瑛香：各3ヶ月）あり、コンスタントに研修の需要がある。主に超音波検査の習得が主目的となっている。

4月から1か月、尼崎総合医療センター研修医（藤本 香）の研修もあった。

放射線科医の研修としては淡路医療センターから（小野有美：週1日、2か月）あり、苦手領域のない general radiologist の育成に貢献している。

赤坂医師が尼崎総合医療センターへ（木）、乗本医師が神戸陽子線センターへ（火）出張応援を続けている。

## ＜放射線治療科＞

### 1. 人事

放射線治療科のスタッフは副島俊典、福光延吉、出水祐介、岩下和真の4名で、2023年3月に美馬医師、窪田医師が退職、2023年10月に岩下医師が加入した。4名とも隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

### 2. 2023年の動向

放射線治療外来の担当は、2023年9月までは副島医師と出水医師、10月以降は出水医師と岩下医師である。陽子線センターでの小児治療開始（2018年3月）以降、従来は当院のリニアックで治療していた症例の多くを陽子線センターで治療しているため、症例数は減っていたが、2023年は2018年以降で最多となった。これは、陽子線治療は準備に時間がかかるため、迅速な対応が求められる緩和照射、また、陽子線治療では対応が難しい全身照射や対応が難しいことが多い全脳照射、全肺照射、全腹部照射が必要な症例を積極的に受け入れているためと思われる。

4名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生が定期的に見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

**放射線治療件数（2023年）：30例**

（内訳）

局所照射	14例
全身照射	9例
全脳照射	3例
全肺照射	3例
全腹部照射	1例

### 【参考】

**陽子線治療件数（2023年）：54例**

## 27. 小児集中治療科

### 【スタッフ】

2023年度の常勤医は黒澤寛史(診療科長)、青木一憲、長井勇樹、宮下徳久、潮見祐樹、先濱大。フェローは古島夏奈、村田剛士、時岡孝平、豊島由佳、川本昌平、小川裕子、中井亮佑、黒江崇史、浦田啓陽、相良優佳、加藤愛美、鈴木雅大、原田晋二、三浦和樹、青木亮介、岡田怜、前田未知可、吉田美苗(非常勤)、染谷真紀(非常勤)。集中治療の研修の一環として、麻酔科への3ヶ月間の短期研修。救急科、総合診療科、感染症科の短期研修も行った。県立尼崎総合医療センター小児救急集中治療科と2か月間の交換留学を行った。6名の専攻医が研修した。

### 【資格】

集中治療専門医6名、小児科専門医14名(指導医3名)、救急科専門医2名、小児循環器専門医2名、麻酔標榜許可、呼吸療法専門医、移植認定医 各1名

JPLS講師3名、PALSインストラクター1名、JATECインストラクター1名

### 【診療体制】

PICUを14から16床に増床(2023年4月から)。HCU11床と併せて27床を専従医として担当し(いわゆるClosed ICU)、関係各科と密に連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。平日日中は7~8名、夜間は3名体制。休日は日中6名、夜間3名体制。感染対策に用いる病床数を2から5床に増床。

### 【施設認定】

- 集中治療医学会専門医研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設

### 【勉強会等】

- |                               |               |
|-------------------------------|---------------|
| ・蘇生シミュレーショントレーニング             | 19回(のべ150名参加) |
| ・ECMOシミュレーショントレーニング           | 4回(のべ120名参加)  |
| ・リサーチカンファレンス                  | 5回            |
| ・Morbidity & Mortalityカンファレンス | 18回(20症例)     |
| ・救急科、集中治療科合同カンファレンス           | 5回            |
| ・家族ケアグループ勉強会                  | 2回(のべ60名参加)   |

## 28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理などの周産期の病理診断、小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ(JCCG)の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。多施設合同のカンファレンスや全国の学会・講習会・研究会に積極的に参加している。

### 2023年の動向

2名の神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の先生が、連携病院である当院病理診断科でそれぞれ週3日1ヵ月間の研修をされた。1名の神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の先生が、2023年中の当院の剖検研修を行われた。

2023年1月6日に2022年度院内CPC第1回が行われ、臨床報告を新生児内科の小林孝生先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の高橋加奈先生が担当された。

2023年1月30日に2022年度院内CPC第2回が行われ、臨床報告を血液・腫瘍内科の斎藤敦郎先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の山口貴子先生が担当された。

2023年2月24日に2022年度院内CPC第3回が行われ、臨床報告を心臓血管外科の松島俊介先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の山口貴子先生が担当された。

2023年3月7日に、当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例3例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科で2022年度CPAカンファレンスをweb併用hybrid形式で行った。

大阪市立総合医療センター病理診断科が主催されているweb病理症例検討会に参加して、ヴァーチャルスライドを用いた症例提示にて、参加されている病理医との意見交換を行っている。

### 2023年の件数

組織診断件数	955件
(うち迅速54件、胎盤226件、腎生検27件、他院からの持ち込み33件)	
細胞診断件数	226件
がんゲノム	11件
剖検件数	1件(新生児科1件)

## 29. 看護部

### 看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

### 看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「見る・護る・伝える・繋ぐ」で、“こどもと家族の輝く笑顔”“頑張る力”を引き出そう！！

### 看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

### 看護の特徴

- 患者さんが治療や検査を理解し、確実に出来るように、プレパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者さんの成長発達に応じた療育への支援を行っています。

### 看護部目標

“患者と家族”そして“全ての職員”にとって「魅力的な病院創り」

【共働】目標達成に向けたチームを構築する

【共育】世代を超えて学びを支える環境を創る

【共創】高い効果と効率性を兼ね備えた柔軟なKAIZEN活動

### 看護部の活動

上記目標に対して今年度は、看護部全体で業務改善に注力し働きやすい魅力的な職場創りに向け、以下のように活動した。

- ・始業前出勤の解消に向けて、各病棟での業務を見直し改善に努めた
- ・こどもの倫理（権利擁護）に精通した人材育成のため、全看護職員に対し自己チェックを開始した
- ・キャリア支援室を新設し、現場の支援体制を強化することで、学習者中心の人材育成を推進した

### 5階西病棟

人工呼吸器を必要とする重度の先天性気管疾患患者の入室が増加しており、専門性や質の高い看護の提供ができる実践力の高い看護師の育成のため、呼吸管理に関する看護師の臨床判断能力の向上に向けて取り組んだ。また、クリニカルパスの推進を図り、業務改善に繋げた。

### 5階東病棟

在宅移行支援の充実に向け、多職種との連携強化と積極的な退院前後訪問を行った。リフレクションや看

護を語る場を持つなど、看護の経験知を共有する機会を持ち、個人およびチーム力の向上に取り組んだ。また、新型コロナウイルス5類化後も、流行性感染症の患者を積極的に受け入れ、徹底した感染管理を行った。

### 6 階西病棟

新生児から成人まで幅広い年齢層の患者へ個別性を尊重した看護実践を行い、実践後のリフレクションを実施することで、知識と技術の伝承に取り組んだ。また、学童期以降の患者へのパンフレットを作成することで、先天性心疾患のある患者の移行期支援を推進している。

### 6 階東病棟

長期に患う患者の思いを取り入れた看護計画が立案できることを目標にして活動した。カンファレンスの実施率が増加したことで、患者の思いを取り入れた退院支援を実施でき、その内容を日本小児整形外科学会で発表した。また、業務を見える化し、業務調整、整理を行って効率的に働くことを検討した。

### 7 階西病棟

血液腫瘍内科病棟として、白血病、悪性リンパ腫などに対する化学療法や造血幹細胞移植を必要とする児の看護を主体としている。BCRを有し年間20~25例の移植を実施する。今年度は「業務改善により働きやすい環境を整備し、小児がん看護を深める時間を確保する」を目標に、小児がん拠点病院として質の高い看護の提供に向け業務改善に取り組んだ。そして、業務改善により超過勤務時間の削減により、小児がん看護を互いに深める時間を確保することができた。

### 7 階東病棟

小児がん拠点病院として、小児がんをもつ子どもと家族に切れ目のないケアを実践できる体制をつくることを目指して、子どもと家族を主語にした看護目標を共有し活動した。看護の言語化を図るとともに、多職種と連携しながら、確実な治療の継続と症状緩和、療養環境の整備に取り組んだ。また、緩和ケア病床を有する病棟として、緩和ケアチームとの連携を強化し、終末期ケアの実践において地域との調整に努めた。

## PICU

4月から16床稼働を開始し、重篤な急性機能不全に陥った患者に、より質の高い集中治療看護が行えるようにOJTを中心に教育を進め、知識・技術習得を行った。加えて、安全な医療の提供を目指し、感染管理や医療安全における手順遵守や褥瘡予防についてのスタッフ教育と啓蒙活動、療養環境の見直しを行った。また、脳死下臓器提供の症例では、他職種と協働しながら家族の支援を進めることができた。

## HCU

ハイケアを要する患者に対し、質の高い看護が提供できるように、「看護師間の対話を促進し、看護を語り合えるチームづくり」を目標に取り組んだ。リフレクションなどの充実や看護に焦点を絞った対話の推進、成長発達を踏まえたケアの向上を中心に活動を進めた。昨年に続き、今年度も挿管患者の受け入れを実施した。今後は、血漿交換が必要な患者を受け入れるため、教育や体制整備を行っている。

## NICU

総合周産期母子医療センターのNICUとして、産科・GCUとの連携を継続して行っている。赤ちゃんの家

族が安心できる環境の提供を目指し、プレネイタルビジットでの説明の見直しや、成長発達に合わせたポジショニングの標準化に取り組んだ。また、医師との協働を推進するために、医師・看護師合同のシミュレーションや家族ケアのカンファレンスを行い、赤ちゃんが安心して医療を提供した。

## GCU

新生児病棟がスムーズに入院を受け入れるために、GCUでは、病床を24床から30床に増やし、病床を整備した。34週未満の早産児や1300g台の極低出生体重児、気管切開後の患者などを積極的に受け入れた。育児指導や退院支援が充実するよう、育児担当制を開始し、育児参加時間を拡大した。看護師はNICUへの研修など看護実践能力の向上にも積極的に取り組み、患者と家族に向き合い支援する時間を大切にしている。

## 産科/MFICU

ハイリスク妊産婦とその家族が望む「家族のあり方」を支援できる病棟を目指し、取り組んだ。患者の意思決定を支援するために、情報の管理と活用について検討し、多職種とのカンファレンスや情報共有を円滑に行えるようにした。外来においては、助産師相談外来の役割を明確にし、産後のメンタルヘルスも実践できる体制を整えた。思春期女性外来では、医師と協働しながら、プレコンセプションの視点で患者を支援することができた。

## 手術室

患者や家族にとって安全で安心な手術を実施するために、多職種との協働、連携を強化している。手術前多職種カンファレンスで看護師としての意見を手術に反映している。また、患者が手術室に入ってきた時に少しでも気持ちが和むよう季節毎に壁の装飾を変更している。この装飾は、子ども達のディストラクションにも使用出来るよう考えている。手術に向かう子ども達が頑張ったと思えるようにトイカーを活用している。APS回診を開始し、他職種と共に子どもたちの手術後の疼痛緩和について検討する事が出来た。

## 外来

地域における子どもと家族の療養生活を支えるため、外来支援体制を構築することを目標とし取り組んだ。看護相談外来では、勉強会やマニュアルの作成・修正を行うことでスタッフの知識向上を図り、予約システムを活用することで、算定件数は増加した。また、年間ペアでお互いの強みを生かした看護の伝承を行い、看護実践能力向上につなげることができた。

## 救急・HCU

救急外来患者及び救急・HCU病棟に入院する患者・家族に対して、継続した支援ができるためにカンファレンスを開催し、地域および他部署との連携を強化した。その他に、患者のケアについて話し合い、清潔ケアの質の向上に努めた。また、多職種と協働し、シミュレーション教育を行いながら実践力の向上やチーム医療の推進に努めた。

## キャリア支援室

令和5年4月から新部署として設置された。主な役割は①看護師の人材確保②看護師の定着支援③看護の質向上を目指した教育の3点で、看護師の人材確保は、インターンシップや病院見学を実施し、各学校で開催される病院説明会に参加している。

看護師定着のための支援では、臨床心理士による定期面談を1年目2年目の看護師に、年2回計画的に実施している。また、新人看護師には研修で毎回ストレスマネジメントに関する支援をした。

キャリア支援室は、いつでも相談できる場になるよう「キャリア支援室通信」を発行し看護職員に周知した。教育を担当するスタッフが、OJTと連動した研修が実施できるように企画から関り、OJTの状況を確認しながら看護の質向上に取り組んでいる。

### 看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

### 看護部委員会

委員会名		開催回数	活動報告
看護師長補佐会		11回	<p>看護師長補佐として、各部署の円滑な運営と看護の質の向上を目指し、取り組みを行った。</p> <p>協働：看護補助者とのタスクシェアを推進するために、看護師長会と協働し看護補助者の技術チェックリストの作成と研修企画、看護師教育の検討、補助者との面談を行った。また、病棟感応援を効果的に行うための業務依頼リストを作成した。災害対応については、火災訓練を実施しアクションカードの内容を再検討し、防災対策をブラッシュアップすることができた。</p> <p>共育・共創：自身のマネジメントや教育のリフレクションを定期的を実施し、マネジメント能力・人材育成能力の向上に繋げた。そして、こども病院のスタッフがやりがいを持って働き続ける事ができるよう、各部署で患者サービス・看護の質の向上のための取り組みについてリーダーシップを発揮し部署で実践した。</p>
教育委員会	委員会	11回	<p>研修の企画・運営に「楽しく学ぶ」を盛り込み、教育委員同士がコミュニケーションを取り合いながら、OJTの「楽しさ」を実感できることを目標に活動を行った。研修企画では、研修生の学びが看護実践に活かせるように工夫し、教育委員はファシリテーターとして積極的に参加し、ロールプレイや動画を取り入れ研修を実施した。自部署でのOJTと連動を毎月、教育委員会で共有することで、意図的に研修生へOJT支援が活発に行え、研修生の目標達成・ラダー行動目標の達成につながった。「現代に求められる教育現場の在り方」の動画を視聴し、自己の課題を明確にすることや部署の教育場面に活かす機会となった。また、対面の講義形式だけでなく、動画視聴や体験型の研修を実施し、固定観念に捉われない研修に取り組むことで、豊かな人間性を備えた看護師の育成に繋げた。</p>
	教育担当者会	11回	

委員会名	開催回数	活動報告
臨地実習指導者会	6回	<p>病棟間連携を強化し、実習環境を整備し、学生の学びを支援する役割が担えることを目標に、周産期G、連携G、環境Gの3グループで活動を行った。6回中4回は実習説明会と同日とし、実習での報告、共有事項を確認することができた。連携Gでは実習経過表の記載率上昇にむけ取り組み、環境Gでは実習を受け入れる各病棟での環境整備、ツールの統一を図り、周産期Gでは病棟間連携の強化に努めた。周手術期の見学についてもスムーズに実施でき、件数も増加した。多様な学校の方針に合わせた実習を支援することができた。</p>
看護基準・手順委員会	9回	<p>看護基準・手順の整備を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の療養環境の変化に合わせて、感染対策の内容を追記した。</li> <li>・用語の統一を行った。</li> </ul> </li> <li>2) 看護手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の手順のうち、4項目について修正を行った。</li> <li>・新規に6項目の手順を作成した。</li> <li>・紙媒体で運用していた看護手順を、電子カルテでの運用に変更した。</li> </ul> </li> </ol>
感染対策委員会	9回	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各部署で現状分析を行い、手指衛生遵守率が向上する</li> <li>②環境ラウンドを実施し、適切な環境整備が行える</li> <li>③部署のスタッフが適切な感染経路別予防策を理解し実践できるの3つを目標に活動した。</li> </ol> <p>①現状分析により全体的に患者前の手指衛生遵守率が低いという課題が明らかになった。個人の手指消毒剤使用量の測定やリンクナース以外のスタッフによる直接観察など各部署で取り組み、手指衛生遵守率は緊急事態宣言を出すことになった5月の57%から徐々に上昇し1月に67%まで回復した(10%上昇)。</p> <p>②患者エリアと医療者エリアに分けて活動した。患者エリアは床頭台の整理整頓に取り組むとともに、他病棟のラウンドを実施して新たな視点で環境改善に取り組んだ。医療者エリアは各部署で対策を検討して実施し、輸液作成台のATP調査のデータも使用して評価した。</p> <p>③改定した感染経路別予防策ガイドラインの周知とCOVID-19の院内発生を想定した机上シミュレーションを実施したが、ガイドラインの周知・実践ともに課題が残った。</p>
安全対策委員会	9回	<p>内服・注射・輸液関連の安全確認行動が定着するという目標に対し、全部署で「声出し・指差し呼称」の実施に取り組んだ。「声出し・指差し呼称」監査では、昨年度より遵守率が18%上昇したが、ヒヤリハットレベル1以上の減少には至らなかった。しかし、取り組み強化後に遵守率が上昇していることから、次年度も安全確認行動の定着に向けた取り組みを継続する。また、リスク感性が高まり危険予知行動がとれるという目標に対しては、ベッドサイドKYTが全部署で定着するための取り組みと、GoodJob報告の啓蒙を行った。下半期に、GoodJob報告は増加し、各部署で、報告を活用した対策をとることができた。次年度も活動を継続し、危険予知能力の向上を図る。安全に関するマニュアルの整理にも取り組み、転倒転落防止ガイドラインの作成ができた。</p>

委員会名	開催回数	活動報告
看護記録管理委員会	9回	<p>基準に基づいた質の高い看護記録が記載できるために、看護記録の質を担保する活動、看護記録の基準を検討し、マニュアルの修正を行う活動、看護記録の監査の方法と内容を検討し、評価する活動を行った。監査は年度内に2回実施し、監査結果から課題を抽出し、取り組んでいる。また、看護の思考過程がわかる記録が記載できるように、身体抑制と病状説明に関する記録に関して事例検討を行い、各部署でカンファレンスや周知活動を行った。マニュアルに関して、記載基準の明文化および、わかりやすい表現になるように修正を行っている。</p>
電子カルテ更新部会	9回	<p>次年度に予定されている電子カルテの更新に向けて、現有システムから次期システムへの移行の準備に取り組んだ。看護職員から意見を募り、現有のシステムの問題点を抽出した。その結果、現有システムの状態を保持するのか、修正が必要なのか、新しく作成した方がよいのか3つにカテゴリ化し、病院情報システムワーキンググループに反映できるように可視化した。また、現有システムで解決できる内容について、解答を記載した掲示物を作成し提示した。</p>
クリニカルパス推進部会	6回	<p>クリニカルパスの質改善に向けて、バリエーション分析を行った。評価間違い・クリニカルパスの中止に伴うものが多く、実際にバリエーションが発生しているのは少数であった。評価が十分に出来なかったため、パスの改定までは至らなかった。クリニカルパスについてのアンケートを行い、理解や知識の確認をした。部署毎に、パスについての基礎知識の勉強会を開催した。パス監査を実施、個別性のある看護計画の立案や、バリエーション発生時の記録の記載がないことが課題であった。次年度も継続して取り組んでいく。</p>
地域連携委員会	6回	<p>患者と家族が安心して退院できるために、切れ目ない支援の強化と支援の質の向上に取り組んだ。</p> <p>①院内全体で統一した視点で継続した退院支援を行うことができるよう、「医療的ケアが必要な児の退院支援確認表」の活用に向けて、使用状況の調査と分析を行った。退院支援確認表の浸透と使用率の向上に向け、運用方法について検討し各部署での啓蒙を行っている。</p> <p>②統一した指導を行うことができるよう、在宅療法指導マニュアルの内容を見直し、修正を行った。</p> <p>③地域連携委員の退院支援に関する知識向上、リンクナースとしての役割発揮をねらいとし、各部署で行っている退院支援の実際を共有した。委員会メンバーが地域連携に関する知識の向上を図るために地域医療者研修会や事例検討会に参加した。事例検討会の中で地域の支援の状況を共有し、知識を深める機会となった。</p>

委員会名		開催回数	活動報告
専門・認定看護師会		専門認定 合同会議 3回/年  専門看護師 認定看護師 各7回/年	<b>【CNS】</b> 専門看護師として、看護実践能力を向上させ、現場の看護の質を向上させるための活動を行った。 院内研修では、アドバンス研修を開催し小児看護に必要な知識の再習得と、研修生が部署の業務改善や研究的な視点で看護を振り返り、実践結果を発表できるよう1年をかけて支援を行った。 院内のコンサルテーションだけではなく、地域を含めた他職種・家族を対象に研修開催を行いながら、医療的ケア時やAYA世代の継続的な支援を実施している。 <b>【CN】</b> スキルアップ研修を開催し、参加者は増加している。また5名の職員にシャドー研修を実施し次世代育成にも取り組んだ。前年度はCNに興味を持っているスタッフを対象にしていたが、今年度は各領域の看護に興味のあるスタッフへも門戸を広げ、看護実践力の向上につなげている。また、各領域のPR動画を作成し、職員への認知度を高めた。 新規領域の心不全看護認定看護師が増え、全職員を対象に勉強会を開催した。
研究支援委員会		6回	スタッフが看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るための指導と支援を行うとともに、看護研究の計画や実施において、適切な倫理的配慮を行えるよう支援を行った。
領域別・看護ケア向上委員会	皮膚・排泄ケア部会	9回	部会員が皮膚排泄ケアに関する知識を習得する為にCNによる学習会を毎月開催し、各部署に伝達した。また、部署の褥瘡やスキン-ケアを予防する事を目標に、部会員が推進者となり、部署で特徴のある皮膚ケアに対して褥瘡発生時にはCNとともにカンファレンスを行って対策を検討し、予防策を実施した。褥瘡推定発生率は、昨年度1.92%から今年度1.85%と減少した。
	呼吸ケア部会	9回	呼吸管理の安全対策の遵守を主な目標として、呼吸関連のヒヤリハットの要因分析、対策検討を毎月行った。例年、人工呼吸器や加温加湿器関連の件数が多く、臨床工学技士や呼吸ケアサポートチームとも連携して活動を進めた。前期後期の病棟ラウンド、勉強会開催、気切帯の適正使用に関する事例検討を実施し、安全確認行動の定着、部会員の知識向上及び部署への還元を図った。
	摂食嚥下障害ケア部会	5回	2ヶ月毎に摂食嚥下に関する知識と技術を習得し活動した。摂食ケアに関する取り組み発表や事例検討を通し、リンクナースとしての役割の理解を深め、各部署での実践を行うことで、口腔ケアの実施率の向上に繋がっている。
	緩和ケア部会	6回	緩和ケアに関する知識を深め、緩和ケアチームと連携し、リンクナースの役割を果たすことができることを目指し、年1回以上緩和ケアチームの事例検討会に参加した。前半では小児緩和ケアに関する基礎知識を学び、下半期では、各部会員が自部署の課題に沿った緩和ケアに関する取り組みを計画・実施できるように取り組んだ。
	プレパレーション部会	5回	1. 毎回、プレパレーションの実践記録を確認し、看護実践が記録に反映され、患者の看護として展開できているか検討した。 2. 入院前のプレパレーションに焦点を当てたプレパレーションツールを作成した。

令和5年度 看護部院内研修

研修会名	日程	時間	動画視聴	ねらい	参加数	講師
フォロー研修① 母と子どもの高度専門医療のために	4月6日(木)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	68名	島田看護部次長、山下看護師長、 梁CN、栗林CNS
フォロー研修② はじめの一步 「子どもの安全・感染」「他部門との連携」	4月7日(金)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	64名	竹井看護部次長、新谷CN、寺 田看護師長、放射線部、検査部、 薬剤部、保育士
フォロー研修③ 安全な医療を提供するために 「静脈注射・感染対策・摂食」	4月10日(月)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	74名	栗林CNS、栄養管理課、森本CN
フォロー研修④ 安全な医療を提供するために 「安全・感染」	4月11日(火)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	63名	新谷CN、教育担当者
フォロー研修⑤ シャドウイング	4月13日、12日	各1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	63名	教育担当者
フォロー研修⑥ 安全な医療を提供するために 「輸液管理」	4月25日(木)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	61名	長谷臨床心理士、教育担当者
フォロー研修⑦ 手術に向かう子どもを支える 「周手術期看護・フィジカルアセスメント」	5月8日(月)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	62名	新井看護師長(CN)、吉村看護師 長(CN)、鎌田CN、
フォロー研修⑧ ⑧ピシッと①レクチャー⑤しちやいしょう 「救急蘇生」	5月28日(火)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけること 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	61名	藤原看護師長(CN)、教育担当者

新人

	研修会名	日程	時間	動画視聴	ねらい	参加数	講師
新人	フォロー研修⑨ 夜勤導入 「報告・連絡・相談」「退院支援」	6月20日(火)	1日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	58名	長谷臨床心理士、教育担当者
	フォロー研修⑩ 患者家屋を尊重できる看護師を目指して 「家族看護・リフレクシオン」	7月25日(火)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	56名	長谷臨床心理士、中谷看護師長(CNS)、藤山看護師長、教育担当者
	フォロー研修⑪ ストレスマネジメント	10月17日(火)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	57名	長谷臨床心理士、教育担当者
	フォロー研修⑫ フィジカルアセスメント実践編 「PAT～一次評価・PALS」	9月15日・9月19日 9月20日・9月21日 10月18日・10月19日 10月20日・ 10月23日	各1日		1. 子どもの生理学的異常兆候を察知し、報告することができる 2. 小児の救急蘇生場面において、迅速な役割行動をとることができる	62名	藤原看護師長(CN)、吉村看護師(CN)、寺田CN、前田CN、インストラクター他、教育担当者
	フォロー研修⑬ 優先順位を考えよう！ 「多重課題」	11月21日(火)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	54名	長谷臨床心理士、教育担当者
	フォロー研修⑭ やっててよかった 「看護過程」	12月20日(水)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	53名	淀定 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑮ BE AMBITIOUS! 「看護を考える」	2月29日(木)	0.5日		1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	51名	教育担当者
	フォロー研修⑯ 他部署研修	10月～3月の間	1日～ 2日		他部署での看護を体験することで経験出来ていない技術・知識を習得し、部署での看護実践に活かす	52名	教育担当者、実地指導者
	既卒者研修①	5月11日(木)	2.5時間		大西看護部長、長谷臨床心理士	17名	
	既卒者研修②	7月3日(月)	2時間		1. 職場への早期適応を図り、ワークライフバランスを基盤とし、専門職としてキャリア開発に主体的に取り組むことができる	18名	中谷看護師長(CNS)
既卒者研修③	9月14日(木)	2時間			14名	深江家族支援地域連携部課長	
既卒者研修④	2月15日(木)	1.5時間			15名	教育委員	

	研 修 会 名	日 程	時 間	動画視聴	ね ら い	参加数	講 師
ラダーⅡ 研修	メンバーシップ	6月1日(木)	1時間	1時間	1. 自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動できる	31名	星尾看護師長
	2年目 看護倫理	9月29日(金)	3時間		1. 倫理綱領に基づき、意識して行動でき、気づきを伝えることができる	31名	栗林CNS
	リフレッシュ研修	11月29日(水)	3時間		1. 自らの看護実践を振り返り、自身がおこなった看護に意味を見出すことができる	14名	藤山看護師長
	看護倫理	11月6日(月)	3時間		患者・家族・医療者の立場による価値観の違いを理解し、問題提起できる 倫理問題に気づき、こどもを主体とした看護を考えることができる	25名	栗林CNS
	退院支援研修	6月21日(火)	2時間		1. 退院後の生活を想定して、情報収集しアセスメントでき、動き、助言を受けながら個別の看護計画を立案でき、多職種と情報共有できる	11名	深江家族支援地域連携部課長
	ケーススタディ発表	1月31日(火)	1日	0.5時間	1. 事例を通して自己の看護を振り返り、大切にしている看護を明確化できる	29名	中谷看護師長
	プリセプターフォロー研修①	6月15日(木)	1.5時間	1時間	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共育できる	26名	寺田看護師長
	プリセプターフォロー研修②	10月31日(火)	2時間	0.5時間	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共育できる	27名	藤山看護師長
	プリセプター導入研修	3月4日(月)	3時間		1. プリセプター役割を理解し、新人を受け入れる心構えと準備ができる	30名	上西看護師長
	リーダーシップ	8月8日(火)	1時間	1時間	1. 看護チームの中でリーダーシップが発揮できる 2. 部署のPNSにおけるロールモデルになることができる	15名	河野看護部次長兼医療安全課長
	シミュレーション教育①	7月10日(月)	1.5時間	1時間	1. シミュレーション教育の知識を習得し、ブリーフィングやデブリーフィングの技術を現場の教育に活かすことができる	13名	梁CN
	シミュレーション教育②	9月28日(木)	2時間	1時間	1. シミュレーション教育の知識を習得し、ブリーフィングやデブリーフィングの技術を現場の教育に活かすことができる	16名	梁CN
	看護倫理	9月25日(月)	3.5時間		1. 小児看護の現場で倫理的な判断に基づき看護実践を行うことができる	7名	松岡 真里教授(外部講師)
	ラダーⅢ 研修	フィジカルアセスメント研修①	6月29日(木)	1.5時間	2時間	1. 適切なアセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげること、子供の急変や重症化、合併症の発生を防ぐことができる	14名
フィジカルアセスメント研修②		12月11日(月)	2.5時間	30分	1. 適切なアセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげること、子供の急変や重症化、合併症の発生を防ぐことができる	13名	吉村CN、寺田CN
チームビルディング		1月25日(木)	2時間	30分	1. チームが目標を達成するために何ができていないのか経験し、チームワークの重要性が体感できる	13名	上西看護師長
入退院支援推進 基礎研修		8月24日(木)	1時間	1時間	1. 退院後の生活について、患者・家族と相談しながら個別性をふまえ、必要な介入を考え実践できる	11名	深江家族支援地域連携部課長
R4年度研修 小児看護アドバンス研修報告会		10月17日(火)	3.5時間		役割モデルとして小児看護を実践し、組織の課題について検討し改善に向けて提言ができる	7名	中谷CNS、栗林CNS、碓定CNS、大西看護師長、

ラダーⅢ 研修	研修会名	日程	時間	動画視聴	ねらい	参加数	講師	師
ラダーⅣ 研修	小児看護アドバンス研修①～⑤	8月17日、9月26日、 10月30日、11月29日、 12月21日	各0.5日		役割モデルとして小児看護を 実践し、組織の課題について 検討し改善に向けて提言が できる	11名	中谷CNS、栗林CNS、 田坂看護部次長、内正子 教授(外部講師)	中谷CNS、栗林CNS、 田坂看護部次長、内正子 教授(外部講師)
	リフレクション研修	12月5日(火)	3.5時間		1. 看護リフレクションについて 体験を通じて学び、フ ァシリテーションを学 び、リフレクションを 促進する関わりが できる	8名	藤山看護部長	藤山看護部長
	入退院支援推進アドバンス 研修	6月27日(火)	1時間	1時間	1. 退院調整のプロセスを 経験し、退院支援にお ける病棟看護師の役割を 理解する 2. 自身の課題と部署 の課題を明確にし、 部署における退院 支援推進者としての 役割を理解する	5名	深江家族支援地域連 携部課長	深江家族支援地域連携 部課長
	入退院支援推進アドバンス 研修フォローアップ	2月16日(金)	1.5時間			4名	深江家族支援地域連 携部課長	深江家族支援地域連携 部課長
	教育研修「教え育む力を 養う」	12月13日(水)	3.5時間		1. 学習者である若手 看護師の特徴を理 解し、相手に合わ せた教育支援がで き、共に成長でき る	15名	藤山看護部長	藤山看護部長
	トピックス研修①「ポジ ションニング研修」	10月24日(火)	2.5時間		1. こども病院に必要 な知識を習得し、 看護実践につな げる	17名	河村PT	河村PT
	トピックス研修②「発達 障害児の理解」	11月28日(火)	2時間		1. こども病院に必要 な知識を習得し、 看護実践につな げる	18名	精神科 関口医師、 沖村臨床心理士	精神科 関口医師、 沖村臨床心理士
	トピックス研修③「看護 研究」	11月22日(水)	0.5日		1. こども病院に必要 な知識を習得し、 看護実践につな げる	8名	内 正子教授(外部 講師)	内 正子教授(外部 講師)
	摂食・嚥下障害看護	8月7日(月) 10月2日(月) 12月4日(月)	各0.5日		摂食・嚥下の基本的な メカニズムについ て知り、子どもに とっての食の意味 や食行動の理解を 深め看護計画を 立案及び実施・展 開することができる	13名	森本CN	森本CN
	創傷ケア	8月21日(月) 10月25日(水) 12月18日(月)	各0.5日		小児によく見られる スキントラブルに 適切に対処するた めに必要な知識 と技術を習得する	13名	鎌田CN、茨木CN	鎌田CN、茨木CN
ストーマケア	7月24日(月) 9月4日(月) 11月27日(月)	各0.5日		小児のストーマ造 設をする疾患や術 前術後のケア、ス トーマ器具・皮膚 保護剤、スキネク アの原則と社会保 障について理解 する	8名	鎌田CN、茨木CN	鎌田CN、茨木CN	

### 令和5年度 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師/発表者	所属
第1回医療安全管理室	医療安全管理室	7月10日～10月2日	e-learning	e-learning	923名	e-ラーニング 医療安全の基本を知る①②	無し	無し
第2回医療安全管理室	医療安全管理室	9月14日	17:30～18:30	講堂	97名	医療事故発生時の 初期対応における 留意事項 ～紛争の観点から	すみよし小田法律事務所 弁護士・医師 小田 祐資	無し
医療安全管理室 「アナフィラキシー」	医療安全管理室	10月6日～2月9日	e-learning	e-learning	803名	アナフィラキシー	藤原 健大 河野 早苗	無し
医療安全管理室 「骨折予防」	医療安全管理室	12月7日～3月	14:30～15:00	各部署	107名	骨折予防「愛護的な 身体的ケア」で こどもの安全を守 る	福田 哲也 河村 勇佑 池田 陽佑	看護部 リハビリテーション部

## 30. 薬剤部

### 1. 薬剤部員異動

【転出者】	部長	合田 泰志	加古川医療センター	(令和5年4月1日付)
	次長	藤原 康浩	はりま姫路総合医療センター	(令和5年4月1日付)
	職員	池 啓伸	尼崎総合医療センター	(令和5年4月1日付)
	職員	松谷 春花	豊岡健康福祉事務所	(令和5年4月1日付)
	職員	山田 怜奈	はりま姫路総合医療センター	(令和5年4月1日付)
【転入者】	部長	石田 達彦	淡路医療センター	(令和5年4月1日付)
	次長	末森 千加子	がんセンター	(令和5年4月1日付)
	職員	井川 優	新規採用者	(令和5年4月1日付)
	職員	迫田 萌	新規採用者	(令和5年4月1日付)
	職員	藤井 咲希	新規採用者	(令和5年4月1日付)

### 2. 2023年度活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に記す。

#### (1) 薬剤管理指導業務等の病棟業務による薬剤の適正使用等の推進

薬剤管理指導を主とした病棟での活動を通じて、患者指導や医療従事者への情報提供を行うことで医薬品の適正使用を推進した。4月から病棟薬剤業務実施加算1、2の算定を開始し、MFICUを除く全ての病棟に年間を通して病棟薬剤師を配置した。また、病棟業務等と連携して、緩和ケアチーム、アピアランスケアチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、術後疼痛管理チームなどのチーム医療に尽力するとともに、薬剤管理指導業務の充実に努めた。薬剤管理指導実施件数は年間1万1千件を超え、前年を大きく上回る実施率95%を達成した。

#### (2) 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の事務局としての活動

平成30年度の抗菌薬適正使用加算の算定開始以来、薬剤師がチームリーダーを務め中心となって活動している。第6回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会の開催や院内外の勉強会の講師を務める等、抗菌薬の適正使用に努めた。

#### (3) 薬物治療の安全確保のためのインシデント防止への取り組み

インシデントが発生しにくい環境作りを目指し、より効果的な対策立案に努めた。基本的かつ最も重要な手順である音読照合の徹底を図りつつ、コミュニケーションエラー防止対策、新人等の経験が浅い職員へのリスクマネジメント教育の強化、昨年に引き続き単位選択間違いの処方監査もれ防止等に取り組んだ。

#### (4) 薬学生の長期実務実習の受け入れ

長期実務実習10名を受け入れ、教育、指導を行った。

#### (5) 人材育成と自己研鑽の推進

部員の経験年数や適性を考慮し必要な経験が得られ、また自主性を持って取り組めるよう配慮した。日本病院薬剤師会がん薬物療法認定暫定研修施設認定に引き続き、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修連携施設の認定を受けた。

関連学会において論文投稿（1題）、発表（7題）を行った。磯元主査が大西記念小児臨床薬理学会賞を受賞し、記念講演を行った。

### 3. 今後の展望

小児薬物療法に必要な知識や技術の習得を推進し、病棟薬剤業務やチーム医療での積極的な活動と実践を通じて“臨床現場で活躍できる薬剤師”の育成を図るとともに、外来患者指導、薬薬連携の強化を図る。また、引き続き業務改善による効率化を図るとともに医療安全を最優先としインシデントの発生・再発防止に取り組む。

#### (1) 調剤件数

区 分	処方箋枚数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	77,466	113,913	128,524	790,850	73,381	77,978	410,814	40,532	50,546	380,036
外 来	20,278	23,393	32,689	210,803	9,024	14,776	96,663	14,369	17,913	114,140
計	97,744	137,306	161,213	1,001,653	82,405	92,754	507,477	54,901	68,459	494,176
一日平均	399.0	560.4	658.0	4,088.4	336.3	378.6	2,071.3	224.1	279.4	2,017.0

#### (2) 注射薬取扱件数

区 分	注射薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	152,776	1,095,274
外 来	12,680	21,139
計	165,456	1,116,413
一日平均	675.3	4,556.8

#### (3) 薬剤管理指導関係件数

項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
薬剤管理指導	749	775	920	863	978	1,032	1,067	1,157	1,027	1,056	1,049	1,018	11,691
麻薬加算	6	9	8	3	1	16	10	6	2	12	11	5	89
退院指導	127	140	168	166	143	173	182	182	161	157	141	175	1,915

#### (4) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	484	408	424	462	581	553	604	535	455	454	439	436	5,835

#### (5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	389	437	535	465	515	512	526	467	506	573	544	508	5,977
高カロリー	91	126	178	131	149	193	185	114	148	208	196	203	1,922
計	480	563	713	596	664	705	711	581	654	781	740	711	7,899

#### (6) TDM件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	22	31	27	24	25	18	35	21	26	43	33	30	335

(7) 院内DI業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2023年2月16日	医薬品安全対策情報 No.314
2023年3月1日	医薬品・医療機器安全性情報 No.398
2023年3月22日	医薬品安全対策情報 No.315
2023年3月30日	医薬品・医療機器安全性情報 No.399
2023年4月18日	医薬品安全対策情報 No.316
2023年5月18日	医薬品・医療機器安全性情報 No.400
2023年6月9日	医薬品・医療機器安全性情報 No.401
2023年6月12日	医薬品安全対策情報 No.317
2023年7月20日	医薬品安全対策情報 No.318
2023年8月10日	医薬品・医療機器安全性情報 No.402
2023年8月25日	医薬品安全対策情報 No.319
2023年10月16日	医薬品・医療機器安全性情報 No.404
2023年11月13日	医薬品安全対策情報 No.321
2023年11月30日	医薬品・医療機器安全性情報 No.403
2023年11月30日	医薬品・医療機器安全性情報 No.405
2023年11月30日	医薬品安全対策情報 No.320
2023年12月20日	医薬品安全対策情報 No.322
2023年12月27日	医薬品・医療機器安全性情報 No.406

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 注射薬配合変化について</li> <li>• 注射薬溶解後の安定性について</li> <li>• 注射薬のフィルター透過性について</li> <li>• 食品と薬剤の相互作用について</li> <li>• 内服薬の飲み易い飲み方について</li> <li>• 冷所保存医薬品の常温での安定性について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 抗がん剤の適切な投与方法について</li> <li>• 医薬品の副作用について</li> <li>• 血液製剤の投与方法について</li> <li>• 小児薬用量について</li> <li>• 錠剤の粉碎可否について</li> </ul>

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /ml)
内服用ルゴール液	150
0.1%ミダゾラムシロップ	8,600

② 軟 膏

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /g)
10%テストステロン軟膏	1,500

③ 外用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /ml)
アセモトール	20,000
1/2カプト点眼	1,950
25%グリセリン液	53,000
30%硝酸銀	50
10%ピオクタニン青液	150
0.2%ピオクタニン青液	100
ツェンテール液	50

④ 予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位/g)	製 剤 名	製剤量 (単位/g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (×50000)	0
0.01% ジゴシン散	0	ヒドロクロロチアジド散 (×10)	250
(錠→散)		オキシブチニン散 (×100)	80
インデラル散 (×100)	900	コートリル散 (×20)	1,720
グリチロン散	294	デカドロン散 (×1000)	1,000
ロンゲス散 (×100)	1,400	カタプレス (75 µg/g)	2,000
レバチオ散 (×50)	2,250	カロナール散 (×5)	0

## 31. 検査部

### 1. 人事

【転出者】 検査・放射線部長他兼務	赤坂 好宣	放射線部長他兼務へ
副検査技師長	嵯峨 加津子	加古川医療センターへ
課長補佐	細川 珠枝	加古川健康福祉事務所へ
主任	奥野 桃子	がんセンターへ
職員	富田 百香	西宮病院へ
【転入者】 検査部長他兼務	杉多 良文	研究部長・泌尿器科部長より
副検査技師長	尾上 知子	西宮病院より
職員	糸井 祐依	尼崎総合医療センターより
職員	下田 智晴	新規採用
職員	鷹尾伏 彩	新規採用
職員	津阪 美帆	新規採用

#### <組織改編について>

「検査・放射線部」について、責任体制を明確にし、機動性を高めるため、「検査部」と「放射線部」へ改編された。また、役割を明確化するため、「主任検査技師」の職名は「副検査技師長」へ改正された。

### 2. 活動報告

#### (1) 臨床検査業務について

新型コロナウイルス感染症は5類となったが、引き続き、抗原定量検査、PCR検査の依頼は多かった。小児においては、新型コロナウイルス以外の感染症が増加し、細菌検査件数が前年比20%と大幅に増加した。全体の検査件数も、病床利用率の上昇に伴い件数増となったが、NT-proBNPを24時間対応としたほか、CAR-T細胞療法の検査対応や、多項目自動血球計数装置・超音波診断装置の更新を行い、業務の充実を図った。

#### (2) ヒヤリハット防止への取り組み

病院全体の取組みに合わせて、患者誤認防止に取り組むべく、生理検査や採血の患者確認の手順を徹底した。また、外部委託検査など、検査の種類が増え、検体処理も煩雑になっているため、採取容器の種類や検査ラベルの見方などの再教育を行った。これらの対策について、一定期間後に見直しをすることでPDCAサイクルを回し、業務の改善を図った。

#### (3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年12回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算Ⅰ取得を継続している。

#### (4) 安全な輸血療法

乳幼児の少量輸血に対応するため、無菌接合装置を用いて血液製剤の無菌的分割を行っている。また、輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年6回）し、適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り、輸血管理料Ⅰおよび輸血適正使用加算を取得している。

(5) 人材育成・教育研修

県立病院間の相互研修として、他施設の生理検査システム見学および当院の輸血製剤管理やフローサイトメトリーの見学受け入れを実施した。また、オープンラボラトリーを開催し、臨床検査技師養成校の学生見学を受け入れた。

(6) ISO 15189認定継続

ISO 15189とは、臨床検査室に特化した国際的な技術能力の第3者認定であり、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。令和3年1月に認定を取得、維持している。令和4年12月に新しい規格が公表されたため、準備期間を経て新規格に沿った運用に移行した。

<認定・資格>

超音波検査士（循環器）	4名	超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	1名	血管診療技師	1名
細胞検査士	2名	認定輸血検査技師	1名
認定血液検査技師	1名	管理栄養士	1名
臨床工学技士	1名	二級臨床検査士（血液）	1名
二級臨床検査士（微生物）	1名	有機溶剤作業主任者	1名
臨地実習指導者	1名	術中脳脊髄モニタリング認定技術師	1名
日本睡眠学会認定検査技師	1名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名

3. 次年度の課題

令和6年度に予定されている病院機能評価に向け業務の見直し等を行った。また、ISO 15189の認定更新審査および新規格移行審査を受審予定。電子カルテおよび各部門システムの更新については、部門ワーキングを実施し、業務の効率化に繋がるシステムを構築中である。

(1) 臨床検査実施状況

(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一 般	3,499	3,321	4,429	3,582	3,852	3,853	4,022	4,955	3,722	3,888	3,636	4,081	46,840
血 液	13,694	13,373	16,564	14,203	15,948	17,410	16,868	18,297	16,450	17,000	16,581	16,866	193,254
細 菌	1,730	1,652	1,955	1,798	2,297	2,460	2,351	2,374	2,171	2,182	2,119	2,309	25,398
血 清	5,638	5,205	6,489	5,766	5,960	6,311	6,120	7,067	6,234	6,266	5,786	6,222	73,064
生 化 学	55,979	56,420	70,837	59,976	62,194	65,165	66,559	75,185	65,423	65,889	63,892	67,483	775,002
病 理	141	155	172	96	125	118	151	227	157	161	153	143	1,799
生 理	1,234	1,347	2,036	1,464	1,249	1,473	1,456	2,119	1,542	1,413	1,443	1,620	18,396
外部委託	4,231	4,287	5,880	5,021	4,743	4,826	4,945	7,252	5,122	4,314	4,960	5,124	60,705
合 計	86,146	85,760	108,362	91,906	96,368	101,616	102,472	117,476	100,821	101,113	98,570	103,848	1,194,458

## (2) 時間外(日、当直)検査実施状況 (件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
休日日勤帯	782	988	549	613	886	556	937	928	927	770	823	972	9,731
準夜帯	851	837	919	884	1,167	1,191	1,150	1,303	1,085	1,194	1,141	1,122	12,844
深夜帯	2,496	2,392	3,008	2,856	3,193	3,266	3,178	3,156	2,810	2,966	2,829	2,949	35,099
合計	4,129	4,217	4,476	4,353	5,246	5,013	5,265	5,387	4,822	4,930	4,793	5,043	57,674

## (3) 血液製剤使用状況

製 剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RBC	使用量 単位数	248	234	279	237	286	284	303	388	349	301	379	329	3,617
	廃棄量 単位数	0	0	2	4	0	2	4	4	8	0	0	0	24
	廃棄率 %	0.0%	0.0%	0.7%	1.7%	0.0%	0.7%	1.3%	1.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
FFP	使用量 単位数	106	83	117	121	131	164	157	182	197	165	289	142	1,854
	廃棄量 単位数	0	1	0	0	4	4	0	4	0	0	0	0	13
	廃棄率 %	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	3.0%	2.4%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
PC	使用量 単位数	875	1,105	1,085	1,010	1,070	1,130	1,005	1,440	1,170	1,185	1,420	1,320	13,815
	廃棄量 単位数	10	0	10	20	0	10	0	10	0	10	10	0	80
	廃棄率 %	1.1%	0.0%	0.9%	1.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%	0.6%
ALB	単位数	475	492	476	370	404	527	377	826	620	452	807	481	6,308
FFP/RBC比		0.42	0.35	0.39	0.51	0.45	0.56	0.51	0.44	0.56	0.53	0.64	0.42	0.51
ALB/RBC比		1.92	1.98	1.59	1.55	1.41	1.85	1.24	1.73	1.29	1.26	1.26	1.35	1.74

## (4) 血液培養検査

実施件数	3,442件
陽性率	7.6%

## (5) 薬剤耐性(2022年の薬剤感受性試験実施株を対象)

黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率	50.5%
大腸菌に占めるESBL産生率	22.5%
緑膿菌のイミペネム耐性率	1.8%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.7%

## 32. 放射線部

### 1. 人事

【転出者】	副放射線技師長	中原 誠	丹波医療センターへ
	課長補佐	山下 哲也	はりま姫路総合医療センターへ
【転入者】	副放射線技師長	原 英行	淡路医療センターより
	放射線専門員	吉野 朗	ひょうごこころの医療センターより
	主任	田中 陽	がんセンターより
【退職】	副放射線技師長	原 誠	
	主任	木村 浩司	

### 2. 活動状況

#### 1) 放射線検査業務実績（表1、2、3）

令和5年の放射線検査実績は、総検査人数51,182人で、前年より2,923人増加した。外来患者数が773人増加し、入院患者数が2,150人増加した。

時間外検査人数は6,908人で、前年より981人増加した。日勤帯で509人、準夜帯で340人、深夜帯で132人増加した。

#### 2) 機器の更新（表4）

ガンマカメラが、GEヘルスケア・ジャパン Discovery NM830に更新された。

#### 3) 医療安全管理の取組み

- ① ポータブル撮影時、障害陰影物（衣類のボタン等、輸液チューブ、心電図の端子、ケーブルなど）がないか技師と看護師でダブルチェックする。また、意思疎通できない患児のポータブル撮影時には、体動を保持する手などの映り込みがないか確認する。
- ② 院内でルール化されている造影剤遵守事項をスタッフが入れ替わっても継続的に徹底される強靱なものとするにより、血管外漏出の防止をはかる。診療放射線技師は、造影剤注入前にルートテストの最終確認として、OKかどうかの声かけを行う。

#### 4) チーム医療の推進

県立病院に所属する診療放射線技師として以下に掲げる理念および基本方針を策定した。

##### 【理念】

放射線の専門職として医療被ばくの適正化に努め、安心安全なチーム医療を推進します。

##### 【基本方針】

1. 患者さんと共にチーム医療の一翼を担い、専門分野の責務を全うします。
2. 自己研鑽に励み、安全を担保した高度で良質な画像診断と放射線治療を提供します。
3. 高額医療機器の適正な使用と精度管理に努め、病院運営に貢献します。

##### 【スローガン】

みんな笑顔に！

「みんな笑顔に！」という言葉には、診療放射線技師を含めた医療スタッフが笑顔のある職場作りを目指すと共に、医療を受ける患者様が笑顔を取り戻せるようにサポートしますという思いが込められています。

5) 資質向上と教育

今年も、学会・研修会（WEB開催）へ積極的に参加している。

- 雑誌発表                                 : 2 題
- 学会・研修会発表                     : 4 題
- 学会・研修会等への参加：日本診療放射線技師学術大会、日本放射線技術学会学術大会、  
日本小児放射線技術研究会等

＜認定資格＞	第1種放射線取扱主任者	3名	放射線機器管理士	1名
	放射線管理士	1名	衛生工学衛生管理者	1名
	医療画像情報精度管理士	1名	基本情報技術者	1名
	放射線治療専門放射線技師	1名	放射線治療品質管理士	1名
	X線CT認定技師	2名	核医学専門技師	1名
	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師		3名	
	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		1名	

3. 令和6年の課題

医療被ばく線量管理システムを使用した被ばく線量データを活用し、各々の放射線機器の性能や画像構築の最適化を行い、さらなる患者被ばく低減を目指す。

放射線機器の更新・管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。

(1) 放射線検査人数 (表1)

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
単 純 撮 影	X線撮影	外来	1,385	1,407	2,062	1,443	1,397	1,528	1,780	2,134	1,480	1,432	1,402	1,576	19,026	
		入院	103	88	92	70	83	96	107	127	100	107	124	107	1204	
		計	1,488	1,495	2,154	1,513	1,480	1,624	1,887	2,261	1,580	1,539	1,526	1,683	20,230	
	ポータブル	外来	69	56	61	101	108	107	108	85	75	84	88	59	1,001	
		入院	1,101	935	1,139	1,064	1,256	1,261	1,197	1,294	1,145	1,275	1,134	1,167	13,968	
		計	1,170	991	1,200	1,165	1,364	1,368	1,305	1,379	1,220	1,359	1,222	1,226	14,969	
単純撮影合計		外来	1,454	1,463	2,123	1,544	1,505	1,635	1,888	2,219	1,555	1,516	1,490	1,635	20,027	
		入院	1,204	1,023	1,231	1,134	1,339	1,357	1,304	1,421	1,245	1,382	1,258	1,274	15,172	
		計	2,658	2,486	3,354	2,678	2,844	2,992	3,192	3,640	2,800	2,898	2,748	2,909	35,199	
造 影 撮 影	消化器	外来	18	30	35	33	24	25	27	38	28	26	29	32	345	
		入院	11	13	18	10	11	20	13	19	27	14	11	16	183	
		計	29	43	53	43	35	45	40	57	55	40	40	48	528	
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	2	1	2	1	1	1	1	2	1	0	0	0	12	
		計	2	1	2	1	1	1	1	2	1	0	0	0	12	
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	29	22	30	22	28	25	24	32	27	27	30	29	325	
		計	29	22	30	22	28	25	24	32	27	27	30	29	325	
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	泌尿器系	外来	32	11	25	22	20	29	21	28	24	18	21	37	288	
		入院	5	6	3	2	1	3	3	6	5	5	8	4	51	
		計	37	17	28	24	21	32	24	34	29	23	29	41	339	
	その他造影	外来	0	1	1	0	0	0	2	1	1	1	1	1	9	
		入院	1	2	3	3	2	0	5	3	2	0	1	2	24	
		計	1	3	4	3	2	0	7	4	3	1	2	3	33	
	造影撮影合計		外来	50	42	61	55	44	54	50	67	53	45	51	70	642
			入院	48	44	56	38	43	49	46	62	62	46	50	51	595
			計	98	86	117	93	87	103	96	129	115	91	101	121	1,237
	C T 検 査	外来	102	106	124	94	102	112	128	104	94	123	87	103	1,279	
		入院	109	80	100	78	90	83	97	95	73	94	105	114	1,118	
		計	211	186	224	172	192	195	225	199	167	217	192	217	2,397	
MR I 検 査	外来	189	204	263	247	185	192	249	297	255	236	214	246	2,777		
	入院	60	61	81	63	69	79	61	79	73	74	70	65	835		
	計	249	265	344	310	254	271	310	376	328	310	284	311	3,612		
核医学検査	外来	6	12	18	13	9	14	17	15	3	12	15	16	150		
	入院	11	5	6	8	7	8	9	9	0	10	9	4	86		
	計	17	17	24	21	16	22	26	24	3	22	24	20	236		
放射線治療	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	入院	25	12	0	17	27	0	14	15	27	10	8	2	157		
	計	25	12	0	0	1	0	14	15	27	10	8	2	157		
超音波検査	外来	576	499	691	530	528	544	584	735	577	532	513	560	6,869		
	入院	93	80	82	90	84	104	82	100	107	115	117	95	1,149		
	計	669	579	773	620	612	648	666	835	684	647	630	655	8,018		
骨 塩 定 量	外来	27	24	25	20	21	23	34	45	22	12	17	24	294		
	入院	3	3	2	2	5	3	1	5	0	3	1	4	32		
	計	30	27	27	22	26	26	35	50	22	15	18	28	326		
総 合 計	外来	2,404	2,350	3,305	2,503	2,394	2,574	2,950	3,482	2,559	2,476	2,387	2,654	32,038		
	入院	1,553	1,308	1,558	1,430	1,664	1,683	1,614	1,786	1,587	1,734	1,618	1,609	19,144		
	計	3,957	3,658	4,863	3,933	4,058	4,257	4,564	5,268	4,146	4,210	4,005	4,263	51,182		

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	363	191	254	294	379	248	358	315	298	351	321	341	3,713
業務時間(時)	55	28	40	45	56	35	55	46	43	55	41	50	549
準夜帯検査人数	175	206	193	167	219	235	230	217	199	221	222	194	2,478
業務時間(時)	50	61	60	47	61	64	64	62	57	65	60	60	711
深夜帯検査人数	53	42	50	49	77	72	77	71	60	58	54	54	717
業務時間(時)	24	20	25	22	29	32	36	36	27	28	27	26	332
検査人数(計)	591	439	497	510	675	555	665	603	557	630	597	589	6,908
業務時間(計)	129	109	125	114	146	131	155	144	127	148	128	136	1,592

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表3)

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	454	285	361	415	569	443	547	517	450	508	488	474	5,511
一般撮影	82	75	91	198	236	191	194	174	191	209	198	175	2,014
CT	51	43	37	33	56	37	49	37	36	42	49	56	526
TV	0	2	6	2	1	4	3	7	5	7	4	5	46
MRI	4	3	2	0	1	0	1	4	2	6	0	6	29
アンギオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
合 計	591	408	497	648	863	675	795	739	684	772	739	717	8,128

(4) 放射線機器一覧表 (表4)

機 器 名	製造・販売業者	装 置 名	購入年月
MRI装置	フィリップス・ジャパン	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI装置	GEヘルスケア・ジャパン	SIGNA Architect 3.0T	R3年3月
全身用CT装置(320列)	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用CT装置(80列)	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	フィリップス・ジャパン	Allura Xper FD20/20	H21年11月
FPDシステム(12式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺FPD装置(2台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用X線テレビ装置	キャノンメディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用X線テレビ装置	富士フイルムヘルスケアシステムズ	CUREVISTA	H24年9月
診断用X線撮影システム(2台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	SYNAPSE	H28年3月
3D画像解析ワークステーション	富士フイルムメディカル	VINCENT	H31年2月
被ばく線量管理システム	GEヘルスケア・ジャパン	Dose Watch	R2年3月
パノラマ・セファロX撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2 DB	H28年3月
ガンマカメラ	GEヘルスケア・ジャパン	Discovery NM830	R5年3月
リニアック	シーメンスヘルスケア	ONCOR Impression	H22年3月
治療計画装置	ELEKTA	Xio	H22年3月
移動型X線撮影装置(2台)	富士フイルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型X線撮影装置(3台)	富士フイルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国Sun Nuclear	1137型 IVD 2	H28年3月
RI対応安全キャビネット	日本エアーテック	BHC-1307 II A 2 -RI-S	H28年3月
X線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用X線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	SIREMOBIL Compact-L	H23年2月
外科用X線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器(アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	R3年3月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX 7	H28年3月
造影剤自動注入器(TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
RIドーズキャリブレーション	CAPINTEC	CRC-55t	R5年3月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

### 33. 栄養管理部

#### 1. 人事

なし

#### 2. 主な活動報告

- 令和3年4月より管理栄養士1名の増員を図り、食物アレルギー患者の増加に対する安全な病院給食の提供及び栄養指導の充実に努めている
- チーム医療の円滑な推進
- 医療事故防止対策に関する取り組み（ヒヤリハット報告）
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- IT化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- 患者給食のサービス向上のための給食イベント「病棟夏祭り」等の実施、屋外菜園での野菜や果物の収穫体験と収穫物を使用したおやつを提供、産科の出産「ねぎらい膳」の提供を継続
- 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

#### 3. これからの展望

令和6年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理部の基盤業務において医療事故防止の取り組みを強化すると共に診療部門との更なる連携を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

4. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)	1,687	1,492	1,817	2,030	1,966	1,879	1,790	1,943	1,997	1,949	1,881	1,958	22,389	79.6
調乳・食事人員：調乳(人)	41	47	39	54	52	53	54	45	48	63	54	53	603	2.1
小計	1,728	1,539	1,856	2,084	2,018	1,932	1,844	1,988	2,045	2,012	1,935	2,011	22,992	81.7
調乳・食事人員(食事)	393	421	422	375	458	490	469	359	409	544	384	409	5,133	18.3
計	2,121	1,960	2,278	2,459	2,476	2,422	2,313	2,347	2,454	2,556	2,319	2,420	28,125	100.0

(注) 調乳・食事人員……調乳(人)調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%	
13%レーベンスミルク	8,623	7,143	9,522	11,861	10,338	11,020	10,570	10,341	11,251	10,453	8,996	10,010	120,128	54.8	
15% L W	2,201	1,844	3,169	1,858	2,473	1,938	1,855	2,245	2,086	1,961	2,370	2,825	26,825	12.2	
特 殊 乳	13% L W	16											16		
	7%レーベンスミルク								8			5	13		
	10%レーベンスミルク										7		7		
	12%レーベンスミルク			18									18		
	14%レーベンスミルク	106	90	176	18		54		18		208	117	787		
	15%レーベンスミルク	662	942	613	1,291	1,089	1,040	746	649	834	640	1,402	1,046	10,954	
	16%レーベンスミルク			162	297	45				9				513	
	17%レーベンスミルク	810	871	344	287	578	526	637	1,159	533	875	943	656	8,219	
	18%レーベンスミルク											119		119	
	19%レーベンスミルク		63										126	189	
	20%レーベンスミルク	155	259	69	151	363	181			184	32			1,394	
	12% E赤ちゃん							5						5	
	13% E赤ちゃん	8	121	87	133	18					8	74	84	533	
	14% E赤ちゃん								8					8	
	15% E赤ちゃん	36			6	35								77	
	13% A R ミルク	565	368	126										1,059	
	20% A R ミルク	233												233	
	13% MA-1				5									5	
	15% MA-1	253	239	726	236	161	320	569	597	163	463	265	373	4,365	
	16% MA-1	171	252	224	145	47	35		70		5			949	
17% MA-1		91		136	8		33		31	7			306		
14% MCT フォーミュラ	1,288	1,369	1,007	1,193	1,784	1,216	1,312	1,277	1,745	2,662	1,760	1,588	18,201		
15% MCT フォーミュラ						43							43		
16% MCT フォーミュラ		63	171	357	162	139			261	153	126	279	1,711		
18% MCT フォーミュラ				67	27	27	162						283		
14% 必脂 MCT (721)	28								12			171	211		
14% 必脂 MCT			62		9			24	260	72	234	36	697		
15% 必脂 MCT											63		63		
16% 必脂 MCT					378	270	279	273	203	149	144	90	1,786		

種類		月別												合計	%
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
特 殊 乳	18%必脂MCT							63	279	270	90			702	
	13%エレンタール	180								144	45	36		405	
	16%エレンタール	14												14	
	20%エレンタール			56										56	
	26%エレンタール	6	11	61		21	8							107	
	27%エレンタール		30	15	36		4		6	27	78			196	
	10%エレンタールP										171	126		297	
	13%エレンタールP	185	90	45	365	604	652	330	72		234	170		2,747	
	15%エレンタールP	440	252	279	270	355	9	91			4	4	65	1,769	
	16%エレンタールP						299	381	26					706	
	20%エレンタールP				34	5								39	
	22%エレンタールP											180		180	
	24%エレンタールP					9								9	
	26%エレンタールP	24	8		12	55		48	48	135	279	72	136	817	
	27%エレンタールP	196	196	222	196	265	207	171	252	45	6			1,756	
	14%ケトンフォーミュラ								20	140				160	
	10%エレメンタルフォーミュラ	36	63											99	
	13%エレメンタルフォーミュラ									261	252	258	192	963	
	14%エレメンタルフォーミュラ		108											108	
	17%エレメンタルフォーミュラ		104	144	96	16	5					45	252	662	
	7%低カリウム中リン												12	12	
	11%低カリウム中リン			2										2	
	13%低カリウム中リン			31		27	33	67	93	45		5		301	
	15%低カリウム中リン										22		16	38	
	16%低カリウム中リン							80						80	
	15% S-23蛋白除									206	166		34	406	
15% S-22								132	260	166		34	592		
15% ML-3											64		64		
特殊乳 小計	5,412	5,590	4,640	5,331	6,061	5,068	4,974	5,003	5,776	6,787	6,214	5,195	66,051	30.1	
濃厚流動食	G F O	15	46	27	41	84	60	52	58	95	89	64	16	647	
	アイソカルジュニア	164	154	124	104	105	177	240	168	104	106	158	179	1,783	
	MA-ラクフィア	62	60	62	60	77	71	62	62	70	62	84	74	806	
	ペプチーノ(プレーン)	62	56	27	33	14	39	7	1	2	9	21	26	297	
	濃厚流動食 小計	303	316	240	238	280	347	361	289	271	266	327	295	3,533	1.6
滅菌水	150	237	120	83	256	311	481	419	217	286	249	57	2,866	1.3	
合計	16,689	15,130	17,691	19,371	19,408	18,684	18,241	18,297	19,601	19,753	18,156	18,382	219,403	100.0	
空瓶 大 200cc	7,884	6,363	7,851	7,681	7,951	7,858	7,230	6,858	7,579	6,840	6,576	6,839	87,510	53.8	
空瓶 小 100cc	5,376	5,256	6,960	6,984	5,808	6,096	6,360	6,388	6,384	6,984	6,864	5,760	75,220	46.2	
合計	13,260	11,619	14,811	14,665	13,759	13,954	13,590	13,246	13,963	13,824	13,440	12,599	162,730	100.0	

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常 食	学 童 食	2,530	2,250	2,861	2,347	2,271	2,269	2,815	3,179	1,981	2,117	2,490	3,024	30,134
	妊 産 婦 食	1,341	1,173	1,491	1,462	1,420	1,645	1,686	1,658	1,555	1,341	1,356	1,453	17,581
	小 計	3,871	3,423	4,352	3,809	3,691	3,914	4,501	4,837	3,536	3,458	3,846	4,477	47,715
軟 菜・ 離乳 食	幼児・離乳食	2,814	2,797	2,875	2,974	3,545	3,315	3,233	2,723	3,130	3,179	3,314	3,015	36,914
	軟菜・流動食	727	715	1,213	825	724	860	987	959	900	944	1,030	828	10,712
	小 計	3,541	3,512	4,088	3,799	4,269	4,175	4,220	3,682	4,030	4,123	4,344	3,843	47,626
非 加 算 特 別 食	ペ ー ス ト 食	8	11	33	25	56	92	69	27	89	160	75	70	715
	アレルギ-食													0
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	10	10	48	19	11	3	84	167	42		16	4	414
	扁 摘 術 後 食	89	98	47	160	16	121	159	67	128	75	72	155	1,187
	移 植 対 応 食	285	324	269	137	454	514	528	638	721	709	642	338	5,559
	クローン病食													0
	低 残 査 食	21	7						44	29	3	59	6	169
	肥 満 食	78	27											105
	ケ ト ン 食													0
	減 塩 食													0
	その他特別食	406	505	556	509	522	463	448	521	471	577	483	559	6,020
小 計	897	982	953	850	1,059	1,193	1,288	1,464	1,480	1,524	1,347	1,132	14,169	
加 算 特 別 食	腎 臓 食	34	100	26	95	79	107	144	90	20	45	12	60	812
	肝 臓 食	51	42	98	70	24	133	18	64	142	90	1	71	804
	糖 尿 病 食	190	31		8	51	59	26	70	14	38	69	42	598
	乳 び 胸 食													0
	心 臓 食			4										4
	低ナトリウム食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食		21	42		27		10	7	12	43	19	44	225
	妊産婦糖尿病食													0
	妊産婦肝臓病食													0
	高尿酸血症食													0
	小 計	275	194	170	173	181	299	198	231	188	216	101	217	2,443
合 計	8,584	8,111	9,563	8,631	9,200	9,581	10,207	10,214	9,234	9,321	9,638	9,669	111,953	
検 食 等	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 食	262	236	259	252	260	250	261	259	252	260	252	261	3,064
	合 計	448	404	445	432	446	430	447	445	432	446	432	447	5,254
総 合 計	9,032	8,515	10,008	9,063	9,646	10,011	10,654	10,659	9,666	9,767	10,070	10,116	117,207	

② 患者おやつ数

(単位 食)

区 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,134	2,001	2,399	2,144	2,202	2,349	2,544	2,504	2,144	2,193	2,319	2,409	27,342

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	178	174	247	147	133	154	155	176	166	164	163	166	2,023

## 5. 栄養指導 月別種別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		48	48	46	41	37	44	41	42	41	39	43	45	515
2型糖尿病		3	3	6	3	5	6	6	8	9	12	10	7	78
その他糖尿病			1	2	1	2	2	1	3	1		1	2	16
妊娠糖尿病											1			1
肥満		24	18	30	27	17	14	26	25	24	22	31	25	283
腎臓病			2	1	1		1	2	2	3	4	3		19
妊娠高血圧症候群										1		1		2
心臓病		1	3	3	3	2	2	2	2	3	1	1	2	25
肝臓病		1					1	1		1	1	1	1	7
膵臓病							1	1			1			3
フェニルケトン尿症			1	1	1		2		1	1	1	1		9
ガラクトース血症									1			1		2
脂質異常症		3	4	2	5	2	2	4	5		4	2	5	38
高尿酸血症														0
胃潰瘍食														0
低残渣食														0
小児食物アレルギー		46	33	60	43	28	50	55	52	39	31	42	33	512
貧血食						1	3		1		1			6
移植対応食		1	3	3	1	3		2	3	2	5	4	4	31
てんかん食(ケトン食)								2		3				5
がん		10	7	13	7	6	9	11	12	6	9	8	9	107
摂食・嚥下機能低下				1			1							2
ミキサー食(胃ろう)		1	1	5	6	3	3	1	1	1		1	4	27
痛風食		2			1				1				1	5
低栄養		3	10	8	7	6	11	10	16	15	11	4	14	115
調乳(標準ミルク)														0
調乳(高濃度ミルク)		1	4	2				2	3	2	1	5	3	23
調乳(特殊ミルク)			1		3	1				2	4	2	1	14
その他		4	4	5	8	1	10	6	8	10	4	2	5	67
合計(件)		148	143	188	158	114	162	173	186	164	152	163	161	1,912
件数	外来	101	97	130	111	85	113	114	126	115	104	106	112	1,314
	入院	47	46	58	47	29	49	59	60	49	48	57	49	598
合計(件)		148	143	188	158	114	162	173	186	164	152	163	161	1,912
人数	外来	214	210	303	239	178	252	249	285	250	225	220	249	2,874
	入院	105	101	128	108	61	109	132	128	108	98	122	101	1,301
合計(人)		319	311	431	347	239	361	381	413	358	323	342	350	4,175

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

### 34. リハビリテーション部

#### 【スタッフ】

- 平成28年5月こども病院移設とともに診療部リハビリテーション科として理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で開設。
- 平成30年度理学療法士1名増員。
- 平成31年度（令和1年度）診療部より独立。リハビリテーション部となり、整形外科医師小林大介リハビリテーション科・部 部長就任。
- 令和2年度理学療法士1名増員。

#### 令和5年度4月現在スタッフ数

	人員	備考
医師	1名	リハビリテーション科・部 部長
理学療法士	4名	
作業療法士	1名	
言語聴覚士	4名	

#### 【診療活動】

- 施設基準として開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ。
- 平成28年度9月障害児リハビリテーション料取得。
- 平成29年度がんのリハビリテーション料取得。
- 平成29年運動器疾患リハビリテーション料Ⅰ取得。
- 平成30年度早期離床リハビリテーション加算取得。
- 令和5年11月心臓大血管リハビリテーション料Ⅰ施設基準取得

#### 令和5年度 施設基準別単位数および前年度比較（令和5年1月～12月）

##### 1. 理学療法

	施設基準	単位数	前年比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,440	78.9%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	781	231.7%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	1,877	83.1%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	17	—
	がんリハ料	1,297	166.5%
	障害児リハ料6歳未満	860	126.3%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	86	62.3%
	障害児リハ料18歳以上	6	54.6%
	廃用症候群リハ料	249	91.9%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	52	83.9%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	191	115.8%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	4	50.0%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	2	—
	障害児リハ料6歳未満	690	112.0%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	110	193.0%
	障害児リハ料18歳以上	2	40.0%
計		7,664	106.0%

## 早期離床リハビリテーション加算

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算 (令和5年1月～12月)	3,050	1,525,000

## 2. 作業療法

	施設基準	単位数	対前年比
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	1,650	107.2%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	38	542.9%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	24	35.3%
	がんリハ料	520	56.2%
	障害児リハ料6歳未満	518	216.7%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	38	65.5%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
	廃用症候群リハ料	778	960.5%
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	11	52.4%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	27	56.3%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	2	0.0%
	障害児リハ料6歳未満	216	3085.7%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	26	236.4%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		3,848	128.1%

## 3. 言語聴覚療法

	施設基準	単位数	前年度比
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	942	104.9%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	571	135.0%
	がんリハ料	122	53.5%
	障害児リハ料6歳未満	448	216.4%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	27	128.6%
	障害児リハ料18歳以上	16	0.0%
	廃用症候群リハ料	1	0.0%
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	170	38.2%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	0	0.0%
	障害児リハ料6歳未満	437	160.7%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	118	200.0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		2,730	106.9%

## 4. 言語聴覚士耳鼻咽喉科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	901
標準語音聴力検査	90
気道純音聴力検査	3
遊戯聴力検査	1763
補聴器適合検査 1回目	43
補聴器適合検査 2回目以降	444
発達および知能検査	30
計	3,274

## 35. 家族支援・地域医療連携部

### I. 組織

家族支援・地域医療連携部は、部長1名、課長兼看護師長1名、看護師4名、MSW3名 計9名で入退院支援・患者サポート相談窓口・虐待関連事務局・がん相談・地域連携等の業務を担っている。

また、予約センターとして委託事務員により紹介・逆紹介に関する業務、受診予約業務などを行っている。

部長	畠山 理 (小児外科部長)
課長兼看護師長	深江 登志子
看護師	渡邊 千恵 坂本 郁子 山田 純子 藤本 詠子
MSW	松尾 さおり 中邨 仁美 佐々木 亮人

### II. 2023年活動

<2023年の主な活動>

#### 1. 入退院支援・在宅療養支援の推進

- ① 入退院支援の充実
- ② 医療的ケア児の在宅移行支援および療養支援
  - ・制度活用支援・医療機器等の購入支援
  - ・本人や家族の意思決定など精神面の支援
- ③ 訪問看護ステーションとの連携強化 (カンファレンス開催・研修会開催)
- ④ 地域医療機関との連携強化 (カンファレンス開催・病院訪問)
- ⑤ 生活支援センターや福祉事業所など地域関連機関との連携 (カンファレンス開催)
- ⑥ 学校・保育所、児童発達支援事業所など教育・療育機関との連携 (カンファレンス開催・研修会)

#### 2. 院内の診療支援

- ① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- ② 返書作成の支援
- ③ 家族背景へのケースワーク

#### 3. 患者・家族の不安への対応

- ① 医療制度・福祉制度の説明
- ② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
- ③ 各種手続きのサポート
- ④ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

#### 4. 発達支援・養育支援

- ① 虐待防止活動 (委員会開催、地域との連携、家族支援)

- ② 事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- ③ 育児相談活動（評価、関わり方指導）

## 5. 成人医療への移行支援

- ① 医療機関との連携・調整

### <今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする子どもと家族が安心して在宅生活を送れるように地域（医療・福祉・教育・行政）と連携し支援する。
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく。
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修などに貢献するよう努める。
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める。
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める。
- ⑥ 患者相談窓口として患者・家族の不安の解消に努める。
- ⑦ 入院時から退院後の生活を見据えた退院支援を行い、地域とともに子どもと家族の生活を支える。
- ⑧ 広報活動を強化し、地域の医療機関との連携・信頼関係の構築に努める。

## 家族支援・地域医療連携部（2023年）

### 1. 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	334	353	419	343	424	467	419	425	410	492	437	462	4,985	3,245
2	退院援助	79	50	65	85	57	57	52	86	89	63	75	84	842	388
3	社会復帰援助	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
4	受診・受療援助	30	43	39	57	45	47	58	43	54	39	58	70	583	240
5	経済的問題の解決、調整援助	53	34	58	56	24	35	21	33	24	29	17	26	410	665
6	地域活動	4	11	11	2	6	11	4	18	6	26	15	3	117	53
7	養育支援（虐待予防を省く）	5	4	7	2	6	2	5	9	5	8	13	13	79	68
8	虐待・虐待予防関連	77	92	78	60	69	36	81	98	47	54	50	74	816	352
9	一時保護	1	0	0	1	0	1	1	3	0	2	0	1	10	6
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	49	58	54	35	56	54	51	58	58	86	73	41	673	798
11	その他	0	0	0	3	0	4	2	3	1	2	2	3	20	12
	合 計	632	646	731	645	687	714	694	776	694	801	740	777	8,537	5,840

## 2. 機関別延べ連絡調整数

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	教育機関	8	14	14	17	7	4	11	17	17	14	15	8	146	76
2	保健所・保健センター	43	38	49	57	34	53	57	41	41	49	43	59	564	528
3	福祉事務所	22	8	13	35	43	25	40	52	24	36	40	43	381	102
4	こども家庭センター（児童相談所）	54	47	65	46	28	18	36	80	35	41	44	52	546	326
5	児童福祉施設	30	28	31	30	44	52	43	30	15	12	30	31	376	119
	療育センター				6	3	11	9	4	10	11	7	4	65	
	児童発達支援事業所				7	10	6	9	12	11	13	10	6	84	
6	地域医療機関	79	115	111	79	87	115	97	103	110	102	91	130	1,219	681
7	訪問看護ステーション	127	119	120	69	98	110	124	118	118	168	141	133	1,445	863
8	地域生活支援センター	2	2	3	4	6	7	7	9	2	3	5	1	51	35
9	相談支援専門員連携数	6	2	3	6	10	7	6	14	9	7	8	5	83	42
	合 計	371	373	409	356	370	408	439	480	392	456	434	472	4,960	2,772

## 3. 関係機関カンファレンス件数

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	被虐待児等症例検討会	11	11	6	3	5	6	15	8	3	7	3	9	87	53
2	施設入所カンファレンス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3	在宅病棟移行前カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4	在宅病棟カンファレンス	4	8	8	5	12	16	15	15	24	14	26	24	171	170
5	外泊前カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6	退院前カンファレンス	5	5	5	2	3	0	3	3	6	8	5	2	47	29
7	教育機関カンファレンス	1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	5	8
8	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0
9	重症患者初期支援カンファレンス					1	4	0	2	0	2	3	3	15	
10	その他	2	3	1	0	1	1	3	2	0	4	1	3	21	16
	合 計	23	27	20	12	24	27	36	30	33	36	39	42	349	280

## 4. その他

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	入退院支援計画書作成数（Ⅰ）	291	276	309	200	316	347	328	364	283	299	262	291	3,566	6,841
2	入退院支援計画書作成数（Ⅲ）	33	24	41	27	44	26	38	46	42	26	32	31	410	787
3	患者サポート相談件数	24	21	27	36	37	34	42	27	23	26	22	29	348	672

2023年は、心理的・社会的問題の解決・調整、受診・受療援助、虐待関連業務などが増加している。連携・調整機関については2021年の「医療液ケア児支援法」の設立もあり教育・療育関連機関との連携が増加しつつある。地域の関係機関との連携については今後も強化していきたい。

## 家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、逆紹介業務、再診患者の予約業務などを行っている。

2023年は新患患者の受付件数、紹介元医療機関の新規登録件数共に増加しており、今後もスムーズな受診予約・返書管理に努めたい。

### 1. 業務統計

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	前年度
メール相談対応数	5	5	4	8	7	10	10	5	7	6	12	7	86	91
（内訳）各科医師相談	3	0	0	4	0	2	3	2	2	0	1	1	18	37
地域医療連携・他部署で返答	2	5	4	4	7	8	7	3	5	6	11	6	68	54
セカンドオピニオン数	3	2	1	3	1	1	4	1	0	3	3	3	25	22
受診報告書発送数 （紹介状件数）	501	493	534	531	540	586	543	594	526	536	532	507	6,423	6,066
紹介元医療機関新規登録数	18	12	34	20	17	28	18	26	21	13	19	19	245	218
新患FAX予約受付件数	414	448	489	429	513	408	480	477	462	455	442	450	5,467	5,276
新患電話予約受付件数	337	290	317	240	314	322	317	281	295	298	325	298	3,634	3,823
新患予約キャンセル受付件数	18	13	19	13	14	16	16	15	15	18	18	19	194	214
再診対面・電話予約件数	2,233	1,889	2,126	1,908	2,470	2,277	2,064	2,096	2,028	2,054	1,912	1,868	24,925	24,360
その他 予約日確認などの電話件数	974	882	996	883	917	943	990	961	817	816	772	749	10,700	11,027
返書率	96	96.2	95.7	95.4	96.7	96.1	95	94.1	95.5	94.5	96.4	95.5	94.8	95

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

### 2. 地域別紹介元医療機関新規登録数

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年度
神戸市	3	5	4	6	1	6	5	5	4	1	3	6	49	45
阪神	3	7	2	6	2	5	2	4	2	0	3	2	38	44
西播	0	0	4	1	2	2	1	2	0	2	3	1	18	9
淡路	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	4
東播	1	0	4	0	6	3	1	2	2	3	3	0	25	17
丹波	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	1
但馬	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	5	1
県外	9	1	20	7	5	10	6	11	13	7	7	9	105	100
合計	18	13	34	20	17	27	18	26	21	13	19	19	245	218

## 36. 臨床工学室

## 【スタッフ紹介】

課長補佐	土井 一記	体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
主任	往田 有理	3学会合同呼吸療法認定士 透析技術認定士 植込みデバイス認定士 認定医療機器管理
主任	木場 貴子	透析技術認定士
	山田 亮二	3学会合同呼吸療法認定士
	秋山 正太	体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士 FCCSプロバイダー
	橋本 健太郎	
	西田 匡志	
	阿部 翔吾	
	大頭 弘章	
	東郷 海斗	
	山本 貴之	

## 【業務実績】

## 医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
終業点検	1,783	1,767	761	1,706	1,676	1,573	1,748	1,759	1,394	1,353	1,717	1,845	19,082
定期点検	375	348	186	283	309	302	399	286	298	251	352	290	3,679
呼吸器ラウンド	67	66	44	88	93	81	81	102	98	90	98	100	1,008
病棟ラウンド	0	1	0	1	1	2	2	3	1	1	2	0	14
NICUラウンド	38	38	18	38	38	44	40	40	40	38	36	36	444

## 臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
体外循環	15	17	8	13	15	12	13	15	19	16	14	16	173
ECMO	1	0	2	0	1	3	0	0	4	1	4	0	16
人工心肺・ECMOスタンバイ	0	1	1	3	0	1	1	5	2	5	1	1	21
血液浄化	0	0	0	0	0	0	0	6	3	1	21	12	43
ペースメーカー外来	6	3	3	3	8	6	7	5	3	2	6	5	57
ペースメーカー植込み・交換	0	1	0	1	2	1	2	3	0	0	1	0	11
MEP	4	1	1	2	5	2	1	2	5	3	1	2	29
BCR	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
PBSCH	4	3	3	1	2	2	4	2	1	0	1	2	25
BMP	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
PE	0	2	5	0	0	1	0	9	2	3	14	3	39

## 各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

感染対策委員会

手術室運営委員会

集中治療室運営委員会

医療ガス安全管理委員会

在宅医療機器検討委員会

呼吸療法委員会（RST）

呼吸ケア部会

医療機器安全管理部会

## 37. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして13名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長兼総務課長で構成され、院内の安全管理を担っている。

### I. 主な活動内容

#### 1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策・周知について

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週木曜日に開催し、ヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。今年度医療安全の取り組みとして、①成功事例から学ぶGOODJOB報告増加への取り組み②医療事故発生時の初動対応についての啓蒙③医療安全に関するマニュアルの見直し④患者誤認防止への取り組みを行った。GOODJOB事例の共有、医療事故発生時の初動に関する講演会、院内医療安全マニュアルの修正、患者誤認防止の他者監査などを実施した。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を、医療安全管理委員会（1回/月）に報告した。
2. MET部会を隔月開催し（計6回）、MET事案の検討を行い、結果をリスクマネジメント部会で報告した。今年度のコール件数は23件で昨年度より32件減少した。昨年度まで、主なコール理由であった徐脈に対して各診療科が患者に適したMET指示が出るようになったことが要因である。
3. 医療機器安全管理部会を隔月開催し（計4回）、より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図った。
4. 患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、METコールを行い対応することで、コード99症例は今年度は7件でスムーズに対応できた。
5. ECPRも含めた蘇生チーム（ECMOチーム）招集コールは14件で、昨年度より11件増加している。患者急変時にチームで対応できた。そのうちECMO導入は6件で全て短時間での導入ができた。
6. 院内ラウンドは、第4木曜日16:00～16:30で行った。救急カートチェック・環境チェック・ベッド柵のチェック・指差し呼称の実施確認・生体情報モニターの適正使用の確認・抑制の適正実施の確認を行った。また、ヒヤリハット報告でハード面の問題があった場合に、ラウンドを行い対策を検討した。
7. ヒヤリハット報告
  - 1) 2023年のヒヤリハット報告件数は、3477件で前年度より153件減少した。
  - 2) レベル別報告数においては、レベル0は828件（前年度より74件減）、レベル1は2253件（前年度より38件減）、レベル2は296件（前年度より28件減）、レベル3 aは28件（前年度より3件増）であった。割合は前年度とほぼ同じであった。
  - 3) レベル3 b以上の医療事故報告は0件であった。
  - 4) 部門別にみると、看護部2826件（前年度より40件増）、診療部391件（前年度より115件減）、薬剤部57件（前年度より1件増）、放射線部90件（前年度より52件減）、検査部37件（前年度より10件減）、リハビリ35件（前年度より14件減）、栄養管理課22件（前年度より10件減）、臨床工学技士9件（前年度より3件減）であった。
  - 5) ヒヤリハット報告において診療部の報告が11%（前年度14%）と3%低下した。オカレンス報告は72

件（前年度より20件増）であった。

- 6) 確認不足によるヒヤリハット報告が多いため、各部門で「声だし・指差し呼称」について取り組みを行った。その結果全体的にヒヤリハット件数は減少したが、定着に向け活動を継続していく。

#### 【レベル別報告件数】

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3 a	レベル3 b以上	オカレンス
828件 (24%)	2,253 件 (65%)	296件 (8%)	28件 (1%)	0 件	72件 (2%)

#### 【部門別ヒヤリハット報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課
391件 (11%)	2,826件 (81.3%)	37件 (1.1%)	90件 (2.6%)	57件 (1.6%)	9 件 (0.3%)	35件 (1%)	22件 (0.6%)

#### 8. 医療安全地域連携加算 相互評価

- 1) I - I 連携：三菱神戸病院（10月12日）当院で実施 川崎病院（11月16日）先方で実施
- 2) I - II 連携：みどり病院（9月28日）先方で実施

#### II. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 成功事例から学ぶ GOODJOB 報告増加への取り組みとして、GOODJOBNEWSを発行（計7回）し、優良事例の共有とGOODJOB大賞を選出し表彰した。GOODJOB報告は、224件で、各部門から報告があった。
- 2) 講師を招き「医療事故発生時の初期対応における留意事項～紛争予防の観点から～」の講演会を実施した。その後、e-ラーニングの動画を配信し、全職員が100%受講できた。
- 3) 医療安全に関するマニュアルの見直し  
転倒転落防止ガイドラインの作成、医療安全指針の見直し
- 4) 患者誤認防止対策の推進  
各部署が重点項目を設定し取り組み、患者確認チェックシートを用いて自部署内の他者監査を実施した。また、「安全のための確認基準」を閲覧することを周知し、100%閲覧できた。強化期間前期、強化期間、強化期間後期それぞれの期間の監査結果とインシデントの集計結果を全体に提示し、患者誤認防止の啓蒙を強化した。

Ⅲ. 医療安全研修会、勉強会の開催

テ ー マ	開 催 日	参 加 者
第1回医療安全研修（e-ラーニング 2項目） 医療安全の基本を知る	7月10日～10月2日	全職員923名（100%）
第2回医療安全研修（①講演会②e-ラーニング） 医療事故発生時の初期対応における留意事項～紛争の観点から	①9月14日 ②10月6日 ～2024年2月9日	全職員900名（100%）
医療安全研修「アナフィラキシー」	12月7日～2024年3月	看護師107名
医療安全研修「骨折予防」	2024年2～3月	看護師・保育師・ 看護補助者89名
新採用医師安全教育	4月1日	49名
新採用看護師安全教育	4月6日	72名
臨時採用看護師安全教育	採用時	8名
新採用看護補助者教育	採用時	7名

Ⅳ. 医療安全情報の提供

医療安全NEWSの発行を7回／年行った

日本機能評価機構や病院局からの医療安全情報の提供を行った。

JACHIでの適宜情報交換を行った。

## 38. 感染対策室

感染対策部長を感染症内科部長、院内の感染管理の実施に関する権限を有し、院内感染対策の責任者として統括的役割を担っている。また、感染対策および感染管理の実務責任者として専従の院内感染管理者が専従として感染対策室に配置され、院内の感染対策及び感染管理に関する状況把握、対策を要する事案、その他各種事項について組織横断的に活動している。

感染対策委員会は、委員長を集中治療科科長、副委員長を看護部次長とし、委員を院長、副院長、感染対策部長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師2名の他、診療部7名、看護部3名、検査部2名、薬剤部1名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名で構成され、感染予防対策に関する最高の審議・決定機関、院長の諮問機関としての役割を担っている。

感染対策チーム（Infection Control Team:ICT）は、看護部2名、診療部5名、検査部1名、薬剤部2名で、感染対策の実働部隊として活動している。

抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤部4名、診療部9名、検査部1名、看護部2名で構成されている。そのうち薬剤部2名、診療部4名、検査部1名、看護部1名がコアメンバーとして抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊として活動している。

### 活動内容

#### 1. 定期的な会議、ラウンドの実施

##### 1) 院内感染対策委員会（毎月第2金曜日→11月から第2月曜日に変更）

病原微生物の検出状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICTおよびAST活動などを報告

##### 2) ICT 関連

###### • ICTショートミーティング（毎週月、金曜日）

感染経路別予防策対象患者の情報共有、微生物検査が必要な患者の抽出、職員の感染症発生状況の共有、その他検討事項

###### • ICT会議（毎週水曜日）

病原微生物の検出状況、ICTラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討

###### • ICTラウンド（毎週水曜日） 環境ラウンド

###### • デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週木曜日）

デバイス関連感染症の判定、感染対策の評価、改善策の検討をPICUスタッフと実施

###### • 微生物検査室ミーティング（毎日）

血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果を情報共有

##### 3) AST 関連

###### • AST定例会議（毎月第1水曜日）

DOT、ケースカンファレンス、その他抗菌薬適正使用のための取り組みを報告

###### • ASTコアメンバー会議（第2・4水曜日）

抗菌薬適正使用のための取り組み、AST研修会の企画検討

###### • ASTケースカンファレンス（毎週木曜日）

特定抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗MRSA薬）使用患者及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討

2023実績（2023年4月～2024年2月）

抗緑膿菌薬使用症例	抗MRSA薬使用症例	抗菌薬長期使用症例	その他 (血液培養陽性も含む)
51	26	19	61

2023年度に取り組んだ事項

- 1 ショートカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
- 2 抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会（2回開催）
- 3 第6回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会開催
- 4 抗微生物薬供給制限に対応
- 5 薬剤耐性菌対策を推進
- 6 ポイントサーベイランスを用いた横断的調査実施

2. 職員教育

2月～3月	第1回全職員対象感染対策研修会兼AST研修会② e-learning
3月	第2回全職員対象感染対策研修会 e-learning
4月	新規採用医師および看護師感染対策オリエンテーション
8月	新生児病棟勉強会「MRSAのアウトブレイクを防止する」
8月～9月	清掃・リネン業務職員対象研修会「手の衛生と防護具の正しい使い方」
8月～9月	AST研修会① e-learning
9月	保育士勉強会「感染対策－日頃のあれこれにお答えします－」
12月	第6回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会（HART）ハイブリッド開催

3. 新型コロナウイルス感染症対策

	開始	2023年の改定履歴
COVID-19感染対策ガイドライン	2020/3/6	5/8 5類化後の総合感染対策に改定
入院先決定までのフローチャート	2020/10/16	5/8 Ver.5.0
COVID-19陽性患者の院内発生時の対応	2023/2/8	5/8 Ver.2.0
職員の症状判断フローチャート	2020/2/18	5/8 Ver.12
外来問診チェックリスト	2020/8	5月 全体の入院時スクリーニングに合併
患者および面会者の行動制限基準	2022/1/26	5/8 Ver.6.0
面会についてのお願い	2020/3/4	改定 4/13、5/8、10/19
対策本部会議	2020/4/10	不定期開催

4. 各種サーベイランスの実施

・手指衛生サーベイランス

看護部感染対策委員会と連携して直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。現場での直接指導は看護部感染対策委員が行った。並行して手指消毒剤の使用量調査も継続した。

手指衛生遵守率の推移（％）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
81	74	74	67	65	57	67	59	60	63	64	64

## 手指衛生使用量の推移 (ml/患者)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
36	36	26	26	27	39	32	35	36	32	31	33

### • PICUにおけるデバイスサーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000デバイス日)				尿道留置カテーテル関連 尿路感染症発生率発生率 (/1000デバイス日)				人工呼吸器関連肺炎発生率 (/1000デバイス日)			
2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
0.0	0.4	0.0	0.7	4.0	6.3	5.6	8.2	4.6	4.4	2.8	2.6
2021	2022	2023		2021	2022	2023		2021	2022	2023	
1.0	1.0	1.2		5.8	3.9	3.2		2.3	2.6	2.9	

原則毎週木曜日に病棟コアメンバーと判定会議を開催した。

### • 7F病棟における中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000デバイス日)	2019	2020	2021	2022	2023
	1.3	1.3	2.5	2.0	2.8

病棟コアメンバーとの判定会議を定期的に開催した。

### • その他：AURサーベイランス

## 5. 感染症発生時の対応

アウトブレイク

6 E：インフルエンザ (10月)、6 E：ノロウイルス胃腸炎 (1月、2月)、

6 W：ノロウイルス胃腸炎 (1月) 5 W：COVID-19 (1月)

院内発生

PICU：サルモネラ感染症疑い (6月)、5 W：結核疑い (5 W)、7 E：ムンプス疑い (6月)

飛沫感染予防策	784件	呼吸器症状684、インフルエンザ100
接触感染予防策	49件	感染性胃腸炎24、腸管出血性大腸菌感染症1、 ノロウイルス胃腸炎21、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1、 CPE保菌者2 (高度接触予防策)
空気・接触感染予防策	1件	播種性帯状疱疹1
飛沫・接触感染予防策	230件	COVID-19 102、RSウイルス感染症120、EKC疑い4、 ライノエンテロウイルス感染症 (重症) 4
空気感染予防策	1件	肺結核疑い1

## 6. 感染対策に関する各種相談への随時対応

## 7. 各種啓発活動

感染症週報 (毎週)、手指衛生遵守率結果の広報 (毎月)

## 8. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務 (清掃、リネン、滅菌) の定例会への出席、清掃ラウンド結果のフィードバック

9. 職業感染防止の活動

- 新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	おたふくワクチン	MRワクチン
125名	25名	7名	5名	29名	20名

- 職員対象のインフルエンザワクチン接種（11月）
- 職員対象のB型肝炎ワクチン接種 34名（新規26名、その他8名）
- 針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応  
30件（針刺し26件、切創3件、血液・体液曝露1件、咬傷0件）

10. 院外活動

- 感染防止対策加算関連  
加算1：大阪母子医療センターと相互ラウンド実施（10月に来院、2月に訪問）  
加算3：みどり病院とカンファレンス開催（5月、9月、11月、2月）
- 社会福祉施設への訪問指導  
医療福祉センターさくら（1月）、神戸医療福祉センターにこにこハウス（2月）
- 小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種Web会議（7月）

## 39. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として集中治療科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

### 主な活動内容

#### 1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

##### 1) 褥瘡推定発生率

1.85% (過去17年で9番目に低い値 過去の発生率は1.4~2.7%)

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

##### 2) 褥瘡発生率

3.36% (発生率は過去21年で4番目に高い値 過去の発生率は2.35%~4.0%)

月の1日を調査日とし、褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

##### 3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 7292件 (月平均608件)

##### 4) 危険因子評価を実施した患者のうち褥瘡に関する危険因子を有す、或いは既に褥瘡を有していた患者数 3734人 (月平均312人)

##### 5) 褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数 (特定数) 1200件 (月平均100件)

##### 6) 褥瘡予防治療計画件数 1200件 (月平均100件)

##### 7) 褥瘡ハイリスク患者実施件数 1055件 (月平均88件)

##### 8) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 245件

褥瘡発生個数 280個 (自重関連褥瘡は82個、医療関連機器圧迫褥瘡は198個)

褥瘡発生件数の多い部署 (10件以上)

PICU (137)、NICU (16)、5西 (15)、6東 (14)、6西 (14)、5東 (12)

#### 2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師 (月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている) により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数47回 患者数322名 (のべ)

#### 3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

#### 4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

#### 5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

## 40. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がん医療センター長のもと、血液・腫瘍内科医師、小児看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

### 【スタッフ】

医師 石田 敏章（血液・腫瘍内科医師）  
 看護師 栗林 佑季（小児看護専門看護師）、木下 めぐみ（がん化学療法看護認定看護師）  
 医療福祉相談員（MSW） 中邨 仁美、松尾 さおり  
 医師クラーク 水野

### 【令和5年 主な活動内容】

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談、メール相談
  - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
  - ・小児・AYA世代がん患者の発育、教育、就学、就労等の療養上の相談及び支援
  - ・がん生殖医療、がんゲノム医療、アピアランスケアに関する相談及び支援等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
  - ・がんサロン（名称：Nanaくつろぎサロン）の開催
  - ・相談室通信（名称：Nana通信）の発行（3か月に1回）
  - ・小児・AYA世代がん患者家族教室の企画運営
  - ・小児がん治療中の高校生の学習支援、原籍校及び県教育委員会との連携等
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
  - ・小児がん看護研修の企画運営
  - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック4病院共催）
  - ・小児がん連携病院、地域の医療機関等に対する相談支援に関する支援等
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
  - ・月1回開催、小児がん相談に関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
  - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会、メーリングリストへの参加
  - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会への参加
  - ・兵庫県がん診療連携協議会情報連携部会への参加
  - ・都道府県がん診療連携拠点病院協議会情報提供相談支援部会への参加
  - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会、グループメールへの参加等

### 令和5年 がん相談支援室相談対応件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	110	113	102	105	100	95	83	85	88	103	93	73	1,150
	1) 対面相談	106	108	98	95	90	79	73	81	83	95	82	69	1,059
	2) 電話相談	4	5	4	10	10	16	10	4	5	8	11	4	91
院 外 相 談		5	6	5	2	0	0	0	1	4	0	0	2	25
計		115	119	107	107	100	95	83	86	92	103	93	75	1,175

## 41. 院内学級（神戸市立友生支援学校 みなと分教室・わらび訪問学級）

### 1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」として、こども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転（2016年）に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員が、こども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生で、入級を希望する児童生徒は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は、従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は、教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状から、ほとんどが、ベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。しかし、2020年度より、新型コロナウイルス感染拡大の影響から教室での授業が無くなり、ベッドサイドでの授業とオンラインによる授業が中心となっている。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては、主治医や病棟の紹介を経て、当部署が行っている。

### 2. 在籍状況

#### 2023年度 院内学級 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	10	8	5	6	6	5	6	7	8	8	9	10
中学部	5	5	3	3	3	3	3	4	4	5	6	4
合計	15	13	8	9	9	8	9	11	13	13	15	14

※各月1日時点で在籍していた児童生徒数

### 3. 次年度の課題

2021年度にスタートしたGIGAスクール構想により、日本全国の子ども1人に1台の端末が用意され、ICTを活用した教育活動を行える環境が整ってきた。院内学級にも35台支給されたが、Wi-Fi環境などに課題もあり、神戸市教育委員会と相談しながら改善に取り組んでいる。

在籍している児童生徒の多くは教室登校が難しい状態にあることに加え、新型コロナウイルス感染拡大のために教室での授業が実施できない中で、端末を活用し、離れた病室を繋いで授業を行えることは、生徒同士のつながりや、学びの可能性を広げることに大いに役立っている。また、退院後すぐに原籍校へ登校できない児童生徒に対しても、オンライン授業を行うことで、継続して学習支援を行うことが可能となっている。

また、病室から原籍校の授業に参加する児童生徒も増えており、院内学級として、従来の対面授業だけではなく、原籍校とのオンライン授業も両立させた、ハイブリッドな学習支援も可能となってきている。いずれにせよ、それぞれの児童生徒の状況に応じた柔軟な対応で、きめ細やかなサポートを行っていきたいと考えている。

## 42. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートした。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

### （業務内容）

#### ・外来診療補助

電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約

患者様へのご説明、ご案内 等

診察・手術・検査に関する電話 等

#### ・文書作成補助

診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等

#### ・診療に関するデータ整理、管理に関する事務

新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等

#### ・治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務

#### ・院外、院内における症例登録や統計、調査に関する事務

#### ・研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務

#### ・その他所属長が必要と認める事務

症例検討会、講演会、抄読会等の準備

文献・画像等の取り込み、及び管理

医師宛の外線電話への対応 等

## IV 学会・研究・教育活動

## 1) 書籍

## 救急科

- 松井鋭, 阪井裕一: 22 脱水 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 53-54, 2023
- 松井鋭, 阪井裕一: 23 チアノーゼ 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 55-56, 2023
- 田中亮二郎: 腎疾患 10 ネフローゼ症候群 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 326-327, 2023
- 田中亮二郎: 腎疾患 13 急性糸球体腎炎 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 333-334, 2023
- 林卓郎: 24 疼痛 4 排尿時痛 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 中外医学社, 64-66, 2023
- 林卓郎: 24 疼痛 5 耳痛 小児救急標準テキスト Basic 編. 日本小児救急医学会監修, 中外医学社, 67-69, 2023
- 竹井寛和: 家の中は誤飲(異物誤飲)のリスクが高い? ~最近の傾向と対策~. チャイルドヘルス Vol.26 No.4, 診断と治療社, pp255-259, 2023
- 竹井寛和: 救急超音波診療ガイド. 医学書院, pp260-276, 2023
- 竹井寛和: レジデントのための腹部エコーの鉄則. 医学書院, pp182-189, 2023
- 竹井寛和: 会陰部の診察. 小児科 Vol.64 No.11, 金原出版, pp1120-1125, 2023

## リウマチ科

- 中岸保夫: 全身型若年性特発性関節炎有効例③TCZ開始後肥満低身長が改善した例. 伊藤秀一・森雅亮, 編集. 小児リウマチ疾患 トシリズマブ治療の理論と実際, メディカルレビュー社, 東京: 84-85, 2023
- 合田由香利: 全身型若年性特発性関節炎無効例③CANに変更しても関節炎が進行した例. 伊藤秀一・森雅亮, 編集. 小児リウマチ疾患 トシリズマブ治療の理論と実際, メディカルレビュー社, 東京: 100-101, 2023
- 水田麻雄: 全身型若年性特発性関節炎無効例⑤滑液嚢胞例. 伊藤秀一・森雅亮, 編集. 小児リウマチ疾患 トシリズマブ治療の理論と実際, メディカルレビュー社, 東京: 104-105, 2023

## 神経内科

- 西山将広, 永瀬裕朗: 特集 エキスパートが教える小児の薬物治療 Ⅲ. 疾患別E. 神経筋疾患 急性脳症 小児内科 55(13): 508-512, 東京医学社, 2023.
- 西山将広: 小児の集中治療の実践-躬行実践- 重症疾患の管理 神経疾患とその管理-急性脳症を中心に- 小児内科, 55(8): 1356-60, 東京医学社, 2023.
- 西山将広, 永瀬裕朗: 日常診療に活かす 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2024-2025 小児けいれん重積, メディカルレビュー社, 2023.

## 腎臓内科

- 貝藤裕史: フィブロンекチン腎症. 「腎と透析」編集委員会. 「腎と透析」94巻増刊号 特集 病因・病態生理から読み解く腎・泌尿器疾患のすべて, 東京医学社, 2023

## 感染症内科

---

- 笠井正志：子どものカゼのトリセツ(監修 笠井正志), 子どものカゼのトリセツ, 伊藤健太, 笠井正志, 第1版, 金原出版, 東京:p1-200, 2023
- 笠井正志：こどもの血液培養と菌血症(編集 志馬伸朗), 小児血液培養のこれから, 笠井正志, 第1版, 金芳堂, 東京:p135-145, 2023
- 笠井正志：こどもの入院管理ゴールデンルール, 笠井正志, 黒澤寛史, 上村克徳, 監修. 第1版, 医学書院, 東京:p1-296, 2023
- 水野真介, 笠井正志：小児敗血症の定義-変遷と小児適応-, 小児科診療, Vol.86 No6, 2023
- 水野真介：AST活動のベストアンサー集, INFECTION CONTROL. 32巻2号, 2023
- 水野真介, 笠井正志：Q & Aで読み解く分野別誌上セミナー 感染症. 小児科臨床 Vol.76 No.6, 2023
- 水野真介：子供のこともっと知ろう 第49回予防接種アップデート. LiSA Vol.30 No.5, 2023
- 水野真介, 笠井正志：深頸部感染症. 小児内科 Vol.55 No.4, 2023
- 水野真介, 笠井正志：髄膜炎の迅速診断. 検査と技術, 2023年11月
- 大竹正悟, 池上千晶, 島田智恵, 砂川富正：小児の原因不明肝炎-国内と海外における特徴の比較. 小児科 vol.64 No.1. 2023
- 大竹正悟：達人に学ぶ小児の発熱・皮膚疾患, 抗菌薬の適応. CHIRYO vol.105, No.4, 2023年4月
- 笠井正志：感染性肺炎 p248-253 小児内科 東京医学社 2023
- 笠井正志：痛くないワクチン p94 消化器ナーシング, MCメディカ出版, 2023
- 笠井正志：新型コロナウイルス感染症の小児流行で分かったこと 心臓をまもる, p24-28, 2023
- 笠井正志：楽しく学ぼう！免疫とワクチンの仕組み, ファイザー株式会社, 2023
- 笠井正志：コロナ5類化で変わることに変わらないこと, 保育と保健ニュース, 2023
- 笠井正志：乳幼児嘔吐下痢症, 今日の治療指針, 医学書院, 2023
- 笠井正志：小児の感染症, 薬剤師のための感染制御マニュアル, 薬事日報社, p443-456, 2023
- 笠井正志：ワクチンへの躊躇い, 消化器ナーシング, vol28, MCメディカ出版, p94, 2023
- 笠井正志：小児急性期医療と新型コロナウイルス感染症, 105(4), 南山堂, p457-461, 2023
- 笠井正志：ワクチンは権利, 消化器ナーシング, vol28(4), MCメディカ出版, p102, 2023

## 心臓血管外科

---

- 大嶋義博：Primary Sutureless法. 大北裕, 坂本喜三郎, 高梨秀一郎, 坂東興, 夜久均. 心臓血管外科手術エッセンス⑤先天性心疾患の手術, 中山書店, 東京:138-141, 2023

## 形成外科

---

- 久保盾貴, 小野田素大：埋没耳. 寺師浩人編. 専門医取得に必要な形成外科手技37-口頭試問への対策-上, 第1版, 克誠堂出版, 東京:119-128, 2023

## 眼科

---

- 野村耕治：眼球運動障害. 野村耕治編集. 小児眼科診療実践マニュアル, 日本医事新報社, 東京:83-99, 2023

## 耳鼻咽喉科

- 大津雅秀：聴力図の見方. 内藤泰／編. 「赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－」, 神戸市立医療センター中央市民病院 総合聴覚センター, 神戸：5-6, 2023
- 大津雅秀：補聴器活用の実際. 内藤泰／編. 「赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－」, 神戸市立医療センター中央市民病院 総合聴覚センター, 神戸：12-14, 2023
- 大津雅秀：聴力は正常なのにことばが遅い. 守本倫子／編. ENTONI(No.283, 2023年5月) 見逃さない！子どもののみみ・はな・のど外来診療<増刊号>, 全日本病院出版会, 東京：8-14, 2023年5月

## 麻酔科

- 徳永友里, 香川哲郎：麻酔器・麻酔回路. 橘一也編集. いますぐ知りたい 小児の気道・呼吸管理, 克誠堂出版, 東京：35-38, 2023
- 林大貴, 香川哲郎：気道評価. 橘一也編集. いますぐ知りたい 小児の気道・呼吸管理, 克誠堂出版, 東京：54-57, 2023
- 鶴房里彩, 香川哲郎：症候群と挿管困難. 橘一也編集. いますぐ知りたい 小児の気道・呼吸管理, 克誠堂出版, 東京：58-61, 2023
- 中井愛理, 香川哲郎：困難気道への対応. 橘一也編集. いますぐ知りたい 小児の気道・呼吸管理, 克誠堂出版, 東京：62-66, 2023
- 藤原孝志, 香川哲郎：先天性気管狭窄. 橘一也編集. いますぐ知りたい 小児の気道・呼吸管理, 克誠堂出版, 東京：203-206, 2023

## 新生児内科

- 松井紗智子, 岩谷壮太, 芳本誠司：RDSに対する対応－早期抜管しない. 周産期医学, 53巻1号, 東京医学社, 東京：16-18, 2023
- 小林孝生, 岩谷壮太：腹部エコー検査. with NEO, 春期増刊号, メディカ出版, 大阪：165-171, 2023
- 武岡恵美子, 樽井智：透明中隔欠損、中隔視神経形成異常症. 周産期マニュアル, 医学書院, 東京：2023

## 小児集中治療科

- Rogers' Textbook of Pediatric Intensive Care, sixth edition: Chapter 26 Cardiopulmonary Resuscitation. Hiroshi Kurosawa. Wolters Kluwer. 366-385. 2023
- Rogers' Textbook of Pediatric Intensive Care, sixth edition: Chapter 28 Invasive Procedures. Hiroshi Kurosawa. Wolters Kluwer. 403-423. 2023
- 黒澤寛史：集中治療超音波画像診断テキスト 一般社団法人日本集中治療医学会編：小児エコー, 中外医学社. 120-134. 2023
- こどもの入院管理ゴールデンルール. 笠井正志, 黒澤寛史, 上村克徳編. 医学書院. 2023
- 黒澤寛史：公衆衛生 特集：小児のCOVID-19とその対策：小児COVID-19の重症・中等症例. 医学書院. 525-530. 2023
- 黒澤寛史：小児科：新型コロナウイルス感染症の小児重症例についての総括. 金原出版. 416-423. 2023
- 黒澤寛史, 竹内宗之：ICUとCCU 特集：集中治療における診療報酬改定を読み解く：新生児・小児関連

の診療報酬見直し. 医学図書出版. 415-422. 2023

- 黒澤寛史:小児科専門医受験のための最速トレーニング144問「小児科臨床」編集委員会編:22救急. 279-287. 2023
- 宮下徳久, 黒澤寛史:小児救命救急・ICUピックアップ⑦ ECMO 日本集中治療研究会編. メディカルサイエンスインターナショナル. 317-334. 2023
- 小児内科 特集 小児の集中治療の実践-躬行実践-:基本項目 輸液・輸血戦略. 先瀆大, 黒澤寛史. 東京医学社. 55巻8号. 2023
- 小児内科 特集 小児の集中治療の実践-躬行実践-:高度な手技とそのコツ Bad newsをどう伝えるか. 青木一憲. 東京医学社. 55巻8号. 2023

## 看護部

---

- 鎌田直子. たんぽぽの会30周年に寄せて. しあわせのたね～たんぽぽの会結成30周年記念誌～. たんぽぽの会. 7p. 2023.

## 2) 雑誌発表

## 総合診療科

- Tamaki S, Iwatani S, Hagimoto S, Izumi A, Ikuta T, Takeoka E, Matsui S, Mimura H, Minamikawa S, Nakagishi Y, Yoshimoto S, Nakao H. Impact of tracheostomies on the long-term survival of patients with trisomy 13 syndrome. *Am J Med Genet A*. Nov; 191(11): 2736–2742, 2023.
- De Mutiis C, Wenderfer SE, Basu B, Bagga A, Orjuela A, Sar T, Aggarwal A, Jain A, Yap HK, Teo S, Ito S, Ohnishi A, Iwata N, Kasapcopur O, Yildiz M, Laurent A, Mastrangelo A, Ogura M, Shima Y, Rianthavorn P, Silva CA, Trindade V, Gianviti A, Akinori M, Hamada R, Fujimura J, Minamikawa S, Kamiyoshi N, Kaito H, Ishimori S, Iannuzzella F, Tullus K. International cohort of 382 children with lupus nephritis – presentation, treatment and outcome at 24 months. *Pediatr Nephrol*. Nov; 38(11): 3699–3709, 2023.
- 儀間香南子, 南川将吾, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. SIADHでの低Na血症にトルバプタンを使用しNa過剰補正を生じた重症心身障害児. *日本小児科学会雑誌*. 127巻12号: 1534–1539, 2023.
- 上田雅章, 港敏則, 小倉香奈子, 合田由香利, 田中裕也, 笠井正志. 診断に難渋した新生児疥癬 *日本小児科学会雑誌*. 127巻5号: 714–719, 2023.

## 救急科

- Yoshimura S, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Matsui S, Nishioka N, Okada Y, Makino Y, Kimata S, Kawai S, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T. Diagnostic test accuracy of life-threatening electrocardiographic findings (ST-elevation myocardial infarction equivalents) for acute coronary syndrome after out-of-hospital cardiac arrest without ST-segment elevation. *Resuscitation*. 2023 Jan 23:109700. doi: 10.1016/j.resuscitation.2023.109700. Epub ahead of print. PMID: 36702338.
- Matsui S, Kurosawa H, Hayashi T, Takei H, Tanizawa N, Ohnishi Y, Murata S, Ohnishi M, Henry Yoshii T, Miyawaki K, Matsumoto T, Tanaka R, Kiyohara K, Zha L, Kitamura T, Sobue T, Nitta M. Annual patterns in the outcomes and post-arrest care for pediatric out-of-hospital cardiac arrest: a nationwide multicenter prospective registry in Japan. *Resuscitation*. 2023 Aug 23:109942. doi: 10.1016/j.resuscitation.2023.109942. Epub ahead of print. PMID: 37625577.
- Nishioka N, Kobayashi D, Izawa J, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kiguchi T, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T. Association between blood urea nitrogen to creatinine ratio and neurologically favourable outcomes in out-of-hospital cardiac arrest in adults: A multicentre cohort study. *J Cardiol*. 2023 Apr 81(4):397–403. doi:10.1016/j.jjcc.2022.11.009. Epub 2022 Nov 18. PMID: 36410590.
- Yoshimura S, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Matsui S, Nishioka N, Okada Y, Makino Y, Kimata S, Kawai S, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami

T. Intra-Aortic Balloon Pump among Shockable Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients: A Propensity-Weighted Analysis in a Multicenter, Nationwide Observational Study in Japan (The JAAM-OHCA Registry). *J Clin Med.* 2023 Sep 13;12(18):5945. doi: 10.3390/jcm12185945. PMID: 37762886; PMCID: PMC10531972.

- Okada Y, Komukai S, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kiguchi T, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Nishioka N, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Kiyohara K, Zha L, Ong MEH, Iwami T, Kitamura T. In-hospital extracorporeal cardiopulmonary resuscitation for patients with out-of-hospital cardiac arrest: an analysis by time-dependent propensity score matching using a nationwide database in Japan. *Crit Care.* 2023 Nov 15;27(1):442. doi: 10.1186/s13054-023-04732-y. PMID: 37968720
- Kiyohara K, Matsui S, Ayusawa M, Sudo T, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Kitamura Y, Sobue T, Kitamura T; SPIRITS investigators. Basic life support for non-traumatic out-of-hospital cardiac arrests during school-supervised sports activities in children: A nationwide observational study in Japan. *Resusc Plus.* 2023 Dec 20;17:100531. doi: 10.1016/j.resplu.2023.100531. eCollection 2024 Mar. PMID: 38155977
- Sasaoka Y, Mori T, Takei H, Hagiwara Y, Nomura O. Risk stratification of extravasation during semi-automatic intraosseous device use in a pediatric emergency setting. *Pediatr Int.* 2023 Jan-Dec; 65(1):e15686.
- 星野雄介, 富所由佳, 河野達夫, 竹井寛和. 臨床に役立つ小児呼吸器超音波検査. *日本小児放射線学会雑誌.* 39巻(2):75-89, 2023.
- 吉井拓真, 松井鋭. ②救急場面での子どもの痛みと対応【さまざまな状況での子どもの痛みと対応小児】看護 子ども・家族と目指す: 痛みの緩和 株式会社へるす出版編集部. 46(3), 2023. 03.
- 松井鋭. 9. 薬物中毒とその管理(小児と成人の違い, 処置について)(E). *小児内科 特集 小児の集中治療の実践- 躬行実践 -* 東京医学社. 55(8), 2023. 08.

## 代謝・内分泌内科

---

- Tanaka H, Matsumoto M, Hong SW, Mitsuboshi A, Nagai M, Yoshino G, Otake S, Matsuo S, Yamada H, Kurosawa H, Kasai M, Ozaki K. Safe administration of sotrovimab to a COVID-19 patient with acute phase type 1 diabetes mellitus. *Clin Pediatr Endocrinol.* 32(2):110-113, 2023.
- Torii T, Taniguchi-Fukatsu A, Kawawaki M, Shimoura Y, Ozaki K. Long-Term Nutritional Counseling for a Patient with Lipoprotein Lipase Deficiency. *J Atheroscler Thromb.* Mar 5, 2023.
- Uemura S, Hasegawa D, Kishimoto K, Fujikawa T, Nakamura S, Kozaki A, Saito A, Ishida T, Mori T, Ozaki K, Kosaka Y. Association between conditioning intensity and height growth after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in children. *Cancer Med.* Aug;12(16):17018-17027, 2023.
- Yatani K, Kaito H, Inaguma Y, Otake Y, Tanaka R, Ozaki K, Iijima K. Underestimation of kidney function due to poorly controlled 21-hydroxylase deficiency *Pediatr Int.* Jan-Dec;65(1):e15578, 2023.

## リウマチ科

- Kaneko S, Shimizu M, Miyaoka F, Shimbo A, Irabu H, Mizuta M, Nakagishi Y, Iwata N, Fujimura J, Mori M, Morio T.; The Dynamics of laboratory markers reflecting cytokine overproduction in macrophage activation syndrome complicated with systemic juvenile idiopathic arthritis. *Clin Immunol.*248:109270, 2023.
- Shimizu M, Nishimura K, Iwata N, Yasumi T, Umebayashi H, Nakagishi Y, Okura Y, Okamoto N, Kinjo N, Mizuta M, Yashiro M, Yasumura J, Wakiguchi H, Kubota T, Mouri M, Kaneko U, Mori M.; Treatment for macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan. *Int J Rheum Dis.*26:938-945, 2023
- Mizuta M, Inoue N, Shimizu M, Sakumura N, Yokoyama T, Kuroda R, Ikawa Y, Sugimoto N, Harada K, Yachie A, Wada T.; Distinct roles of IL-18 and IL-1 $\beta$  in murine model of macrophage activation syndrome. *J Allergy Clin Immunol.*154:940-948.e6, 2023
- Kaneko S, Shimizu M, Shimbo A, Irabu H, Yokoyama K, Furuno K, Tanaka T, Ueno K, Fujita S, Iwata N, Fujimura J, Akamine K, Mizuta M, Nakagishi Y, Minato T, Watanabe K, Kobayashi A, Endo T, Tabata K, Mori M, Morio T.; Clinical significance of serum cytokine profiles for differentiating between Kawasaki disease and its mimickers. *Cytokine.*169:156280, 2023

## アレルギー科

- 田中裕也. 抗IL-5受容体抗体(ベンラリスマブ). *日本小児アレルギー学会誌.* 37(5) : 491-496, 2023.
- 田中裕也. 小児アトピー性皮膚炎の治療戦略. *大阪小児科医会会報*
- 田中裕也. 舌下免疫療法の先にあるもの. *チャイルドヘルス.* 26巻2号 : 116-119
- 松本泰右, 百々葉月, 田中裕也. 気管支喘息として治療に難渋しびまん性細気管支炎と診断した女児例. *小児内科*55(4) : 709-713
- 田中裕也. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー(FDEIA). *小児科*64巻4号. 360-364

## 神経内科

- Tanaka T, Yamaguchi H, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Toyoshima D, Maruyama A, Takeda H, Kurosawa H, Tanaka R, Nozu K, Nagase H. Clinical and laboratory characteristics of complex febrile seizures in the acute phase: a case-series study in Japan. *BMC Neurol.* 18;23(1):28, 2023.
- Tomioka K, Nishiyama M, Tokumoto S, Yamaguchi H, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Kurosawa H, Tada H, Sakuma H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H. Time course of serum cytokine level changes within 72 h after onset in children with acute encephalopathy and febrile seizures. *BMC Neurol.* 7;23(1):7, 2023.
- Yamane T, Ueda T, Nishiyama M, Hongo H, Ishida Y, Maruyama A. Anti-MOG antibody-positive meningoencephalitis without demyelinating lesions. *Pediatr Int.* 65(1): e15612, 2023.
- Nagase H, Yamaguchi H, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Nozu K, Maruyama A. Timing of therapeutic interventions against infection-triggered encephalopathy syndrome: a scoping review of the pediatric literature. *Front Neurosci.* 22;17:1150868, 2023.
- Hongo H, Nishiyama M, Ueda T, Ishida Y, Kasai M, Tanaka R, Nagase H, Maruyama A. Comparison of neurological manifestation in children with and without coronavirus 2019 experiencing seizures with

fever. *Epilepsy Behav Rep.* 5;24:10, 2023.

- Segawa K, Nishiyama M, Mori I, Kubota T, Takahashi MP. Hyperkalemic periodic paralysis associated with a novel missense variant located in the inner pore of Nav1.4. *Brain Dev.* 45(4):205–211, 2023.
- Hanafusa H, Yamaguchi H, Kondo H, Nagasaka M, Juan Ye M, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nishiyama M, Morisada N, Matsuo M, Nozu K, Nagase H. Dravet syndrome and hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome associated with an intronic deletion of SCN1A. *Brain Dev.* 45(6):317–323, 2023.
- Nishiyama M, Kyono Y, Yamaguchi H, Kawamura A, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nozu K, Nagase H. Association of early bedtime at 3 years of age with higher academic performance and better non-cognitive skills in elementary school. *Sci Rep.* 13(1):20926, 2023
- 上田拓耶, 本郷裕斗, 石田悠介, 西山将広, 豊嶋大作, 山口善道, 乗本周平, 木村暁夫, 丸山あずさ. 特徴的な画像所見により診断に至った自己免疫性グリア線維性酸性蛋白アストロサイトパチーの小児例 脳と発達. 55(6) : 438–442, 2023.

## 血液・腫瘍内科

---

- Nishimura A, Yokoyama K, Naruto T, Yamagishi C, Imamura T, Nakazono H, Kimura S, Ito M, Sagisaka M, Tanaka Y, Piao J, Namikawa Y, Yanagimachi M, Isoda T, Kanai A, Matsui H, Isobe T, Sato-Otsubo A, Higuchi N, Takada A, Okuno H, Saito S, Karakawa S, Kobayashi S, Hasegawa D, Fujisaki H, Hasegawa D, Koike K, Koike T, Rai S, Umeda K, Sano H, Sekinaka Y, Ogawa A, Kinoshita A, Shiba N, Miki M, Kimura F, Nakayama H, Nakazawa Y, Taga T, Taki T, Adachi S, Manabe A, Koh K, Ishida Y, Takita J, Ishikawa F, Goto H, Morio T, Mizutani S, Tojo A, Takagi M. Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a distinct leukemia type. *Sci Adv.* 2023 Dec 15;9(50):eadj4407. doi: 10.1126/sciadv.adj4407. Epub 2023 Dec 13.
- Mizuno S, Tsukamura Y, Nishio S, Ishida T, Hasegawa D, Kosaka Y, Ooka T, Nishi J, Kasai M. Catheter-related bloodstream infection caused by *Tsukamurella tyrosinosolvens* identified by *secA1* sequencing in an immunocompromised child: a case report. *Ann Clin Microbiol Antimicrob.* 2023 Nov 8;22(1):97. doi: 10.1186/s12941-023-00651-6.
- Okinaka K, Akeda Y, Inamoto Y, Fuji S, Ito A, Tanaka T, Kurosawa S, Kim SW, Tanosaki R, Yamashita T, Ohwada C, Kurata K, Mori T, Onozawa M, Takano K, Yokoyama H, Koh K, Nagafuji K, Nakayama K, Sakura T, Takahashi T, Oishi K, Fukuda T. Immunogenicity of three versus four doses of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine followed by 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine in allogeneic haematopoietic stem cell transplantation recipients: a multicentre, randomized controlled trial. *Clin Microbiol Infect.* 2023 Apr;29(4):482–489. doi: 10.1016/j.cmi. 2022.12.007.
- Inoue S, Win KHN, Mon CY, Fujikawa T, Hyodo S, Uemura S, Ishida T, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nishimura A, Nakatani N, Nino N, Tamura A, Yamamoto N, Nozu K, Nishimura N. Higher levels of minimal residual disease in peripheral blood than bone marrow before 1st and 2nd relapse/regrowth in a patient with high risk neuroblastoma: A case report. *Oncol Lett.* 2023 Jul 14; 26(3): 369. doi: 10.3892/ol. 2023.13955.
- Yoshida M, Saito A, Hasegawa D, Kosaka Y, Koyama J, Kawamura A, Akasaka Y, Soejima T. Focal glioneuronal differentiation in an atypical teratoid/rhabdoid tumor after chemoradiotherapy. *Pathol*

- Int. 2023 Aug;73(8):377-379. doi: 10.1111/pin.13354.
- Uemura S, Hasegawa D, Kishimoto K, Fujikawa T, Nakamura S, Kozaki A, Saito A, Ishida T, Mori T, Ozaki K, Kosaka Y. Association between conditioning intensity and height growth after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in children. *Cancer Med.* 2023 Jul 11. doi: 10.1002/cam4.6336.
  - Ishida H, Imamura T, Tatebe Y, Ishihara T, Sakaguchi K, Suenobu S, Sato A, Hashii Y, Deguchi T, Takahashi Y, Hasegawa D, Miyamura T, Iguchi A, Kato K, Saito-Moriya A, Hara J, Horibe K. Impact of asparaginase discontinuation on outcomes of children with acute lymphoblastic leukaemia receiving the Japan Association of Childhood Leukaemia Study ALL-02 protocol. *Br J Haematol.* 2023 Jun;201(6):1200-1208. doi: 10.1111/bjh.18745.
  - Hama A, Taga T, Tomizawa D, Muramatsu H, Hasegawa D, Adachi S, Yoshida N, Noguchi M, Sato M, Okada K, Koh K, Mitsui T, Takahashi Y, Miyamura T, Hashii Y, Kato K, Atsuta Y, Okamoto Y. Haematopoietic cell transplantation for children with acute megakaryoblastic leukaemia without Down syndrome. *Br J Haematol.* 2023 May;201(4):747-756. doi: 10.1111/bjh.18691.
  - Fukumitsu N, Kubota H, Mima M, Demizu Y, Suzuki T, Hasegawa D, Kosaka Y, Kawamura A, Soejima T. Comparison of Craniospinal Irradiation Using Proton Beams According to Irradiation Method and Initial Experience Treating Pediatric Patients. *Adv Radiat Oncol.* 2023 Apr 23;8(5):101251. doi: 10.1016/j.adro.2023.101251.
  - Sato A, Hatta Y, Imai C, Oshima K, Okamoto Y, Deguchi T, Hashii Y, Fukushima T, Hori T, Kiyokawa N, Kato M, Saito S, Anami K, Sakamoto T, Kosaka Y, Suenobu S, Imamura T, Kada A, Saito AM, Manabe A, Kiyoi H, Matsumura I, Koh K, Watanabe A, Miyazaki Y, Horibe K. Nelarabine, intensive L-asparaginase, and protracted intrathecal therapy for newly diagnosed T-cell acute lymphoblastic leukaemia in children and young adults (ALL-T11): a nationwide, multicenter, phase 2 trial including randomisation in the very high-risk group. *Lancet Haematol.* 2023 Jun;10(6):e419-e432. doi: 10.1016/S2352-3026(23)00072-8. Epub 2023 May 8.
  - Miyagawa N, Goto H, Ogawa A, Kikuta A, Kosaka Y, Sekimizu M, Tomizawa D, Toyoda H, Hiramatsu H, Hara J, Mochizuki S, Nakayama H, Yoshimura K, Iijima-Yamashita Y, Sanada M, Ogawa C. Phase 2 study of combination chemotherapy with bortezomib in children with relapsed and refractory acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol.* 2023 Aug;118(2):267-276. doi: 10.1007/s12185-023-03609-8. Epub 2023 May 1.
  - Mizuno S, Koyama J, Horikawa S, Kishimoto K, Hasegawa D, Kosaka Y, Kasai M. Cerebral venous sinus thrombosis after a third dose of mRNA COVID-19 vaccine in an adolescent. *Pediatr Blood Cancer.* 2023 Apr 26:e30376. doi: 10.1002/pbc.30376.
  - Morimoto A, Shioda Y, Kudo K, Kanegane H, Imamura T, Koh K, Kosaka Y, Yuza Y, Nakazawa A, Saito AM, Watanabe T, Nakazawa Y. Intensification of treatment with vinca alkaloid does not improve outcomes in pediatric patients with Langerhans cell histiocytosis: results from the JPLSG LCH-12 study. *Int J Hematol.* 2023 Jul;118(1):107-118. doi: 10.1007/s12185-023-03568-0. Epub 2023 Mar 4.
  - Okamoto T, Murata Y, Hasegawa D, Yoshida M, Tanaka D, Ueda T, Hazama D, Oduori OS, Komori S, Takai T, Saito Y, Kotani T, Kosaka Y, Maniwa Y, Matozaki T. Targeting of SIRP  $\alpha$  as a potential therapy for Langerhans cell histiocytosis. *Cancer Sci.* 2023 May;114(5):1871-1881. doi: 10.1111/

cas.15758. Epub 2023 Feb 27.

- Mizuno S, Fujikawa T, Uemura S, Hasegawa D, Kosaka Y, Kasai M. Nosocomial meningitis caused by *Staphylococcus haemolyticus* in a child with neutropenia in the absence of intracranial devices: a case report. *BMC Infect Dis.* 2023 Feb 14;23(1):95. doi: 10.1186/s12879-023-08059-5.
- Kameoka Y, Okata Y, Toyama H, Yoshimura S, Uemura S, Hatakeyama T, Bitoh Y. Laparoscopic Necrosectomy for walled-off necrosis following necrotizing pancreatitis. *Pediatr Int.* 2023 Jan-Dec;65(1):e15569. doi: 10.1111/ped.15569.

## 循環器内科

---

- 松本泰右, 田中敏克, 近藤亜耶, 永尾宏之, 三木康暢, 松岡道生. 小児における適切な逆行性門脈造影法. *日本小児科学会雑誌.* 127巻7号 : 944-948, 2023

## 腎臓内科

---

- Nagai S, Horinouchi T, Ninchoji T, Ichikawa Y, Tanaka Y, Kitakado H, Ueda C, Kondo A, Aoto Y, Sakakibara N, Kaito H, Tanaka R, Shima Y, Fujimura J, Kamiyoshi N, Ishimori S, Nakanishi K, Yoshikawa N, Iijima K, Nozu K. Long-term outcome of combination therapy with corticosteroids, mizoribine and RAS inhibitors as initial therapy for severe childhood IgA vasculitis with nephritis. *Pediatr Nephrol.* 2023 Dec; 38(12):4023-4031. doi: 10.1007/s00467-023-06052-3. Epub 2023 Jun 29. PMID: 37380934.
- Nozu K, Sako M, Tanaka S, Kano Y, Ohwada Y, Morohashi T, Hamada R, Ohtsuka Y, Oka M, Kamei K, Inaba A, Ito S, Sakai T, Kaito H, Shima Y, Ishikura K, Nakamura H, Nakanishi K, Horinouchi T, Konishi A, Omori T, Iijima K. Rituximab in combination with cyclosporine and steroid pulse therapy for childhood-onset multidrug-resistant nephrotic syndrome: a multicenter single-arm clinical trial (JSKDC11 trial). *Clin Exp Nephrol.* 2023 Nov 27. doi: 10.1007/s10157-023-02431-0. Epub ahead of print. PMID: 38010466.
- De Mutiis C, Wenderfer SE, Basu B, Bagga A, Orjuela A, Sar T, Aggarwal A, Jain A, Yap HK, Teo S, Ito S, Ohnishi A, Iwata N, Kasapcopur O, Yildiz M, Laurent A, Mastrangelo A, Ogura M, Shima Y, Rianthavorn P, Silva CA, Trindade V, Gianviti A, Akinori M, Hamada R, Fujimura J, Minamikawa S, Kamiyoshi N, Kaito H, Ishimori S, Iannuzzella F, Tullus K. International cohort of 382 children with lupus nephritis – presentation, treatment and outcome at 24 months. *Pediatr Nephrol.* 2023 Nov;38(11):3699-3709. doi: 10.1007/s00467-023-06018-5. Epub 2023 May 24. PMID: 37221349.
- Yatani K, Kaito H, Inaguma Y, Otake Y, Tanaka R, Ozaki K, Iijima K. Underestimation of kidney function due to poorly controlled 21-hydroxylase deficiency. *Pediatr Int.* 2023 Jan-Dec; 65(1) :e15578. doi: 10.1111/ped.15578. PMID: 37515357.

## 感染症内科

---

- Mizuno S, Koyama J, Kurosawa H, Kasai M. Treatment optimization by monitoring vancomycin concentration in the serum and cerebrospinal fluid in a child with cystoperitoneal shunt-related infection caused by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: a case report and literature review. *Childs Nerv Syst.* 39:3307-10, 2023

- Mizuno S, Yokoyama K, Nukada T, Hara S. Waterhouse-Friderichsen Syndrome and Central Diabetes Insipidus Due to Escherichia coli Meningitis. JCEM Case Rep. 1: luac031, 2023
- Mizuno S, Tsukamura Y, Nishio S, Ishida T, Hasegawa D, Kosaka Y, Ooka T, Nishi J, Kasai M. Catheter-related bloodstream infection caused by Tsukamurella tyrosinosolvens identified by secA I sequencing in an immunocompromised child: a case report. Ann Clin Microbiol Antimicrob. 22:97, 2023
- Mizuno S, Fujikawa T, Uemura S, Hasagawa D, Kosaka Y, Kasai M. Nosocomial meningitis caused by Staphylococcus haemolyticus in a child with neutropenia in the absence of intracranial devices: a case report. BMC Infect Dis. 23:95, 2023
- Mizuno S, Koyama J, Horikawa S, Kishimoto K, Hasagawa D, Kosaka Y, Kasai M. Cerebral venous sinus thrombosis after a third dose of mRNA COVID-19 vaccine in an adolescent. Pediatric Blood & Cancer. 70:e30376, 2023
- Mizuno S, Kasai M. Hospital Burden and Characteristics of COVID-19 at a Children's Hospital. Pediatric International. 65:e15528, 2023
- Otake S, Kusama Y, Tsuzuki S, Myojin S, Kimura M, Kamiyoshi N, Takumi T, Ishida A, Kasai M. Comparing the effects of antimicrobial stewardship at primary emergency centers. Pediatr Int. 2023 Jan-Dec; 65(1):e15614.
- Otake S, Ikenoue C, Sudani N, Kobayashi M, Takahashi K, Shimada T, Yoshimi I, Saito T, Sunagawa T. National Surveillance of Pediatric Acute Hepatitis of Unknown Etiology, Japan, October 2021-December 2022. Emerg Infect Dis. 2023 Jun; 29(6):1288-1291.
- Tanaka H, Matsumoto M, Hong SW, Mitsuboshi A, Nagai M, Yoshino G, Otake S, Matsuo S, Yamada H, Kurosawa H, Kasai M, Ozaki K. Safe administration of sotrovimab to a COVID-19 patient with acute phase type 1 diabetes mellitus. Clin Pediatr Endocrinol. 2023;32(2):110-113.
- Kinoshita R, Sassa M, Otake S, Yoshimatsu F, Shi S, Ueno R, Suzuki M, Yoneoka D. Impact of airline network on the global importation risk of mpox, 2022. Epidemiol Infect. 2023 Mar 21;151:e60.
- Kuribayashi M, Otake S, Kamiyoshi N, Naito S, Yamamoto Y, Shirai K, Fujisawa K, Kasai M, Kugo M. Clinical influence of multiplex polymerase chain reaction routine uses in urgent pediatric admissions. Pediatr Int. 2023 Jan-Dec; 65(1):e15525.
- Sueda A, Otake S, Kasai M, Kagawa T. The usefulness of a nasopharyngeal multiplex polymerase chain reaction system to screen pediatric patients with preoperative fever. Acta Anaesthesiol Scand. 2023 Jul; 67(6):724-729.
- Aida Y, Minamikawa S, Mizuta M, Otake S, Nakagishi Y. Delayed pneumomediastinum following oropharyngeal injury: A report of two pediatric cases. Trauma. 2023 July; 25(3):262-264
- Fukuda A, Otake S, Kimura M, Natsuki A, Ishida A, Kasai M. Trend of oral antimicrobial use after removal of broad-spectrum antimicrobials from the formulary at a pediatric primary emergency medical center. J Infect Chemother. 2023 May; 29(5):502-507.
- Yabushita H, Otake S, Iida S, Katano H, Suzuki T, Kasai M. Plastic Bronchitis of Human Bocavirus 1 Detected by Comprehensive Polymerase Chain Reaction of Mucus Casts. Jpn J Infect Dis. 2023 Mar 24;76(2):155-158.
- Momo OM, Otake S, Minamikawa S, Ohkusu K, Nakagishi Y. Painless subcutaneous abscess caused by

bacillus Calmette-Guérin osteomyelitis. *Pediatr Int.* 2023 Jan; 65(1):e15381.

- Hongo H, Nishiyama M, Ueda T, Ishida Y, Kasai M, Tanaka R, Nagase H, Maruyama A. Comparison of neurological manifestation in children with and without coronavirus 2019 experiencing seizures with fever. *Epilepsy Behav Rep.* 2023 Oct 5;24:100625. doi: 10.1016/j.ebr.2023.100625.
- Mitsuboshi A, Kishimoto K, Ito Y, Ishida T, Kasai M, Hasegawa D, Kosaka Y. Incidence and Causative Organisms of Bacteriuria in Children With Cancer: A 9-Year Experience in a Tertiary Pediatric Center. *J Pediatr Hematol Oncol.* 2023 Jan 1;45(1):21-24.
- 水野真介. *Campylobacter jejuni*による新生児菌血症の1例. *日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌.* 37: 59, 2023
- 大竹正悟, 島田智恵, 砂川富正, 新橋玲子, 有馬雄三, 鈴木基, 梶原俊毅, 矢原耕史, 北村徳一, 山岸拓也, 黒須一見, 菅井基行. 基幹定点医療機関とJANISにおけるペニシリン耐性肺炎球菌感染症報告の推移. *IASR Vol. 44*: p16-17, 2023
- 上田雅章, 港敏則, 小倉香奈子, 合田百合利, 田中裕也, 笠井正志. 診断に難渋した新生児疥癬. *日本小児科学会雑誌.* 127(5): 714-719, 2023

## 臨床遺伝科

---

- Hiromoto K, Morisada N, Tairaku S, Nozu K, Iijima K, Funakoshi T. Genetic autopsy and genetic counseling for a case of fatal oligohydramnios due to de novo 17q12 deletion syndrome. *J Obstet Gynaecol Res.* 49: 1624-1627, 2023
- Kawanami Y, Horinouchi T, Morisada N, Kato T, Nozu K. 4q25 Microdeletion with Axenfeld-Rieger Syndrome and Developmental Delay. *Case Rep Genet.* 4592114, 2023
- Hanafusa H, Yamaguchi H, Kondo H, Nagasaka M, Juan Ye M, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nishiyama M, Morisada N, Matsuo M, Nozu K, Nagase H. Dravet syndrome and hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome associated with an intronic deletion of SCN1A. *Brain Dev.* 45: 317-323, 2023
- 村越由佳, 櫻谷浩志, 遠藤翔太, 横田俊介, 権田裕亮, 森貞直哉, 野津寛大, 藤永周一郎. 乳児期に急速に末期腎不全に至ったWDR19変異によるSenior-Loken症候群の女児例. *日本小児腎不全学会雑誌.* 43: 96-99, 2023
- 花房宏昭, 森貞直哉, 長坂美和子, 叶明娟, 野口裕子, 長野智那, 野津寛大, 栗野宏之. Basilicata-Akhtar syndrome derived from a nullisomy of the MSL3 region in a Japanese boy. *脳と発達.* 55: 279-282, 2023
- 辻本泰貴, 山本直希, 福満隼人, 坂東弘教, 山本雅昭, 廣田勇士, 田中敬子, 森貞直哉, 長坂美和子, 福岡秀規, 小川渉. 骨粗鬆症を契機に診断に至ったLoeys-Dietz症候群の一例. *日本内分泌学会雑誌.* 99 Suppl.: 29-31, 2023
- 森貞直哉. 【腎・泌尿器疾患－血尿から移植まで】 病因研究・遺伝子診断の進歩 先天性腎尿路異常, ネフロン癆. *小児内科.* 55: 1197-1202, 2023
- 森貞直哉, 洪本加奈. 【腎臓病外来：マネジメントとコツ】 疾患別外来(初診・再診含めて) 遺伝性腎疾患. *腎と透析.* 94: 577-581, 2023
- 松本培世, 内山美穂子, 平久進也, 小阪嘉之, 森貞直哉, 篠澤圭子, 木内英, 船越徹. 前児の頭蓋内出血を契機に判明した重症型血友病B確定保因者の妊娠・分娩管理. *産婦人科の実際.* 72: 437-443, 2023

- Hiromoto K, Yamada T, Tsuchiya M, Kawame H, Nanba E, Goto Y, Kosugi S. Challenges of secondary finding disclosure in genomic medicine in rare diseases: A nation-wide survey of Japanese facilities outsourcing comprehensive genetic testing. *J Hum Genet.* 68(1):1-9, 2023
- Hiromoto K, Nishigaki M, Kosugi S, Yamada T. Reproductive decision-making following the diagnosis of an inherited metabolic disorder via newborn screening in Japan: a qualitative study. *Front Reprod Health.* 5:1098464, 2023

### 小児外科

---

- 森田圭一. 【新生児外科系気道疾患】先天性気管支奇形(気管狭窄、CBPFM、気管無形成)に対する外科治療. *日本周産期・新生児医学会雑誌.* 58:839-841, 2023
- 高成田祐希, 竹内雄毅, 出水祐介, 矢下博輝, 森健, 植村優, 長谷川大一郎, 副島俊典, 畠山理. 切除困難な小児Ewing肉腫に対して吸収性スペーサー留置術併用陽子線治療を施行した2例. *日本小児外科学会雑誌.* 59:1082-1087, 2023
- 畠山理. 【喉頭・気管病変 治療の工夫と予後】気管軟化症に対する治療アルゴリズム. *小児外科.* 55:1082-1085, 2023
- 森田圭一, 松久弘典, 土井一記, 竹内雄毅, 畠山理. 【喉頭・気管病変 治療の工夫と予後】先天性気管狭窄に対するslide tracheoplasty術式の工夫. *小児外科.* 55:1107-1110, 2023
- 中谷太一, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 【喉頭・気管病変 治療の工夫と予後】先天性気管狭窄に対するslide tracheoplasty長期予後. *小児外科.* 55:1118-1123, 2023
- 横井暁子, 松村由美. 【Just Cultureと医療安全】医療事故当事者へのインタビューのあり方 Just Cultureの観点から. *医療と安全.* 16:9-15, 2023
- Morita K, Takanarita Y, Matsushima S, Hatakeyama T. Partial median sternotomy approach for the repair of esophageal atresia. *Pediatrics International* 65:1-2
- Uematsu A, Morita K, Hatakeyama T, Yoshida M. Juvenile polyp in a pediatric patient with adenocarcinoma *Pediatrics International* 65:1-2
- Morita K, Higuma T, Kuroda Y, Miyauchi H, Hatakeyama T. Aortopexy with pericardiopexy for tracheomalacia in right pulmonary agenesis.
- Kuroda Y, Morita K, Toyoshima Y, Kamei N, Hatakeyama T. Anomalous systemic arterial supply to the basal segment of the left lung: The role of azygography. *Pediatrics International* 65:1-3
- Masaki Horiike, Hitomi Mimura, Akiko Yokoi. Prognosis and clinical issues of esophageal atresia in extremely low birth weight neonates: a case series. *BMC Pediatrics* 23:401

### 心臓血管外科

---

- Abeln KB, Matsushima S, Ehrlich T, Giebels C, Schäfers HJ. The Ross procedure versus repair for treatment of a unicuspid aortic valve in adults. *Eur J Cardiothorac Surg.* 64: ead118, 2023.
- Tsukishiro Y, Yamamoto H, Matsuhisa H, Takaya T. Multimodal Images of Original Blalock-Taussig Shunt-Related Giant Aneurysm in an Adult With Congenital Heart Disease. *Circ J.* 87:380, 2024.
- Morita K, Takanarita Y, Matsushima S, Hatakeyama T. Partial median sternotomy approach for the repair of esophageal atresia. *Pediatr Int.* 65: e15601, 2023.
- Tsuji E, Morita K, Matsuhisa H, Bitoh Y, Hatakeyama T. Incidence of congenital tracheal stenosis in

left pulmonary artery sling diagnosed by bronchoscopy. *Pediatr Surg Int.* 39 : 240, 2023.

## 脳神経外科

---

- Yamashita S, Imahori T, Koyama J, Tanaka K, Okamura Y, Arai A, Iwahashi H, Mori T, Onobuchi K, Sasayama T. Endovascular Treatment of Tandem Atherosclerotic Cervical Internal Carotid Artery Occlusion in the Setting of Acute Ischemic Stroke. *Vasc Endovascular Surg.* 57: 137-148, 2023
- Shimasaki T, Akutsu N, Koyama J, Tachizawa N, Kawamura A, Sasayama T. Pediatric intraparenchymal meningioma in the basal ganglia treated with gross total resection: a case report and review of the literature. *Childs Nerv Syst.* 39: 3595-3600, 2023
- 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 頭蓋縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切除術. *小児の脳神経.* 48巻3号 : 251-255, 2023
- Fujita Y, Uozumi Y, Akutsu N, Sasayama T, Kohmura E. Delayed facial palsy after resection of vestibular schwannoma: does it influence long-term facial nerve functional outcomes? *J Neurosurg.* 2023 Dec 15:1-9. doi: 10.3171/2023.10.JNS231581. Epub ahead of print. PMID: 38100764.
- Shimasaki T, Akutsu N, Koyama J, Tachizawa N, Kawamura A, Sasayama T. Pediatric intraparenchymal meningioma in the basal ganglia treated with gross total resection: a case report and review of the literature. *Childs Nerv Syst.* 2023 Jun 27. doi: 10.1007/s00381-023-06056-2. Epub ahead of print. PMID: 37369950.
- Kato M, Nonaka M, Akutsu N, Narisawa A, Harada A, Park YS. Correlations of intracranial pathology and cause of head injury with retinal hemorrhage in infants and toddlers: A multicenter, retrospective study by the J-HITs (Japanese Head injury of Infants and Toddlers study) group. *PLoS One.* 2023 Mar 17;18(3) :e0283297. doi: 10.1371/journal.pone.0283297. PMID: 36930676; PMCID: PMC10022784.

## 整形外科

---

- 薩摩眞一. 小児の歩容異常 -外来診療でのコツと治療の考え方-. *日整会誌.* 97 : 273-284, 2023.
- 薩摩眞一. 幼児期の歩行異常とその原因疾患(こどもの歩行異常はどう評価する? ②). *保育と保健ニュース.* 99 : 5, 2023.
- 薩摩眞一. 幼児期の歩行異常とその原因疾患(こどもの歩行異常はどう評価する? ③). *保育と保健ニュース.* 100 : 4, 2023.
- 坂田亮介, 薩摩眞一, 米田梓, 北村仁美. 放射線治療後に大腿骨頭すべり症を発症した1例. *中部日本整形外科災害外科学会雑誌.* 66(4) : 565-566, 2023.
- 衣笠真紀. 多指症、内反足、股関節脱臼. *周産期医学.* 673-676, 2023.
- Kinugasa M, Inui A, Satsuma S, Kobayashi D, Sakata R, Morishita M, Komoto I, Kuroda R. Diagnosis of developmental dysplasia of the hip by ultrasound imaging using deep learning. *J Pediatr Orthop.* 43:e538-e544, 2023.
- 森下雅之, 藤田郁夫, 小林大介, 竹森俊幸, 藤本卓也, 北村仁美, 米田梓, 河本和泉, 衣笠真紀, 坂田亮介, 薩摩眞一. 多発性骨軟骨腫症に発生した軟骨肉腫4例の検討. *日本整形外科学会雑誌.* 97 : 1086-1088, 2023

## 眼科

---

- 河原佳奈, 牧仁美, 中野由美子, 野村耕治. 内斜視術後症例における外斜視への移行期間、経過に関する検討. 眼科臨床紀要. 16(3). 219-223, 2023
- Tetsuro Oshika, MD, Takao Endo, MD, Daijiro Kurosaka, MD, Naoko Matsuki, MD, Mai Miyagi MD, Takafumi Mori, MD, Toshiyuki Nagamoto, MD, Kazuno Negishi, MD, Sachiko Nishina, MD, Koji Nomura, MD, Noriyuki Unoki, MD, Shigeo Yoshida, MD. Long-term surgical outcomes of pediatric cataract – multivariate analysis of prognostic factors. Sci Rep. 13-20, 2023

## 耳鼻咽喉科

---

- 勝沼紗矢香, 大津雅秀. 当院における先天性片側外耳道閉鎖症例に対する臨床管理. 小児耳鼻咽喉科. 44巻1号: 78-85, 2023.
- Komatsu T, Furukawa T, Kobayashi D, Iwatani S, Yoshimoto S, Yamashita T, Endo Y, Katsunuma S, Otsu M, Nibu KI. Influences of Orogastric and Nasogastric Tubes on Sucking Pressure during Bottle Feeding in Immature Infants. Kobe J Med Sci. 69(1):E25-E32,2023.
- Shoko Tamaki, Sota Iwatani, Sayaka Katsunuma, Masahide Otsu, Seiji Yoshimoto. Characteristics of hearing impairment in patients with trisomy 18. Am J Med Genet A. doi: 10.1002/ajmg.a.63358. Epub 2023 Jul 26.

## 泌尿器科

---

- 杉多良文. 【小児期に治療を受けた下部尿路疾患; ~思春期以降の問題点と対策~】先天性難治性下部尿路疾患(総排泄腔外反症・膀胱外反症)の成人期移行への問題. 日本排尿機能学会誌. 33巻2号. 387-392. 2023-07
- 波越朋也. 【尿道下裂修復術(free graft法)後の尿流測定による排尿機能評価】. 日本排尿機能学会誌. 34巻1号. 334. 2023-07
- 神野雅, 豊未都樹, 春名晶子, 杉多良文. 【停留精巣】小児期精巣関連疾患の診断と治療. 小児外科 vol55 No9, 916-919, 2023-9
- 春名晶子, 中井秀朗. 【昼間尿失禁の診療フロー】. 臨床泌尿器科. vol77 No.12, 956-962, 2023-11
- 杉多良文. 【第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を開催して】 Urology Today. vol30. No.2, 54(126)-55(127), 2023-12

## 麻酔科

---

- 藤原孝志, 香川哲郎. 症例カンファレンス 小児の気道異物摘出術. LiSA. 30: 98-99, 2023.
- 上嶋江利, 香川哲郎. 小児の日帰り精巣固定術の流れ. LiSA. 3: 346-350, 2023.
- 末田彩. ◎○△しかく 日本小児麻酔学会認定医. LiSA. 30: 282-282, 2023.
- Takashi Fujiwara, Tetsuro Kagawa. Ultrasound-guided dorsal penile nerve block in children: In-plane technique. Pediatric Anesthesia. 33: 499, 2023.
- Aya Sueda, Shogo Otake, Masashi Kasai, Tetsuro Kagawa. The usefulness of a nasopharyngeal multiplex polymerase chain reaction system to screen pediatric patients with preoperative fever. Acta Anaesthesiologica Scandinavica. 67: 724-729, 2023.
- Yoshihito Shimazu, Aya Sueda, Tetsuro Kagawa. Management of muscle relaxation with rocuronium

in an infant with spinal muscular atrophy with lower extremity predominance type 2B. *Anaesthesia Reports*. 11: e12248, 2023.

- 藤原孝志. Asian Society of Paediatric Anaesthesiologists (ASPA) 2023 大会に参加して. *日本小児麻酔学会誌*. 29: 84-86, 2023.
- 末田彩. アジア小児麻酔学会2023に参加して. *日本小児麻酔学会誌*. 29: 87-90, 2023.
- 上嶋江利, 香川哲郎. 小児超音波ガイド下神経ブロック. *麻酔*. 72: 1038-1044, 2023.
- A. Sueda, T. Kagawa, T. Kojima. Quality improvement in paediatric preoperative screening: a Japanese perspective. *Anaesthesia Reports*. 11: e12267, 2023.
- 末田彩. とりのDAMカート 兵庫県立こども病院. *LiSA*. 30: 1139-1141, 2023.

## 新生児内科

---

- Komatsu T, Furukawa T, Kobayashi D, Iwatani S, Yoshimoto S, Yamashita T, Katsumura S, Otsu M, Nibu K. Influences of orogastric and nasogastric tubes on sucking pressure during bottle feeding in immature infants. *Kobe J Med Sci*. 69(1): E25-E32, 2023
- Iwatani S, Goto H, Saito T, Okutani T, Yoshimoto S. Therapeutic benefits of prone positioning in a newborn with meconium aspiration syndrome. *Pediatr Neonatol*. 65(1): 96-97, 2023.
- Honbe K, Hayakawa M, Morioka I, Arai H, Maruo Y, Kusaka T, Kunikata T, Iwatani S, Okumura A. Current Status of Neonatal Jaundice Management in Japan. *Pediatr Int*. 65(1): e15617, 2023
- Tamaki S, Iwatani S, Katsunuma S, Ootsu M, Yoshimoto S. Characteristics of hearing impairment in patients with trisomy 18. *Am J Med Genet A*. 194(1): 107-110, 2023.
- Goto H, Iwatani S, Ikuta T, Yoshimoto S. Hypoalbuminemia in gastroschisis newborns. *Congenital Anomalies*. 63(6): 214-216, 2023.
- Tamaki S, Iwatani S, Hagimoto S, Izumi A, Ikuta T, Takeoka E, Matsui S, Mimura H, Minamikawa S, Nakagishi Y, Yoshimoto S, Nakao H. Impact of tracheostomy on the long-term survival of patients with trisomy 13 syndrome. *Am J Med Genet A*. 191(11): 2736-2742, 2023.
- Goto H, Iwatani S, Ikuta T, Kurita Nakayama, Masaaki Ueda, Hatakeyama T, Yoshimoto S. Successful management of biliary atresia in an 834 g preterm infant. *Pediatr Int*. 65(1): e15665, 2023.
- Okumura A, Morioka I, Arai H, Hayakawa M, Maruo Y, Kusaka T, Kunikata T, Iwatani S. Second Nationwide Survey of Bilirubin Encephalopathy in Preterm Infants in Japan. *Brain Dev*. 46(1): 2-9, 2023.
- Kobayashi T, Iwatani S, Morita K, Hatakeyama T, Yoshimoto S. Rigid laryngoscopy for subglottic stenosis in extremely premature infant. *Pediatr Int*. 65(1): e15688, 2023.
- Ikuta T, Iwatani S, Yoshimoto S. Determination and verification of reference intervals of serum immunoglobulin G at birth. *Ann Clin Biochem*. 2023, in press
- Takeuchi Y, Nomura A, Yamato M, Ohfuji S, Fujii S, Yoshimoto S, Funakoshi T, Shinkai M, Urushihara N, Yokoi A. The Association between the First Cry and Clinical Outcomes in CDH Neonates: A Retrospective Study. *Children*. 10(7): 1145, 2023.
- Horioko M, Mimura H, Yokoi A. Prognosis and clinical issues of esophageal atresia in extremely low birth weight neonates: a case series. *BMC Pediatrics*. 23(1): 401, 2023.
- 岩谷壮太, 芳本誠司. 遠隔期合併症としての脊椎側湾症に対して後方固定術を行った先天性横隔膜ヘル

ニアの一例. 周産期医学. 53(9) : 1389-1393, 2023

- 小林正樹, 大城誠, 岩谷壮太, 岡崎薫, 木下大介, 高橋尚人, 田中太平, 戸石悟司, 徳永康行, 野崎昌俊, 久田研, 森岡一朗. 新生児治療室におけるロタウイルスワクチン接種の現状: 全国調査. 小日本新生成育医学学会雑誌. 35(1) : 104-112, 2023.
- 小林孝生, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 超低出生体重児の遅発型敗血症の発症頻度とその特徴 - 三次周産期医療センターにおける検討. 日本周産期新生児医学会誌. 59(2) : 174-180, 2023.
- 中山栗太, 岩谷壮太, 萩元慎二, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 総合周産期母子医療センターで出生する多胎児の増加. 日本周産期新生児医学会雑誌. 59(3) : 343-348, 2023.
- 西内徳子, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 三村仁美, 南川将吾, 中岸保夫, 芳本誠司. 難聴を先天性サイトメガロウイルス感染症の症候と判断したDown症候群の児. 周産期医学, 2024, 印刷中.

## 産科

- 松本培世, 内山美穂子, 平久進也, 小阪嘉之, 森貞直哉, 篠澤圭子<sup>1)</sup>, 木内英<sup>1)</sup>, 船越徹. 1) 東京医科大学臨床検査医学分野. 前児の頭蓋内出血を契機に判明した重症型血友病B確定保因者の妊娠・分娩管理. 産婦人科の実際. 72 : 437-443, 2023.
- 松本培世, 平久進也, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荻野美智, 船越徹. 二絨毛膜二羊膜双胎の1児胎内死亡後にdelayed interval delivery (DID)で出産となった1例. 産婦人科の進歩. 75 : 51-56, 2023.
- 大和奈津子, 窪田詩乃, 金子めぐみ, 荻野美智, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 分娩進行中に前置血管が顕在化した1例. 産婦人科の進歩. 75 : 45-50, 2023.
- Tanimura K, Uchida A, Uenaka M, Imafuku H, Tairaku S, Hashimura H, Ueno Y, Kido T, Fujioka K. Fetal Ultrasound and Magnetic Resonance Imaging Abnormalities in Congenital Cytomegalovirus Infection Associated with and without Fetal Growth Restriction. *Diagnostics (Basel)*. 13(2):306-319, 2023.

## 小児集中治療科

- Ong GY, Kurosawa H, Ikeyama T, Park JD, Katanyuwong P, Reyes OCF, Wu E-T, Hon KLE, Maconochie IK, Shepard LN, Nadkarni VM, Ng KC. Comparison of Paediatric Basic Life Support Guidelines Endorsed by Member Councils of Resuscitation Council of Asia. *Resusc Plus* 2023;16:100506
- Berg KM, Bray JE, Ng K-C, Liley HG, Greif R, Carlson JN, Morley PT, Drennan IR, Smyth M, Scholefield BR, Weiner GM, Cheng A, Djärv T, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Andersen LW, Atkins DL, Berry DC, Bhanji F, Bierens J, Couto TB, Borra V, Böttiger BW, Bradley RN, Breckwoldt J, Cassan P, Chang WT, Charlton NP, Chung SP, Considine J, Costa-Nobre DT, Couper K, Dainty KN, Dassanayake V, Davis PG, Dawson JA, de Almeida MF, De Caen AR, Deakin CD, Dicker B, Douma MJ, Eastwood K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Fijacko N, Finn JC, Flores GE, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian A-M, Guinsburg R, Hatanaka T, Hirsch KG, Holmberg MJ, Hosono S, Hsieh M-J, Hsu CH, Ikeyama T, Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami MD, Kim H-S, Kleinman ME, Kloeck DA, Kudenchuk P, Kule A, Kurosawa H, Lagina AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin Y, Lockey AS, Macneil F, Maconochie IK, Madar RJ, Hansen CM, Masterson S, Matsuyama T, McKinlay CJD, Meyran D, Monnelly V, Nadkarni V, Nakwa

- FL, Nation KJ, Nehme Z, Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, Ohshimo S, Olasveengen TM, Ong Y-KG, Orkin AM, Parr MJ, Patocka C, Perkins GD, Perlman JM, Rabi Y, Raitt J, Ramachandran S, Ramaswamy VV, Raymond TT, Reis AG, Reynolds JC, Ristagno G, Rodriguez-Nunez A, Roehr CC, Rüdiger M, Sakamoto T, Sandroni C, Sawyer TL, Schexnayder SM, Schmölder GM, Schnaubelt S, Semeraro F, Singletary EM, Skrifvars MB, Smith CM, Soar J, Stassen W, Sugiura T, Tijssen JA, Topjian AA, Trevisanuto D, Vaillancourt C, Wyckoff MH, Wyllie JP, Yang C-W, Yeung J, Zelop CM, Zideman DA, Nolan JP. 2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Circulation* 2023;148:e187–e280.
- Tomioka K, Nishiyama M, Tokumoto S, Yamaguchi H, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Kurosawa H, Tada H, Sakuma H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H. Time Course of Serum Cytokine Level Changes within 72 h after Onset in Children with Acute Encephalopathy and Febrile Seizures. *BMC Neurology* 2023;23:7.
  - Yao S, Chong S-L, Allen JC, Dang H, Ming M, Chan LCN, Gan CS, Ji J, Fan L, Kurosawa H, Lee JH. Early Metabolic Derangements and Unfavorable Outcomes in Pediatric Traumatic Brain Injury: A Retrospective Multi-Center Cohort Study. *Translational Pediatrics* 2023;12:344–353.
  - Matsui S, Kurosawa H, Hayashi T, Takei H, Tanizawa N, Ohnishi Y, Murata S, Ohnishi M, Yoshii TH, Miyawaki K, Matsumoto T, Tanaka R, Kiyohara K, Zha L, Kitamura T, Sobue T, Nitta M. Annual patterns in the outcomes and post-arrest care for pediatric out-of-hospital cardiac arrest: A nationwide multicenter prospective registry in Japan. *Resuscitation* 2023;191:109942.
  - Sugimoto K, Levman J, Baig F, Berger D, Oshima Y, Kurosawa H, Aoki K, Seino Y, Ueda T, Liu H, Miyaji K. Machine learning predicts blood lactate levels in children after cardiac surgery in paediatric ICU. *Cardiology in the Young* 2023;33:388–395.
  - Aoki K, Kurosawa H, Shirasawa A, Shiomi Y, Seino Y. The respiratory elastance ratio in thanatophoric dysplasia: A case report. *Pediatric International* 2023;65:e15534.
  - Haga T, Tani M, Oi T, Sakihama H, Sasaki K, Fujiwara N, Miyaji M, Okada H, Itakura R, Noda S, Wada S, Yamagami Y, Koizumi T, Horikawa A, Omori N, Sato M, Morota J, Ide K. The Japanese Pediatric Continuous Renal Replacement Therapy (jpCRRT) Registry: Study Protocol. *Annals of Clinical Epidemiology* 2023;5:121–126.

## 病理診断科

- 山口貴子, 吉田牧子, 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史, 乗本周平, 赤坂好宣, 岸本健治, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. SHH-activated and TP53-wild type medulloblastoma の1例. *日本小児血液・がん学会雑誌*. 60巻1号:92頁, 2023
- Makiko Yoshida, Atsuro Saito, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Junji Koyama, Atsufumi Kawamura, Yoshinobu Akasaka, Toshinori Soejima; Focal glioneuronal differentiation in an atypical teratoid/rhabdoid tumor after chemoradiotherapy. *Pathol Int*. 73(8):377–379, 2023.
- 吉田牧子. 兵庫県立こども病院における乳幼児の剖検例～病理診断. *日本SIDS・乳幼児突然死予防学会*

雑誌. 23巻1号 : 21-32, 2023.

- Takeshi Okamoto, Yoji Murata, Daiichiro Hasegawa, Makiko Yoshida, Daisuke Tanaka, Takashi Ueda, Daisuke Hazama, Okechi S. Oduori, Satomi Komori, Tomoko Takai, Yasuyuki Saito, Takenori Kotani, Yoshiyuki Kosaka, Yoshimasa Maniwa, Takashi Matozaki; Targeting of SIRP  $\alpha$  as a potential therapy for Langerhans cell histiocytosis. T. Cancer Sci. 114(5):1871-1881, 2023.

#### 放射線部

---

- 時克志. 線量管理システムの使用経験. 日本小児放射線技術研究会雑誌. 48 : 11-18, 2023
- 前田貴彦, 中原誠, 山崎弘幸. 一般撮影における入射表面線量の簡易的把握の試み. 日本小児放射線技術研究会雑誌. 48 : 48-53, 2023

#### 看護部 産科 新生児科(GCU)

---

- 井谷洋美, 梁京玉. 出生～NICU退院後(地域へのつなげ方まで)の流れ: NICUから他科などへ転棟してから退院になるケース. with NEO. Vol.37 No.2. メディカ出版. 2024

#### 看護部

---

- 鎌田直子. 特集にあたって. WOCNursing. Vol.11. No.3. 医学出版. 6. 2023
- 鎌田直子. 小児のストーマケア. アルメディア. Vol.27 No.1. アルケア株式会社. 5-7. 2023

#### 看護部 7東病棟

---

- 中谷扶美. 小児看護における臨床場面での子どもとのコミュニケーション. 小児看護. Vol47. No3. へるす出版. 2024

#### 看護部 NICU 新生児科

---

- 和久望美. 循環. With NEO. Vol.36. No.5. メディカ出版. 92-99. 2023

### 3) 学会発表

#### 総合診療科

---

- リツキシマブによる寛解導入と寛解維持に成功している難治性TAFRO症候群の1例. 南川将吾, 佐野浩子, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- 重度の基礎疾患を有する経管栄養児における血糖値異常の頻度と臨床的特徴. 南川将吾, 佐野浩子, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- 重度の基礎疾患を有する経管栄養児における血糖値異常の頻度と臨床的特徴. 南川将吾, 榊田千晶, 長谷川智大, 佐野浩子, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. 第48回日本重症心身障害学術集会, 2023年10月.

#### 救急科

---

- 日本の小児院外心停止の現状 - 臨床医と研究者の立場から -. 松井鋭. 第28回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会, 2023年1月18, 19日.
- 小児院外心停止患者の特徴、治療、予後における経年変化: 日本における多施設共同前向き研究. 松井鋭, 黒澤寛史, 新田雅彦, 松本泰右, 吉井拓真, 大西理史, 村田慧, 谷澤直子, 竹井寛和, 林卓郎, 田中亮二郎. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月14-16日.
- 小児専門病院における急性膵炎に対する治療内容. 西藤知城, 岸本健治, 堀川翔伍, 中岸保夫, 長谷川大一郎, 田中亮二郎, 小阪嘉之. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月14-16日.
- いま、教育と研究はERからはじまる 小児ERの研究を市中病院で行うには?. 松井鋭. 第36回日本小児救急医学会学術集会, 2023年7月22, 23日.
- 地域で救おう、小児重症外傷-救命救急センターと小児救命救急センターの連携. 河合嘉一, 松岡由典, 田中亮二郎, 有吉孝一. 第36回日本小児救急医学会学術集会, 2023年7月22日, 23日.
- 小児の院外心停止に対する成人の病前蘇生中止基準の適用について. 松井鋭, 北村哲久, 黒澤寛史, 清原康介, 田中亮二郎, 祖父江友孝, 新田雅彦. 第51回日本救急医学会総会・学術集会, 2023年11月28-30日.
- パネルディスカッション: 覗いてみませんか「小児POCUSの日常」. 竹井寛和, 林卓郎, 松井鋭, 谷澤直子, 村田慧, 大西理史, 吉井拓真, 松本泰右, 田中亮二郎. 日本超音波医学会第96回学術集会, 2023年5月27日.
- 縦隔腫瘍により院外心停止に至った3症例. 松本泰右, 田中亮二郎, 林卓郎, 松井鋭, 谷澤直子, 竹井寛和, 村田慧, 吉井拓真, 大西理史. 第36回日本小児救急医学会学術集会, 2023年7月22日-23日
- ランチョンセミナー: 小児救急ならではのPOCUSをポケットエコーと共に紹介します. 竹井寛和. 第14回日本ポイントオブケア超音波医学会学術集会, 2023年1月8日
- 教育講演: 小児POCUSをメモワールとして語る. 竹井寛和. 第8回日本小児超音波研究会学術集会, 2023年11月26日
- パネルディスカッション: 「子どもの虐待」～これからの救急医に求められるもの～. 竹井寛和. 第51回日本救急医学会総会・学術集会, 2023年11月30日

#### 代謝・内分泌内科

---

- Hyperosmolar diabetic ketoacidosis 治療中に臓器障害進行を認めた1型糖尿病幼児例. 松本真明, 洪聖媛, 三星アカリ, 尾崎佳代. 第66回日本糖尿病学会, 2023年5月11-13日

- 小児内分泌疾患の進歩と課題. 尾崎佳代. 第289回小児科学会地方会, 2023年5月20日
- FGF 23関連低リン血症性くる病に対する burosumab の効果の男女差. 柏坂舞, 洪聖媛, 三星アカリ, 松本真明, 永井正志, 尾崎佳代. 第96回日本内分泌学会学術集会, 2023年6月1-3日
- 医師を対象とした非医療従事者による経鼻グルカゴン製剤使用に関する意見調査. 松本真明, 池谷紀衣子, 曾根原晶子, 高吉倫史, 山本あかね, 上田真莉子, 坊亮輔, 廣田勇士, 小川渉, 栗野宏之. 第28回小児思春期糖尿病学会, 2023年7月17日
- ミクロペニスの内科的診療. 尾崎佳代. 第32回小児泌尿器科学会 シンポジウム1, 2023年7月20-22日
- High prescription rate of nasal glucagon for hypoglycemia by pediatricians and physicians in Japan. Masaaki Matsumoto, Kiiko Iketani, Shoko Sonehara, Tomofumi Takyoshi, Akane Yamamoto, Kai Yoshimura, Seiji Nishikage, Mariko Ueda, Sung Won Hong, Ryosuke Bo, Kayo Ozaki, Yushi Hirota, Wataru Ogawa, Hiroyuki Awano. IDF-WPR Congress 2023/15 th Scientific meeting of AASD, 2023/7/21-23
- WISC-IV を用いた先天性甲状腺機能低下症患者の長期知的発達予後. 尾崎佳代, 三星アカリ, 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 洪聖媛, 永井正志, 松本真明. 第50回日本マスキリーニング学会, 2023年8月25-26日
- 非医療従事者による経鼻グルカゴン製剤使用に関する小児科医を対象としたアンケート調査. 松本真明, 池谷紀衣子, 曾根原晶子, 洪聖媛, 樋口アカリ, 高吉倫史, 山本あかね, 西影星二, 芳村魁, 上田真莉子, 坊亮輔, 尾崎佳代, 廣田勇士, 栗野宏之. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 特発性 GnRH 依存性思春期早発症女児に対する LHRH アナログ治療が体重増加に及ぼす影響. 尾崎佳代, 馬場義郎, 齋藤玲子, 池側研人, 長崎啓祐, 中村明枝, 濱島崇, 樋口真司, 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明, 長谷川行洋. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 特発性ゴナドトロピン依存性思春期早発症女児の GnRH アナログ治療および投与量における身長予後についての検討. 齋藤玲子, 馬場義郎, 尾崎佳代, 池側研人, 長崎啓祐, 中村明枝, 濱島崇, 樋口真司, 長谷川行洋. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 軟骨無形成症の小児患者を対象とした抗 FGF2-RNA アプタマー前期第Ⅱ相試験. 鹿島田健一, 宮田市郎, 窪田拓生, 森潤, 尾崎佳代, 野中洋介, 中村義一, 大橋十也, 大藪恵一. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 兵庫県における新型コロナウイルス流行と小児糖尿病性ケトアシドーシスの発症年齢の変化. 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- プロプラノロール塩酸塩併用下で少量のレボチロキシン投与で管理しえた消耗性甲状腺機能低下合併乳幼児難治性肝血管腫症例. 池谷紀衣子, 西藤知城, 柏坂舞, 洪聖媛, 樋口アカリ, 松本真明, 尾崎佳代. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 18歳時に DSD チーム合同で病名告知を行った MGD (Mixed Gonadal Dysgenesis) の男性例. 洪聖媛, 松本真明, 樋口アカリ, 永井正志, 洪本加奈, 森貞直哉, 城戸佐知子, 杉多良文, 尾崎佳代. 第56回日本小児内分泌学会, 2023年10月19-21日
- 兵庫県内の1型糖尿病患者に対する経鼻グルカゴン製剤の処方の実態. 松本真明, 池谷紀衣子, 曾根原晶子, 洪聖媛, 樋口アカリ, 高吉倫史, 山本あかね, 西影星二, 芳村魁, 上田真莉子, 坊亮輔, 尾崎佳代, 廣田勇士, 小川渉, 栗野宏之. 第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会, 2023年11月4-5日
- FGF 23関連低リン血症性くる病の早期診断・早期治療介入の重要性 - 整形外科と小児科の連携 -. 尾崎佳代. 第34回日本小児整形外科学会学術集会, 2023年11月23日

- 精神・発達の問題で内服治療に難渋した小児バセドウ病4症例. 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第33回臨床内分泌代謝 update, 2023年11月3-4日

## リウマチ科

---

- 造影CTが診断に有用であった大動脈瘤を伴う小児血管ベーチェット病の1例. 合田由香利, 水田麻雄, 中岸保夫. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2023年4月.
- 臨床医から見た若年性特発性関節炎の治療と管理(小児・AYA シンポジウム). 水田麻雄. 第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 2023年8月
- カナキヌマブ投与中の全身型若年性特発性関節炎におけるマクロファージ活性化症候群の病態解析. 水田麻雄, 金子修也, 西川宏樹, 合田由香利, 真保麻実, 伊良部仁, 中岸保夫, 清水正樹. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2023年10月.
- 学童期でリウマチ疾患を発症した子どもと家族への移行期支援. 辻田利香, 中岸保夫, 合田由香利, 水田麻雄. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2023年10月
- TNF  $\alpha$  阻害薬による薬剤誘発性ループスを疑った多関節型若年性特発性関節炎の1例. 合田由香利, 水田麻雄, 中岸保夫. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2023年10月.
- Clinical Usefulness of serum interleukin-6 levels as a marker of disease activity in patients with systemic juvenile idiopathic arthritis during TCZ treatment. Yukari Aida, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi. 29th European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Rotterdam, 2023.Sep.

## アレルギー科

---

- アトピー性皮膚炎の外用療法を再考する - 外用療法成功のヒケツ - (教育セミナー). 田中裕也. 第9回総合アレルギー講習会, 2023年3月
- 子どもへの舌下免疫療法の実際～多忙な外来で導入・維持するコツ～(教育セミナー). 田中裕也. 第126回日本小児科学会, 2023年4月
- 子供の将来のために行いたいスキンケア～保湿剤の使い方を中心に～(教育セミナー). 田中裕也. 第33回全国病児保育研究大会, 2023年7月
- アトピー性皮膚炎におけるコレクチム軟膏の使い方(ランチョンセミナー). 田中裕也. 第60回日本小児アレルギー学会, 2023年11月
- 当院における薬剤アレルギーの検討. 浜田佳奈, 岡崎沙也香, 土井圭, 田中裕也. 第60回日本小児アレルギー学会学術大会, 2023年11月
- 当院における乳による重症新生児-乳児食物蛋白誘発性胃腸症の検討. 岡崎沙也香, 土井圭, 田中裕也, 浜田佳奈. 第60回日本小児アレルギー学会学術大会, 2023年11月

## 神経内科

---

- Tumefactive demyelinating lesion を呈した小児 clinically isolated syndrome の女児例. 本郷裕斗, 上田拓耶, 石田悠介, 西山将広, 岸本健治, 小阪嘉之, 小山淳二, 丸山あずさ. 第72回日本小児神経学会近畿地方会, 2023年3月.
- イソフルラン吸入療法を併用し神経学的転帰良好であった難治頻回部分発作重積型急性脳炎の一例. 石田貴裕, 宮下徳久, 上田拓耶, 伊藤由作, 先濱大, 潮見祐樹, 長井勇樹, 青木一憲, 丸山あずさ, 黒澤寛史. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023年3月.

- 脱髄病変を伴わず髄膜の造影効果のみを認めた抗MOG抗体陽性の髄膜脳炎の4歳児. 山根徹也, 上田拓耶, 西山将広, 本郷裕斗, 石田悠介, 丸山あずさ. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- 3歳時の就寝時刻が遅いと小学1年生時点の勤勉性や思いやりが低下する: 尼崎市コホート研究. 西山将広, 京野由紀, 川村葵, 老川静香, 徳元翔一, 山口 宏, 富岡和美, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月.
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により有熱性けいれんを認めた患者の臨床的特徴. 本郷裕斗, 西山将広, 上田拓耶, 石田悠介, 笠井正志, 田中亮二郎, 永瀬裕朗, 丸山あずさ. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 小児てんかん重積状態に対する病院前治療としてのミダゾラム頬粘膜投与製剤の安全性. 上田拓耶, 西山将広, 本郷裕斗, 石田悠介, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 前向き多施設レジストリによる有熱性けいれん性発作後の意識障害持続時間と転帰との関連. 徳元翔一, 西山将広, 柏木充, 高梨潤一, 高見勇一, 豊嶋大作, 服部有香, 丸山あずさ, 本林光雄, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 発熱を伴う30分以上のけいれん性てんかん重積状態における転帰不良関連因子: 前向き多施設コホートでの検証. 老川静香, 徳元翔一, 山口宏, 富岡和美, 西山将広, 柏木充, 高梨潤一, 高見勇一, 豊嶋大作, 服部有香, 丸山あずさ, 本林光雄, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- サイトメガロウイルス初感染によりHSESおよびHLH病態を呈した乳児例. 原田晋二, 西山将広, 水田麻雄, 上田拓耶, 本郷裕斗, 石田悠介, 中岸保夫, 黒澤寛史, 丸山あずさ. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- ガイドライン委員会主催セミナー: わが国の出血性ショック脳症症候群(HSES)を再考する我が国における出血性脳症症候群(HSES)の病態と治療. 西山将広, 徳元翔一, 山口宏, 富岡和美, 石田悠介, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 3歳時の就寝時刻または睡眠時間と小学1年生の学力との関連: 尼崎市の人口ベースの研究. 西山将広, 京野由紀, 川村 葵, 老川静香, 徳元翔一, 山口 宏, 富岡和美, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 出血性ショック脳症症候群をきたしたDravet症候群にSCN1Aのイントロンに新規の21塩基欠失を認めminigene 解析を実施した1例. 花房宏昭, 山口宏, 老川静香, 徳元翔一, 富岡和美, 西山将広, 長坂美和子, 近藤秀仁, 森貞直哉, 松尾雅文, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 有熱性てんかん重積・急性脳症に対する疾患関連遺伝子の探索. 山口宏, 花房宏昭, 老川静香, 徳元翔一, 富岡和美, 西山将広, 森貞直哉, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月.
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が1歳6か月児の発達に及ぼす影響. 京野由紀, 西山将広, 老川静香, 徳元翔一, 山口 宏, 富岡和美, 三品浩基, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第70回日本小児保健協会学術集会, 2023年6月.
- 新生児期に発症しsuppression-burstを認めた片側巨脳症の1例. 相馬健人, 上田拓耶, 西山将広, 石田悠介, 丸山あずさ. 第19回日本てんかん学会近畿地方会, 2023年7月.
- MRIのArterial Spin-Labelingで体重減少時と回復期で脳血流を評価した神経性やせ症の13歳女児. 上田拓耶, 西山将広, 相馬健人, 石田悠介, 小川裕子, 青木一憲, 黒澤寛史, 丸山あずさ. 第73回日本小児神経学会近畿地方会, 2023年9月.
- Dravet症候群に合併した急性脳症の4例. 上田拓耶, 西山将広, 相馬健人, 石田悠介, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 第56回日本てんかん学会学術集会, 2023年10月.

- 発達性てんかん性脳症に対してACTH療法が有効であったが再発したCabezas型X連鎖性知的障害の一例. 石田悠介, 相馬健人, 上田拓耶, 西山将広, 森貞直哉, 丸山あずさ. 第56回日本てんかん学会学術集会, 2023年10月.
- 有熱性けいれん発作をきたした小児における発症早期の非けいれん性発作. 丸山あずさ, 上田拓耶, 山口宏, 石田悠介, 西山将広, 永瀬裕朗. 第56回日本てんかん学会学術集会, 2023年10月.

## 血液・腫瘍内科

- 難治性多臓器型ランゲルハンス細胞組織球症に対する vemurafenib 投与後の造血幹細胞移植. 中村亮太, 齋藤敦郎, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 岸本健治, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023年2月.
- コロナ禍における非血縁者間骨髄移植の代替としての血縁者間ハプロ一致末梢血幹細胞移植. 秋定直宏, 森健, 兵頭さやか, 植村優, 神前愛子, 齋藤敦郎, 岸本健治, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023年2月.
- 同種移植後の一次生着不全に合併した播種性C. jeikeium 感染症. 堀川翔伍, 岸本健治, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 齋藤敦郎, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023年2月.
- CAR-T療法後に重症慢性GVHDが顕在化した移植後再発Ph陽性ALL男児例. 西尾周朗, 石田敏章, 宮村能子, 田中裕介, 堀川翔伍, 中村亮太, 藤川朋子, 西村明紘, 秋定直宏, 植村優, 兵頭さやか, 齋藤敦郎, 神前愛子, 岸本健治, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023年2月.
- 小児専門病院における急性膵炎に対する治療内容. 西藤知城, 岸本健治, 堀川翔伍, 中岸保夫, 長谷川大一郎, 田中亮二郎, 小阪嘉之. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- バンコマイシン初回投与量と至適血中濃度達成状況の単施設分析. 後藤弘樹, 岸本健治, 堀川翔吾, 水野真介, 笠井正志, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- 脳腫瘍治療後晩期合併症として間質性肺炎を来した2例. 藤川朋子, 植村優, 西尾周朗, 堀川翔伍, 中村亮太, 秋定直宏, 兵頭さやか, 齋藤敦郎, 神前愛子, 岸本健治, 石田敏章, 森健, 尾崎佳代, 河村淳史, 赤坂好宣, 副島俊典, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
- 成熟奇形腫による気道狭窄を来し心肺停止に至った2歳女児例. 秋定直宏, 森健, 兵頭さやか, 西尾周朗, 堀川翔伍, 植村優, 齋藤敦郎, 神前愛子, 森田圭, 青木一憲, 岸本健治, 石田敏章, 黒澤寛史, 吉田牧子, 長谷川大一郎, 畠山理, 小阪嘉之. 第55回日本小児呼吸器学会, 2023年10月.
- 横紋筋肉腫による脊髄圧迫に対する緊急放射線照射に合併した放射線腎症. 森健, 井上翔太郎, 秋定直宏, 兵頭さやか, 石田敏章, 出水祐介, 福光延吉, 長谷川大一郎, 副島俊典, 小阪嘉之. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月.
- 外科手術で病期診断された小児型濾胞性リンパ腫. 秋定直宏, 森健, 兵頭さやか, 真鍋修司, 堀川翔伍, 西尾周朗, 田中裕介, 植村優, 神前愛子, 齋藤敦郎, 岸本健治, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月.
- 6番染色体部分欠失による多発奇形を合併した先天性XIII因子欠乏症. 兵頭さやか, 秋定直宏, 森健, 岸本健治, 石田敏章, 森貞直哉, 長谷川大一郎, 田中敏克, 芳本誠司, 小阪嘉之. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月.
- 放射線治療を含む集学的治療により多様な中枢神経合併症を生じたAT/RT再発乳児例. 西尾周朗, 石田敏章, 乗本周平, 吉田牧子, 小山淳二, 出水祐介, 長谷川大一郎, 河村淳史, 副島俊典, 小阪嘉之. 第65回

日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月

- 小児同種造血幹細胞移植時における感染症支持療法について－小児白血病研究会(JACLS)におけるアンケート調査. Suguru Uemura, Saori Katayama, Keita Igarashi, Kana Washio, Nao Yoshida, Hisanori Fujino, Yoshiyuki Takahashi, Masahiro Yasui, Kozo Nagai, Takako Miyamura. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月
- 小児思春期におけるイリノテカンに伴う下痢の発生頻度と関連因子. 松尾進, 岸本健治, 堀川翔伍, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 齊藤敦郎, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月
- Congenital dyserythropoietic anemia type III with a novel mutation in KIF 23. Tomoko Fujikawa, Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Sayaka Hyodo, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Naoya Morisada, Kimikazu Yakushijin, Yoshio Katayama, Daiki Yamashita, Manabu Wakamatsu, Motoharu Hamada, Hideki Muramatsu, Yoshiyuki Takahashi and Yoshiyuki Kosaka. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月

## 循環器内科

- one-and-a half ventricular repair から Fontan に conversion した PAIVS の2例. 三木康暢, 田中敏克, 城戸佐知子. 第24回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 2023年1月
- PA with IVS 成人例におけるフォンタン術後と2心室修復術後の遠隔期成績の比較. 田中敏克, 三木康暢, 城戸佐知子, 松久弘典, 大嶋義博. 第24回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 2023年1月
- ePTFE 弁付き導管に対する PTPV の有用性と安全性の検討. 田中敏克, 三木康暢, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤亜耶, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- 内胸動脈全体をコイル塞栓することによる体肺側副動脈に対する有効性. 久保慎吾, 田中敏克, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤亜耶, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- MAPCA に対して Amplatzer Piccolo Occluder を留置し修復術を行った PA/VSD の1例. 三木康暢, 田中敏克, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤亜耶, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- 先天性心疾患診療における経皮的バルーン形成術の基本(器具編). 田中敏克. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- AZUR シリーズの臨床使用経験について. 田中敏克. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- 当院の PDA に対するカテーテル治療. 松岡道生, 田中敏克, 近藤亜耶, 広田幸穂, 飯田智恵, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- 多発性の左肺動静脈瘻に対し, 肺動脈塞栓術を行なうことで低酸素血症の改善を認めた多脾症 Fontan 術後遠隔期の一例. 飯田智恵, 田中敏克, 城戸佐知子, 小川禎治, 亀井直哉, 松岡道生, 三木康暢, 久保慎吾, 近藤亜耶, 広田幸穂. 第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2023年1月
- PGE1 投与で待機的に同時手術を行なうことができた先天性気管狭窄症(CTS)、左肺無形成を合併した大動脈縮窄症(CoA)の一例. 飯田智恵, 松岡道生, 広田幸穂, 近藤亜耶, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉,

小川禎治, 城戸佐知子, 白木宏長, 松島俊介, 大嶋義博, 田中敏克. 第37回日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会, 2023年3月

- Multiple Coronary Artery Microfistulas are Common and Progress in Adult Patients Late after Fontan Operation. 田中敏克. 第87回日本循環器学会学術集会, 2023年3月
- 肺動脈形成術後に生じた医原性肺動脈-肺静脈交通に対し、ADO II による閉鎖術を施行したPA VSD MAPCA の1例. 田中敏克, 三木康暢, 近藤重耶, 飯田智恵, 広田幸穂, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月
- PGE1投与で待機的に同時手術を行なうことができた先天性気管狭窄症、左肺無形成を合併した大動脈縮窄症の一例. 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤重耶, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2023年7月
- PDA 以外の病変に対し、ADO family を用いて閉鎖術を施行した3症例. 田中敏克, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤重耶, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2023年7月
- 成人先天性心疾患診療に携わる循環器内科医へのインタビュー. 城戸佐知子. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2023年7月
- ドキソルピシンによりがん治療関連心筋障害(CTRCD)を発症した2例. 久保慎吾, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤重耶, 広田幸穂, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2023年7月6-8日
- 乳児期に心筋肥大、左室流出路狭窄を来した Danon 病の女児例. 広田幸穂, 城戸佐知子. 第59回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2023年7月
- Nikaidoh 術後に生じた三尖弁狭窄に対し、自己心膜で閉鎖した心房中隔を RF wire で穿通し欠損孔を作成した DORV の一例. 広田幸穂, 飯田智恵, 広田幸穂, 近藤重耶, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第1回診断的および治療的心臓カテーテルのための教育カンファレンス, 2023年9月
- 心室中隔欠損に対して肺動脈絞扼術を行った後、短期間で低酸素血症を呈した18 trisomy の1例. 林谷俊和, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 田中敏克, 城戸佐知子. 第29回阪神小児循環器疾患研究会, 2023年11月

## 腎臓内科

- 可逆性後頭葉白質脳症(PRES)が診断の契機となった急性糸球体腎炎の2例. 北角英晶, 貝藤裕史, 上田知佳, 矢谷和也, 稲熊洋祐, 本郷裕斗, 丸山あずさ, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第288回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年2月
- Cr-eGFR の低下から腎機能障害が疑われた21水酸化酵素欠損症の1例. 矢谷和也, 貝藤裕史, 北角英晶, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 尾崎佳代, 飯島一誠. 第59回近畿小児腎臓病研究会, 2023年3月
- <シンポジウム 多臓器にまたがる疾患の管理> WT1関連腎症の診断と管理. 貝藤裕史. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月
- 小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群の初発患者における血圧の推移. 矢谷和也, 貝藤裕史, 北角英晶, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 尾崎佳代, 飯島一誠. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月
- 小児期にCKDを呈する機能的片腎の特徴. 稲熊洋祐, 貝藤裕史, 矢谷和也, 田中亮二郎, 杉多良文, 飯島一誠. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月

- 画像検査で障害部位を特定し得た放射線腎症の1例. 北角英晶, 貝藤裕史, 矢谷和也, 稲熊洋祐, 森健, 長谷川大一郎, 田中亮二郎, 副島俊典, 小阪嘉之, 飯島一誠. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月.
- 小児IgA腎症の肉眼的血尿発作に伴う急性腎障害発症に鉄とCD163マクロファージが関与する 多機関共同研究. 石森真吾, 堀之内智子, 山村智彦, 藤村順也, 神吉直宙, 貝藤裕史, 田中百合子, 松倉裕喜, 島袋渡, 島友子, 河口亜津彩, 荒木義則, 中西浩一, 野津寛大. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月
- 発症時eGFR<90ml/min/1.73m<sup>2</sup>を呈する小児IgA腎症の臨床像. 島友子, 向山弘展, 田中侑, 島袋渡, 貝藤裕史, 田中亮二郎, 野津寛大, 飯島一誠, 徳原大介, 吉川徳茂, 中西浩一. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月
- 小児MPGNの再分類およびC3腎炎の後方視的検討. 上田知佳, 堀之内智子, 市川裕太, 田中悠, 北角英晶, 近藤淳, 榊原菜々, 藤村順也, 神吉直宙, 石森真吾, 貝藤裕史, 島友子, 吉川徳茂, 野津寛大. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月
- <シンポジウム 先天性代謝異常症と腎疾患> 尿酸トランスポーター異常症. 貝藤裕史. 第66回日本腎臓学会学術集会, 2023年6月
- 小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群の初発患者における血圧の推移. 矢谷和也, 貝藤裕史, 北角英晶, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第66回日本腎臓学会学術集会, 2023年6月
- 小児C3腎炎の後方視的検討. 上田知佳, 堀之内智子, 市川裕太, 田中悠, 北角英晶, 近藤淳, 榊原菜々, 藤村順也, 神吉直宙, 石森真吾, 貝藤裕史, 島友子, 吉川徳茂, 野津寛大. 第66回日本腎臓学会学術集会, 2023年6月
- 小児IgA腎症の肉眼的血尿発作に伴う急性腎障害発症に鉄とCD163マクロファージが関与する 多機関共同研究. 石森真吾, 堀之内智子, 山村智彦, 藤村順也, 神吉直宙, 貝藤裕史, 田中百合子, 松倉裕喜, 島袋渡, 島友子, 河口亜津彩, 荒木義則, 中西浩一, 野津寛大. 第66回日本腎臓学会学術集会, 2023年6月
- 小児期にCKDを呈する機能的片腎の特徴. 稲熊洋祐, 貝藤裕史, 杉多良文. 第32回日本小児泌尿器科学会学術集会, 2023年7月

## 感染症内科

- 兵庫県内複数の小児医療入院期間におけるCOVID-19入院例の検討. 吉田美苗, 笠井正志, 伊藤雄介, 松井鋭, 黒澤寛史, 宮越千智, 飯島一誠. 第288回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年2月
- 兵庫県立こども病院で検出した侵襲性GBS感染症菌株の莢膜血清型解析. 笠井正志. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月
- 小児患者におけるCOVID-19の“新”重症度分類の考案. 吉田美苗, 笠井正志, 豊島由佳, 水野真介, 伊藤雄介, 松井鋭, 黒澤寛史, 宮越千智. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月
- 兵庫県立こども病院救急外来を受診した小児COVID-19患者の実態調査. 松本泰右, 松井鋭, 笠井正志, 黒澤寛史, 伊藤雄介, 宮越千智, 田中亮二郎, 林卓郎, 竹井寛和, 谷澤直子, 村田慧, 吉井拓真, 大西理史, 水野真介, 吉田美苗, 豊島由佳, 松尾進, 新谷茜. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月
- 小児のCOVID-19とRSウイルス入院患者の重症度の比較. 朝貝芳貴, 笠井正志, 吉田美苗, 水野真介, 伊藤雄介, 松井鋭, 黒澤寛史, 宮越千智. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月
- 兵庫県立こども病院におけるCOVID-19第8波入院症例の報告. 豊島由佳, 笠井正志, 朝貝芳貴, 水野真介, 吉田美苗, 伊藤雄介, 松井鋭, 黒澤寛史, 宮越千智, 豊島由佳. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月

- 生後3か月未満における COVID-19 診療に関するアンケート調査. 山本日南子, 日馬由貴, 伊藤雄介, 笠井正志. 第36回日本小児救急医学会, 2023年7月
- 救急医療現場が抱える AMR の課題(ワークショップ). 笠井正志. 第25回災害看護学会, 2023年9月
- 当院で分離された GBS の薬剤耐性遺伝子の分布. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月
- 当院で分離された GBS の MLST 解析. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月
- 先天性肺気道奇形を背景に MRSA 肺化膿症と膿胸に至った2歳児. 木村碧, 笠井正志, 畠山理. 第55回日本小児呼吸器学会, 2023年10月
- 薬剤耐性 (AMR) に関する市民意識と啓発活動. 笠井正志. 第18回日本耳鼻咽喉科学会, 2023年11月
- こども病院における COVID19. 水野真介, 笠井正志. 第18回県立病院学会分科会, 2023年9月
- Campylobacter jejuni による新生児菌血症の1例. 水野真介. 第19回日本小児消化管感染症研究会, 2023年2月
- こども病院における5類化移行後の小児 COVID19 入院患者の臨床的特徴. 水野真介, 笠井正志. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月
- 地方こども病院感染症内科における立ち上げから7年間の診療実績. 水野真介, 杉野充伸, 明神翔太, 大竹正悟, 伊藤雄介, 笠井正志. 第55回日本小児感染症学会, 2023年11月

## 臨床遺伝科

- Frontometaphyseal dysplasia type 1 の遺伝学的診断と遺伝カウンセリング. 洪本加奈, 森貞直哉, 野津寛大, 大津雅秀, 小林大介. 骨系統疾患研究会, 2023年11月24日
- 臨床遺伝科の役割・小児泌尿器科への提言. 森貞直哉. 第32回日本泌尿器科学会, 2023年7月19-21日
- 学校検診での尿糖陽性を契機に MODY5 の診断に至った一例. 位田敬明, 青谷大介, 森貞直哉, 加藤春佳, 浜田けい子, 伊藤隆彦, 竹田勝志, 服部麗, 小山博之, 野津寛大, 田中智洋. 第96回日本内分泌学会学術総会, 2023年6月1-3日
- 6番染色体部分欠失による多発奇形を合併した先天性 XIII 因子欠乏症. 兵頭さやか, 秋定直宏, 森健, 岸本健治, 石田敏章, 森貞直哉, 長谷川大一郎, 田中敏克, 芳本誠司, 小阪嘉之. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会, 2023年9月29日-10月1日
- 有熱性てんかん重積・急性脳症に対する疾患関連遺伝子の探索. 山口宏, 花房宏昭, 老川静香, 徳元翔一, 富岡和美, 西山将広, 森貞直哉, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月25-27日
- 6歳で保存期腎不全の INVS 遺伝子変異による乳児ネフロン癆の一例. 山崎陽子, 小林靖子, 田端洋太, 岩脇史郎, 武井麻里子, 池内由果, 森貞直哉, 野津寛大, 滝沢琢己. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- 原因不明の腎機能障害から ADTKD-REN と診断した一例. 山田祐子, 木下亮, 藤森大輔, 横山浩己, 河場康郎, 森貞直哉, 野津寛大, 難波範行. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- ADPKD の診断基準を満たしたが遺伝子検査で ADTKD の確定診断に至った一例. 服部晃久, 白井俊明, 中島健太郎, 原田拓也, 秋山知希, 角田亮也, 岡田絵里, 甲斐平康, 間瀬かおり, 森戸直記, 斎藤知栄, 白井丈一, 森貞直哉, 野津寛大. 第53回日本腎臓学会東部学術大会, 2023年9月16-17日
- 低身長精査を契機に副腎不全合併が判明した Hardikar 症候群の一例. 松谷恵里, 小田桐紫野, 中道龍哉, 瀬戸俊之, 馬場遥香, 森貞直哉, 濱崎考史. 第33回臨床内分泌代謝 Update., 2023年11月3-4日
- 小児重症 ADPKD に対するトルバプタン治療. 横山浩己, 木下亮, 室賀千佳, 藤森大輔, 山田祐子, 岡西徹, 森貞直哉, 野津寛大, 難波範行. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日

- 当科で診断したMAFB異常5例と腎症に関する考察. 田中悠, 平田優, 木越隆晶, 池田洋一郎, 榊原菜々, 市川裕太, 上田知佳, 北角英晶, 近藤淳, 堀之内智子, 南裕佳, 平本龍吾, 稲垣徹史, 森貞直哉, 野津寛大. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- 当院で診断したMAFB異常4例と腎症に関する考察. 田中悠, 平田優, 木越隆晶, 榊原菜々, 市川裕太, 北角英晶, 近藤淳, 堀之内智子, 南裕佳, 平本龍吾, 稲垣徹史, 森貞直哉, 野津寛大. 第66回日本腎臓学会学術総会, 2023年6月9-11日
- 出血性ショック脳症症候群をきたしたDravet症候群にSCN1Aのイントロンに新規の21塩基欠失を認めminigene解析を実施した1例. 花房宏昭, 山口宏, 老川静香, 徳元翔一, 富岡和美, 西山将広, 長坂美和子, 近藤秀仁, 森貞直哉, 松尾雅文, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第65回日本小児神経学会学術集会, 2023年5月25-27日
- 新規KIF23遺伝子変異を有するCongenital dyserythropoietic anemia type III例. 藤川朋子, 植村優, 長谷川大一郎, 兵頭さやか, 神前愛子, 齋藤敦郎, 岸本健治, 石田敏章, 森健, 森貞直哉, 薬師神公和, 片山義雄, 山下大紀, 若松学, 濱田太立, 村松秀城, 高橋義行, 小阪嘉之. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月13-15日
- 胎児期から腎腫大を認めた常染色体優性多発性嚢胞腎の女児. 郷田聡, 大田敏之, 市場啓嗣, 藤原信, 藤村清香, 福原里恵, 森貞直哉, 野津寛大. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- In vitro splicing assayにより病原性を確定したARPKDの1例. 野崎晴花, 榊原菜々, 田中悠, 市川裕太, 北角英昌, 上田知佳, 近藤淳, 堀之内智子, 猪野木雄太, 亀井宏一, 森貞直哉, 野津寛大. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- GABRB3変異を有する発達性てんかん性脳症の1例. 金川温子, 沖田空, 西山敦史, 森貞直哉, 野津寛大, 豊嶋大作. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- 遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング. 森貞直哉. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 2023年6月29日-7月1日
- 森貞直哉, 叶明娟, 野津寛大, 飯島一誠. 神戸大学でのCAKUT・嚢胞性腎疾患遺伝子解析の総括. 第58回日本小児腎臓病学会学術集, 2023年6月29日-7月1日, 高槻
- Rini Rossanti, Naoya Morisada, Ahmedz Widiasta, Yunia Sribudiani, Purboyo Solek, Irawati Irfani, Dedi Rachmadi1, Dany Hilmanto, Kandai Nozu, Kazumoto Iijima. Bardet-Biedl syndrome caused by a novel homozygous deletion in BBIP1 presenting with kidney failure in one sibling. Human Genetics Asia 2023, October 11-14, 2023
- Naoya Morisada, Ming Juan Ye, Yu Tanaka, Eri Okada, Kazumoto Iijima, Kandai Nozu. The comprehensive genetic analyses of cystic kidney disease in Japan. Human Genetics Asia 2023, October 11-14, 2023
- 血友病患者とその家族への遺伝学的検査と遺伝カウンセリングの重要性. 洪本加奈. 小児血液・がんWebセミナー, 2023年6月7日
- 難病領域における次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝子解析受託施設の二次的所見開示の現状と困難: アンケート調査. 洪本加奈, 山田崇弘, 土屋実央, 川日裕, 難波栄二, 後藤雄一, 小杉眞司. 日本遺伝カウンセリング学会, 2023年6月. (一社)日本遺伝カウンセリング学会
- シンポジウム3「小児遺伝と遺伝カウンセリング」チームで行う遺伝カウンセリング. 洪本加奈, 森貞直哉. 第45回小児遺伝学会学術集会, 2023年1月29日
- Hiromoto Kana, Yamada Takahiro, Tsuchiya Mio, Kawame Hiroshi, Nanba Eiji, Goto Yuichi, Kosugi

Shinji. 希少疾患のゲノム医療における二次的所見開示の課題 包括的遺伝子検査を外部委託している日本国内医療施設の全国調査 (Challenges of secondary finding disclosure in genomic medicine in rare diseases: A nation-wide survey of Japanese facilities outsourcing comprehensive genetic testing). Human Genetics Asia. 2023年1月

## 小児外科

---

- 腸管不全の新たな治療戦略 腸管不全に対するテデュグルチド有効性の検討. 横井暁子. 第60回日本小児外科学会学術集会, 2023年5月.
- 左肺動脈スリングにおける先天性気管狭窄症の合併. 辻恵未, 森田圭一, 植松綾乃, 高成田祐希, 宮内玄徳, 村上紫津, 堀池正樹, 中谷太一, 竹内雄毅, 横井暁子, 畠山理. 第60回日本小児外科学会学術集会, 2023年5月.
- 小児に対して放射線治療用吸収性スパーサーを使用してスパーサー留置術を施行した2例. 高成田祐希, 竹内雄毅, 出水祐介, 矢下博輝, 中谷太一, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 第60回日本小児外科学会学術集会, 2023年5月.
- 小児がん終末期患者の心嚢液貯留に対して胸腔鏡下心膜開窓術を施行した1例. 高成田祐希, 植松綾乃, 辻恵未, 竹内雄毅, 宮内玄徳, 村上紫津, 堀池正樹, 中谷太一, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 第60回日本小児外科学会学術集会, 2023年5月.
- 食道閉鎖症を合併した超低出生体重児の予後と臨床的諸問題. 堀池正樹, 横井暁子, 森田圭一, 中谷太一, 竹内雄毅, 宮内玄徳, 村上紫津, 辻恵未, 高成田祐希, 植松綾乃, 畠山理. 第60回日本小児外科学会学術集会, 2023年5月.
- EWSを用いた気管支充填術が奏功した有癭性膿胸の1幼児例. 竹内雄毅, 森田圭一, 高成田祐希, 村上紫津, 中谷太一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第50回日本小児内視鏡研究会, 2023年6月.
- 先天性食道閉鎖症に合併した超低出生体重児の予後と臨床的諸問題. 堀池正樹, 三村仁美, 横井暁子, 畠山理. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2023年7月.
- 多臓器型ランゲルハンス細胞組織球症に伴う両側多発肺嚢胞性難治性気胸の1例. 吉永駿, 村上紫津, 福井慶介, 植村光太郎, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第59回日本小児外科学会近畿地方会, 2023年8月.
- 腸回転異常を伴わない小腸捻転症の発症機序は? 吉永駿, 久松千恵子, 福井慶介, 植村光太郎, 村上紫津, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 第88回小児外科わからん会, 2023年9月.
- 幼児の難治性気腫に気管支充填術. 森田圭一, 高成田祐希, 竹内雄毅, 畠山理. 第55回日本小児呼吸器学会学術集会. 2023年9月.
- 患児のQOL向上を目指した外科医と麻酔科医の取り組み 君の笑顔のために 日帰り手術 小児外科 手術手技など外科医の立場から. 畠山理. 日本小児麻酔学会第28回大会, 2023年10月.
- 当科における先天性気管狭窄のCOVID-19罹患例のまとめ. 村上紫津, 吉永駿, 福井慶介, 植村光太郎, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第39回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2023年10月.
- 胸腔内脱出臓器を腹腔内に還納しサイロ形成し、二期的に腹筋フラップを用いて修復した重症CDHの一例. 横井暁子. 第42回日本小児内視鏡外科研究会, 2023年10月.
- 先天性気管狭窄に対するスライド気管形成術後の長期予後. 中谷太一, 吉永駿, 植松綾乃, 福井慶介, 植村光太郎, 村上紫津, 竹内雄毅, 森田圭一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第33回日本小児呼吸器外科研究会, 2023年10月.

## 心臓血管外科

- 自己心膜による三尖弁前尖置換を要した感染性心内膜炎の1例. 白木宏長, 松久弘典, 松島峻介, 日隈智憲, 元野壮, 大嶋義博. 第37回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2023年3月.
- UF+primary suturelessを要した無脾症の1例. 元野壮, 松久弘典, 松島峻介, 日隈智憲, 白木宏長, 大嶋義博. 第37回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2023年3月.
- 先天性気管狭窄症を合併した肺動脈閉鎖に対する当院の6例の治療経験. 白木宏長, 松島峻介, 元野壮, 日隈智憲, 大嶋義博, 松久弘典. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023年3月.
- 湾曲デザインと hand-sewn bileaflet 弁を内装した小口径ePTFE 導管による右室流出路再建. 松島峻介, 元野壮, 白木宏長, 日隈智憲, 大嶋義博, 松久弘典. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023年3月.
- Small-Caliber Expanded Polytetrafluoroethylene Conduits with Curved Shape and a Hand-Sewn Bileaflet Valve for Right Ventricular Outlet Tract Reconstruction. Shunsuke Matsushima, Hironori Matsuhisa, Kohki Wakita, Takanori Tsujimoto, Naohisa Takagaki, Itsuro Honda, Yoshihiro Oshima, Osamu Kawanami, Kenji Okada. AATS 103rd Annual Meeting, 2023年5月.
- Norwood手術後の大動脈弓再介入におけるハイフローSPスタットカテーテルを用いた下半身灌流. 松島峻介, 松久弘典, 日隈智憲, 元野壮, 白木宏長, 大嶋義博. 第66回関西胸部外科学会学術集会, 2023年6月.
- Unifocalization+primary suturelessを要した無脾症の1例. 元野壮, 松久弘典, 松島峻介, 日隈智憲, 白木宏長, 大嶋義博. 第66回関西胸部外科学会学術集会, 2023年6月.
- 気管無形性児の気管分岐部軟化に対する左右肺動脈延長を伴った肺動脈前方転位術. 白木宏長, 松島峻介, 元野壮, 日隈智憲, 大嶋義博, 松久弘典. 第66回関西胸部外科学会学術集会, 2023年6月.
- 成人先天性心疾患の知識を深める. 松久弘典. 第18回 Kobe Perfusion Conference, 2023年6月.
- 工夫を要する左冠動脈起始異常の1例. 高橋亮太, 松久弘典, 松島峻介, 日隈智憲, 東田照彦, 久保沙羅, 大嶋義博. 第74回神戸心臓外科研究会, 2023年6月.
- 18トリソミーの心疾患に対する姑息術の問題点. 松久弘典, 大嶋義博, 日隈智憲, 松島峻介, 東田昭彦, 玉置祥子, 岩谷壮太, 芳本誠司. 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2023年7月.
- Norwood型手術後大動脈縮窄および肺動脈狭窄に対するTCPC時のarch形成、肺動脈形成における下行大動脈balloon送血の有用性の検討. 日隈智憲, 松久弘典, 松島峻介, 白木宏長, 元野壮, 大嶋義博. 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2023年7月.
- 当院で大動脈弁上狭窄に対して手術を行なった症例の検討. 野壮, 松久弘典, 松島峻介, 日隈智憲, 白木宏長, 大嶋義博. 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2023年7月.
- Hans-Joachim Schäfers教授のRoss手術. 松島峻介. 第4回CHSS Japan手術手技研究会. 2023年7月.
- 大動脈弓縮窄・離断症の大動脈弓再建における術前の幾何学的評価に基づいた術式選択. 久保沙羅, 松島峻介, 高橋亮太, 東田昭彦, 日隈智憲, 大嶋義博, 松久弘典. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 2023年10月.
- 機械弁AVR術後のRoss-Konno手術. 久保沙羅, 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 大嶋義博. 第75回神戸心臓外科研究会, 2023年12月.

## 脳神経外科

- 1型キアリ奇形後頭蓋窩減圧術における有茎硬膜弁とコラーゲンマトリックスを用いた硬膜拡大形成. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 第32回脳神経外科手術と機器学会(CNTT2023), 2023年4月
- 髄芽腫の高次機能合併症. 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 立澤奈央, 嶋崎智哉. 第51回日本小児神経外

科学会, 2023年6月9日

- 小児後頭蓋窩上衣腫再発に対する治療. 小山淳二, 河村淳史, 阿久津宣行. 第51回日本小児神経外科学会, 2023年6月
- 年少児及び低身長児頭蓋頸椎移行部不安定性に対する後頭骨頸椎後方固定. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 第82回日本脳神経外科学会学術総会, 2023年10月
- 小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療5年の経験－脳神経外科医が知っとくべき事－. 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 川村浩平, 新田修幹. 第40回日本こども病院神経外科医会研修会, 2023年11月3日
- 小児小脳血管芽腫手術における術中インドシアニングリーン蛍光血管撮影: 評価におけるピットフォール. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 第19回日本脳神経外科光線力学学会, 2023年11月
- 小児頭部外傷における斜台後部血腫の検討. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第46回日本脳神経外傷学会, 2022年2月24日
- 頭位性斜頭に対する頭蓋形状矯正ヘルメット治療. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第51回日本小児神経外科学会, 2023年6月9日
- 位置的頭蓋変形の自然歴に関する検討. 阿久津宣行. 第8回頭蓋形状矯正療法研究会, 2023年6月30日
- 矢状縫合早期癒合症に対する術式選択. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第19回 craniosynostosis 研究会, 2023年7月1日
- 乳幼児硬膜下血腫に関する多施設共同調査. 阿久津宣行, 埜中正博, 成澤あゆみ, 加藤美穂子, 原田敦子, 朴永銖. 第14回小児頭部損傷研究会, 2023年7月29日
- 小児水頭症に対する神経内視鏡治療の展望. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史, 篠山隆司. 第82回日本脳神経外科学会学術総会, 2023年10月25-27日
- 頭蓋縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切除術. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第30回日本神経内視鏡学会, 2023年11月16日
- Minor head trauma and acute subdural hematoma in relation with non-AHI in children. Nobuyuki Akutsu. 4th Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery, 2023.12.14

## 形成外科

---

- 片側唇裂術後外鼻変形における鼻柱短縮の修正 当科でのデザインの工夫. 小野田素大. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023年4月

## 整形外科

---

- 小児の注意すべき整形外科疾患について. 薩摩眞一. 乳幼児健診研修会(神戸市医師会主催), 2023年1月.
- 知っているだけで安心できる小児運動器疾患－自分でフォローする? 専門医につなぐ?－. 薩摩眞一. 兵庫県整形外科医会, 2023年4月.
- Various osteotomies for foot deformity in childhood. S Satsuma. Trauma symposium in Kreaan Pediatric Orthopaedic Society, September 2023.
- Ponseti method in clubfoot treatment. S Satsuma. Special lecture in the conference of ASAN medical center, September 2023.
- 治療可能な骨系統疾患－実臨床における低ホスファターゼ症(HPP)について－. 小林大介. 第70回近畿小児整形外科懇話会, 2023年7月.
- 小児の骨折で注意すべきこと－肘外傷を中心に－. 小林大介. 東灘区整形外科医会, 2023年10月

- 痙性麻痺に対する治療戦略. 小林大介. 兵庫県痙縮治療セミナー, 2023年6月.
- 小児運動器疾患 - どう診断しどう治療する? -. 小林大介. 日本整形外科学会学術集会, 2023年5月
- 放射線照射後に大腿骨頭すべり症を発症した1例. 坂田亮介, 薩摩眞一, 米田梓, 北村仁美. 第140回中部日本整形外科災害外科学会, 2023年4月.
- 二分脊椎患児の麻痺性内反足変形に対する限定的後内方解離術と前脛骨筋腱外側移行術. 坂田亮介, 薩摩眞一. 第40回日本二分脊椎研究会, 2023年7月.
- 違和感から見る整形外科. 坂田亮介. 第178回神奈川県臨床整形外科医会, 2023年7月.
- 小児整形救急概論. 坂田亮介. 令和5年度日本スポーツ看護学会, 2023年.
- Screw Fixation following Gentle Reduction for Unstable SCFE. 坂田亮介, 薩摩眞一, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 河本和泉, 宮島明博. 第34回日本小児整形外科学会, 2023年11月.
- 発育性股関節形成不全(完全脱臼例)に対する観血的整復術とソルター骨盤骨切り術の同時手術. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 河本和泉, 宮島明博, 薩摩眞一. 第62回日本小児股関節研究会, 2023年6月.
- 上腕骨内側顆骨折術後に滑車部骨壊死をきたした2症例. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 河本和泉, 宮島昭博, 薩摩眞一. 第70回近畿小児整形外科懇話会, 2023年7月.
- DDH(完全脱臼例)牽引療法後、ギブス内脱臼を認めた症例の検討. 衣笠真紀, 薩摩眞一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉. 第62回日本小児股関節研究会, 2023年6月.
- 小児の内反足と足部骨端症. 衣笠真紀. 第35回日本靴の医学会学術集会, 2023年月9月.
- DDH(Developmental dysplasia of the hip)に対する観血的脱臼整復術の適応の変遷. 衣笠真紀, 薩摩眞一. 第141回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2023年10月.
- ソルター骨盤骨切り術用のTsaw誘導子の開発. 衣笠真紀, 薩摩眞一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉, 宮島明博. 第34回日本小児整形外科学会学術集会, 2023年11月.
- 大腿骨近位部単純性骨嚢腫に対してESINによる固定を施行した2例. 森下雅之, 坂田亮介, 薩摩眞一, 小林大介, 衣笠真紀, 河本和泉, 米田梓, 北村仁美, 第69回近畿小児整形外科懇話会, 2023年1月
- 6歳男児に発生した股関節腫瘍の1例. 森下雅之, 薩摩眞一, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 河本和泉, 米田梓, 北村仁美. 第62回小児股関節研究会, 2023年6月
- 単発性骨嚢腫に対するElastic Stable Intramedullary Nailingによる内固定の短期成績. 森下雅之, 坂田亮介, 河本和泉, 薩摩眞一, 小林大介, 衣笠真紀, 米田梓, 北村仁美. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023年7月
- 整形外科で診断確定されたランゲルハンス細胞組織球症の臨床経過. 森下雅之, 坂田亮介, 薩摩眞一, 小林大介, 衣笠真紀, 河本和泉, 米田梓, 北村仁美. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023年7月
- リーメンビューゲル法にて加療したDDH(完全脱臼例)の長期治療成績. 河本和泉, 小林大介, 宮島明博, 森下雅之, 衣笠真紀, 坂田亮介, 薩摩眞一. 第34回日本小児整形外科学会学術集会, 2023年11月.
- 麻痺性足部変形に対し施行した骨性手術の2例. 河本和泉, 坂田亮介, 薩摩眞一. 第40回二分脊椎研究会, 2023年7月.
- 前十字靭帯再建術後に生じた脚長不等に対し創外固定による脚延長術を行った1例. 宮島明博, 坂田亮介, 薩摩眞一, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 河本和泉. 第70回近畿小児整形外科懇話会, 2023年7月.
- Lenke 5・6特発性側彎症手術例(172例)の痛みに関する検討. 宮島明博. 第57回日本側弯症学会学術集会, 2023年11月.

- Shepherd's crook deformityを伴う線維性骨異形成の2例. 宮島明博, 森下雅之, 小林大介, 河本和泉, 衣笠真紀, 坂田亮介, 薩摩真一. 第34回日本小児整形外科学会学術集会, 2023年11月.
- Lenke 5・6特発性側彎症手術例(177例)の痛みに関する年齢別の検討. 宮島明博. 第34回日本小児整形外科学会学術集会, 2023年11月.

## 眼科

- 間欠性外斜視の術後戻りについて. 野村耕治. 第20回近畿弱視斜視アフタヌーンセミナー, 2023年2月.
- 当院における間欠性外斜視の再手術についての検討. 豊国秀昭, 牧仁美, 野村耕治. 第79回日本弱視斜視学会総会, 2023年6月.
- サトラリズムマブを導入した小児抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎の1例. 河原佳奈, 豊国秀昭, 野村耕治. 第48回日本小児眼科学会総会, 2023年6月.

## 耳鼻咽喉科

- いまさら訊けない補聴器店からの報告書の読み方と県内の補聴器店の現状. 大津雅秀. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会兵庫県地方部会補聴器相談医のための講習会, 2023年1月.
- 保育者に知って欲しい耳鼻咽喉科疾患. 大津雅秀. 日本保育保健協議会近畿ブロック研修会, 2023年3月.
- 兵庫県の高齢者補聴器活用調査事業(第1報)と認定補聴器技能者が在籍する補聴器販売店の現状. 大津雅秀. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会学術講演会, 2023年5月.
- 兵庫県における難聴児の現状と課題. 大津雅秀. 神戸市小児科医会研修会, 2023年7月.
- 兵庫県の認定補聴器技能者が在籍する補聴器販売店の現状. 大津雅秀. 令和5年度県立病院学会, 2023年9月.
- ことばの障害と難聴 - 幼稚園関係者に知って欲しい耳鼻咽喉科疾患. 大津雅秀. 神戸市教育委員会垂水区幼稚園研修会, 2023年10月.
- 学校健診で難聴を疑われて精密検査を受けた児の検討. 勝沼紗矢香, 大津雅秀. 第54回全国学校保健・学校医大会, 2023年10月.
- 兵庫県の認定補聴器技能者が在籍する補聴器販売店の現状. 大津雅秀, 李進隆. 第68回日本聴覚医学会総会, 2023年10月.
- 兵庫県の新生児聴覚スクリーニング検査と行政の対応状況. 大津雅秀. 第2回兵庫県聴覚障害児支援連絡会, 2023年10月.
- 当院にて口蓋扁桃摘出術を施行したPFAPA症候群の検討. 勝沼紗矢香, 赤澤亜由, 大津雅秀. 第18回小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2023年11月.
- 難聴原因遺伝子の全エクソーム解析による効率的な同定. 務台英樹, 良清光, 南修司郎, 仲野敦子, 有本友季子, 守本倫子, 川崎泰士, 和佐野浩一郎, 阪本浩一, 勝沼紗矢香, 増田佐和子, 松永達雄. 第33回日本耳科学会総会・学術講演会, 2023年11月.
- 眼症状を伴う日本人難聴患者の診療向上のための遺伝学的アプローチ. 松永達雄, 奈良清光, 務台英樹, 南修司郎, 加我君孝, 山野邊義晴, 藤岡正人, 大石直樹, 山本修子, 守本倫子, 土橋奈々, 中川尚志, 増田正次, 有本友季子, 仲野敦子, 勝沼紗矢香, 三代康雄, 阪本浩一. 第33回日本耳科学会総会・学術講演会, 2023年11月.
- Frontometaphyseal dysplasia type1の遺伝学的診断と遺伝カウンセリング. 洪本加奈, 森貞直哉, 野津寛大, 大津雅秀, 小林大介. 第35回日本整形外科学会骨系統疾患研究会, 2023年11月.

## 泌尿器科

- 総排泄腔外反症・膀胱外反症の尿失禁に対して尿路変向術を行った長期観察例の検討. 杉多良文. 第1回総排泄腔異常シンポジウム in 岡山, 2023年2月
- Testicular function after testicular torsion. Yoshifumi Sugita. 第110回日本泌尿器科学会総会, 2023年4月
- 腎盂尿管移行部通過障害123症例の検討からみたpost micturition image (PMI)の実行可能性 (Feasibility of post micturition image (PMI) in 123 patients with ureteropelvic junction obstruction). 原田淳樹, 桂大希, 春名晶子, 神野雅, 杉多良文. 第110回日本泌尿器科学会総会, 2023年4月
- 異所性尿管の開口を伴うGartner duct cystを介した膀胱陰嚢の一例 (Vesicovaginal fistula connected to a Gartner duct cyst with an ectopic ureter: a case report). 桂大希, 原田淳樹, 春名晶子, 神野雅, 杉多良文. 第110回日本泌尿器科学会総会, 2023年4月
- 「まかせなさい! 小児尿路結石」まかせなさい! 難症例. 杉多良文. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2023年7月
- 『腹腔内精巣固定術の下降経路』Fowler-Stephens法2ndにおける内側ルートの有用性に関して. 神野雅, 豊未都樹, 春名晶子, 杉多良文. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2023年7月
- 交通性陰嚢水腫により精巣の血流低下を来した1例. 豊未都樹, 神野雅, 春名晶子, 杉多良文, 小林孝生, 芳本誠司. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2023年7月
- 総排泄腔外反症の尿失禁に対して、小児期に尿路変向術を行った成人例の検討. 桂大希, 豊未都樹, 春名晶子, 神野雅, 杉多良文. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2023年7月
- 「エキスパートに学ぶ小児排尿障害治療」後部尿道弁・前部尿道弁8例の臨床的検討, 杉多良文. 第30回日本排尿機能学会. 2023年9月
- 交通性陰嚢水腫により精巣の血流低下を認めた1例. 豊未都樹, 神野雅, 春名晶子, 杉多良文, 小林孝生, 芳本誠司. 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2023年10月
- 術前凝固管理に難渋した先天性ネフローゼ症候群の片腎摘除の1例. 豊未都樹, 神野雅, 春名晶子, 杉多良文, 貝藤裕史. 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2023年10月
- 異形成腎・低形成腎に対する腹腔鏡手術. 神野雅, 豊未都樹, 春名晶子, 杉多良文. 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2023年10月
- Deglovingに片側の側方剥離を追加することで是正しえた陰茎捻転の1例. 神野雅, 豊未都樹, 春名晶子, 杉多良文. 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2023年10月.
- 「外来で診る小児泌尿器科疾患」. 杉多良文. 第75回西日本泌尿器科学会総会, 2023年11月
- 先天性後部尿道弁・前部尿道弁の臨床的検討. 杉多良文. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2023年11月
- 両側VUR術後に腎後性腎不全をきたした1例. 豊未都樹, 神野雅, 春名晶子, 杉多良文. Pitfall and Tips, 2023年12月

## 麻酔科

- ケースカンファレンスアドバンスド 食道閉鎖. 藤原孝志. 第3回日本小児麻酔学会教育セミナー, 2023年2月.
- 小児末梢神経ブロック ベーシックPNB. 末田彩, 香川哲郎. 第3回小児麻酔教育セミナー, 2023年2月.
- 小児麻酔に必要な区域麻酔. 香川哲郎. 第10回日本区域麻酔学会, 2023年4月.
- 精巣固定術における術後の鎮痛薬の追加投与に関わる因子の検討. 大場祥平, 香川哲郎. 第10回日本区域

麻酔学会, 2023年4月.

- Routine to Risk-Based: A Pediatric Hemophilia B Case Report and the Adoption of Targeted Preoperative Blood Testing Practices with Questionnaires. Aya Sueda, Tetsuro Kagawa. The 19<sup>th</sup> Asian Society of Paediatric Anaesthesiologists, 2023年6月.
- Anesthetic Experience of Repair of Esophageal Atresia in a Child with BPFM, Esophageal Atresia, and Full-length Tracheal Stenosis. Takashi Fujiwara. The 19<sup>th</sup> Asian Society of Paediatric Anaesthesiologists, 2023年6月.
- Beckwith-Wiedemann 症候群を有する児の両側下顎骨関節突起骨折に対する顎間固定術の麻酔経験. 森下大樹, 藤原孝志, 高辻小枝子. 第69回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 2023年9月.
- 小児開心術にプロポフォルを使用する. 藤原孝志. 第28回日本心臓血管麻酔学会学術大会, 2023年9月.
- 鎖肛に対する人工肛門造設術施行後に気管無形成であることが判明した一例. 上村圭広, 藤原孝志, 高辻小枝子. 第28回日本小児麻酔学会, 2023年10月.
- 小児患者における全身麻酔前凝固スクリーニング検査の手術への影響. 高井勝代, 末田彩, 香川哲郎. 第28回日本小児麻酔学会, 2023年10月.
- 小児眼科手術症例における麻酔前投薬とPACU滞在時間に関する検討: 単施設後方視的観察研究. 秋丸慎太郎, 宮本義久, 香川哲郎. 第28回日本小児麻酔学会, 2023年10月.
- BPFMと食道閉鎖症, 全長型先天性気管狭窄症を合併した児に対する食道閉鎖症根治術の麻酔経験. 森下大樹, 藤原孝志, 高辻小枝子. 第28回日本小児麻酔学会, 2023年10月.
- 小児麻酔の持続可能な未来を想像する - 超少子化時代の小児病院経営 - 日帰り手術の運用とその影響: 超少子化時代における小児病院の新たな運用戦略. 末田彩. 第28回日本小児麻酔学会, 2023年10月.

## 新生児内科

---

- Early changes of serum IL-6 levels in extremely premature newborns may detect fetal inflammation. Sota Iwatani, Takao Kobayashi, Makiko Yoshida, Seiji Yoshimoto. Pediatric Academic Societies meeting, Washington D.C., USA, 2023.4-5.
- Postmenstrual age-dependent distributions of precordial QRS amplitudes in preterm infants. Toshihiko Ikuta, Sota Iwatani, Emiko Takeoka, Shoko Tamaki, Sachiko Matsui, Hitomi Mimura, Seiji Yoshimoto. 5<sup>th</sup> Congress of joint European Neonatal Societies, Roma, Italy, 2023.9.
- Growth retardation during infancy and childhood in survivors with congenital diaphragmatic hernia. Sota Iwatani, Tomonori Sunakawa, Akiko Yokoi, Tadashi Hatakeyama, Seiji Yoshimoto. 22<sup>th</sup> Congress of the Federation of Asia&Oceania Perinatal Societies, Tokyo, Japan. 2023.10.
- Improving survival of patients with trisomy 18. Shoko Tamaki. 5<sup>th</sup> Korea-Japan-Taiwan Joint Congress on Neonatology, Seoul, Korea, 2023.10.
- 著明なヘモグロビン濃度差から双胎貧血多血症と診断した二絨毛膜二羊膜双胎例. 原田晋二, 岩谷壮太, 小林孝生, 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第288回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年2月.
- 当センターで管理した先天性横隔膜ヘルニアの遠隔期合併症. 砂川智紀, 岩谷壮太, 小林孝生, 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 横井暁子, 畠山理, 芳本誠司. 第288回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年2月.
- 修正42週に葛西手術を施行した超低出生体重児の胆道閉鎖症. 後藤弘樹, 生田寿彦, 岩谷壮太, 小林孝生,

- 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 高成田祐希, 竹内雄毅, 畠山理, 上田雅章, 芳本誠司 . 第288回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年2月.
- 修正42週に葛西手術を施行した超低出生体重児の胆道閉鎖症. 後藤弘樹, 生田寿彦, 岩谷壮太, 小林孝生, 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 上田雅章, 芳本誠司. 第36回近畿小児科学会, 2022年3月.
  - アセトアミノフェン投与後に予期せぬ高UB血症を呈した早産児例. 岩谷壮太, 萩元慎二, 玉置祥子, 芳本誠司. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
  - 当センターにおける超早産児の入院時低体温予防の効果. 岩谷壮太, 原田晋二, 泉絢子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
  - 三次周産期医療センターにおける超早産児の子宮外発育遅延頻度の変遷. 泉絢子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
  - 18トリソミー児の聴覚評価と難聴に対する介入. 玉置祥子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第126回日本小児科学会学術集会, 2023年4月.
  - 先天性横隔膜ヘルニアにおける遠隔期の発育障害とそのリスク因子. 砂川智紀, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 横井暁子, 畠山理, 芳本誠司. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月.
  - 腹臥位療法により体外式膜型人工肺療法を回避できた胎便吸引症候群の正期産児. 西藤知城, 岩谷壮太, 後藤弘樹, 小林孝生, 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 白井佳祐, 奥谷貴弘, 芳本誠司. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月.
  - 総合周産期母子医療センターで出生する多胎児の増加. 中山栗太, 岩谷壮太, 小林孝生, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第289回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年5月.
  - 過去10年間における18トリソミー児の生存予後の改善と心臓手術の変化. 玉置祥子. 第59回日本小児循環器学会学術集会, 2023年7月.
  - 18トリソミーの心疾患に対する姑息術の問題点. 松久弘典, 大嶋義博, 日隈智憲, 松嶋峻介, 東田昭彦, 玉置祥子, 岩谷壮太, 芳本誠司, 田中敏克. 第59回日本小児循環器学会, 2023年7月.
  - 当センターで管理した先天性横隔膜ヘルニアの遠隔期合併症. 砂川智紀, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 横井暁子, 畠山理, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023. 7月.
  - 修正42週に葛西手術を施行した超低出生体重児の胆道閉鎖症. 後藤弘樹, 生田寿彦, 岩谷壮太, 中山栗太, 高成田祐希, 竹内雄毅, 畠山理, 上田雅章, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
  - 体重差のある二絨毛膜性双胎に発症した双胎貧血多血症. 原田晋二, 岩谷壮太, 玉置祥子, 木原智子, 金子めぐみ, 船越徹, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
  - 妊娠37週まで分娩待機を行った羊水過少を伴う前部尿道弁の男児. 小林孝生, 岩谷壮太, 三村仁美, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
  - 総合周産期母子医療センターで出生する多胎児の増加. 中山栗太, 萩元慎二, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
  - 血清タンパク濃度測定において臍帯血は新生児血の代用になる. 生田寿彦, 岩谷壮太, 泉絢子, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.

- 在宅移行した13トリソミー児の臨床的問題点. 玉置祥子, 生田寿彦, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
- 超早産児における血清IL-6値は生後ダイナミックに変化する. 岩谷壮太, 小林孝生, 泉絢子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
- 早産児ビリルビン脳症における性差: 全国調査結果から. 奥村彰久, 森岡一朗, 早川昌弘, 日下隆, 國方徹也, 岩谷壮太. 第59回日本周産期新生児学会学術集会, 2023年7月.
- 全身の紫斑を契機に診断に至った肝外門脈体循環シャントの新生児例. 原将輝, 玉置祥子, 高橋英里, 田中敦, 西内徳子, 宇保早希子, 後藤弘樹, 西牧良, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月.
- 出生前後の変化を観察しえた無症候性の動脈管瘤. 田中敦, 後藤弘樹, 生田寿彦, 高橋英里, 原将輝, 西内徳子, 宇保早季子, 西牧良, 小林孝生, 中山栗太, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 岩谷壮太, 三村仁美, 松岡道生, 田中敏克, 芳本誠司. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月.
- 薬剤抵抗性てんかんへの移行が懸念された左片側巨脳症の新生児例. 高橋英里, 小林孝生, 西牧良, 岩谷壮太, 原将輝, 田中敦, 西内徳子, 宇保早希子, 後藤弘樹, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 西山将広, 丸山あずさ, 芳本誠司. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月.
- 難聴を先天性サイトメガロウイルス感染症の症候と判断したDown症の児. 西内徳子, 岩谷壮太, 田中敦, 原将輝, 高橋英里, 後藤弘樹, 宇保早季子, 西牧良, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 南川将吾, 中岸保夫, 芳本誠司. 第290回日本小児科学会兵庫県地方会, 2023年9月.
- 高アンバウンドビリルビン血症が遷延する超早産児の予測因子. 萩元慎二, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第21回日本黄疸管理研究会, 2023年10月.
- 早産児黄疸管理基準の変更前後における光療法頻度とビリルビン値の推移の比較. 松井紗智子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第21回日本黄疸管理研究会, 2023年10月.
- 腹臥位療法により体外式膜型人工肺療法を回避できた胎便吸引症候群の正期産児. 西藤知城, 岩谷壮太, 後藤弘樹, 小林孝生, 中山栗太, 垂井智前, 西崎泰隆, 泉絢子, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 白井佳祐, 奥谷貴弘, 芳本誠司. 第55回日本小児呼吸器学会, 2023年10月.
- 腹臥位療法により体外式膜型人工肺療法を回避できた胎便吸引症候群の正期産児. 岩谷壮太, 後藤弘樹, 白井佳祐, 奥谷貴弘, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- シンポジウム – 急性期以降の一酸化窒素吸入療法(iNO)は、児の予後改善に必要なか? iNOの適応拡大を考える – レスキューとしてのiNO. 岩谷壮太. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 一酸化窒素吸入療法を用いて超早産児の予後を向上させる. 岩谷壮太. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 超早産児に対する一酸化窒素吸入療法に関する多施設共同実態調査. 岩谷壮太. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 早産児ビリルビン脳症のリスク因子の症例対照研究. 奥村彰久, 森岡一朗, 早川昌弘, 日下隆, 國方徹也, 岩谷壮太, 荒井洋, 丸尾良浩, 佐藤義朗. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 急性期以降にiNOを必要とする病態・診断と使用の現在地 – scoping review. 加藤晋, 南谷曜平, 岩谷壮太, 中嶋敏紀, 細川未来, 中西秀彦. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 先天性横隔膜ヘルニアの周術期における炎症マーカーの推移. 小林孝生, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.

- 先天性横隔膜ヘルニアにおける乳幼児期の発育障害. 砂川智紀, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 畠山理, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 難聴を先天性サイトメガロウイルス感染症の症候と判断したDown症の児. 西内徳子, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 三村仁美, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 18トリソミー児の聴覚評価と難聴に対する介入. 玉置祥子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.
- 早産児黄疸管理基準の変更前後における光療法頻度とビリルビン値の推移の比較. 松井紗智子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第67回日本新生児成育医学会学術集会, 2023年11月.

## 産科

- 前部尿道弁による胎児下部尿路閉塞の一例. 荒井貴子, 平久進也, 木原智子, 内山美穂子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荻野美智, 松本培世, 船越徹. 第75回日本産科婦人科学会学術集会. 2023年5月.
- 双胎貧血多血症(twin anemia-polycythemia sequence:TAPS)を発症した二絨毛膜二羊膜(DD)双胎の一例. 金子めぐみ, 木原智子, 内山美穂子, 窪田詩乃, 荻野美智, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第75回日本産科婦人科学会学術集会. 2023年5月.
- シンポジウム: 周産期の緩和ケア. 木原智子. 第28回日本緩和医療学会学術大会. 2023年6月.
- 総排泄腔遺残症の診断に難渋した1例. 金子めぐみ, 内山美穂子, 松本培世, 木原智子, 窪田詩乃, 荻野美智, 荒井貴子, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 第59回日本周産期・新生児医学会. 2023年7月.
- 話題提供「周産期の緩和ケア」. 木原智子. 2023年度位育会臨床セミナー. 2023年8月.
- 当院における超緊急帝王切開術の取り組み. 松本培世. 令和5年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会. 2023年12月.

## 放射線診断科

- 曾菲亜, 乗本周平, 赤坂好宣. 関節炎精査のMRIが診断の契機となった神経芽腫の2例. 第333回日本医学放射線学会関西地方会. 2023. 2. 4
- 赤坂好宣. 小児領域の進歩: 画像診断. WOW! シーズン2. がん医療WEBセミナー. 2023. 2. 16
- 赤坂好宣. 知っているのと役に立つ、小児泌尿器疾患の画像的解説. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2023. 7. 20
- 乗本周平. 巨大な肺嚢胞を呈したLangerhans細胞組織球症の2例. 第59回日本小児放射線学会学術集会. 2023. 6. 21~22
- 乗本周平. deep sylvian meningiomaの1例. 第43回神経放射線ワークショップ. 2023. 7. 20~22
- 田原潤子. 骨腫瘍類似の所見を呈したBCG骨髄炎の一例. 第334回日本医学放射線学会関西地方会. 2023. 06. 24

## 小児集中治療科

- 小川裕子, 青木一憲, 伊藤由作, 宮下徳久, 長井勇樹, 中西啓太, 小谷晋平, 黒澤寛史. 医療機関の速やかな連携により救命し得たrefeeding syndromeの一例. 第288回日本小児科学会兵庫県地方会. 2023年2月
- 山下由理子, 青木一憲, 三坂勇介, 黒澤寛史. 小児ECMO中の溶血と一酸化炭素ヘモグロビン濃度の相関. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 2023年3月

- 時岡孝平, 當間圭一郎, 潮見祐樹, 長井勇樹, 青木一憲, 黒澤寛史. Medical emergency team (MET) 導入後3年間の実績に基づく小児コール基準の妥当性. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 2023年3月
- 伊藤由作, 青木一憲, 黒澤寛史. 急性腎不全を伴う循環不全の後に心筋石灰化を認めた乳児の2例. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 2023年3月
- 當間圭一郎, 伊藤由作, 青木一憲, 黒澤寛史, 上田拓耶, 本郷裕斗, 西山将広, 丸山あずさ. サイトカインストーム型の急性脳症をきたした小児COVID-19の2症例. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 2023年3月
- 黒澤寛史. 特別企画3 将来の未知の感染症「X」パンデミック災害に対する‘Preparedness’はどうあるべきか 日本集中治療医学会による新型コロナウイルス重症症例データベース - CRISISと小児重症例早期把握システム -. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023年4月
- 松原大輔, 松原優里, 関満, 鮎澤衛, 三谷義英, 尾内善広, 濱田洋通, 森内浩幸, 宮入烈, 多屋馨子, 勝田友博, 清水直樹, 黒澤寛史, 青木一憲, 山岸敬幸, 中村好一. 小児多系統炎症性症候群(MIS-C)レジストリー中間報告. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023年4月
- Hiroshi Kurosawa. Improving CPR outcomes – what can we do? Physiology of targeted resuscitation. 4<sup>th</sup> Asian Pediatric Intensive Care Medicine Congress. 2023年5月
- Hiroshi Kurosawa. The role of simulation-based training in the PICU. 4th Asian Pediatric Intensive Care Medicine Congress. 2023年5月
- 黒澤寛史. シンポジウム3 小児の蘇生 - 2020からの潮流 -. 第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2023年7月
- 時岡孝平, 青木一憲, 伊藤由作, 先濱大, 黒澤寛史. 亜鉛欠乏による高アンモニア血症を合併した糖尿病性ケトアシドーシスの小児例. 第35回日本小児救急医学会学術集会. 2023年7月
- 青木一憲, 黒澤寛史. 呼吸器系メカニクスの異質性を考慮し人工呼吸管理を思考した先天性気管狭窄の一症例. 第55回日本小児呼吸器学会学術集会. 2023年10月

## 病理診断科

- 胎児機能不全を呈した胎盤の一例. 高橋加奈, 吉田牧子, 松本培世, 木原智子, 平久進也, 船越徹. 第100回日本病理学会近畿支部学術集会, 2023年2月.
- 兵庫県立こども病院における乳幼児の剖検例～病理診断. 吉田牧子. 第28回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会, 2023年2月.
- Diffuse midline glioma, H3K27-altered の4例. 吉田牧子, 高橋加奈, 平戸純子, 市村幸一, 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 赤坂好宣, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第41回日本脳腫瘍病理学会, 2023年5月.
- 眼瞼結節の1例. 吉田牧子, 高橋加奈, 楠田千佳, 小野田素大. 第83回関西小児病理研究会, 2023年6月.
- 兵庫県立こども病院における Spitz nevus 13例の免疫組織学的検討. 吉田牧子, 高橋加奈, 川畑順子, 下田智晴, 成田勉, 楠田千佳, 小野田素大. 第43回日本小児病理研究会学術集会, 2023年9月.
- 左基底核腫瘍. 吉田牧子, 高橋加奈, 山口貴子, 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 秋定直宏, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 乗本周平, 赤坂好宣. 2023年度小児腫瘍症例検討会, 2023年9月.
- 肩軟部腫瘍の1例. 森下雅之, 吉田牧子, 岸本健治. 第159回関西骨軟部腫瘍研究会, 2023年12月.
- 脳幹腫瘍の1例. 吉田牧子, 平戸純子, 市村幸一, 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 赤坂好宣, 岸本健治, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第84回関西小児病理研究会, 2023年12月.

## 薬剤部

- 粉碎調剤における主薬含有量の分包誤差について. 岡田瑞希, 溝渕陽菜, 磯元啓吾, 藤田愛美, 松谷春花, 田中智啓, 木佐木里穂, 河原香織, 藤原康浩, 辻本勉, 合田泰志. 第44回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2023年1月.
- 当院における血液腫瘍内科患児のバクタミニ配合錠の使用実態調査. 芦原まいか, 藤田愛美, 池 啓伸, 陣田剛志, 垣尾尚美, 河原香織, 藤原康浩, 合田泰志. 第44回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2023年1月.
- 小児集中治療室における薬剤師の取り組みについて. 網代千慧, 山田怜奈, 田中智啓, 多々見俊輔, 磯元啓吾, 河原 香織, 藤原康浩, 合田泰志. 第44回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2023年1月.
- コロナ禍での県立病院薬剤部における教育研修. 河原香織, 寺崎展幸, 奥貞佳世子, 丸本一希, 馬場奈津美, 福山裕季子, 山口泰大, 南野希, 山内紗綾香, 香田小百合, 本間久美子, 横田聖子, 石田達彦(薬剤部長会議教育研修委員会). 第18回兵庫県立病院学会, 2023年9月.
- 業務標準化推進委員会による県立病院薬剤部一般公開用ホームページリニューアル. 磯元啓吾, 佐倉小百合, 足立萌, 田中拓可, 阿河千恵, 齋藤あゆみ, 渡邊稜子, 玉置尚, 六車龍介, 香田小百合, 柴田直子, 合田泰志, 上田里恵(薬剤部長会議業務標準化推進委員会). 第18回兵庫県立病院学会, 2023年9月.
- 粉碎調剤における主薬含有量の分包誤差について. 岡田瑞希<sup>1</sup>, 溝渕陽菜<sup>2</sup>, 磯元啓吾<sup>1</sup>, 藤田愛美<sup>1</sup>, 松谷春花<sup>1</sup>, 田中智啓<sup>1</sup>, 木佐木里穂<sup>2</sup>, 河原香織<sup>1</sup>, 藤原康浩<sup>1</sup>, 辻本勉<sup>2</sup>, 合田泰志<sup>1</sup>, 1兵庫県立こども病院薬剤部, 2武庫川女子大学薬学部 臨床薬学教育センター. 第18回兵庫県立病院学会, 2023年9月.
- 小児専門病院におけるレムデシビル投与による肝酵素上昇例の検討. 陣田剛志<sup>1</sup>, 網代千慧<sup>1</sup>, 藤田愛美<sup>1</sup>, 田中智啓<sup>1</sup>, 多々見俊輔<sup>1</sup>, 末森千加子<sup>1</sup>, 河原香織<sup>1</sup>, 明神翔太<sup>2</sup>, 水野真介<sup>2</sup>, 笠井正志<sup>2</sup>, 石田達彦<sup>1</sup>, 1兵庫県立こども病院薬剤部, 2兵庫県立こども病院感染症内科. 第50回小児臨床薬理学会, 2023年9月.
- 小児集中治療室(PICU)におけるカルバペネム供給制限の影響. 藤田愛美<sup>1</sup>, 多々見俊輔<sup>1</sup>, 網代千慧<sup>1</sup>, 田中智啓<sup>1</sup>, 陣田剛志<sup>1</sup>, 末森千加子<sup>1</sup>, 河原香織<sup>1</sup>, 笠井正志<sup>2</sup>, 石田達彦<sup>1</sup>, 1兵庫県立こども病院薬剤部, 2兵庫県立こども病院感染症内科. 第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第70回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会.

## 検査部

- 中規模病院におけるISO 15189認定取得・維持の工夫と問題点. 千田園子, 藤本恵子, 山本美和, 筑紫和江, 川畑順子, 東村義志, 尾上知子, 中澤佳代. 第18回県立病院学会, 2023年9月.
- 血液製剤分割の製剤種拡大について. 藤田友梨, 筑紫和江, 足立綾, 下田智晴, 津阪美帆, 尾上知子, 千田園子. 第18回県立病院学会, 2023年9月.

## 看護部

- 小児 WOC ナースとしての自己のキャリア開発～目指したものとその活動～. 鎌田直子. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 2023年7月
- 二分脊椎患者の経肛門的洗腸療法による排便管理の現状. 鎌田直子. 第32回日本小児泌尿器科学会, 2023年7月
- 間欠導尿を必要とする小児の就園・就学における課題の明確化－患者の経験に基づく実態調査－. 鎌田直子, 第37回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会. 2023年6月
- 低出生体重児のスキンケア～鼻カニューラ装着時のスキントラブル予防. 鎌田直子. メディカルネクスト株式会社主催セミナー. 2023年10月

- 小児のストーマケア. 鎌田直子. アルケア株式会社主催セミナー. 2023年11月
- 文化の差異を考慮した看護実践を行うために海外滞在経験のある看護師が実践していること. 萩原彩. グローバルヘルス合同大会・第8回国際臨床医学会学術集会, 2023年11月.
- The Approach of Japanese Nurses with Overseas Experience Towards Foreign Patients. Aya HAGIHARA. 第5回国際ケアリング学会学術集会, 2024年3月.

## 看護部 外来

---

- 学童期でリウマチ疾患を発症したこどもと家族への移行期支援. 辻田利香, 中岸保夫, 合田由香里, 水田麻雄. 第32回日本小児リウマチ学会. 2023年10月

## 放射線部

---

- 当院におけるMRI検査時の工夫. 爰河恵梨. 第46回日本小児放射線技術研究会. 2023年4月.
- 診断用X線撮影装置における品質管理の現状報告. 前田貴彦. 第18回県立病院学会, 2023年9月.
- 新生児胸腹部ポータブルX線撮影における至適撮影条件の検討. 前田貴彦. 第39回日本診療放射線技師学術大会, 2023年10月.
- 新生児胸腹部ポータブルX線撮影における至適撮影条件の検討. 前田貴彦. 第33回兵庫県放射線技師学術大会, 2023年11月.

## リハビリテーション部

---

- 令和5年度聴覚障害児支援力向上研修事業にかかる言語聴覚士派遣. 森香代子. 兵庫県立姫路聴覚支援学校. 2023年9月.
- 令和5年度聴覚障害児支援力向上研修事業にかかる言語聴覚士派遣. 北瀬幸子. 兵庫県立神戸聴覚支援学校. 2023年12月.
- 令和5年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会理学療法アプローチ講師. 福田哲也. 神戸臨床研究センター. 2023. 3月
- 体外式LVAD装着下でPICU在室期間が長期化した患児の離床経験. 河村勇祐, 福田哲也, 池田陽祐, 細川泰徳. 第34回兵庫県理学療法学会学術大会, 2023年6月
- 先天性心疾患患児のリハビリテーション時における骨格筋酸素動態について～ラステリ術後患児における症例検討～. 河村勇祐, 松久弘典, 細川泰徳. 第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2023年7月
- 先天性心疾患患児のリハビリテーション時における骨格筋酸素動態について～異なる月齢・術式での比較検討～. 河村勇祐, 松久弘典, 細川泰徳. 日本呼吸・循環合同理学療法学会学術大会, 2023年9月
- 生活支援技術V(理学療法演習). 河村勇祐. 兵庫県立総合衛生学院介護福祉学科. 2023年7月

## 緩和ケアチーム

---

- 小児緩和ケアチームへの介入依頼とチーム活動実績の変化. 塚田友紀, 中谷扶美, 関口典子, 池島典之, 神前愛子, 岸本健治, 藤田愛美, 芦原まいか, 沖村心, 堀田亮子, 後藤恵美, 松尾さおり, 田原エリカ, 小阪嘉之. 第18回県立病院学会. 2023年10月.

## 4) 報道関連

テ	ー	マ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
ワクチン博士が解説			感染症内科	笠井正志	毎日新聞	2023年1月21日
小児のコロナ			感染症内科	笠井正志	NHK兵庫	2023年1月19日
絵本で学ぼう小児接種			感染症内科	笠井正志	神戸新聞	2023年1月31日
こども未来新聞			感染症内科	笠井正志	読売新聞	2023年4月1日
コロナ5類化			感染症内科	笠井正志	NHK兵庫	2023年4月28日
インフルエンザ			感染症内科	笠井正志	NHK兵庫	2023年10月25日
インフルエンザ			感染症内科	笠井正志	NHK兵庫	2023年12月21日
重症の子どもたちを救いたい…最後の砦、PICUで日本の小児医療を支えるトップ医師に密着【かんさい情報ネット ten.特集】			小児集中治療科	黒澤寛史	テレビ、YouTube	2023年1月13日
「どこにいても子どもが救えるように」PICUが支える未来の小児医療【ウエークアップ】			小児集中治療科	黒澤寛史	テレビ、YouTube	2023年10月7日
NNNドキュメント PICU 〜ブラックジャックに憧れた医師〜			小児集中治療科	黒澤寛史	テレビ	2023年12月11日

## 5) 実習生・研修生受け入れ状況

### ① 実習生

#### 診療部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年生学外臨床実習	3	2週間	精神科
神戸学院大学大学院	公認心理士実習	1	10日間	精神科
関西国際大学大学院	公認心理士実習	1	5日間	精神科
神戸大学医学部	医学科6年次臨床実習	1	2週間	心臓血管外科
神戸大学医学部	ベッドサイドローニンング、関連病院実習	100名	2023年1～12月	整形外科外来、手術室
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	2023年6月15日～7月7日	歯科外来・他
兵庫歯科衛生士学院		2名	2023年9月1日～9月28日	歯科外来・他

#### 看護部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	統合看護	4	2023年5月15日～6月6日(19日間)	病棟(7東 5西)
		17	2023年7月3日～7月13日(9日間)	病棟(7西 7東 6東 5西)
		17	2023年10月2日～10月12日(8日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
		17	2023年10月16日～10月26日(9日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
	生涯広域看護	17	2023年10月30日～11月9日(8日間)	病棟(7東 6東 6西 救急・HCU)
		17	2023年11月13日～11月22日(8日間)	病棟(7東 6東 7西 救急・HCU)
		17	2023年11月27日～12月7日(9日間)	病棟(7東 6東 8西 救急・HCU)
		4	2023年5月15日～6月8日(19日間)	病棟(産科)
		8	2023年6月19日～6月29日(9日間)	病棟(産科 NICU GCU)
		9	2023年7月3日～7月13日(9日間)	病棟(産科 NICU GCU)
生涯広域看護(母性)	9	2023年10月16日～10月26日(9日間)	病棟(産科 NICU GCU)	
	8	2023年10月30日～11月9日(8日間)	病棟(産科 NICU GCU)	
	8	2023年11月13日～11月22日(8日間)	病棟(産科 NICU GCU)	
	9	2023年11月27日～12月7日(9日間)	病棟(産科 NICU GCU)	
関西医科大学 看護学部	統合実習	2	2023年5月22日～6月1日(8日間)	病棟(6東)

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所	
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学(看護学科定時制)	4	2023年8月22日～9月1日(8日間)	病棟(6東)	
		4	2023年9月5日～9月15日(8日間)	病棟(6東)	
		4	2023年9月19日～9月29日(8日間)	病棟(6東)	
	助産診断・技術学実習Ⅰ	2	2023年12月11日～12月14日(4日間)	病棟(産科)	
		2	2023年12月18日～12月21日(4日間)	病棟(産科)	
		3	2024年1月16日～1月18日(3日間)	病棟(NICU GCU)	
助産診断・技術学実習Ⅲ	2	2024年1月11日～1月13日(3日間)	病棟(NICU GCU)		
	2	2024年1月23日～1月25日(3日間)	病棟(NICU GCU)		
	12	2023年6月12日～6月30日(10日間)	病棟(7西 6西 5東)		
神戸常磐大学	総合実習	12	2023年6月12日～6月30日(10日間)	病棟(7東 5西 5東 救急・HCU)	
神戸常磐短期大学部	短期大学通信制課程	10	2023年8月24日～8月25日	病棟(7東 5西 5東 救急・HCU)	
	統合看護実習(小児看護学)	3	2023年6月12日～6月23日(10日間)	病棟(救急・HCU)	
	統合看護実習(母性看護学)	3	2023年5月29日～6月9日(10日間)	病棟(救急・HCU)	
関西国際大学	統合看護実習(母性看護学)	10	2023年7月24日～8月17日のうち 1人あたり11日間	病棟(産科 NICU GCU)	
	ウイメンズヘルス看護	5	2023年9月25日～9月26日(2日間)	病棟(NICU GCU)	
		5	2023年9月27日～9月28日(2日間)	病棟(NICU GCU)	
	神戸市看護大学	3	2023年10月2日～10月3日(2日間)	病棟(NICU GCU)	
		3	2023年10月4日～10月5日(2日間)	病棟(NICU GCU)	
		3	2023年10月10日～10月11日(2日間)	病棟(NICU GCU)	
	神戸女子大学 小児	総合実習	3	2023年10月12日～10月13日(2日間)	病棟(NICU GCU)
			7	2023年5月22日～6月2日(10日間)	病棟(7西 6西)
		7	2023年5月8日～5月19日(10日間)	病棟(7西 6西)	
		11	2023年7月18日～7月28日(9日間)	病棟(7西 6西)	
神戸女子大学 助産	成育看護実習Ⅱ(小児)	12	2023年7月31日～8月11日(9日間)	病棟(7西 6西)	
		12	2023年9月25日～10月6日(10日間)	病棟(7西 6西)	
	課題探求	4	2023年8月14日～8月25日(10日間)	病棟(7西 6西)	
		4	2023年8月28日～9月8日(10日間)	病棟(7西 6西)	
関西看護医療大学	総合実習	2	2023年9月19日～9月21日(3日間)	病棟(産科)	
	小児看護学実習	10	2023年10月17日～10月20日(4日間)	病棟(7西 6西)	

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
関西看護医療大学	小児看護学実習	10	2023年11月28日～12月1日(4日間)	病棟(7西 6西)
		10	2023年12月12日～12月15日(4日間)	病棟(7西 6西)
		10	2024年1月16日～1月19日(4日間)	病棟(7西 6西)
兵庫医科大学	小児看護学実習	6	2024年1月9日～1月12日(4日間)	病棟(6東 5西)
		7	2024年1月15日～1月18日(4日間)	病棟(6東 5西)
		6	2024年1月22日～1月25日(4日間)	病棟(6東 5西)
		13	2024年2月19日～2月22日(4日間)	病棟(6東 5西 7東)
		5	2023年8月28日～9月1日(5日間)	病棟(7西 6西)
甲南女子大学	母子看護実習Ⅱ小児看護学領域	5	2023年9月4日～9月8日(5日間)	病棟(7西 6西)
		4	2023年11月6日～11月10日(5日間)	病棟(7西 6西)
		5	2023年11月13日～11月17日(5日間)	病棟(7西 6西)
		3	2023年7月31日～8月10日(8日間)	病棟(7東)
森ノ宮医療大学	小児看護学実習	3	2024年1月15日～1月19日(4日間)	病棟(7東)
		5	2024年1月22日～1月26日(4日間)	病棟(7東)
		5	2024年3月4日～3月8日(4日間)	病棟(7東)
		5	2023年10月30日～11月2日(4日間)	病棟(6西)
大手前大学	小児看護学実習	5	2023年11月13日～11月17日(4日間)	病棟(7西)
		5	2024年1月15日～1月19日(4日間)	病棟(救急・HCU)
		5	2024年1月22日～1月26日(4日間)	病棟(救急・HCU)
		4	2024年3月4日～3月8日(4日間)	病棟(救急・HCU)

#### 栄養管理部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	2023年2月9日～2月22日	栄養管理部
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2023年2月27日～3月10日	栄養管理部
武庫川女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2023年6月5日～6月16日	栄養管理部
甲南女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2023年6月26日～7月7日	栄養管理部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	2	2023年8月21日～9月7日, 9月13日	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2023年10月16日～10月27日	栄養管理部

### 病院見学実習

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
平成淡路看護専門学校	小児看護学実習	36	2023年11月8日	病院内見学
新見公立大学 健康科学部健康保育学科	院内保育士業務見学実習	2	2024年3月4日	7西

### 大学院生

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸市看護科大学大学院	博士前期課程1年 小児看護学特講実習 I	3	2023年6月26日～2023年3月29日	NICU GCU 外来 7東 6西 5東
関西看護医療大学大学院	母性看護・助産学実習	1	2023年9月5日～9月6日	NICU GCU

### 社会人

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
医療福祉センターさくら	日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師研修	1	2022年6月23日	NICU

### ② 研修生 診療部

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院病理 診断科専攻医プログラム	1	2023年1月4日～2023年1月31日 (週3日,月～水)	病理診断科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院病理 診断科専攻医プログラム	1	2023年2月1日～2023年2月28日 (週3日,月～水)	病理診断科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院病理 診断科専攻医プログラム	1	2023年 6月22日, 6月26日, 7月5日, 7月12日, 7月19日, 7月26日, 8月2日, 8月9日, 10月11日	病理診断科

**薬剤部**

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
神戸学院大学	薬学生実務実習	3	2023年5月22日～8月6日	薬剤部、病棟
神戸学院大学	薬学生実務実習	2	2023年8月21日～11月5日	薬剤部、病棟
京都薬科大学	薬学生実務実習	2	2023年8月21日～11月6日	薬剤部、病棟
神戸学院大学	薬学生実務実習	3	2023年11月20日～2月11日	薬剤部、病棟

**検査部**

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
神戸学院大学栄養学部	臨床検査技師 臨地実習	2	2023年8月14日～9月15日	検査部

**リハビリテーション部**

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科	臨床実習Ⅱ	1	2023年10月16日～11月13日	リハビリテーション室、耳鼻科外来
大阪人間科学大学	理学療法実習Ⅲ	1	2022年6月6日～8月1日	リハビリテーション室、病棟

6) 院外合同研修 (2023年)

1 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第9回こども病院循環器連携カンファレンス	循環器内科・心臓血管外科	5月13日	14:00～16:00	Web開催	14	32	46	左室低形成・大動脈弁疾患	亀井直哉、田中敏克、松島峻介、松久弘典	循環器内科・心臓血管外科
第10回こども病院循環器連携カンファレンス	循環器内科・心臓血管外科	11月18日	14:00～16:00	Web開催	14	31	45	完全大血管転位	亀井直哉、松島峻介、松久弘典	循環器内科・心臓血管外科
神戸ACHD症例検討会	循環器内科・心臓血管外科	2月15日	18:00～21:00	Web開催	14	14	28	移行ならびに治療方針決定に難渋するACHD症例の検討、術後報告	松久弘典、松島峻介	循環器内科・心臓血管外科
神戸ACHD症例検討会	循環器内科・心臓血管外科	4月19日	18:00～20:30	Web開催	14	22	36	移行ならびに治療方針決定に難渋するACHD症例の検討、術後報告	松久弘典、松島峻介	循環器内科・心臓血管外科
神戸ACHD症例検討会	循環器内科・心臓血管外科	7月19日	18:00～20:30	Web開催	14	16	30	移行ならびに治療方針決定に難渋するACHD症例の検討、術後報告	松久弘典、松島峻介	循環器内科・心臓血管外科
神戸ACHD症例検討会	循環器内科・心臓血管外科	11月29日	18:00～21:00	Web開催	14	25	39	移行ならびに治療方針決定に難渋するACHD症例の検討、術後報告	松久弘典、松島峻介	循環器内科・心臓血管外科
令和5年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会	周産期医療センター	12月2日	14:00～17:00	兵庫県医師会館	14	42	56	1) 新生児仮死で出生した児の退院支援の実際 2) 家族支援・地域医療連携部の退院支援について 3) 当院における超緊急帝王切開術への取り組み 4) “とりあえず冷蔵庫”が医療で通用しない5つの理由と、“ならばとよりあえずどうするのか”、を一緒に考える勉強会	1) 梁京玉 2) 藤本詠子 3) 松本培世 4) 岩田欧介	1) GCU病棟看護師 2) 家族支援・地域医療連携部看護師 3) 産科医長 4) 名古屋市立大学医学研究科新生児・小児医学分野准教授
第6回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会(HART)	当院ICC, AST	12月10日	10:30～12:15	現地、Webのハイブリッド開催	4	107	111	微生物検査を見極める～その検査、ポイントに必要ですか?～	東村義志	検査部
令和5年度予防接種オンライン基礎講座	予防接種センター	3月8日	14:00～15:30	Web開催	10	42	52	サーベイランスデーターから紐解く予防接種が感染症疫学に与えた効果	大竹正悟医師(外部講師)	神戸大学大学院内科系講座 小児科学分野

## 2 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
精神科勉強会	精神科	5月27日	10:00～12:00	精神科	11	院外参加者による業務紹介/不登校と癇癩を契機に受診した小6女子の心理検査の検討	(株)ハートフルサービス 総務部 淀/角野
精神科勉強会	精神科	7月22日	10:00～12:00	精神科	9	MSPA実施の概要と解釈に関する検討	角野
精神科勉強会	精神科	9月23日	10:00～12:00	精神科	10	幼児期に実施した新版K式発達検査の解釈に関する検討	角野
精神科勉強会	精神科	12月2日	10:00～12:00	精神科	10	中学生に実施したWISC-IVの解釈に関する検討	角野
精神科勉強会	精神科	3月2日	10:00～12:00	精神科	14	WISC-Vの検討	県立尼崎総合医療センター 小児科 藤井

# V ボランティア

## 令和5年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティア	内 容	活動頻度	活動人数	活動場所
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	2023年4月～2024年3月	1人～3人/1回 (月2回)	ボランティア室
県交通安全協会の交通安全指導員 神戸水上警察の警察官	夏の事故防止運動啓発活動 冬の交通安全教室	2023年7月18日 2023年12月6日	4人 10人	外来 2階講堂
ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸	ハートフルカート(日々病氣と闘っている お子さんにご家族に文房具や日用品など無 料で提供)	2023年4月～2024年3月	3人～4人/1回	7東西・6東西・5東西・救急HCU・外来

\*今年度は、院内の流行性感染症の状況に応じて、患者に接触する個人ボランティア、イベントボランティアの活動を実施した。